看護学研究科

看護学専攻（博士前期課程）

科目名	遠隔看護特論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
遠隔看護の実践に必要な歴史的背景や関連法規、実践研究の動向を理解するとともに、在宅療養者に遠隔看護を提供する際のアセスメントや健康情報の収集、遠隔モニタリング方法を修得し、遠隔看護が実践できるようになることを目標とする。

[授業概要]
看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。
ケアの場が、病院医療から在宅医療へとシフトしている中で、情報通信技術(ICT)を活用した看護実践である「遠隔看護」による看護援助技術の確立は、在宅医療の推進を支えていく鍵となるものである。日本では、遠隔看護分野は研究的な取り組みの段階であるため、国外における遠隔看護の歴史的発展や看護職への教育、看護実践について理解を深め、特に、在宅ケアの現場でよく見られる慢性疾患患者に対するケア提供や法律問題、プライバシーなどの現状と課題を学ぶことで、日本における遠隔看護の可能性や方策について探究する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
遠隔看護に関する研究論文を読む。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]
1. 遠隔看護とは
2. 遠隔看護の過去・現在・未来
3. 国外における遠隔看護の現状:アメリカ、ヨーロッパ
4. 国外における遠隔看護の現状:韓国、スウェーデン
5. 日本における遠隔看護の研究の動向
6. 遠隔看護の実践活動に求められる能力
7. 看護職に対する遠隔の役割・意味
8. 遠隔看護と慢性疾患
9. 在宅療養者に対する遠隔看護実践
10. 免許制度の問題
11. 法的問題
12. プライバシーと機密性の問題
13. 遠隔看護の評価
14. 看護領域におけるICTを活用した研究
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への参加度(30 %)と 課題レポート(70 %)で評価する。
グループ面接時に助言する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
Telenursing　著者名:Sajeesh Kumar, Helen Snooks(2011)　出版社:Springer　(978-1447127079)

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000360 [GB5-227]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

● 東 ますみ
看護情報学や遠隔看護に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート(50 %)で評価する。
個別面接時に助言する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440 [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●魚里 明子
地域看護学域における国内外の保健医療の動向と課題、課題解決するための政策や実践事例、研究の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440A [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●宇賀 昭二
国際保健学に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440B [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●内 正子
慢性疾患や障害を有する小児の看護ケア家族支援に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440C [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●加治 秀介
治療期にある慢性病患者の医療・看護に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440D [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●洪 愛子
看護サービスの開発や感染管理システム、および看護政策を含むヘルスケアマネジメントに関する研究の文献レビューおよびクリテーィクを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440E [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。
各授業の前後に資料を熟読し疑問点等の整理を1時間程度行う。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●下敷領 須美子
国内外のウィメンズヘルスケアやマタニティヘルスケアに関する研究の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440F [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●玉木 敦子
精神健康問題の予防的介入および精神障がいをもつ人やその家族への看護ケアに関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440G [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法
●中岡 亜希子
看護教育に関する基礎知識論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440H [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中村　隆		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法
●中村 隆
医療と看護の効果、成果の測定とその分析方法に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440I [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 ：主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1）
4. 系統的文献検索と整理の実際2）
5. 文献クリティーク1）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1）：レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2）：レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3）：レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ：文献レビューを活かす方法

●野並 葉子
看護ケア・教育に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション （50 %）とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000440J [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実戦経験を元に以下の内容を講義する。
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●藤田 冬子
高齢者に関する文献と研究の動向を概観し、特にコミュニティで暮らす高齢者のフレイル対策や認知症高齢者のケア、介護家族のケア能力向上に関わる支援について探求する課題など、高齢者への理解を深め現代社会が抱える現状と照らし合わせて課題を明確化する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440K [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 ：主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1）
4. 系統的文献検索と整理の実際2）
5. 文献クリティーク1）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1）：レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2）：レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3）：レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ：文献レビューを活かす方法

●横内 光子
看護・医療のサービスとして側面に焦点をあて、これまで行なわれてきた業務分析やタイムスタディ、シミュレーションなどの分析手法を用いた看護管理、病院管理の研究に関して、幅広く文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000440L [GB5-235]

科目名	演習Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子、髙橋　秋絵		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 心の健康問題をもつ個人・家族に対して適用される様々な心理学的精神科治療技法について理解できる。
2. 心の健康問題をもつ集団に対して適用される様々な心理学的精神科治療技法について理解できる。

[授業概要]
心の健康問題をもつ個人・家族、集団に対して適用される看護面接、認知行動療法、リラクゼーションの理論とその技法について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
心理学的精神科治療技法について事前学習して受講すること。プレゼンテーションに関しては、担当範囲を十分に準備したうえで臨むこと。

[授業計画]
1. 治療的コミュニケーション技法の概要（玉木敦子・高橋秋絵）
2. 治療的コミュニケーション技法の実際（玉木敦子・高橋秋絵）
3. 患者・家族を対象とした看護面接の概要（玉木敦子・高橋秋絵）
4. 患者・家族を対象とした看護面接の実際（玉木敦子・高橋秋絵）
5. 患者を対象とした看護面接のロールプレイ（玉木敦子・高橋秋絵）
6. 家族を対象とした看護面接のロールプレイ（玉木敦子・高橋秋絵）
7. 認知行動療法の歴史と基本理論について（岡田佳詠学外特別講師・玉木敦子）
8. 個人認知行動療法の実際（岡田佳詠学外特別講師・玉木敦子）
9. 集団認知行動療法の基礎（岡田佳詠学外特別講師・玉木敦子）
10. 集団認知行動療法の実践（岡田佳詠認知行動療法非常勤学外特別講師・玉木敦子）
11. 集団認知行動療法の実践と課題（岡田佳詠認知行動療法非常勤学外特別講師・玉木敦子）
12. ストレス・コーピングの基本的知識（玉木敦子）
13. ストレス・コーピングに関する技法（玉木敦子）
14. リラクゼーション療法（呼吸法）の実際（市川久美子）
15. まとめ（玉木敦子）

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50%）とレポート（50%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000450 [GB6-208]

科目名	演習Ⅱb	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子、髙橋　秋絵		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 精神的諸問題をもつ人のアセスメントと看護援助について理解できる。
2. 精神障がいをもつ人のアセスメントと看護援助について理解できる。
3. 精神看護における倫理的課題について考察する。

[授業概要]
精神的諸問題をもつ人や精神障がいをもつ人のアセスメントと看護援助について学ぶ。また精神看護における倫理的課題についても学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
臨床経験を通して関心をもった精神健康問題について事前学習をして受講すること。また倫理的課題について振り返り、各自考察しておくこと。プレゼンテーションに関しては、担当範囲を十分に準備したうえで臨むこと。

[授業計画]
1. 怒りや攻撃性の強い人のアセスメントとケア（玉木敦子）
2. せん妄状態にある人のアセスメントとケア（市川久美子）
3. 適応障害のある人のアセスメントとケア（市川久美子）
4. パーソナリティ障害をもつ人のアセスメントとケア（玉木敦子）
5. 発達障害をもつ人のアセスメントとケア（高橋秋絵）
6. 周産期メンタルヘルスにおけるアセスメントとケア（玉木敦子）
7. 気分障害のある人のアセスメントとケア（高橋秋絵）
8. 精神病性障害のある人のアセスメントとケア（高橋秋絵）
9. 不安障害のある人のアセスメントとケア（玉木敦子）
10. 摂食障害のある人のアセスメントとケア（玉木敦子）
11. 物質関連障害のある人のアセスメントとケア（高橋秋絵）
12. 精神障がいをもつ人のアセスメントと看護援助（高橋秋絵）
13. 精神健康問題にまつわる倫理的課題（玉木敦子）
14. 精神看護における倫理的課題についての討論　（玉木敦子）
15. まとめ（玉木敦子・高橋秋絵）

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50%）とレポート（50%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000460 [GB6-209]

科目名	演習Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル	急性期の高齢者ケア		
担当者	藤田　冬子、花房　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 急性期の高齢者に見られる特徴的な病態及び症状悪化を予防するためのケアの考え方について説明することができる
2. 高齢者が急性期の治療を受ける中で、その人らしくいることが尊重されるケアの考え方について説明することができる

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実践経験を元に以下の内容を講義する。
健康障害を持つ高齢者が入院する急性期の病院でおこなわれている高齢者への看護ケア、高齢者医療チームのケア、在宅復帰への取り組み、地域に住む高齢者への支援について研究成果や社会制度を概観し、その中で老人看護専門看護師に求められる役割と機能について学ぶ。さらにその中で、高齢者に生じやすい身体的･心理社会的状態をアセスメントし、既存の諸理論や研究成果から生活機能を維持しつつその人らしく生きられるような支援を元にCureとCareを統合した介入ができる専門的な能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
急性期における高齢者ケアで生じやすい状況について事前学習をして受講する。また、慢性期の治療を受ける高齢者が陥りがちな健康障害とその症状、影響要因について学習しておく。

[授業計画]
1. 急性期の治療を受ける高齢者に生じやすい病態とは（藤田冬子）
2. 急性期の治療を受ける高齢者における老年症候群の予防と早期発見（藤田冬子）
3. 急性期の治療を受ける高齢者の身体的・心理社会的影響（藤田冬子）
4. 急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症と治療1）低栄養と摂食嚥下障害のアセスメント（藤田冬子）
5. 急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症とケア1）低栄養と摂食嚥下障害の治療とケア（藤田冬子）
6. 急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症と治療2）せん妄のアセスメントと治療（藤田冬子）
7. 急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症のケア2）せん妄のアセスメントとケア（藤田冬子）
8. 急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症の治療3）転倒ケアと身体拘束（花房由美子・藤田冬子）
9. 急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症のアセスメントとケア3）転倒ケアと身体拘束（花房由美子・藤田冬子）
10. 急性期病院入院時からの退院調整とサポートシステム（花房由美子・藤田冬子）
11. 急性期病院入院時からの地域連携とサポートシステム（花房由美子・藤田冬子）
12. 急性期にある高齢者の意思を尊重したケアの研究の動向（藤田冬子）
13. 急性期にある高齢者の意思を尊重した専門看護師の活動（藤田冬子）
14. 急性期にある高齢者のその人らしさを尊重したCureとCareを統合した介入の方向性（事例による検討）（藤田冬子）
15. 急性期にある高齢者のその人らしさを尊重したCureとCareを統合した介入の展開と結果（事例による検討）（藤田冬子）

[成績評価方法]
授業への参加度（60%）と課題レポート（40%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000470 [GB6-210]

科目名	演習Ⅲb	前期	2 単位
サブタイトル	慢性期の高齢者ケア		
担当者	藤田　冬子、笹谷　真由美、正田　美紀		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 慢性期の高齢者に見られる特徴的な病態及び症状悪化を予防あるいは早期発見するためのケアについて説明することができる
2. 高齢者が慢性期の療養の中でその人らしさを保つことのケアについて説明することができる

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実践経験を元に以下の内容を講義する。
健康障害を持つ高齢者が入院･入所する慢性期の病院、老人保健施設･特別養護老人ホームでおこなわれている高齢者への看護ケア、高齢者医療チームのケア、在宅復帰への取り組み、地域に住む高齢者への支援について研究成果や社会制度を概観し、その中で老人看護専門看護師に求められる役割と機能について学ぶ。さらにその中で、高齢者に生じやすい身体的･心理社会的状態をアセスメントし、既存の諸理論や研究成果から生活機能を維持しつつその人らしく生きられるような支援を元にCureとCareを統合した介入ができる専門的な能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
慢性期における高齢者ケアで生じやすい状況について事前学習をして受講する。また、慢性期の治療を受ける高齢者が陥りがちな健康障害とその症状、影響要因について学習しておく。

[授業計画]
1. 慢性期の治療を受ける高齢者に生じやすい病態と予防・早期発見（藤田冬子・笹谷真由美）
2. 慢性期にある高齢者がうける身体的影響（藤田冬子・笹谷真由美）
3. 慢性期にある高齢者がうける心理社会的影響（藤田冬子・笹谷真由美）
4. 慢性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症と治療①低栄養と摂食嚥下障害のアセスメントとケア（藤田冬子・笹谷真由美）
5. 慢性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症とケア①低栄養と摂食嚥下障害のアセスメントとケア（藤田冬子・笹谷真由美）
6. 慢性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症と治療②認知機能の低下と抑うつ（藤田冬子・笹谷真由美）
7. 慢性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症のアセスメントとケア②認知機能の低下と抑うつ（藤田冬子・笹谷真由美）
8. 高齢や及び家族に対する慢性疾患の中での急性憎悪時の対応（藤田冬子・笹谷真由美）
9. 高齢や及び家族に対する慢性疾患の中での急性憎悪時の対応（藤田冬子・笹谷真由美）
10. エンド・オブ・ライフケア　高齢者と家族への支援（正田美紀・笹谷真由美）
11. エンド・オブ・ライフケア　医療チームの支援活動（正田美紀・笹谷真由美）
12. 廃用症候群と老年症候群の予防と回復へのケア（正田美紀・笹谷真由美）
13. 廃用症候群と老年症候群の予防と回復へのケア（正田美紀・笹谷真由美）
14. 慢性期にある高齢者のその人らしさを尊重したCureとCareを統合した介入の方向性（事例による検討）（藤田冬子・笹谷真由美）
15. 慢性期にある高齢者のその人らしさを尊重したCureとCareを統合した介入の展開と結果（事例による検討）（藤田冬子・笹谷真由美）

[成績評価方法]
授業への参加度（60%）と課題レポート（40%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000480 [GB6-211]

科目名	看護教育論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中岡　亜希子、野並　葉子、東　ますみ、横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 看護専門職の基礎教育、継続教育ならびに保健医療福祉の専門家に対する教育の歴史的背景と理念、現状について理解を深める。
2. 教育と学習に関する主要概念と理論及び多様な教育方法を学び、今後の教育計画を立てることができる。
3. 看護教育評価の設計・枠組み・モデルの選択及び学習成果の評価を学び、具体的に考えることができる。

[授業概要]
看護基礎教育や継続教育の実践者、専門看護師ならびに看護職としてクライアントや保健医療福祉関係者を対象とした教育活動を展開するための基盤となる知識の獲得を目指す。教育の歴史と哲学的な背景ならびに主要な教育理論を概観し、看護教育および看護実践において活用される主な教育・学習理論と概念について理解を深める。看護実践ならびに看護教育における教育的要素の特徴について考察するとともに、具体的な事例検討を通じて、看護における教育と学習支援の技術を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
紹介する文献や参考書の該当部分を熟読し、授業に臨むこと。

[授業計画]
1. 看護基礎、卒後、継続教育の現状と課題(中岡亜希子)4/5　Ⅵ限
2. 看護教育の変遷と教育法規(中岡亜希子)4/19　Ⅵ限
3. 学習理論と行動・認知科学の発達(中岡亜希子)4/19　Ⅶ限
4. 継続教育及び基礎教育の枠組みと前提となる哲学(中岡亜希子)5/10　Ⅵ限
5.　多様な学習者のニーズと発達の促進(中岡亜希子)5/10　Ⅶ限
6. 看護師育成のための思考を促進するクリティカルシンキング(中岡亜希子)5/24　Ⅵ限
7. カリキュラム開発と教育計画(中岡亜希子)5/24　Ⅶ限
8. 看護師個々に対応する教育手法としてのe-ラーニング(東ますみ)6/7　Ⅵ限
9.　個々の看護師に対応するデジタルメディアを用いたインタラクティブ教育(東ますみ)6/7　Ⅶ限
10. アクティブ・ラーニングと看護師の主体性を育むグループ学習の効果(野並葉子)6/21　Ⅵ限
11. 継続教育とオンライン学習による教育と学習(中岡亜希子)6/21　Ⅶ限
12. 卒後の臨床判断能力向上のためのシミュレーション教育(横内光子)7/5　Ⅵ限
13. 学習成果の評価(中岡亜希子)7/5　Ⅶ限
14. 看護教育評価の設計・枠組み・モデルの選択(中岡亜希子)7/19　Ⅵ限
15. 看護における教育の展望と課題(中岡亜希子)7/19　Ⅶ限

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目A:看護教育論

[成績評価方法]
授業への取り組み(プレゼン準備・発表・討議など)(70%)と課題レポート(30%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
看護教育学(改訂第2版):看護を学ぶ自分と向き合う　著者名:グレッグ美鈴, 池西悦子編著(2018)　出版社:南江堂　(978-4524254934)
看護教育学第6版　著者名:杉森みど里, 舟島なをみ著(2016)　出版社:医学書院　(978-4260027823)

[参考書(ISBN)]
看護を教授すること(原著第4版)　著者名:Diane M.Billngs et al. 奥宮暁子他監訳(2014)　出版社:医歯薬出版株式会社　(978-4263235904)
ナースを育てる　著者名:パトリシア・ベナー他著, 早野真佐子訳(2011)　出版社:医学書院　(978-4260014298)

N21000010 [GB5-200]

科目名	看護研究方法論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 看護研究の特徴やプロセスを理解する。
2. 研究課題に対するさまざな方法を知る。

[授業概要]
看護研究の特徴やプロセスを理解し、多様な研究方法を知る。帰納的推論と演繹的推論、質的研究と量的研究、文献検討と文献クリティーク、データ収集、データ分析、研究倫理等を学び、臨床看護師、看護教育者、看護学研究者、あるいは高度実践看護師として看護研究を実施するうえで必要となる研究方法論全般について、理解を深める。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
自分自身の研究課題に関連すると思われる研究論文を読む。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 看護における研究の役割 (東ますみ)4/21　Ⅵ限
2. 看護研究における倫理的配慮 (東ますみ)4/21　Ⅶ限
3. 研究過程の概観 (東ますみ)5/19　Ⅵ限
4. 概念枠組みと仮説 (東ますみ)5/19　Ⅶ限
5. 主要データベースと系統的な文献検索方法の概要 :
　医学中央雑誌、 CiNii、CINAHL, MEDLINE, PubMed, Cochrane Library, Web of Scienceなどの主要データベースとその特徴、キーワードとシソーラス、効果的な検索方法、文献リストの作成など(横内光子)6/2　Ⅵ限
6. 文献クリティークとレビューの概要 :
　文献クリティーの定義と研究における位置づけ、文献を抄読する方法、批判的吟味の方法、関連する複数の文献を比較検討するなど(横内光子) 6/2　Ⅶ限
7. 質的研究の定義と特徴 、主な方法の概要 :
　現象学的研究、グラウンデッド・セオリー研究、記述民俗学的研究、歴史的研究など (横内光子)6/18　Ⅵ限
8. 質的研究のデータ収集と分析方法の概要 :
観察法、面接法、グループインタビュー、フィールドノート、観察ノート、録音・ 録画データと質的帰納的分析(横内光子)6/18　Ⅶ限
9. 量的研究の定義と特徴 、主な方法の概要 :
実験、 準実験、 非実験研究、相関研究、前向きデザイン、因果係の検証、RCT(Randomized Controlled Trial)など (横内光子)6/30　Ⅵ限
10. 量的研究のデータ収集と分析方法の概要:
 観察研究と介入研究、測定法と測定尺度、質問紙調査法 とデルファイ法、記述統計と推測統計の基本(横内光子)6/30　Ⅶ限
11. 事例研究の意義と方法の概要 :
事例研究に必要な情報、考察の視点、事例の蓄積など (横内光子)7/14　Ⅵ限
12. EBP(Evidenced Based Practice)の意義と方法の概要 :
臨床実践上の疑問を定式化する(PICOの活用など)、情報収集・文献検索と質の高い論文の選択、論文の抄読・吟味、患者への適用の判断(横内光子)7/14　Ⅶ限
13. 学会発表や研究論文の投稿 (東ますみ)7/28　Ⅵ限
14. 研究計画書の作成(東ますみ)　7/28　Ⅶ限
15. まとめ :看護研究の今後の課題 (東ますみ)8/4　Ⅵ限

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目A:看護研究

[成績評価方法]
授業への参加度(30 %)と 課題レポート(70 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
看護研究入門　原著第 7版 評価・統合・エビデンスの生成　著者名: バーンズ＆グローブ , 黒田裕子他監訳(2015)　出版社:エルゼビア・ジャパン (978-4860343002)

[参考書(ISBN)]
担当教員から 適宜指示する。

N21000040 [GB5-203]

科目名	看護研究方法論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ、横内　光子、中村　隆		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 看護研究を計画し、実施する際に必要となる量的研究デザイン、質的研究デザイン、ならびにミックス・メソッドについての理解を深める。
2. 量的デザイン、質的デザインの基本的なデータ収集法と分析方法を身につける。

[授業概要]
授業計画の1～4、10～15は、看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。
看護研究の方法として、量的研究デザイン、質的研究デザイン、ならびにミックス・メソッドについての理解を深める。量的研究デザインと質的研究デザインの背景にある現象のとらえ方に関するパラダイムの相違を踏まえて、主要な測定法と記述・推測統計、質的研究デザインのデータ収集と分析方法、およびミックス・メソッドの要点を学ぶ。自己の研究課題に関連する先行研究について、方法論の妥当性を適切に評価し、文献検討に活用するとともに、研究課題に応じた方法論を検討する能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰを修得していること。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]
1. 量的研究デザインの科学的基盤（東ますみ） 10/4 Ⅵ限
2. 生体の構造・機能の測定法とその特徴 （東ますみ） 10/4 Ⅶ限
3. 心理面 ・社会面の測定法とその特徴 （東ますみ） 10/11 Ⅵ限
4. 測定尺度の信頼性と妥当性（東ますみ） 10/11 Ⅶ限
5. 量的データの収集方法 （中村隆） 10/18 Ⅵ限
6.データの整理と解釈：データの可視化（中村隆） 10/18 Ⅶ限
7. データの分析：記述統計（中村隆） 10/25 Ⅵ限
8. データの分析：推測統計（中村隆） 10/25 Ⅶ限
9. データの分析 ：多変量解析（中村隆） 11/1 Ⅵ限
10. 質的研究デザインの科学的基盤とデータ収集・分析の特徴（横内光子）11/8 Ⅵ限
11. 質的研究デザインのデータ収集 （横内光子）11/8 Ⅶ限
12. 質的研究デザインのデータ分析方法 （横内光子）11/15 Ⅵ限
13. 事例研究の特徴と方法（横内光子）11/15 Ⅶ限
14. ミックス・メソッドの基本的な考え方 （東ますみ） 11/22 Ⅵ限
15. まとめ （東ますみ・横内光子）12/6　Ⅵ限

[成績評価方法]
授業への参加度（30 %）と 課題レポート（70 %）で評価する。
グループ面接時に助言する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
看護研究原理 第2版　著者名：D.F.ポーリット＆C.T.ベック著，近藤潤子監訳（ 2010 ）　出版社：医学書院 （978-4260005265）

[参考書（ISBN）]
担当教員から 適宜指示する 。

N21000050 [GB5-204]

科目名	看護実践デザイン特論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、洪　愛子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 実践コミュニティの形成に関する諸理論について学ぶ。
2. 複数の実践コミュニティの事例分析に基づき、実践コミュニティの形成過程とそれに影響する要因について考察する能力を養う。
3. 実践コミュニティの形成と発展に必要な、コーディネーションの知識と技術を修得する。

[授業概要]
病棟、病院、施設、地域、医療圏など多様な場で展開される保健・医療・看護サービスを、そのサービス利用者とサービス提供者の実践コミュニティによる健康価値の創生プロセスととらえるコミュニティ・オブ・プラクティスの基本的な考え方を学ぶ。また、効果的な保健・医療・看護活動を展開するための、実践コミュニティの開発・育成に必要なマネジメントとコーディネートの基礎的知識を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書と関連書籍、文献を熟読して授業に臨むこと。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. コミュニティ・オブ・プラクティスの理論的背景1)（横内光子）
2. コミュニティ・オブ・プラクティスの理論的背景2)（横内光子）
3. 実践コミュニティとその構成要素（横内光子）
4. 実践コミュニティ育成の原則 （横内光子）
5. 実践コミュニティの計画と立ち上げ （洪愛子）
6. 実践コミュニティの発展と維持 （洪愛子）
7. 価値創造の評価とマネジメント（横内光子）
8. 実践コミュニティの開発1)（洪愛子）
9. 実践コミュニティの開発2)（洪愛子）
10. 保健・医療・看護における実践コミュニティ開発 と育成1)（横内光子）
11. 保健・医療・看護における実践コミュニティ開発と育成 2)（洪愛子）
12. コーディネションの基本理論 （横内光子）
13. コーディネションと関連する諸概念（横内光子）
14. コーディネションの方法 （洪愛子）
15. まとめ :コミュニティ・オブ・プラクティスの推進と看護実践デザイン（洪愛子）

[成績評価方法]
授業への参加度（30 %）と課題レポート（70 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
コミュニティ・オブ・プラクティス ーナレッジ社会の新たな知識形態の実践ー　著者名：エティエンヌ・ウェンガー , リチャード・マクダーモット, ウィリアム・ M・スナイダー 著, 櫻井 祐子 , 野中 郁次郎, 野村 恭彦 訳（2002） 出版社：翔泳社 （978-4798103433）

[参考書（ISBN）]
状況に埋め込まれた学習　著者名：ジーン・レイヴ、エティンヌ・ウェンガー著、佐伯胖訳（1993） 出版社：産業図書 （978-4782800843）
実践知 – エキスパートの知性　著者名：金井 壽宏 , 楠見 孝 編集 （2012） 出版社：有斐閣 （978-4641163867）
経験からの学習 –プロフェッショナルへの成長プロセス　著者名：松尾 睦 （2006） 出版社：同文舘出版 （978-4495375812）

N21000370 [GB5-228]

科目名	看護実践デザイン特論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子、横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 看護の質を高め、効果的なサービスとして効率的に提供するための方略と方法を学ぶ。
2. 看護・医療の品質管理に関する歴史的背景と経緯、ならびに主要な評価方法とその変遷に関する基礎的知識を修得する。
3. 看護・医療サービスの価値と価格に影響する要因と決定過程について、社会背景や国の政策を含む広い視点から理解するための基礎的知識と考え方を学ぶ。
4. 看護実践とその成果を論理的に記述し、整理・分析、わかりやすく表現するために必要な、観察力と論理的思考力、ならびに表現力を身につける。

[授業概要]
保健医療福祉における看護サービスの価値を評価・可視化するための基礎的知識を修得する。看護・医療の品質管理に関する歴史的背景と経緯、ならびに主要な評価方法に関する基礎的知識、ならびに看護・医療サービスの価値と価格に影響する要因と決定過程について、社会背景や国の政策を含む広い視点から理解するための基礎的知識を学ぶ。これらをふまえて、看護サービスを効果的かつ適正に提供するためのマネジメントと政策への反映方略を学ぶ。学習のプロセスを通じて、看護実践とその成果を論理的に記述し、分析、表現する能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書と関連文献を用いて予習しておくこと。

[授業計画]
1. 保健医療福祉と看護のサービスとしての特徴（横内光子）
2. 看護サービスの生産・提供システムとマネジメント（横内光子）
3. 保健医療福祉と看護サービスのマーケットリサーチ（洪愛子）
4. 看護管理と医療経営（洪愛子）
5. 医療サービスと医療提供体制（洪愛子）
6. 保健医療福祉における品質管理の歴史（横内光子）
7. 保健・医療における主要な質の評価方法（横内光子）
8. 看護における質管理の歴史（洪愛子）
9. 看護の質評価方法 1）既存の質評価方法（洪愛子）
10. 看護の質評価方法 2）これからの質評価方法（横内光子）
11. 看護サービスの価値と価格（洪愛子）
12. 保健医療福祉政策・制度における看護サービス（洪愛子）
13. 看護サービスの可視化と普及（横内光子）
14. 看護政策におけるビジョンと方略（洪愛子）
15. 看護における新たな価値の創造（洪愛子・横内光子）

[成績評価方法]
授業への参加度（30 %）と課題レポート（70 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
医療の質の定義と評価方法　著者名：Avedis Donabedian著，東尚弘 訳（2007）　出版社：特定非営利活動法人 健康医療評価研究機構　(978-4903803005)

[参考書（ISBN）]
看護管理者のための医療経営学―地域で選ばれる医療機関を目指して（看護管理実践guide）　著者名：尾形 裕也(2015)　出版社：日本看護協会出版会　(978-4-8180-1921-8)
Advanced Practice Nursing Essentials of Role Development　著者名：Lucille A. Joel (2017)　出版社：F A Davis Co.　(978-0803660441)
Policy & Politics in Nursing and Health Care, 7th Edition　著者名：Diana J. Mason, Deborah B Gardner, Freida Hopkins Outlaw, Eileen T.O'Grady著（2015）　出版社：Saunders　(978-0323241441)

N21000380 [GB5-229]

科目名	看護情報学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
膨大な看護情報から、看護の質を評価する取り組みが始まっている。看護情報学の特性を理解し、看護における情報活用や情報システムの活用ができることを目標とする。

[授業概要]
看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。
健康・医療・介護分野におけるICT化を国が推進している現在、看護情報を取り扱う専門家である看護職が、医療・看護情報分野のリーダーとして、その役割を担っていくことは重要である。看護記録情報や生体情報、設備情報、経営情報など多岐にわたる看護情報の活用と管理の方法を学び、看護情報を扱う上で不可欠な情報倫理の概念や個人情報の特徴を理解する。また、看護の質改善に役立つ情報管理のあり方や、看護おける情報システムの活用について理解を深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護の臨床現場で、情報がどのように活用されているか、常に感心を持つこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]
1. 情報の定義
2. 看護情報学の成立、看護情報学の専門性と役割
3. 看護情報の取り扱いに関する倫理的側面
4. 看護情報の分類とコード化
5. エビデンスに基づく看護情報
6. 看護管理プロセスと情報
7. 人材資源管理における情報活用
8. 看護管理のための情報提供システム
9. 情報管理とマネジメント
10. 医療事故を防ぐための情報技術
11. 看護実践のデータ化による看護の質向上
12. 看護における情報システムの活用例
13. 看護情報学から見た看護の将来
14. 看護情報分野における先駆的活動
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への参加度（30%）と課題レポート（70%）で評価する。
グループ面接時に助言する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000350 [GB5-226]

科目名	看護政策論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子、洪　愛子、教員未登録		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 国内外の保健医療政策および医療制度の変遷を理解し、看護の質向上のために制度等の改善を含む政策的な働きかけに必要知識学び、現在と将来の課題を考察、探求することができる。
2. 看護政策策定、ヘルスケアシテム構築に関する理論やモデル、 実践における活用について学び、高度実践看護師らが看護の変革者として政策過程参画に必要な知識を理解することができる。

[授業概要]
国内外の看護を取り巻く保健医療政策の変遷を学び、保健医療政策に関する理論やモデル、看護政策策定やヘルスケアシテム構築のプロセスについて修得し、現在の保健医療施策について分析、考察できる能力を養う。また看護政策策定、ヘルスケアシステム構築に関する理論やモデル、実践を国内外の文献より探究し、専門看護師らが看護の変革者として、看護の質向上のために制度等の改善を含む政策的な働きかけに関与することができる能力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
事前に提示した文献を読んでまとめる。

[授業計画]
1. 国外の保健医療政策および・医療・看護制度の変遷、今後の方向性と課題(洪愛子)
2. 政策過程と法令、政策課題と看護(洪愛子)
3. 国内の保健医療政策・看護政策の変遷、今後の方向性と課題(洪愛子)
4. 国内の医療制度・看護制度の変遷、今後の方向性と課題(洪愛子)
5. 看護の質向上のために制度等の改善を含む政策過程に参画する看護師が担う役割と意義、政策決定における職能団体の機能(洪愛子)
6. 政策策定、ヘルスケアシテム構築における国内外の最新情報と方向性に基づく 実践事例の紹介、オランダ在宅ケア組織、日本の地域包括ケア(魚里明子)
7. 政策策定、ヘルスケアシテム構築における国内外の実践事例に基づいた政策策定プロセス(魚里明子)
8. 政策策定、ヘルスケアシテム構築における国内外の実践事例に基づいた保健医療施策の課題と方向性(魚里明子)
9. 社会保障の概念と歴史、社会保障と資源 (魚里明子)
10. 保健医療福祉制度の構造、医療保健・介護保険とその財源、保健医療福祉制度を支える職種(魚里明子)
11. ヘルスケアシテム構築、ヘルスケアシテム提供体制(魚里明子)
12. ヘルスケアシテム構築に関する理論とモデル(魚里明子)
13. 看護政策策定、ヘルスケアシテム構築に関する理論やモデルに基づいた実践分析(魚里明子)
14. 国内外の文献からみた看護政策策定に関する理論やモデルに基づいた実践(魚里明子・洪愛子)
15. 国内外の文献からみたヘルスケアシテム構築に関する理論やモデルに基づいた実践(魚里明子・洪愛子)

[成績評価方法]
授業への参加度 (50 %)と 課題レポート(50 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
コミュニティ・オブ・プラクティスーナレッジ社会の新たな知識形態の実践ー　著者名:エティエンヌ・ウェンガー, リチャード・マクダーモット , ウィリアム・M・スナイ ダー 著, 櫻井祐子 , 野中郁次郎 , 野村恭彦　著(2002) 出版社:翔泳社 (978-4798103433)
その他、担当教員より適宜指示、資料の配布を行なう。

[参考書(ISBN)]
日本看護協会の政策提言活動　著者名:日本看護協会　編(2010) 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1526-5)
看護職者のため政策過程入門 第2版　著者名:見藤隆子他(2017) 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-2051-1)
看護法令要覧 令和元年版　著者名:勝又浜子 他 編(2020) 出版社:日本看護協会出版会 (978-4818021723)
看護関係統計資料集　著者名:日本看護協会出版会 編(2020) 出版社:日本看護協会出版会 (978-4818021907)
その他、担当教員より適宜指示する。

N21000080 [GB5-207]

科目名	看護マネジメント論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子、横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. ヘルスケアサービスの特性を理解し、 看護マネジメントについて考えるための基本的知識を身につける。
2. 広い視野から看護専門職ならびに高度実践看護師に求められる役割と将来的なビジョンを見据え、看護マネジメントの実践に必要な知識と思考法 、技術を学ぶ。

[授業概要]
保健医療福祉が提供される多様な場と、それに携わる専門職ならびに管理職の持つ役割や価値観について理解を深め、保健医療福祉に携わる人々の間の調整や看護管理に携わる看護職との協働など、高度実践看護師らの活動に必要な知識と技術を学ぶ。ヘルスケアサービスのマネジメントに関する主要概念について理解し、保健医療福祉に関する国のビジョンと政策の全体像を俯瞰して、看護職ならびに高度実践看護師として、効果的・効率的に人々の健康に貢献するためのサービス・マネジメントの方略と方策を考える基礎的な能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書の関連部分を熟読し、必要に応じて関連文献を調べて疑問点を明らかにしておくこと。

[授業計画]
1. ヘルスケアに関する法律と主要制度の概要 （洪愛子 ）
2. ヘルスケアサービスの特徴と社会における位置づけ（洪愛子・横内光子）
3. ヘルスケア政策と看護のビジョン （洪愛子 ）
4. ヘルスケアサービスにおける看護サービスの特徴とその変化（横内光子）
5. マネジメント必要な組織行動論 の概要 ：
　動機づけ、 意思決定、リーダシップ、組織文化、創造と変革（横内光子）
6.看護サービス ・マネジメントの定義と 要素 、および 、プロセスの概要 ：
　物的資源・人的資源・予算計画・情報マネジメントと、アセスメント・プランニング・組織化・行動化・統制（横内光子）
7.看護サービス・マネジメント・システムの特徴：
　サービス・コンセプト、マーケット・セグメンテーション、サービス・デリバリー・システム、組織の理念（横内光子）
8. 看護サービスのリスク管理と品質管理 （横内光子）
9. 看護キャリア開発と人的資源の活用 （洪愛子）
10. ヘルスケア専門職の特性と職務範囲、 ヘルスケアチームにおける看護専門職の機能と役割（洪愛子）
11. ヘルスケアチームとチームマネジメント、チームビルディング ：
　医療における組織とリーダシップ（横内光子）
12.保健医療福祉に携わる人々の間の調整（洪愛子）
13. ヘルスケアサービスと診療報酬（洪愛子 ）
14. ヘルスケアにおける看護サービスの質向上と制度化 ：
　看護サービスの可視化、評価指標、評価に基づく制度化のプロセス（洪愛子 ）
15. 看護管理に携わる看護職との協働（洪愛子 ）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目A：看護管理論

[成績評価方法]
授業への参加度(40%) と課題レポート(60%) で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
看護サービス管理第4版　著者名：中西睦子（2013）　出版社：医学書院 （978-4260017367）

[参考書（ISBN）]
Nursing: Scope and Standards of Practice(Ana,Nursing Administration: Scope and Standards of Practice) 著者名：ANA (2010) 出版社：American Nurses Association (978 -1558102828)
サービス・ マネジメント入門　第3版　著者名：近藤隆雄（2007）　出版社：生産性出版 （978-4820118770）
サービス・イノベーションの理論と方法　著者名：近藤隆雄（2012）　出版社：生産性出版 （978-4820120032）
Multi-professional Edition 2011 World Health Organization 2011,
http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44641/1/9789241501958_eng.pdf 著者名：WHO Patient Safety Curriculum Guide

N21000020 [GB5-201]

科目名	看護理論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子、中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 看護理論の発達の歴史と現在の看護学発展の状況を学び、看護実践への有用な理論及び概念について理解を深める。
2. 看護理論の活用ために、概念分析の手法を用いて関心のある看護現象の特徴の特定化または中心概念の抽出について理解を深める。
3. 看護の発展及び理論活用のために、学生間での実践コミュニティの育成方法の選択・方略、成果の方向性について明らかにする。

[授業概要]
実践科学としての看護学について、看護理論の発達の歴史と現在の看護学発展の状況を知り、看護実践への有用な理論及び概念について理解を深め、実践及び研究への活用を促進する。まず、今後の看護学の発展と看護理論の活用のために、概念分析の手法を用いて中心概念または看護現象の特徴の特定化について理解を深める。さらに、学生間の実践コミュニティの育成方法の選択・方略、成果の方向性について学ぶ。具体的には、実践コミュニティを育成しながら、学習の発展と知の創成ができるよう進める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 看護ケアの構造と実践コミュニティに関連する書籍・論文を検討し、まとめる。
2. 自身の関心のある看護現象と関連する既知の概念について調査し、整理する。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 看護学と看護理論の発展（野並葉子） 4/14　Ⅵ
2. 看護学の理論的思考 ・現象・概念モデル・理論（野並葉子）4/28　Ⅵ
3. 看護理論の評価 （中岡亜希子）4/28　Ⅶ
4. オレムのセルフケア不足看護理論の理解Ⅰ（野並葉子、中岡亜希子）5/12　Ⅵ
5. オレムのセルフケア不足看護理論の理解Ⅱ（野並葉子、中岡亜希子） 5/12 Ⅶ
6. オレムのセルフケア不足看護理論の分析と評価（野並葉子、中岡亜希子）5/26 Ⅵ
7. 看護理論の教育・研究への活用Ⅰ（野並葉子、中岡亜希子）5/26 Ⅶ
8. 看護理論の教育・研究への活用Ⅱ（中岡亜希子）6/9 Ⅵ
9. 概念開発における概念分析の重要性と手法の実際（中岡亜希子、野並葉子）6/9Ⅶ
10.概念分析の手法の実際（中岡亜希子）6/23 Ⅵ
11. 概念の明確化：文脈の定義・下位概念の吟味・境界などの分析1（中岡亜希子、野並葉子）6/23 Ⅶ
12.概念の明確化：文脈の定義・下位概念の吟味・境界などの分析2 （中岡亜希子、野並葉子）7/7 Ⅵ
13.概念の明確化：文脈の定義・下位概念の吟味・境界などの分析3（中岡亜希子、野並葉子）7/7　Ⅶ
14. 理論開発のための実践コミュニティの意義（野並葉子、中岡亜希子）7/21 Ⅵ
15. 実践コミュニティと学習の発展と知の創成（野並葉子、中岡亜希子）7/21Ⅶ

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目A：看護理論

[成績評価方法]
看護理論の活用についてのレポート（40 %）、概念分析の結果のレポート（30 %）、な らびに看護ケア開発のための実践コミュニティ育成プランのレポート（30 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
看護理論家の業績と理論評価，第2版　著者名：筒井真優美編集（2020）　出版社：医学書院 （978-4-260-03961-1）
コミュニティ・オブ・プラクティスーナレッジ社会の新たな知識形態の実践ー　著者名：エティエンヌ・ウェンガー，リチャード・マクダーモット，ウィリアム・M・スナイダー 著，櫻井祐子，野中郁次郎，野村恭彦 著（2002）　出版社：SHOEISHA （978-4798103433 ）

[参考書（ISBN）]
看護理論の分析と評価　著者名：Jacqueline Fawcett 著（太田喜久子・筒井真優美監訳）（2008）　出版社：医学書院 （978-4260006880）

N21000030 [GB5-202]

科目名	看護倫理展開論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子、藤田　冬子、玉木　敦子、内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 看護倫理の基盤となる諸理論と関連する重要な概念について理解する。
2. 看護実践の中で生じる倫理的課題や倫理的ジレンマについて分析し説明することができる。
3. 保健医療福祉の現場や看護のあらゆる面において倫理的判断を行い、葛藤の軽減や解決にむけた専門看護師の役割を理解する 。

[授業概要]
看護倫理の基盤となる諸理論と関連する重要な概念や現代社会における倫理的課題、生死に関わる倫理的課題について概観し、その中で生じている葛藤や倫理的ジレンマについて学ぶ。さらに、また、専門看護師が持つ葛藤や倫理的ジレンマに対して、組織的に対応すべき課題や対処についても学ぶ。その上で、倫理調整や倫理コンサルテーションで必要となる技術について学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
倫理に関わる事例や事件について具体的に想定しながら、事前の授業で学んだ諸概念や提示した事前学習を準備しておくこと。

[授業計画]
1. 看護の倫理的実践における患者と看護師の関係(野並葉子)9/23
2. 倫理的意思決定と価値の対立(野並葉子) 9/30
3. 看護倫理の基盤となる諸理論と関連する重要な概念(野並葉子)10/7
4. 倫理的ジレンマと倫理調整(藤田冬子) 10/14
5. 生死に関わる倫理的課題についての概観(藤田冬子)10/21
6. 医療における倫理的ジレンマに関する事例検討(藤田冬子)10/28
7. 治療方針の決定プロセスにおける小児と家族がもつ倫理的課題についての概観 (内 正子)11/4
8. 小児看護における治療方針の決定プロセスについての分析と倫理調整に関する事例検討 (内 正子)11/11
9. 精神症状をもつ人の人権擁護についての概観(玉木敦子) 11/18
10. 精神症状をもつ人の人権擁護に関する事例検討 (玉木敦子)11/25
11. 高齢者看護における治療選択・療養支援における倫理的課題の概観(藤田冬子)12/2
12. 高齢者および家族の治療選択・療養支援における倫理調整の事例検討(藤田冬子)12/9
13. 組織における倫理課題と対処(藤田冬子) 12/16
14. 臨床倫理委員会をはじめとした体制整備(藤田冬子)1/6
15. 今後に向けた看護倫理の教育・実践・研究課題と方略(野並葉子・藤田冬子)1/13
)

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目A:看護倫理

[成績評価方法]
授業への参加度 (40 %)とレポート(60 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
看護実践の倫理　著者名:サラ T. フライ著, 片田範子訳(2010)　出版社:日本看護協会出版会 (978-4818015128)

[参考書(ISBN)]
臨床倫理学—臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ　著者名:Albert R.Jonsen Mark Siegler , William J.Winslade著, 赤林朗 他 監訳(2006)　出版社:新興医学出版社 (978-4880024851)
命と向き合う看護と倫理　著者名:エルシー・ L・バンドマン他著, 木村利他訳(2010)　出版社:人間と歴史社 (978-4890071777)
看護倫理 1　著者名:ドローレス・ドゥーリー他著, 坂川雅子訳(2016)　出版社:みすず書房 (978-4622062462)
看護倫理 2　著者名:ドローレス・ドゥーリー他著, 坂川雅子訳(2016)　出版社:みすず書房 (978-4622062479)
看護倫理3　著者名:ドローレス・ドゥーリー他著, 坂川雅子訳(2016)　出版社:みすず書房 (978-4622062486)

N21000070 [GB5-206]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]

看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●　東 ますみ
慢性疾患患者に対する遠隔看護による効果的な介入プログラムやシステムの開発、看護における情報システムの活用等の看護情報や遠隔看護に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。
個別面接時に助言する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530 [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●魚里 明子
地域看護学領域におけるさまざまな年齢層、健康レベルの人々を対象としたコミュニティでの健康づくり活動、生活習慣病予防等、学生の関心のある研究課題に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530A [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1)
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2)
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1)
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2)
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3)
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1)
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2)
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1)
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2)
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3)
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1)
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2)
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3)
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1)
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2)
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3)
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4)
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1)
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2)
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3)
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4)
24. 研究計画書の作成 1)
25. 研究計画書の作成 2)
26. 研究計画書の作成 3)
27. 研究計画書の作成 4)
28. 研究計画書の作成 5)
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●宇賀 昭二
国際保健学に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション(50 %) と成果物 (50 %) で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜示する。

N21000530B [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●内 正子
慢性疾患や障害を有する小児の看護ケアや家族支援に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530C [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●加治 秀介
代謝性疾患患者の医療・看護に関する基礎知識と精査をもとに、心血管病予防に向けた研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。成果物はコメントして返却

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530D [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1)
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2)
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1)
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2)
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3)
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1)
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2)
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1)
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2)
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3)
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1)
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2)
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3)
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1)
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2)
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3)
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4)
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1)
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2)
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3)
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4)
24. 研究計画書の作成 1)
25. 研究計画書の作成 2)
26. 研究計画書の作成 3)
27. 研究計画書の作成 4)
28. 研究計画書の作成 5)
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●洪 愛子
看護サービスの開発や感染管理システム、および看護政策を含むヘルスケアマネジメントに関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション(50 %) と成果物 (50 %) で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜示する。

N21000530E [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。授業前後に各2時間程度。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1)
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2)
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1)
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2)
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3)
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1)
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2)
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1)
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2)
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3)
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1)
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2)
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3)
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1)
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2)
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3)
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4)
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1)
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2)
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3)
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4)
24. 研究計画書の作成 1)
25. 研究計画書の作成 2)
26. 研究計画書の作成 3)
27. 研究計画書の作成 4)
28. 研究計画書の作成 5)
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●下敷領 須美子
ウィメンズヘルスケアやマタニティヘルスケアに関する文献検討を基に自らの研究課題を明確にし、研究計画を完成させる。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション(50 %) と成果物 (50 %) で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜示する。

N21000530F [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●玉木 敦子
精神健康問題の予防的介入および精神障がいをもつ人やその家族への看護ケアに関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530G [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●中岡 亜希子
看護教育に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530H [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	中村　隆		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1)
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2)
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1)
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2)
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3)
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1)
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2)
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1)
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2)
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3)
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1)
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2)
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3)
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1)
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2)
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3)
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4)
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1)
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2)
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3)
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4)
24. 研究計画書の作成 1)
25. 研究計画書の作成 2)
26. 研究計画書の作成 3)
27. 研究計画書の作成 4)
28. 研究計画書の作成 5)
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●中村 隆
疫学的手法の開発、医療と看護の効果、成果の測定とその分析方法に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション(50 %) と成果物 (50 %) で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000530I [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●野並 葉子
看護ケア・教育に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530J [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実戦経験を元に以下の内容を講義する。
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
【前期は遠隔授業】
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●藤田 冬子
高齢者に関する基礎知識と精査をもとに、コミュニティで暮らす高齢者のフレイル対策や認知症高齢者のケア、介護家族のケア能力向上に関わる支援について、概観し探求する課題など研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530K [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●横内 光子
タイムスタディやシステムシミュレーションの手法を用いたサービス評価方法、効率的なサービス提供システムの構築、ならびに効果的な看護サービスの開発を含むヘルスケアマネジメントについて、基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530L [GB5-240]

科目名	高齢者看護学対象論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子、笹谷　真由美、西山　みどり		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1.高齢者の身体的･精神的･社会的側面について包括的にアセスメントできる。
2.高齢者の健康生活をアセスメントするツールを用いて、高齢者を捉えることができる。

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実践経験を元に以下の内容を講義する。
高齢者の身体的･精神的･社会的側面について包括的にアセスメントする視点を養うために、生理的な老化と病的な老化についてそれぞれの特徴と促進する要因及びケアを進めるためのアセスメントを学ぶ。高齢者が持つ力について身体的･精神的･社会的側面から査定するためのアセスメントツールとその活用ができる力を養う。さらに、高齢者のこれまでとこれからの人生に焦点をあて、アセスメントと看護ケアをつなげていく力を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
高齢者ケアの身体的・精神的・社会的特徴について既習の理論を復習し発言できるようにしておく 。

[授業計画]
1.加齢による高齢者の反応と健康障害（藤田冬子、笹谷真由美）
2.高齢者の健康生活の評価方法とアセスメント①（高齢者の健康生活評価の方法）（藤田冬子、笹谷真由美）
3.高齢者の健康生活の評価方法とアセスメント②（アセスメントとケア展開）（藤田冬子、笹谷真由美）
4.高齢者の心理社会的な評価とアセスメント①（心理社会的な評価とアセスメント）（笹谷真由美、藤田冬子）
5.高齢者の心理社会的な評価とアセスメント②（アセスメントとケア展開）（笹谷真由美、藤田冬子）
6.老年症候群の評価とアセスメント①（老年症候群が生じやすい状況と評価）（笹谷真由美、藤田冬子）
7.老年症候群の評価とアセスメント②（老年症候群の事例）（笹谷真由美、藤田冬子）
8.エンドオブライフで受ける影響とアセスメント①（高齢者のエンドオブライフの特徴）（非常勤講師：西山みどり、笹谷真由美）
9.エンドオブライフで受ける影響とアセスメント②（医療保健福祉職や学際的チームの活動）（非常勤講師：西山みどり、笹谷真由美）
10.高齢者の身体機能・心理社会的な評価、エコーを用いたアセスメント①（事例に基づく検討：高齢者の身体的機能のアセスメント）（笹谷真由美、藤田冬子）
11.高齢者の身体機能・心理社会的な評価、エコーを用いたアセスメント②（事例に基づく検討：高齢者の心理社会的機能のアセスメント）（笹谷真由美、藤田冬子）
12.高齢者をケアする多職種による身体的・精神的・社会的アセスメントと専門看護師が行う包括的アセスメント①（高齢者をケアする多職種のアセスメント）（藤田冬子、笹谷真由美）
13.高齢者をケアする多職種による身体的・精神的・社会的アセスメントと専門看護師が行う包括的アセスメント②（包括的アセスメント）（藤田冬子、笹谷真由美）
14.対応困難で複雑なケアニーズを持つ高齢者の健康生活評価と介入の視点（事例に基づく検討）①（複数の評価指標による健康生活評価）（笹谷真由美、藤田冬子）
15.対応困難で複雑なケアニーズを持つ高齢者の健康生活評価と介入の視点（事例に基づく検討）②（健康生活評価とケア展開）（笹谷真由美、藤田冬子）

[成績評価方法]
授業への参加度（30 %）と 課題レポート（70 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
老年看護学技術（改訂第3)最後までその人らしく生きることを支援する　著者名：正木治恵，真田弘美（2016）　出版社：南江堂　(978-4524227112)
老年看護学概論（改訂第 3版)「老いを生きる」を支えることとは　著者名：正木治恵，真田弘美（2016）　出版社：南江堂　(978-4524227099)
高度実践看護―統合的アプローチ　著者名：Ann B. Hamric ,Charlene M. Hanson ,Mary Fran Tracy ,Eileen T. O’Grady著，中村美鈴，江川幸二訳（2017）　出版社：へるす出版　(978-4892699962)

[参考書（ISBN）]
本人の意思を尊重する意思決定支援：事例で学ぶアドバンス・ケア・プランニング　著者名：西川満則，長江弘子，横江由理子編（2016）　出版社：南江堂　(978-4525500214)

N21000310 [GB5-223]

科目名	高齢者看護学特論	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者ケアにかかわる理論と実践への活用		
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1.老年学を踏まえたうえで、老人看護学の諸理論や概念について説明できる。
2.高齢者ケアを実践するうえで重要となる構成要素について実践例をもちいて具体的に説明できる。
3.老人看護専門看護師の役割及び機能について、高度看護実践の具体例を説明できる。

[授業概要]
老年学を理解し老年看護学を構築してきた諸理論や概念、倫理を学び、高齢者についての理解及び高齢者ケアの成り立ちについて学際的に学ぶ。さらに、これらをもとに高齢者ケアを発展させるために必要となる実践の構成要素と統合し洞察する。
また、老人看護専門看護師の役割や機能がどのように実践されているか理解することを通じて、高度看護実践とその活用について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
老年学及び老人看護学の諸理論を検索し熟読するとともに、老人看護専門看護師の実践内容の論文をよみイメージを持っておくこと。

[授業計画]
1. 老年学から老人看護学への発展及び関係する諸理論・概念
2. 高齢者の心理社会的発達及び加齢変化の諸理論①（発達課題の基本理論）
3. 高齢者の心理社会的発達及び加齢変化の諸理論②（発達課題と事例）
4. 高齢者の健康生活を評価する理論や評価尺度①（評価尺度を用いた研究）
5. 高齢者の健康生活を評価する理論や評価尺度②（認知機能と評価尺度）
6. 高齢者の健康を阻害する要因と研究の動向①（健康障害の要因と影響）
7. 高齢者の健康を阻害する要因と研究の動向②（認知機能の低下と健康障害）
8. 高齢者ケアの動向と学際的チーム①（医療・福祉施設における活動）
9. 高齢者ケアの動向と学際的チーム②（地域における活動）
10.高齢者及び家族を取り巻く倫理的課題と研究の動向①（高齢者ケアの倫理的課題）
11.高齢者及び家族を取り巻く倫理的課題と研究の動向②（高齢者家族ケアでの倫理的課題）
12.高齢者ケアを展開する基盤となる理論と研究の動向①（オレム理論等）
13.高齢者ケアを展開する基盤となる理論と研究の動向②（コンフォート理論等）
14.老人看護専門看護師の役割と効果・成果の動向①（活動報告の概観）
15.老人看護専門看護師の役割と効果・成果の動向②（活動成果の概観）

[成績評価方法]
授業への参加度（40 %）と 課題レポート（60 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
老年期－生き生きしたかかわりあい　著者名：E. H. Erikson,J.M. エリクソン,H.Q.キヴニック著 , 朝長正徳,朝長梨枝子 訳（1997）　出版社：みすず書房 （978-4622049029）
老年看護学概論（改訂第 3版）「老いを生きる」を支えることとは　著者名：正木治恵 , 真田弘美（2016）　出版社：南江堂 （978-4-524-22709）
高度実践看護―統合的アプローチ　著者名：Ann B.Hamric ,Charlene M. Hanson , Mary Fran Tracy, Eileen T. O’Grady著, 中村美鈴, 江川幸二 監訳（2017）　出版社：へるす出版 （978-4-89269-996-2）

[参考書（ISBN）]
オレムのセルフケア・モデル(看護モデルを使う(1))　著者名：スティーブンJ. カバナ著 , 数間恵子, 雄西智恵美 翻訳(1993)　出版社：医学書院 （978-4260341080）
コンフォート理論―理論―の開発過程と実践への適用　著者名：キャサリン・コルカバ著, 太田喜久子訳（2008）
出版社：医学書院 （978-4260005654）

N21000300 [GB5-222]

科目名	高齢者看護学方法論	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者と家族への看護実践		
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 高齢者と家族を諸理論に基づいて理解しアセスメントすることができる。
2. 健康障害や介護による高齢者家族への影響を分析し介入方法を説明することができる。

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実践経験を元に以下の内容を講義する。
家族の理解を基盤として、加齢にともない変化する家族の役割や機能を家族の諸理論や家族病理をもとに理解するとともに、家族アセスメントの方法を学びそれに基づく家族像の形成および家族との援助関係の構築について学ぶ。さらに、様々な状況にある家族事例をもとに、家族アセスメントを行い、家族の個別性に応じた家族看護介入について検討する。高齢者と家族が抱える課題について家族として成長できるための援助関係の構築についても学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
高齢者から見た家族への手記、家族の介護体験の手記を複数よみ理解を深めておく。複数の家族理論について学習しておく。

[授業計画]
1. 家族社会学を概観し家族看護学への発展について理解を深める。
2. 家族についての諸理論を概観し、高齢者と家族への理解を深める。
3. 高齢者と家族についての研究の動向について概観し理解を深める。
4. 高齢者と家族の情報収集とアセスメントについて概観し理解を深める。
　渡辺式家族アセスメントモデルを用いた高齢者と家族のアセスメント事例に基づき、高齢者家族の特徴を明らかにする。
5. 高齢者と家族の情報収集とアセスメントについて概観し理解を深める。
　家族エンパワーメントモデルを用いた高齢者と家族のアセスメント事例に基づき、高齢者家族の特徴を明らかにする。
6. 老いに直面する高齢者が家族に対して行う様々な意思決定、倫理的課題について理解を深める 。
7. 老いに直面する高齢者と家族がともに行う様々な意思決定、倫理的課題、エンド・オブ・ライフ、治療選択における高齢者と家族内の意向調整について、高齢者および家族の手記、研究、諸理論について理解を深める。
8. 高齢者の介護に関連した家族への影響について、研究の動向を概観し理解を深める。
9. 高齢者の介護に影響する家族の歴史、高齢者と家族の相互作用、家族間の愛着形成、介護のやりがいと介護負担、介護で生じやすい倫理的課題、高齢者虐待について理解を深める 。
10. 高齢者家族介入プログラム の相互作用に関する研究の動向を概観する 。
　高齢者と家族の相互作用による介入プログラムについて理解を深める。
11. 高齢者家族介入プログラム の介護能力向上に関する研究の動向を概観する 。
　介護者家族を対象とした能力向上プログラムについて理解を深める。
12. 高齢者と家族の援助関係形成と介入スキルについての研究の動向を概観する。
　高齢者と家族の援助関係を支えるケアシステムとその効果について概観する。
13. 高齢者と家族の援助関係形成と介入方法、介入後の評価について理解を深める。
14. 事例検討 1)家族システム:専門看護師による家族介入
　高齢者家族形態に応じて展開する介入事例について理解を深める。
15. 事例検討 2)倫理的葛藤: 専門看護師による家族介入
　高齢者と家族が抱える倫理的葛藤への介入事例を中心に理解を深める。

[成績評価方法]
授業への参加度(30%)と 課題レポート (70 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
家族看護学 理論と実践 第5版　著者名:鈴木 和子, 渡辺 裕子 著　出版社:日本看護協会出版会 (978-4818022089)
最新 老年看護学 第3版　著者名:水谷 信子 監修　出版社:日本看護協会出版会 (978-4818023048)
家族エンパワーメントをもたらす看護実践　著者名:野嶋 佐由美監修　出版社:へるす出版 (978-4892695407)

[参考書(ISBN)]
新しい家族社会学 第四版　著者名:森岡 清美, 望月 嵩 著　出版社:培風館 (978-4563050344)

N21000320 [GB6-207]

科目名	国際保健・疫学論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二、田村　康子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 地球規模の健康問題(グローバルヘルス)に関する概念や歴史を理解する。
2. 途上国の保健･医療や生活支援などの国際的な公衆衛生看護活動を推進する上で必要な基礎概念と方法論について理解する。
3. 文献講読等の演習を通じてグローバルヘルスの実践に必要な疫学の基礎を理解する。

[授業概要]
本科目では、グローバルヘルスにおける主な課題と論点の理解、あるいは理論的背景の概説に加えて、国際保健看護活動の分析と解釈のために必要な、疫学の実践的演習を行う。言い換えれば、グローバルな視点で南北間の健康格差を認識すると共に、それらの原因となる背景要因を学ぶことを目標とする。講義では、国際保健やそれと関係する疫学のいくつかの主要課題についてそのフレームワークを示し、個々の課題についての原因分析を行うため、学生は感染症論、国際保健医療協力論、あるいはプライマリーケア論や疫学の実践方法論などを学ぶことになる。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
授業科目に関する課題等を、文献あるいは参考図書などを読んで考えておくこと。

[授業計画]
1. 総論 :「国際保健からグローバルヘルス」を学ぶ(宇賀昭二)
2. 国際社会における貧困の問題:貧困はいかにして生まれるか？(宇賀昭二)
3. 国際社会における貧困の問題:貧困と健康(宇賀昭二)
4. SDGsに関して(宇賀昭二)
5. 開発途上国と感染症の疫学(宇賀昭二)
6. 国際的な人権宣言, 権利としての健康, ヒューマニゼーション(宇賀昭二)
7. 人間の安全保障、世界における女性と子どもの健康(宇賀昭二)
8. 国際開発援助の歴史的変遷(宇賀昭二)
9. 保健医療分野における国際機関および協力活動(宇賀昭二)
10. 海外における看護活動の枠組み(洪　愛子)
11. 世界における健康問題:文化的マイノリティである人々の健康、都市化と生活習慣病(宇賀昭二)
12. 異なる文化における保健活動の展開と評価(宇賀昭二)
13. 国際保健医療協力活動の実際: 二国間援助における活動の実際(宇賀昭二)
14. 国際保健医療協力活動の実際:二国間援助における活動の実際(宇賀昭二)
15. 総合討論とまとめ(宇賀昭二・洪　愛子)

[成績評価方法]
講義中に行う質問への回答内容(40 %)と 課題レポート(60 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員より資料を配布する。

[参考書(ISBN)]
担当教員より 適宜提示する。

N21000090 [GB5-208]

科目名	コンサルテーション論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子、藤原　由子、元木　絵美		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. コンサルテーションの基本概念と理論および技術について理解する。
2. 看護の臨床場面で発生する問題へのコンサルテーションの適用、専門看護師によるコンサルテーションの実際と課題について理解する。
3. 看護コンサルタントとしての具体的な実践方法（姿勢や態度、アセスメント技術 、対人関係技術 、介入技術 、評価方法等）を習得する。

[授業概要]
コンサルテーションの基本概念と理論および技術について学ぶ。また、看護の臨床場面で発生する問題へのコンサルテーションの適用、専門看護師によるコンサルテーションの実際と課題について理解する。さらに、コンサルテーション事例を用いたグループディスカッションを通して、看護コンサルタントとしての具体的な実践方法（姿勢や態度，アセスメント技術，対人関係技術，介入技術，評価方法等）を習得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
提示された文献について十分に理解して、準備したうえで受講する。

[授業計画]
1. 看護におけるコンサルテーションの動向と実践（玉木 敦子 ）
2. コンサルテーションの概念・理論、コンサルテーションとコラボレーション、スーパービジョン（玉木 敦子 ）
3. コンサルテーションのプロセスとコンサルタントの役割（玉木 敦子 ）
4. コンサルテーションにおける人間関係（玉木 敦子 ）
5. メンタルヘルス・コンサルテーション（ 市川 久美子 ）
6. コンサルテーションの課題（元木 絵美 ）
7. 変化促進者としてのコンサルタント（元木 絵美 ）
8. コンサルテーションの実際1）（ケース中心のコンサルテーション（元木 絵美 ）
9. コンサルテーションの実際 2）（コンサルティ中心のケース・コンサルテーショ ン）（ 元木 絵美 ）
10. コンサルテーションの実際 3）（管理者中心のケース・コンサルテーション）（ 藤原 由子 ）
11. コンサルテーションの実際 4）（プログラムに関する管理者中心のコンサルテーション）（藤原 由子 ）
12. コンサルテーションの実際 5）（事例検討によるグループコンサルテーション）（藤原 由子 ）
13. 事例を用いた模擬コンサルテーション1）（藤原 由子・元木 絵美 ）
14. 事例を用いた模擬コンサルテーション2）（藤原 由子・元木 絵美 ）
15. 事例を用いた模擬コンサルテーション3）（藤原 由子・元木 絵美 ）

高度実践看護師基準に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容 別表1-1
共通科目Ａ :コンサルテーション論

[成績評価方法]
授業への参加度（50%）と課題レポート（50%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
Consulting Process in Action. LA Jolla　著者名：Lippitt, G. & Lippitt, R. (1986)　出版社：CA University Association, California　(978-0883901410)
Mental Health Consultation and Collaboratio　著者名：Caplan, G & Caplan,　R.B. (1993)　出版社：Waveland Press. IL. (Reissued 1999)　(978-1577660736)
プロセス・コンサルテーション―援助関係を築くこと　著者名：Schein, E.H.(2012)：稲葉元吉，尾川丈一訳　出版社：白桃書房　(978-4561131403)

N21000060 [GB5-205]

科目名	小児看護学特論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 小児の成長発達 、セルフケアについての理論を説明することができる。
2. 小児を取り巻く外的環境についての理論を説明することができる。
3. 小児の健康生活維持のため諸理論と看護実践への活用について考察できる。
4. 小児を取り巻く将来的課題について明らかにすることができる。
5. 関心 のある 看護現象についての研究の動向を考察することができる 。

[授業概要]
小児の成長発達、セルフケア、家族に関する主要な理論を学び、看護実践における理論および概念の活用を考察する。また、小児を取り巻く社会や医療の現状から、小児看護における倫理的課題を明らかにする。さらに、研究動向から最近の知見を分析し、小児看護の課題を探求する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
提示された文献を抄読しておく。
臨床経験において自己の課題を明らかにしておく。

[授業計画]
1. コースオリエンテーション
小児看護における倫理1)
・児童憲章・子どもの権利条約 ・療養環境における小児の権利擁護
・インフォームドコンセント ・アセント
2. 小児看護における倫理2)
・療養に関わる意思決定 ・臨床場面での倫理的課題 ・事例分析
3. 発達理論 1)・認知:ピアジェ
4. 発達理論 2)・自我心理社会性:エリクソン
5. 発達理論 3)・関係性:ボウルビィ、マーラー
6. 発達理論の看護実践への活用 1)
・各発達段階(乳児期・幼児期・学童期・思春期)および様々な健康レベルにおける看護実践への活用を検討
7. 発達理論の看護実践への活用2)
・事例分析
8. セルフケア理論1)
・理論を構築する概念の理解、小児セルフケア能力の発達、影響因子
9. セルフケア理論2)
・様々な状況にある小児のセルフケアの理解、小児のセルフケアと家族
10 . セルフケア理論の看護実践へ活用
・事例分析
11 . 家族理論1)
・家族システム ・家族発達 ・家族機能 ・家族ストレス対処
12 . 家族理論 2)
・家族アセスメント ・家族介入モデル
13 . 家族理論の看護実践への活用
・様々な状況にある小児の家族における看護実践への活用 ・事例分析
14 . 小児看護における今日的課題ついて文献検討
・小児を取り巻く現状と課題の検討
15 . 自己の関心ある看護現象についての理論を活用した分析
・高度看護実践としての対象理解について理論を用いて分析する
＊資料の配布、国内外の文献紹介を事前に行う。授業までに抄読しておくこと。

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある
科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児・家族の成長・発達／健康生活に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度 (50 %)と課題レポート(50 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
知能の誕生　著者名:J・ピアジェ,谷村覚訳(1978)　出版社:ミネルヴァ書房 (978-4623011513)
幼児期と社会1　著者名:E・ H・エリクソン ,仁科弥生訳(1977)　出版社:みすず書房 (978-4622022817)
幼児期と社会2　著者名:E・ H・エリクソン ,仁科弥生訳(1980)　出版社:みすず書房 (978-4622022824)
Ⅰ愛着行動(母子関係の理論) 著者名:J・ボウルビィ,黒田実郎訳 (1991)　出版社:岩崎学術出版社 (978-4753391028)
Ⅱ分離不安(母子関係の理論) 著者名:J・ボウルビィ,黒田実郎訳 (1995)　出版社:岩崎学術出版社 (978-4753391035)

N21000210 [GB5-217]

科目名	小児看護学特論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	二宮　啓子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 小児のストレスに関する諸理論について説明できる。
2. 小児のストレスについて発達的特徴と看護との関連を説明できる。

[授業概要]
小児の健康生活にかかわる諸要因のうち、健康障害に関連するストレスに焦点をおき、医療を受けるときのストレスを中心に、痛みへの対処、説明に対する理解など、小児特有の反応と家族特有の反応を学び、個々の発達段階と状況を考慮した小児と家族への看護を考察する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
提示された文献の抄読をしておくこと。
臨床経験での小児ストレスの現象を明らかにしておくこと。

[授業計画]
1. 臨床場面における子どものストレスとプレパレーション
　ストレスの予防および緩和方法を学び、小児看護への適用を検討する。
2. ストレスとは何かーストレスが身体に及ぼす影響ー
3. 生活ストレスとは何かーその理論と方法ー
4. ストレス・コーピング理論ーその理論と方法ー
5. ストレス心理学ー個人差のプロセスとコーピングー
6. ストレスと対人関係
7. 対人関係と適応ーストレス対処の理論と実践ー
8. 発達段階におけるストレス:乳児期のストレス
9. 発達段階におけるストレス:児童期のストレス
10. 子どものストレス・コーピングについて
11. 激動社会の自己効力ーSelf-Efficacy理論ー
12. 適応と援助について
13. 認知的不協和理論について
14. Penderのヘルスプロモーションモデルについて
15. 小児看護場面におけるヘルスプロモーションモデルの活用について

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児・家族の成長・発達/健康生活に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度 (60 %)、課題レポート(40 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
The stress of life, revised edition／現代社会のストレス(原書改訂版)　著者名:Hans Selye著, 杉靖三郎他訳(1988)　出版社:法政大学出版 (978-4588002434)
Stress, Appraisal, and coping :ストレスの心理学　著者名:Lazarus, R. S.＆Folkman, S著, 本明寛他監訳(1991)　出版社:実務教育出版 (978-4788960701)
激動社会の自己効力　著者名:アルバート・バンデューラ著, 本明寛・野口京子監訳(1997)　出版社:金子書房 (978-4760822836)
Health Promotion in Nursing Practice　著者名:Pender,N., Murdaugh,C. & Parsons,M.A (2014)　出版社:PEASON (978-0133108767)

N21000220 [GB5-218]

科目名	小児看護学方法論Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、菅野　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 小児期に特有な疾患の病態生理を説明することができる。
2. 小児期に特有な疾患の診断に必要な検査について説明することができる。
3. 小児期に特有な疾患の治療プロセスについて説明することができる。
4. 症状マネジメントの方略を考察することができる。

[授業概要]
小児期に特有な疾患の病態生理、診断、検査とその解釈法、治療法について理解を深め、CureとCareを融合させた症状マネジメントの実践方法について学ぶ。さらに、高度看護実践への方略の開発に向けて考察する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
毎回提示される疾患の文献を抄読しておくこと。

[授業計画]
小児看護実習Ⅰと並行して行う。
場所は神戸市立医療センター中央市民病院、にこにこハウス医療福祉センターにて行う。
1.呼吸器疾患の小児の診断と治療 1)(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院 、内正子)
・細気管支炎 ・肺炎
2. 呼吸器疾患の小児の診断と治療2)(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院 、内正子)
・気管支喘息
3. 消化器疾患の小児の診断と治療 (学外特別講師　神戸市立医療センター中央市民病院 、菅野由美子)
・急性胃腸炎 ・急性虫垂炎 ・潰瘍性大腸炎
4. 循環器疾患の小児の診断と治療 (学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院、菅野由美子)
・先天性心疾患 ・川崎病
5. 代謝・内分泌疾患の小児の診断と治療(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院 、内正子)
・1型糖尿病 ・下垂体疾患 ・副腎疾患
6. 免疫疾患の小児の診断と治療 (学外特別講師　神戸市立医療センター中央市民病院、内正子)
・若年性特発性関節炎
7.アレルギー疾患の小児の診断と治療(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院、内正子)
・食物アレルギー ・アレルギー性紫斑病
8. 血液疾患の小児診断と治療(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院、菅野由美子)
・白血病 ・悪性リンパ腫
9. 腫瘍性疾患の小児の診断と治療(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院 、菅野由美子)
・神経芽腫 ・脳腫瘍
10. 腎・泌尿器疾患の小児の診断と治療 (学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院、内正子)
・ネフローゼ症候群 ・IgA腎炎
11. 小児救急における診断と治療(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院 、内正子)
12. 発達障害の小児の診断と治療(学外特別講師 にこにこハウス医療福祉センター、内正子)
13. 在宅医療を受ける小児の診断と治療(学外特別講師 にこにこハウス医療福祉センター、内正子)
・神経・筋疾患
14. 急性期の状況にある小児の症状マネジメント(菅野由美子)
15. 慢性期の状況にある小児の症状マネジメント (内正子)

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児の病態・治療に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度(60 %)と課題レポート (40 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000230 [GB5-219]

科目名	小児看護学方法論Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 小児看護専門看護師の役割と機能について説明することができる。
2. 専門看護師としての役割機能を遂行するための技法について説明することができる。
3. 複雑で対応困難な課題に対する方策を考察することができる。
4. 小児看護における変革者としてのあり方を考察することができる。

[授業概要]
複雑な状況にある小児と家族の看護問題に対して、専門看護師としての倫理的判断および臨床判断に基づき、状況に応じた実践能力を向上させるための基盤となる諸理論を理解する。また、専門看護師としての役割や機能について学び、問題解決に用いる方法論の選定について考察する。さらに、小児看護の課題を明確にし、現状を変革する方策を検討し、専門看護師としてのあり方を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
提示された文献の抄読をしておくこと。

[授業計画]
【遠隔授業】

1.　小児看護専門看護師の役割と機能1)(内正子)
　・小児医療における高度実践看護の現状
　・小児看護における専門看護師としての位置づけ
2.　小児看護専門看護師の役割と機能2)(内正子)
　・文献検討から専門看護師の機能の検討
3.　実践能力を向上させるための方法1)(内正子)
　・臨床判断モデル　・リフレクション
4.　実践能力を向上させるための方法2)(内正子)
　・事例検討
5.　専門看護師の実際の活動1)高度実践)(吉田陽子、内正子)
6.　小児と家族に対するケア提供者へのコンサルテーション(内正子)
　・ケア提供者との援助関係　・コンサルテーション技術
7.　専門看護師の実際の活動2)コンサルテーション(山本千晴、内正子)
8.　小児と家族を取り巻くチームやメンバーへの調整(内正子)
　・小児と家族を取り巻く職種　・他職種理解
9.　多職種チームアプローチ(内正子)
10.　専門看護師の実際の活動3)調整(吉田陽子、内正子)
11.　小児看護における倫理(内正子)
　・臨床における倫理的ジレンマ　・倫理的課題への対応　・倫理調整の方法
12.　専門看護師の実際の活動4)倫理調整(山本千晴、内正子)
13.　小児看護実践と研究(内正子)
　・実践における研究活動　　・小児を対象とする研究倫理
　・研究成果を実践に活用する方法
14.　小児を取り巻くケア提供者へのケア向上のための教育的関わり(内正子)
　・教育的アプローチ　・動機付け　・ロールモデル
15.　小児看護領域における援助技術や援助方法についてエビデンスに基づいた方法の検討(内正子)
　・専門看護師に求められる今後の課題

＊資料の配布、国内外の文献の紹介を事前に行う。授業までに抄読しておくこと。

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児看護援助の方法に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度(60%)と課題レポート(40%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
専門看護師の思考と実践　著者名:井部俊子(2015)　出版社:医学書院　(978-4260024006)

[参考書(ISBN)]
高度実践看護—統合的アプローチ　著者名:Ann B. Hamric, Charlene M. Hanson, Mary Fran Tracy, Eileen T. O'Grady 著, 中村 美鈴, 江川 幸二 (翻訳)(2017)　出版社:へるす出版　(978-4892699283)
謙虚なコンサルティング——クライアントにとって「本当の支援」とは何か　著者名:Edgar H.S著, 野津智子訳(2017)　出版社:英治出版　(978-4862762252)

N21000240 [GB6-203]

科目名	小児看護実習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、菅野　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 外来受診する小児の疾患の診断と治療プロセスを理解することができる。
2. 入院している小児の疾患の診断と治療プロセスを理解することができる。
3. 小児看護専門看護師として診断治療プロセスに必要な能力を考察することができる。

[授業概要]
小児看護専門看護師として、小児期に特有な疾患の診断、治療に至る実際のプロセスを学び、看護の視点からそれらを統合し、専門的ケアが実践できる能力を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
共通科目(フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学)及び小児看護学方法論Ⅰを復習しておくこと 。

[授業計画]
1.実習場所
神戸市立医療センター中央市民病院
2.実習体制
実習指導は、実習担当教員と臨床の実習指導者(小児科医師および小児看護専門看護師)が連携して行う。
3.実習内容(実習要項参照)
1)実習指導者が担当する外来において、受診された小児と家族に関わる。
・実習指導者の診察に同席し、検査、診断基準、治療プロセスを見学する。
・小児のフィジカルアセスメントについて一部実施する。
・小児期に特有な疾患について様々なケースに関わる。
・実習後、実習指導者とカンファレスを行い、自己の判断について確認する。
・実施した臨床判断について 、実習指導者より助言を受けて考察する。
2)実習指導者が主治医である入院中の小児と家族に関わる。
・実習指導者の診察に同席し、検査・診断基準、治療のプロセスを見学する。
・小児のフィジカルアセスメントについて一部実施する。
・事例に対するヘルスアセスメントを医師に確認する。
・実習後、実習指導者とカンファレンスを行い、自己の判断について確認する。
・実施した臨床判断について、実習指導者より助言を受けて考察する。
・実習指導者らの行うケースカンファレンスに参加し、診断治療の理解を深める。
・事例に対して治療を支える看護介入について臨床実習者と検討を行い、看護計画を立案し、実施・評価する。
3)小児の診断と治療について理解し、看護ケアへの統合を分析する。
・適宜、臨床実習指導者と実習担当教員とカンファレンスを行い、自己の臨床能力を確認する。
・小児の診断・治療プロセスについて10例以上のレポートを作成する。

＊実習期間は2週間以上とし、実習到達目標が成されるまで行う。
健康回復に向けた実践のため、連続した日程で実習を展開する。
ゼミナール は週1回以上行い、援助方法や実践評価の妥当性についてスーパーバイズ は週1回以上行い、援助方法や実践評価の妥当性についてスーパーバイズをうける。

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児の診断・治療に関わる実習科目

[成績評価方法]
実習への取り組み(30 %)、事例についてのレポート(病態、診断、治療の理解) (50 %)、ならびに課題レポート(20%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指示しない。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000260 [GB5-220]

科目名	小児看護実習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、菅野　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 複雑な健康問題をもつ小児と家族に対して、包括的なアセスメントが行える。
2. 複雑な健康問題をもつ小児と家族に対して、倫理的視点をもった看護計画を立案し、実施できる。
3. 複雑な健康問題をもつ小児と家族に対して、適切に評価できる。
4. 自己の実践について分析し、課題を明らかにすることができる。

[授業概要]
複雑な健康問題をもつ小児とその家族に関わり、包括的なアセスメントをし、効果的な看護介入を行うことにより、専門看護師としての基礎的態度と判断能力、実践能力を学ぶ。小児とその家族に対する直接的ケアを実践する能力の向上に焦点をあてる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
小児看護学特論Ⅰ・Ⅱ、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱを復習しておくこと。

[授業計画]
1. 実習場所
　兵庫県立こども病院

2. 実習体制
　実習指導は、実習担当教員と臨床の実習指導者（小児看護専門看護師）が連携して行う。

3. 実習内容（実習要項参照）
1）複雑な健康問題をもつ小児と家族に関わる。
　・急性期の健康レベルにある小児を受け持つ。
　・小児のストレス状況、症状マネジメントを主眼とし、包括的なアセスメントを行う。
　・実習指導者のスーパーバイズのもと、看護実践を行う。
　・家族や健康の回復に向けた小児のセルフケア機能を高める援助方法を実践する。
2）小児看護専門看護師として、倫理的判断を含め、看護の援助方法を分析する。
　・適宜、臨床実習指導者と実習担当教員とカンファレンスを行い、自己の臨床能力を確認する。
　・小児に対する直接ケアについて2例以上のレポートを作成する。

　＊実習期間は2週間以上とし、実習到達目標が達成されるまで行う。
　　健康回復に向けた実践のため、連続した日にちで実習を展開する。
　　ゼミナールは週1回以上行い、援助方法や実践評価の妥当性についてスーパーバイズをうける。

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程：高度実践者としての役割に関する実習科目

[成績評価方法]
実習への取り組み（実習達成度）（30%）と事例レポート（50%）、課題レポート（20%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000270 [GB5-221]

科目名	小児看護実習Ⅲ	前期	4 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、菅野　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 複雑な健康問題をもつ小児と家族に対して、包括的な高度看護実践を行い評価することができる。
2. 小児が地域で生活者として過ごすことができるよう他職種との連携・調整・協働を実践し評価できる。
3. 困難な課題解決に向けて専門看護師としての役割(倫理調整、相談、調整、教育)について、専門看護師のスーパーバイズのもと、考察することができる。
4. 自己の実践について分析し、課題を明らかにすることができる。

[授業概要]
複雑な健康問題をもった小児とその家族に関わり、倫理的判断を含め、看護の機能・方法・方向性を検討し、状況に応じた小児看護専門看護師としての判断及び援助方法を学ぶ。小児の成長発達を焦点にあてた長期的な視野での看護介入を実践する。小児が地域における生活者であることを主眼におき、医療施設だけではなく、小児を取り巻く様々なリソースでの実習を通して、小児を包括的に援助することを学ぶ。実習を通して、専門看護師としての自己の課題を明らかにする。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
小児看護の専門科目を復習しておくこと。

[授業計画]
1.実習場所
　兵庫県立こども病院

2.実習体制
　実習指導は、実習担当教員と臨床の実習指導者(小児看護専門看護師)が連携して行う。

3.実習内容(実習要項参照)
1)医療施設において、複雑な健康問題をもつ小児と家族を受け持ち、包括的アセスメントを行い、看護実践を行う。
　・医療施設における療養から在宅療養へ移行する段階において課題をもつ小児を主に受け持つ。
　・援助方法については、今までに学習した内容をまとめ、エビデンスに基づいた看護実践を行う。
　・小児の成長発達、健康状態を包括的に分析し、小児の生活維持・セルフケア能力を判断して看護実践を行う。
　・地域で生活する小児と家族をとらえ、分析し、看護実践を行う。
　・状況に応じて、継続的に看護実践が小児に提供できるように、他のケア提供者に理解が得られるよう、知識や技術の提供方法を検討する。
　・状況に応じて、在宅療養のサポートシステムへの働きかけを立案し、他機関・他職種との調整・協働を実践する。
2)医療的ケアが必要な小児の地域での生活を支える援助
　・地域でのリソースである訪問看護ステーション(特別支援学校を含む)を活用している在宅療養児と家族のアセスメントを行い、在宅での看護実践を行う。
3)小児看護専門看護師として、倫理的判断を含め、看護の援助方法を分析する。
　・適宜、臨床実習指導者と実習担当教員とカンファレンスを行い、自己の臨床能力を確認する。
　・小児に対する直接ケアについて3例以上のレポートを作成する。
　・ケースを通して、専門看護師の役割機能である、調整、教育、相談、倫理調整を行った場合は、レポートを作成する。

＊実習期間は4週間以上とし、実習到達目標が達成されるまで行う。
　小児の成長発達の視点と地域での生活者であることを主眼とするため、長期間(約6か月間)の関わりとする。小児の看護ニーズによって実習日を設ける。
　ゼミナールは週1回以上行い、援助の方向性や方法、実践評価の妥当性についてスーパーバイズをう

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:高度実践者としての役割に関する実習科目

[成績評価方法]
実習への取り組み(実習達成度)(30%)と事例レポート(50%)、課題レポート(20%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000280 [GB6-205]

科目名	小児看護実習Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、菅野　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 複雑な健康問題をもつ小児と家族に対する実践を通して、小児看護専門看護師の役割機能である相談、調整、倫理、教育について分析することができる。
2. 専門看護師のスーパーバイズのもと、問題解決に向けて、倫理調整、コーディネーション、コンサルテーション、教育が実践できる。
3. 小児看護の将来的課題を見出すことができ、小児看護専門看護師の役割開発を考察することができる。
4. 小児看護専門看護師としての自己の課題を明らかにする。

[授業概要]
複雑な健康問題をもつ小児とその家族に関わり、専門看護師に必要な高度実践能力を深める。その実践を通して専門看護師としての役割機能である調整、相談、倫理、教育の能力を学ぶ。さらに、小児看護における将来的課題を見出し、専門看護師としての役割開発を考察する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
小児看護学方法論Ⅱを復習しておくこと。

[授業計画]
1. 実習場所
　兵庫県立こども病院

2. 実習体制
　実習指導は、実習担当教員と臨床の実習指導者（小児看護専門看護師）が連携して行う。

3. 実習内容（実習要項参照）
　専門看護師である臨床実習指導者及び実習担当教員のスーパーバイズのもとに、実習を行う。
 1）専門看護師のシャドーイングを行う。
　・高度実践、倫理調整、コンサルテーション、コーディネーション、教育の活動場面に参画し、その機能を考察する。
 2）複雑な看護問題をもつ小児と家族を担当し、倫理的問題の調整・解決、看護チームへの相談、教育、他職種との調整を専門看護師のスーパーバイズのもと、実践する。
　・複雑な看護問題をもった小児と家族を包括的にアセスメントし、解決に向けての実施計画を立案する。
　・小児と家族が最善のケアを受けることができるよう他職種と調整を行う。
　・小児の人権を保障し、最善の医療を受けることができるよう、倫理調整を行う。
　・対応困難なケースに対して、ケア提供者から解決に向けてのコンサルテーションを受け、解決に向けて実践する。
　・小児に提供されているチームにおいての教育ニーズを分析し、チームやチームメンバーに対して教育活動を実施し評価する。
 3）実習を通して、小児看護における専門看護師の役割について考察を深める。
　・適宜、臨床実習指導者と実習担当教員とカンファレンスを行い、課題について検討し、自己の専門看護師としての課題を見出す。
　・専門看護師としての機能（相談・調整・倫理調整・教育）について、各2例以上のレポートを作成する。

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程：高度実践者としての役割に関する実習科目

[成績評価方法]
実習における取り組み（30%）と事例レポート（50%）、課題レポート（20%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000290 [GB6-206]

科目名	小児高度実践看護演習Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、菅野　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 小児と家族から包括的な情報収集の方法について説明できる。
2. 小児の包括的アセスメントについて説明できる。
3. 小児の権利擁護に沿った技法を用いることができる。

[授業概要]
小児の成長発達や生活環境を理解し、各発達段階におけるヘルスアセスメントについて学ぶ。発達段階に応じた適切なアプローチの仕方と高度実践として必要なアセスメントの視点と評価、査定するための方略や技術・技法を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
提示された文献を抄読しておくこと。
提示された DVDを視聴しておくこと。
使用する機器の取り扱いについて確認しておくこと。

[授業計画]
授業では、シミュレータの活用、ロールプレイなどを用いて行う。
1.コースオリエンテーション(内正子・菅野由美子)
・小児のヘルスアセスメントの意義と目的
2.成長発達に応じた小児への接近の技法 1)(内正子・菅野由美子)
・乳幼児期の小児と家族へのインタビュー技法
3.成長発達に応じた小児への接近の技法 2)(内正子・菅野由美子)
・学童期以降の小児へのインタビュー技法
4.フィジカルイグザミネーションの基本技術(内正子・菅野由美子)
5.発達アセスメントと心理・社会面のアセスメント
環境アセスメント(内正子・菅野由美)
6.家族アセスメント(内正子・菅野由美子)
7.包括的なヘルスヒトリー聴取の技法(内正子・菅野由美子)
8.系統別アセスメント 1)(内正子・菅野由美子)
・頭頚部・鼻・眼・耳のアセスメント・口腔のアセスメント
9.系統別アセスメント 2)(内正子・菅野由美子)
・胸部・呼吸器のアセスメント
10.系統別アセスメント 3)(内正子・菅野由美子)
・心臓・血液系のアセスメント
11.系統別アセスメント 4)(内正子・菅野由美子)
・腹部のアセスメント
12.系統別アセスメント 5)(内正子・菅野由美子)
・運動機能・神経系のアセスメント
13.系統別アセスメント 6)(内正子・菅野由美子)
・生殖器系・皮膚のアセスメント
14.栄養のアセスメント(内正子・菅野由美子)
15.サマリーの記述、事例を用いてのヘルスアセメント(内正子・菅野由美子)

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児看護対象の査定に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度 (討議・発表)(60 %)と 課題レポート (40 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
Pediatric Physical Examination
: An Illustrated Handbook, 3e　著者名:Karen Duderstadt(2018)　出版社:Mosby (978-0323476508)

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000510 [GB5-238]

科目名	小児高度実践看護演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、丸山　有希、菅野　由美子、小路　浩子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 乳幼児、学童の健康増進のための援助方法について説明できる。
2. 様々な健康レベルに沿った小児と家族の援助方法ついて説明できる。
3. 医療的ケアが必要な在宅療養児の援助方法について説明できる。
4. 専門看護師として成長発達・健康レベルに沿った援助方法の開発に向けて考察することができる。

[授業概要]
小児の成長発達、健康生活の維持促進に関する援助方法を学ぶ。様々な状況、健康課題をもつ小児のアセスメントおよび、小児を取り巻く外的環境への働きかけを含めた高度な援助方法を学ぶ。さらに、小児看護専門看護師として様々な健康レベルや状況に応じた効果的なケアについて考察する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
各発達段階・健康レベルに沿った援助方法の文献について抄読しておくこと。
臨床経験における自己の援助方法について課題を明らかにしておくこと 。

[授業計画]
文献やフィールド(子育てサークル、特別支援学校)を通して、援助方法をクリティークする。
1. 乳幼児期の小児における健康増進のための援助(内正子)
・生活環境の調整(栄養・睡眠・遊び) ・予防接種
2. 学童期の小児における健康増進のための援助(内正子)
・ヘルスプロモーション・生活改善プログラム
3. 健康課題をもつ小児の家族への援助 1)(内正子)
・家族中心ケア・子育て支援
4. 健康課題をもつ小児の家族への援助 2)(小路浩子)
・児童虐待
5. 急性期の健康レベルにある小児と家族への援助1)(菅野由美子)
・小児の痛みアセスメント・症状マネジメント
6. 急性期の健康レベルにある小児と家族への援助 2)(内正子)
・インフォームドコンセント　・アセント　・プレパレーション
7.周手術期・集中ケア時にある小児と家族への援助(内正子)
・小児救急
8. 慢性期の健康レベルにある小児と家族への援助 1)(内 正子)
・疾患認知 ・自己管理
9. 慢性期の健康レベルにある小児と家族への援助 2)(内正子)
・移行期やキャリーオーバーの小児
10.小児がんの小児と家族への援助(菅野由美子)
・症状アセスメントを中心としたセルフケア
11.小児におけるエンド ・オブ ・ライフケア(菅野由美子)
12.特別な配慮が必要な小児と家族への援助 1)(小路 浩子)
・在宅療養する小児の各発達段階における特徴と援助方法
13.特別な配慮が必要な小児と家族への援助 2)(小路浩子)
・発達障害児への支援 ・他職種との連携
14.医療的ケアを要する小児と家族への援助(丸山有希)
・特別支援学校での医療的ケア ・家族や他職種との連携
15. 関心のある成長発達段階や健康レベルの事例を通した援助方法の検討(内 正子)
・諸理論や研究成果から新たな援助方法を導く

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児看護援助の方法に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度(討議・発表) (60 %)と 課題レポート (40 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000520 [GB5-239]

科目名	小児高度実践看護課題研究	前期～後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 関心領域における実践に根ざした研究課題を見出すことができる。
2. 研究計画書を作成することができる。
3. 研究計画書に基づき、データ収集、分析ができる。
4. 研究のプロセスに沿って論文をまとめることができる。
5. 専門看護師として研究への態度を身につける。

[授業概要]
専門看護師コースの学生が、専門とする小児看護領域での実践や実習の中で見いだした特定のテーマに関して、研究的な取り組み、その成果を社会に還元する意義とプロセスを学ぶ。テーマを研究課題として明確化し、実践を通じて得た情報を整理・分析・考察してその成果を論文にまとめる。課題探究を通して、小児看護専門看護師として看護実践上の課題解決能力を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
小児看護学、研究方法に関する授業内容を復習しておくこと。

[授業計画]
1. コースオリエンテーション
2. 課題の明確化に向けての検討　自己の臨床経験からの課題
3. 演習や実習を通しての課題の明確化
4. 課題に関する文献検討1):国内の先行研究のクリティーク
5. 課題に関する文献検討2):国外の先行研究のクリティーク
6. 課題に関する文献検討3):文献検討のまとめ
7. 文献検討から得た課題に関する知見
8. 研究計画書の作成1):構成の検討
9. 研究計画書の作成2):課題に対する研究デザインの検討
10. 研究計画書の作成3):フィールドワーク方法の検討
11. 研究計画書の作成4):データ収集方法と分析の検討
12. 研究計画書の作成5):研究における倫理的配慮についての検討
13. 研究倫理審査への申請
14. データ収集1):フィールドへの入り方　対象者へのインフォームドコンセント
15. データ収集2):対象、フィールドとの関係作りとデータ収集
16. データ収集3):データ収集、フィールドノートの作成
17. データ収集4):データ収集、フィールドノートの作成
18. データ収集5):データ収集、フィールドノートの作成、データの確認
19. データ収集と分析1):データの整理と分析
20. データ収集と分析2):データ分析
21. データ収集と分析3):データ分析と確認
22. 研究結果のまとめ1):分析結果の整理と図式化
23. 研究結果のまとめ2):分析結果の解釈
24. 考察の検討1):分析結果の解釈と考察
25. 考察の検討2):分析結果の解釈と考察
26. 考察の検討3):総合的な考察
27. 論文の作成1):論文の構成、アウトラインと整合性の確認
28. 論文の作成2):表現の適切性、文章構成の確認
29. 論文の作成3):発表準備
30. 論文発表

＊ フィールドでの介入や論文作成についての指導は、進捗状況にあわせて適宜行う。

[成績評価方法]
探究への取り組み(課題の焦点化、研究計画書の作成、データ収集・分析)(40%)と成果物(60%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000560 [GB6-214]

科目名	小児保健医療福祉論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、丸山　有希、小路　浩子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 小児を取り巻く社会における制度・政策について説明できる。
2. 様々な健康レベルにある小児のサポートシステムについて説明できる。
3. 将来的課題を明らかにし、政策提言につなげる方略を考察できる。

[授業概要]
様々な健康レベルにある小児を取り巻く社会のサポートシステムについて学ぶ。地域や在宅で生活する小児の状況を踏まえ、関連領域との連携における高度実践能力を学ぶ。関連する制度・政策について現状を理解し、今後の取り組みや政策提言につなげる方策を考察する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
提示された文献の抄読をしておくこと。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 小児の健康生活を支える社会のサポートシステム1)(内正子)
　・小児保健の現状と課題　・小児を取り巻く保健医療制度
　・国や関連団体による施策(健やか親子21、子ども・子育て支援制度等)
2. 小児の健康生活を支える社会のサポートシステム2)(内正子)
　・小児の各発達段階におけるシステムの概要　・事例分析
3. 小児の健康生活を支える社会のサポートシステム3)(小路浩子)
　・母子保健サービス　・子育て世代包括的ケアに関する現状と課題・少子化対策
4. 小児の健康生活を支える社会のサポートシステム4)(小路浩子)
　・教育に関する制度や政策　・学校保健
5. 小児の健康生活を支える社会のサポートシステム5)(小路浩子)
　・児童福祉　・児童虐待防止に関する制度や方策　・事例分析
6. 医療機関に入院している小児へのサポートシステム1)(内正子)
　・小児医療の現状と課題　・小児の入院環境
　・入院している小児の成長発達を支えるシステム(保育や教育等)
7. 医療機関に入院している小児へのサポートシステム2)(内正子)
　・入院している小児を取り巻く多職種　・事例分析
8. 移行期にある小児へのサポートシステム1)(小路浩子)
　・在宅移行期に起因する現状と課題　・他機関・他職種との連携
9. 移行期にある小児へのサポートシステム2)(小路浩子)
　・事例分析
10. 特別な配慮を要して地域で生活する小児へのサポートシステム1)(小路浩子)
　・医療的ケアが必要な小児を取り巻くシステム
　・小児の訪問看護の現状と課題　訪問看護における制度と施策
11. 特別な配慮を要して地域で生活する小児へのサポートシステム2)(小路浩子)
　・発達に課題をもつ小児を取り巻くシステム
　・地域で小児の生活を支えるシステムの実際と今後の課題
12. 特別な配慮を要して地域で生活する小児へのサポートシステム3)(丸山有希)
　・特別支援教育の歴史的背景　・特別支援教育の現状と課題
13. 特別な配慮を要して地域で生活する小児へのサポートシステム4)(丸山有希)
　・特別支援教育における小児看護の位置づけ　・事例分析
14. 関心のあるテーマについて文献検討と社会提言に向けての方策を検討(内正子)
15. システムを構築していく方法や提言の方法についての検討(内正子)

＊資料の配布、国内外の文献の紹介を事前に行う。授業までに抄読しておくこと。

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児の保健/医療環境/制度に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度(60%)と課題レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000250 [GB6-204]

科目名	女性看護学特論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子、牛越　幸子、田村　康子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 女性のライフステージにおける健康問題・課題とその背景について、ウィメンズ・ヘルスの視点から理解する。
2. リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、セクシュアリティの理解を深め健康支援を考える上で必要な知識を習得し、看護の課題を明らかにする。
3. 思春期、成熟期 、更・老年期にみられる女性の健康問題・課題の特徴と生活への影響、支援について理解し、看護の課題を明らかにする。
4. 女性のライフステージにおける健康支援における看護の役割を考察する。

[授業概要]
女性のライフステージ全般にわたる健康問題・課題について、ウィメンズヘルスの視点から理解を深める。また、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、セクシュアリティの構成概念を学び健康支援について検討する。女性のライフステージ各期の健康課題と支援について文献や研究成果を基に考察し、ウィメンズ・ヘルスにおける看護の役割を探究できる能力を養う。看護師・助産師としての実務経験のある教員が授業にあたる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・授業に関連して提示される事前課題について、文献・資料を基にレポート作成し授業に臨む。(2時間程度)
・授業後、資料の確認、授業内の整理（2時間程度）

[授業計画]
1. ウィメンズ・ヘルスの成立ち（下敷領須美子）
2. ウィメンズ・ヘルスにおける健康の捉え方（下敷領須美子）
3. リプロダクティブ・ヘルス・ライツの概念と看護の課題（下敷領須美子）
4. リプロダクティブ・ヘルス・ライツに関する世界の現状（　後任未定　）
5. リプロダクティブ・ヘルス・ライツに関する国際的アプローチ（　後任未定　）
6. セクシュアリティの構成概念（下敷領須美子）
7. セクシュアリティに関わる健康課題（下敷領須美子）
8. 思春期における健康問題・課題の特徴（牛越幸子）
9. 思春期における健康問題 ・課題と支援（牛越幸子）
10．成熟期における健康問題・課題の特徴（下敷領須美子）
11．成熟期における健康問題・課題と支援（下敷領須美子）
12．更・老年期における健康問題・課題の特徴（牛越幸子）
13．更・老年期における健康問題・課題と支援（牛越幸子）
14．ウィメンズ・ヘルスと災害看護（　後任未定　）
15．ウィメンズ・ヘルスと看護の役割（下敷領須美子）

[成績評価方法]
授業への参加度（50 %）と課題レポート（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜資料を指示する。教科書なし

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000420 [GB5-233]

科目名	女性看護学特論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	田村　康子、牛越　幸子、下敷領　須美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 移行理論や親役割に関連する理論、愛着理論、ソーシャルサポートネットワーク理論について理解する。これらの理解を通して、親になる過程や子どもと養育者の関係性の構築、および母子と社会とのつながりをふまえた看護支援を考察できる。
2. 国内外における周産期にある母子とその家族の現状、課題、ニーズを理解し、現在ある母子保健制度や社会資源、周産期ケアシステムについて検討し、批判的に分析できる。
3. エビデンスに基づいた周産期ケアの実践について考察する。
4. 上記の学びを通して、周産期における母子と家族の課題に対する看護の視点に基づいた支援とは何かを検討する。

[授業概要]
本講義では、周産期にある母子とその家族への看護支援、助産支援、および子を産み育てることに関する社会制度や資源、母子とコミュニティとの関係について、研究的思考に基づいて理解することを目的としている。これらを通して、周産期における課題に実践的に取り組む能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
授業に関連して提示される課題について、文献を用いて資料を作成した上で授業に臨むこと。

[授業計画]
1. 周産期にある母子と家族に関連する概念理解：移行理論について（田村康子）
2. 周産期にある母子と家族に関連する概念理解：親役割に関連する理論について（田村康子）
3. 周産期にある母子と家族に関連する概念理解：愛着に関連する理論について（牛越 幸子）
4. 周産期にある母子と家族に関連する概念理解：愛着に関連する看護研究について（牛越幸子）
5. 周産期にある母子と家族に関連する概念理解：ソーシャルサポートネットワークについて（下敷領須美子）
6. 周産期にある母子と家族に関連する概念理解：母子と家族をとりまくソーシャルサポートネットワークの現状について（田村康子）
7. 日本における母子と家族の現状（下敷領須美子）
8. 日本における母子保健施策の動向（下敷領須美子）
9. 世界における母子と家族の現状（田村康子）
10．世界における母子保健施策の動向（田村康子）
11．コミュニティにおける母子保健の課題と包括的支援（下敷領須美子）
12．エビデンスに基づく周産期ケアの検証：疲労および睡眠へのケア（牛越幸子）
13．理論を活用した実践事例（牛越幸子）
14．エビデンスに基づく周産期ケアの検証：産痛緩和ケア（田村康子）
15．理論を活用した実践事例（田村康子）

[成績評価方法]
授業への参加度（50 %）と課題レポート（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000430 [GB5-234]

科目名	精神看護学特論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 精神障害者に対する処遇および精神保健医療福祉の歴史的変遷、国際動向について理解する。
2. わが国における精神保健医療福祉の現状について理解する。
3. 現行の精神保健医療福祉に関する施策や法制度について理解を深める。
4. 精神保健医療福祉に関する日本の制度、体制について批判的観点から考察できる。
5. 精神保健医療福祉の課題と今後の展望ならびに看護職に期待される役割について考察できる。

[授業概要]
精神障害者に対する処遇および精神保健医療福祉の歴史的変遷、国際的動向を学ぶ。またわが国における精神保健医療福祉の現状について学び、それらを踏まえて現行の精神保健医療福祉に関する施策や法制度について理解を深める。さらに精神保健医療福祉に関する日本の制度、体制について批判的観点から検討し、課題と今後の展望ならびに看護職に期待される役割について考察する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
精神障害者に対する処遇および精神保健医療福祉の歴史や現状について事前学習して受講すること。プレゼンテーションに関しては、担当範囲を十分に準備したうえで臨むこと。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 精神障害者に対する処遇および精神保健医療福祉の歴史的変遷について
2. 精神障害者に対する処遇および精神保健医療福祉の国際的動向について（障害概念、国際生活機能分類を含む）
3. わが国における精神保健医療福祉の現状について
4. わが国における精神保健医療福祉の課題について
5. 地域で生活する精神障害のある人への現状について
6. 地域で生活する精神障害のある人への支援と課題
7. 精神保健医療福祉に関する施策と法制度（精神保健福祉法など）
8. 精神保健医療福祉に関する施策と法制度（障害者総合支援法など）
9. 精神保健医療福祉に関する施策と法制度（精神障害者の就労に関する法制度）
10. 精神保健医療福祉に関する施策と法制度（心神喪失者等医療観察法、自殺対策基本法等）
11. 関心のある精神健康問題に関連する施策と法制度
12. 精神医療保健福祉の課題について
13. 精神医療保健福祉の今後の展望
14. 精神医療保健福祉における看護の役割
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への参加度（50 %）と課題レポート（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000390 [GB5-230]

科目名	精神看護学特論Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子、髙橋　秋絵、田中　究、八木　修司		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 心の健康と病理に関する諸理論について理解できる。
2. 心の健康について心理学的 ・社会学的・生理学的視点から総合的に理解できる。
3. 心身の健康状態をアセスメントするための方法について理解できる 。

[授業概要]
精神力動論、発達心理学、ストレス理論、危機理論および脳生理学的視点など心の健康と病理に関する諸理論を学び、心の健康についての心理学的・社会学的・生理学的視点から総合的な理解を深める。また精神科における診断と治療、臨床心理検査、精神状態のアセスメントについて学び、精神・身体の健康状態を総合的に評価する方法を理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
精神看護における主要理論および関心のある精神健康問題のアセスメント、 診断、治療等について事前学習して受講すること。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 精神力動論の理解と看護（玉木敦子）
2. 発達心理学（玉木敦子）
3. 対人関係論（玉木敦子）
4. ストレス理論（玉木敦子）
5. 危機理論（玉木敦子）
6. 脳科学的視点から見た心の理解（玉木敦子）
7. 精神科における診断と治療（統合失調症について）（田中究 ）
8. 精神科における診断と治療（気分障害について）(田中究)
9. 精神科における診断と治療（不安障害について）(田中究)
10. 精神科における診断と治療（児童精神医学ついて）（田中究 ）
11. 臨床心理検査（知的能力、発達に関する検査）（八木修司 ）
12. 臨床心理検査（性格、精神病理に関する検査）（八木修司 ）
13. 精神状態のアセスメント（統合失調症をもつ人のアセスメント）（玉木敦子）
14. 精神状態のアセスメント（気分障害をもつ人のアセスメント）（高橋秋絵）
15. 精神状態のアセスメント（発達障害をもつ人のアセスメント）（高橋秋絵）

[成績評価方法]
授業への参加度（50 %）と課題レポート（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000400 [GB5-231]

科目名	精神看護学方法論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	川田　美和、髙橋　秋絵		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 精神看護実践の基礎となる理論について理解できる。
2. 精神障がいをもつ当事者・家族の持つ力や強みを尊重したケアのあり方について考察できる。
3. 精神障がいをもつ当事者・家族を対象とした治療的援助技法について理解できる。
4. 自殺や暴力などの危機状態にある人へのアセスメントや介入方法について理解できる 。

[授業概要]
セルフケアモデル、リカバリー理論、ストレングスモデル等について学び、精神障がいをもつ当事者・家族の持つ力や強みを尊重したケアのあり方を考察する。さらにSSTや心理教育など治療的援助技法、および危機状態にある人へのアセスメントや介入方法について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
精神看護援助の基盤となる理論および援助技法について事前学習して受講すること。プレゼンテーションに関しては、担当範囲を十分に準備したうえで臨むこと。

[授業計画]
1. セルフケア理論の概要（川田美和 ）
2. セルフケア理論に基づいた精神看護実践 （川田美和 ）
3. リカバリー理論とストレングスモデルに基づいた様々なプログラムの概要（川田美和 ）
4. リカバリー理論とストレングスモデルに基づいた精神看護実践（川田美和 ）
5. 精神障がいをもつ当事者・家族の持つ力や強みを尊重したケアのあり方について（川田美和 ）
6. 精神障がいをもつ当事者・家族の持つ力や強みを尊重した看護実践（川田美和 ）
7. セルフヘルプ・ピアサポートグループ活動について（高橋秋絵）
8. 当事者研究について（玉木敦子）
9. ソーシャルスキルトレーニングの実際について（玉木敦子）
10. 心理教育の実際について（高橋秋絵）
11. 自殺予防と危機介入に関する援助の概要（高橋秋絵）
12. 自殺予防と危機介入の実際について（高橋秋絵）
13. 危機状態にある人への介入方法の概要（玉木敦子）
14. 危機状態にある人への介入方法の実際（玉木敦子）
15. まとめ（玉木敦子）

[成績評価方法]
授業への参加度（ 50 %）と課題レポート（50 %）で評価する。
課題レポートは授業内でフィードバックを行う。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
ストレングスモデル；リカバリー志向の精神保健福祉サービス，第3版　著者名：C.A.ラップ，　R.J. ゴスチャ著，田中英樹監訳（2014）　出版社：金剛出版 （978-4772413466）
精神科リハビリテーション 第2版　著者名： W. アンソニー他著，野中猛，大橋秀行監訳（2012）　出版社：三輪書店 （978-4895904223）

N21000410 [GB5-232]

科目名	地域看護学特論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子、小路　浩子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 地域看護学に重要な理論や概念を国内外の文献を用いて理解を深め、地域看護の現状と課題を分析 し、考察できる 。
2. 地域看護に関する歴史や政策について国内の文献や実践から学び、地域看護活動の現象を考察、探求できる。

[授業概要]
地域で暮らす人々の生活を支える看護を実践する地域看護学の基本理念に基づき、地域看護の基本的かつ重要な理論や概念であるヘルスプロモーション、健康、アドボカシー、生活・生活者、コミュニティの概念について、国内外の文献を用いて探求する。また、地域看護に関する歴史や政策について、国内の文献や実践から学ぶことによって、地域看護学に関する見識を深め、地域で展開される看護活動の現象を探求できる能力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
事前に提示した文献を熟読し、まとめておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション(魚里明子)
2. 地域看護学に基本的かつ重要な理論と概念 (魚里明子・小路浩子)
3. 健康の概念(魚里明子・小路浩子)
4. ヘルスプロモーション(魚里明子・小路浩子)
5. 健康アドボカシーについて(魚里明子・小路浩子)
6. 地域看護学と関連のあるその他の重要な概念(魚里明子・小路浩子)
7. コミュニティの概念(魚里明子・小路浩子)
8. 生活の捉え方と健康の関連(魚里明子・小路浩子)
9. 生活者としての捉え方と健康支援(魚里明子・小路浩子)
10. 国外の政策の変遷(魚里明子・小路浩子)
11. 国外の地域看護の歴史(魚里明子・小路浩子)
12. 国内の政策の変遷(魚里明子・小路浩子)
13. 国内の地域看護の歴史(魚里明子・小路浩子)
14. 保健師の歴史と専門性(魚里明子・小路浩子)
15. 地域で展開される看護活動の現状と今後の方向性(魚里明子・小路浩子)

[成績評価方法]
授業への参加度(50 %)と課題レポート(50 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
社会を変える健康のサイエンス :健康総合科学への21の扉　著者名:東京大学医学部健康総合科学科 (2016)
出版社:東京大学出版会 (978-4130634069)
その他 , 担当教員から 適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
ヘルスリテラシー:健康教育の新しいキーワード。 著者名:福田洋他(2016) 出版社:大修館書店 (978-4469267952)
健康の謎を解く 著者名:アーロン・アントノフスキー(2001) 出版社:有信堂高文社 (978-4842065601)
実践ヘルスプロモーション- PRECEDE- PROCEEDモデルによる企画と評価　著者名:ローレンス ・グリーン 他 (2005) 出版社:医学書院 (978-4260001717)
その他、担当教員から適宜指示する

N21000330 [GB5-224]

科目名	地域看護学特論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子、小路　浩子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 地域看護学における主要なモデルであるコミュニティ・アズ・パートナーモデルについて、国内外の文献や研究を用いて探求し、修得する。
2. 地域看護活動、保健師で重要なPDCAサイクルおよび地域看護診断について、国内外の文献を用いて探求し、修得する。

[授業概要]
地域看護学における主要なモデルであるコミュニティ・アズ・パートナーモデルについて、国内外の文献や研究を用いて探求し、修得する。また、地域看護活動の展開方法であるPDCAサイクルおよび地域看護診断について、国内外の文献や実践報告を通して学び、効果的な地域看護活動の展開方法を考察し、地域看護活動における高度な実践および分析能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
事前に提示した文献を読んでまとめ、プレゼンテーションの準備をする。

[授業計画]
1. オリエンテーション（魚里明子）
2. コミュニティ・アズ・パートナーモデルと地域看護診断（魚里明子・小路浩子）
3. 国内外の文献に基づくコミュニティ・アズ・パートナーモデルの理解（魚里明子・小路浩子）
4. 事例に基づくコミュニティ・アズ・パートナーモデル の現状分析（魚里明子・小路浩子）
5. コミュニティ・アズ・パートナーモデルの実践への活用（魚里明子・小路浩子）
6. 国内外の文献に基づく地域看護診断の理解（魚里明子・小路浩子）
7. 事例に基づく地域看護診断の現状分析（魚里明子・小路浩子）
8. 地域看護診断の実践への活用（魚里明子・小路浩子）
9. 国内外の文献に基づく地域看護学活動・保健師活動におけるPDCAサイクル概観（魚里明子・小路浩子）
10. 国内外の文献に基づくPDCAサイクルの理解（魚里明子・小路浩子）
11. 事例に基づく地域看護学活動・保健師活動におけるPDCAサイクルの現状分析（魚里明子・小路浩子）
12. 地域看護学活動・保健師活動におけるPDCAサイクルの実践への活用（魚里明子・小路浩子）
13. 事例に基づく地域看護診断および地域看護活動の展開方法の現状分析 1)（魚里明子・小路浩子）
14. 事例に基づく地域看護診断および地域看護活動の展開方法の現状分析 2)（魚里明子・小路浩子）
15. 地域看護診断および地域看護活動の効果的な地域看護実践について考察、探求する。（魚里明子・小路浩子）

[成績評価方法]
授業への参加度（50 %）と課題レポート（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
コミュニティ・アズ・パートナーモデル　著者名：エリザベス T. アンダーソン, シュディス・マクファーレン著, 金川勝子、早川和生監訳（2007）　出版社：医学書院　(978-4260003261)
地域看護診断　著者名：金川克子, 田高悦子 編集（2011）　出版社：東京大学出版会　(978-4130624084)
その他、担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
その他、担当教員から適宜指示 する。

N21000340 [GB5-225]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]
1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●東　ますみ
糖尿病患者のソーシャルサポートシステムや遠隔看護システムに関する分野、看護における情報システムの活用等に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。
個別面接時に助言する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540 [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●魚里　明子
地域看護学領域におけるさまざまな年齢層、健康レベルの人々を対象としたコミュニティでの健康づくり活動、生活習慣病予防等、自らの研究課題について、研究計画に基づいて調査研究あるいは質的研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540A [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●宇賀　昭二
国際保健学に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540B [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●内　正子
慢性疾患や障害を有する小児の看護ケアや家族支援に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540C [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●加治　秀介
代謝性疾患患者の医療・看護に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540D [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
【遠隔授業】

指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●洪　愛子
感染管理のシステムや開発および看護マネジメントと看護政策に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540E [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。
授業の前後に各2時間程度、関連する資料等を読み疑問点等を整理する。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●下敷領　須美子
女性の各ライフステージにおける健康課題や周産期の母子・家族への援助に関する分野において、自らの研究課題について研究計画に基づいて、調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540F [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●玉木　敦子
周産期メンタルヘルス支援や精神看護の役割に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540G [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●中岡　亜希子
看護教育に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540H [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	中村　隆		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●中村　隆
疫学的研究手法の開発、医療と看護の効果、成果の測定とその分析方法に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスの指導を補助する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540I [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●野並　葉子
看護ケア・教育に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540J [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実戦経験を元に以下の内容を講義する。
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●藤田　冬子
高齢者の看護に関する自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。特に、看護実践のケア方法の開発の新たな方向性を示す研究や、超高齢社会を迎え多様化する高齢者に焦点化し、コミュニティで暮らす高齢者のフレイル対策や認知症高齢者のケア、介護家族のケア能力向上に関わる支援について、概観し探求するといった臨床研究に取り組む研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540K [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●横内　光子
タイムスタディやシステムシミュレーションの手法を用いたサービス評価方法、効率的なサービス提供システムの構築、ならびに効果的な看護サービスの開発を含むヘルスケアマネジメント分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540L [GB6-212]

科目名	病態生理学	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介、横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 多様な臨床場面で人体に生じた病的変化を細胞・臓器・個体レベルで捉え、病因や病態形成 のメカニズムを理解する。
2. 病態生理学的な基礎知識と医学的診断の考え方を踏まえて、臨床症候や検査データを解釈し、適切な看護判断ができる。
3. 科学的根拠と対象の語りに基づき、最適な治療やケアの方法を選択できる。

[授業概要]
最初に疾病理解の基礎となる病態生理学を概説する。続いて各領域の代表的な模擬症例を提示し、症候、検査所見から病因・病態を含む臨床診断過程と治療・ケアの方法を討議することにより、専門看護師としての診断や、ケアに活用できる看護判断能力の習得を目指す。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
コモンディジーズに関する基礎的知識を持っていること。

[授業計画]
1. 構造と障害、再生と修復（加治）
2. 炎症（横内）
3. 腫瘍と細胞死、成長・発達と老化（加治）
4. 循環機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
5. 代謝機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
6. 呼吸機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
7. 消化吸収機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
8. 腎・泌尿器機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（奥井）
9. 免疫機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
10. 血液機能障害・感染症の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
11. 脳・神経機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
12. 運動・感覚機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（横内）
13. 生活習慣病の病態生理・診断・治療と看護判断（奥井）
14. エビデンスに基づく呼吸器疾患急性増悪の看護判断（横内）
15. まとめ：病態生理学の理解に基づく看護判断（横内・奥井）

[成績評価方法]
授業への参加 度（ 50 %）と課題 レポート（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員より資料を配布する。

[参考書（ISBN）]
担当教員より適宜提示する。

N21000110 [GB5-210]

科目名	フィジカルアセスメント	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介、藤原　由子、鷲田　幸一		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 医療面接技術によって適切に診断を絞る看護判断ができる。
2. 身体診察技術を習得し、その所見を適切に解釈でき、診断に至る看護判断ができる。
3. 診断に必要な臨床検査の選択と結果の解釈ができ、最終診断に至る看護判断ができる。

[授業概要]
複雑な健康問題をもつ対象の医療面接から始まり、系統的な身体診察、臨床検査を経て診断に至る過程を理解し、専門看護師として包括的な健康アセスメントと症状マネジメントに必要な臨床判断技術を習得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
コモンディジーズに関する基礎的知識を持っていること。

[授業計画]
1.　医療面接について（加治）
2.　頭頚部（頭部、顔面、頸部、感覚器）の診察手技と所見 （加治）
3.　胸部（胸郭・肺・乳房）の診察手技と所見（藤原）
4.　胸部（心臓・血管系）の診察手技と所見（鷲田）
5.　腹部（消化器、肝胆膵）の診察手技と所見（加治）
6.　腎、泌尿器、生殖器の診察手技と所見（藤原）
7.　脳・神経系の診察手技と所見（加治）
8.　筋・骨格系の診察手技と所見（加治）
9.　臨床検査の意義と解釈（1） 尿・血液検査、遺伝子診断、病理診断（加治）
10. 臨床検査の意義と解釈（2）画像検査・生理機能検査（加治）
11. 心不全回復期患者のケーススタディと臨床看護判断（鷲田）
12. メタボリックシンドローム患者のケーススタディと臨床看護判断（加治）
13. 治療期にある患者のケーススタディと臨床看護判断（加治）
14. 成長・発達、老化の特徴を踏まえたケーススタディと臨床看護判断（加治）
15. 医学的診断技術の活用と臨床看護判断（加治・藤原・鷲田）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目B：フィジカルアセスメント

[成績評価方法]
授業への参加度（50 %）と 課題 レポート （50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員より資料を配布する 。

[参考書（ISBN）]
Physical Examination and Health Assessment, 7th Edition　著者名：Carolyn Jarvis 著（2015） 出版社：Saunders （978-1455728107）
その他、担当教員より適宜提示する 。

N21000100 [GB5-209]

科目名	慢性看護学特論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子、野並　葉子、魚里　明子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 慢性病者とその家族が、歴史的に社会中でどのように位置づけられてきたかについて理解できる。
2. 慢性病者とその家族を支援する政策と制度について、歴史的、社会･文化的な背景を踏まえ、その変遷と現状を説明できる。
3. 今後の慢性病の動向や社会情勢の予測に基づいて、慢性病者の自己実現、QOLの向上に必要な支援や政策について考察できる。

[授業概要]
慢性病者を支援する政策と制度の発展の歴史と現状について、慢性病患者と家族、ならびに彼らを取り巻く地域、社会全体が慢性病者とその支援のあり方をどのようにとらえ、政策や制度として発展させてきたのかと関連付けて学ぶ。また、現行の政策や制度について、慢性病者およびその家族の社会における位置づけの歴史的、社会・文化的背景の変化と関連付けて評価し、現状の支援体制の問題点を分析する。さらに、今後の社会構造と保健・医療・福祉環境の変化に応じた慢性病者と家族支援のあり方の再考と、必要とされる政策・制度について議論できる素地を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
教科書を熟読し、日本の医療制度の概要を理解し、慢性病に関連する制度や体制についてさらに情報を得て予習しおくこと。

[授業計画]
1. 国内外における慢性病の歴史と文化・社会的位置づけ(野並葉子)
2. 本邦における慢性病者の支援制度・政策の歴史 (魚里明子)
3. 慢性病者を対象とした保健医療制度と福祉制度の概要 (洪愛子)
4. 慢性病者を対象とした医療保険と診療報酬制度(洪愛子)
5. 慢性病者を対象とした医療費助成制度(洪愛子)
6. 慢性病者を対象とした特定疾患治療研究事業、先進医療助成(洪愛子)
7. 慢性病者を対象とした身体障害者手帳と障害年金(洪愛子)
8. 慢性病者を対象とした学術団体による支援と ガイドランの活用 (洪愛子)
9. 慢性病者の支援団体:自助グループ 、支援グループ(魚里明子)
10. 慢性病者の支援体制の問題点 1):生活習慣病 (野並葉子 ・洪愛子)
11. 慢性病者の支援体制の問題点 2):神経難病、自己免疫疾患 (魚里明子 ・洪愛子)
12. 慢性病者支援の将来ビジョン1):CureとCareの統合(野並葉子 ・洪愛子)
13. 慢性病者支援の将来ビジョン2):慢性病の予防体制(魚里明子 ・洪愛子)
14. 慢性病者支援のビジョンを実現するための方略と方策 (洪愛子)
15. 慢性病者支援の革新的方策(洪愛子)

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程:4.制度や体制に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度(40 %)と レポート (60 %)で評価 する 。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
日本の医療 -制度と政策- 著者名:島崎 謙治 (2011) 出版社:東京大学出版会 (978-4130511339)

[参考書(ISBN)]
社会保障の手引 平成30年版 : 施策の概要と基礎資料 著者名:田中滋(2017) 出版社:中央法規出版 (978-4805855997)
保健・医療提供制度 著者名:田中滋 , 二木立編集(2006) 出版社:勁草書房 (978-4326748334)

N21000130 [GB5-212]

科目名	慢性看護学特論Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美、野並　葉子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 慢性病者と家族が抱えやすい複雑で解決困難な問題について、その背景と関連付けて具体的に述べることができる。
2. 慢性病者と家族の行動と反応の理解に役立つ主要な理論と概念について説明できる。
3. 慢性病者と家族の行動と反応について、理論を用いて解釈、予測することができる。

[授業概要]
慢性病者およびその家族の行動と反応を理解するための主要な理論、概念について学ぶ。理論、概念では、慢性病者と家族がとる行動の背景に潜む苦悩の理解、慢性病をもちながら生きることへの理解、慢性病を持つ人の時間性の理解のために、それぞれの中心となる理論・概念を学習する。また、理論や概念の定義、類型を踏まえ、慢性病者とその家族の行動理解に基づく介入とその課題について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書や参考書、関連資料を用いて予習を行ったうえで、授業に参加すること。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 慢性病者の行動と反応理解のためのケアリング理論（野並葉子 ・横内光子 ）
2. 慢性病者の行動と反応理解のための人、身体、体験（野並葉子 ・横内光子）
3. 病気・ストレスと対処行動（横内光子）
4. 慢性病をもつ人と家族が生きることを理解するための理論 :「セルフケア」（野並葉子）
5. 慢性病をもつ人が生きることを理解するための概念1）:「危機状態の予防と管理」（元木絵美 ）
6. 慢性病をもつ人が生きることを理解するための概念2）:「生活時間の再編成」（元木絵美）
7. 慢性病をもつ人が生きることを理解するための概念3）:「身体可動性の変化と消耗性疲労」（元木絵美）
8. 慢性病をもつ人の苦悩を理解するための理論:「不確かさ」（藤原由子）
9. 慢性病をもつ人の苦悩を理解するための概念1）:「スティグマ」、「社会的孤立」（藤原由子）
10. 慢性病をもつ人の苦悩を理解するための概念2）:「無力感」、「病者役割」（藤原由子）
11. 慢性病看護における家族の行動理解（元木絵美）
12. 理論を活用した慢性病者の家族支援（元木絵美）
13. 慢性病をもつ人の時間性を理解するための理論:「病みの軌跡」（藤原由子）
14. 慢性病をもつ人の時間性を理解するための概念:「病いの慢性性」（藤原由子）
15. 慢性病者と家族の行動理解における理論・概念の活用と課題（横内光子）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程:1.慢性病者の行動理解に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度（40 %）と レポート（60 %）で評価する 。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
現象学的人間論と看護　著者名:パトリシア ベナー , ジュディス ルーベル著, 難波卓志　訳（1999 ）　出版社:医学書院 （978-4260343633）
クロニックイルネス —人と病いの新たなかかわり　著者名:アイリーン・モロフ ラブキン , パマラ・ D. ラーセン著, 黒江ゆり子訳（2007）　出版社:医学書院 （978-4260000581）

[参考書（ISBN）]
慢性疾患を生きる -ケアとクオリティ・ライフの接点　著者名:Anselm L. Strauss, J. Corbin, S. Fagerhaugh 他著 , 南裕子 , 木下康仁 , 野嶋佐由美 翻訳（1987）　出版社:医学書院 （4-260-34861-2）
慢性疾患の病みの軌跡 —コービンとストラウスによる看護モデル　著者名:ピエール ・ウグ 編集 , 黒江ゆり子, 宝田穂, 市橋恵子　翻訳 （1995）　出版社:医学書院 （4-260-34172-3）

N21000140 [GB5-213]

科目名	慢性看護学方法論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	慢性病者の包括的アセスメント		
担当者	藤原　由子、鷲田　幸一、加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 慢性病の主要な医学的評価・診断 、治療方針の決定方法 、治療計画について説明でき 、慢性病者の身体的なアセスメント方法を、医学的根拠に基づき述べることができる 。
2. 慢性病者が受ける診断・治療とそれによる身体・心理・社会面および生活への影響を説明できる。
3. 慢性病者に対する主要な心理・社会面のアセスメント方法とその特徴を具体的に述べることができる。
4. 慢性病をもつ人、またはその予備軍にある人の生活体験を理解するために必要な理論と技術を説明できる 。

[授業概要]
慢性病に対する主要な医学的評価・診断、治療方針の決定、治療計画の考え方と、病気と診断・治療に伴う主要な身体機能の変化についてアセスメントするための技術を学ぶ。慢性病とその診断・治療を受けることにより、慢性病者の身体面、心理面、社会面、ならびに生活面にどのような影響が及ぶのかについて、多面的、包括的にアセスメントするための知識を学び、複雑な問題を抱える慢性病者とその家族の包括的なアセスメントを実施する能力を養う。また、ライフストーリー法を用いた生活理解の方法について学び、生活体験という視点から慢性病者の生活を理解する能力を養う。
慢性病に関する医師、専門看護師、認定看護師資格をもった教員がその経験を活かして包括的アセスメントの方法を教授する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書や参考書、関連資料を用いて予習を行なったうえで、授業に参加すること。
各回、予習復習合わせて4時間程度を要する。

[授業計画]
1.慢性病者の医学的評価と診断過程における支援と看護の役割（藤原由子）
2.フィジカルアセスメントとヘルスアセスメント（加治秀介）
3.慢性病者の医学的評価と診断過程：循環機能、代謝機能、脳神経機能、運動機能（加治秀介）
4.慢性病者の医学的評価と診断過程：呼吸機能、免疫機能、消化吸収排泄機能（加治秀介）
5.慢性病者の薬物療法とその管理（加治秀介）
6.慢性病者の医療処置とその管理（加治秀介）
7.慢性病者の急性増悪とリスクアセスメントの方法（加治秀介）
8.EBMと診療ガイドラインの概論（鷲田幸一）
9.慢性病者の心理・社会的アセスメントの方法（藤原由子）
10.診断と治療による生活への影響（藤原由子）
11.面接法による病の体験、生活体験の理解方法（藤原由子）
12.ライフストーリー法による病の体験、生活体験の理解方法（藤原由子）
13.慢性病者の包括的なアセスメント：生活習慣病（鷲田幸一）
14.慢性病者の包括的なアセスメント：アレルギー疾患、呼吸器疾患（藤原由子）
15.包括的なアセスメントと効果的なケア（藤原由子）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程： 2.慢性病者の査定に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度（ 40 %）、レポート（60 %）で評価を行う。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし
適宜、資料を配布する。

[参考書（ISBN）]
ライフヒストリーの社会学　著者名：中野卓（1995）　出版社：弘文堂
（978-4335550614）
Implementing the EvidenceBased Practice (EBP) Competencies in Healthcare, A Practical Guide for Improving Quality, Safety, and Outcomes　著者名：Bernadette Mazurek, Melnyk Lynn, Gallagher Ford, Ellen,. Fineout -overholt著（2016）　出版社：Sigma Theta Tau Intl. （978-1940446424 ）
Physical Examination and Health Assessment,8th Edition　著者名：Carolyn Jarvis著（2019）　出版社：Sanders （ 978-0323510806）

N21000150 [GB5-214]

科目名	慢性看護学方法論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美、鷲田　幸一		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 慢性病の予防、診断・治療、自己管理、リハビテーション、急性増悪、ターミナルの各看護が必要となる時期の特徴と支援技術について、関連する理論・概念に基づいて説明できる。
2. 慢性病者の病期に応じて、身体的・心理的・社会的対処能力を高めるセルフケア支援の特徴について体系的に説明できる。
3. 慢性病者の病期に応じて、身体的・心理的・社会的対処能力を高める専門的看護支援の特徴と支援に必要な技術ついて体系的に説明できる。

[授業概要]
慢性病者が病いを抱えながらその人らしく生きるため支援方法について、関連する理論や概念を踏まえて修得する。慢性病の予防、診断と治療、症状や病気の再燃、急性増悪、身体の機能や生活状態の回復、維持、悪化予防のためのセルフマネジメントの支援と各時期における専門的看護技術について理解を深め、慢性病者のリハビリテーション看護とエンド・オブ・ライフケアにおける支援方法について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書や参考書、関連資料を用いて予習行なったうえで授業に参加すること。

[授業計画]
1. 慢性病の経過と各時期の特徴に応じたセルフモニタリングとセルフマネジメント支援（藤原由子）
2. 慢性病者の健康に関する概念と評価法 :Wellnessと Quality of Life（横内光子）
3. 慢性病者とその家族を支援するための方法 1）:アドボカシー（元木絵美 ）
4. 慢性病者とその家族を支援するための方法 2）:意思決定（元木絵美）
5. 慢性病者とその家族を支援するための方法 3）:患者教育（藤原由子）
6. 慢性病者とその家族を支援するための方法 4）:症状マネジメント（元木絵美）
7. 慢性病予防のためのセルフマネジメント支援（鷲田幸一）
8. 診断・治療期にある慢性病者のセルフマネジメント支援（藤原由子）
9. 慢性病者の回復期におけるリハビリテーション看護（鷲田幸一）
10. 慢性病者の悪化予防にむけたリハビリテーション看護（鷲田幸一）
11. 安定期にある慢性病者のセルフマネジメント支援（藤原由子）
12. 慢性病者の急性増悪の看護（横内光子）
13. 慢性病者のエンド・オブ・ライフケア :循環器疾患（学外特別講師　仲村直子 ）（鷲田幸一）
14. 慢性病者のエンド・オブ・ライフケア :呼吸器疾患（学外特別講師　本城綾子 ）（藤原由子 ）
15. 慢性病者と家族に対する支援技術開発とその評価（横内光子）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程: 3.慢性病者への支援技術に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度（40 %）とレポート（60 %）で評価 する 。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
病気とともに生きる―慢性疾患のセルフマネジメント　著者名：日本慢性疾患セルフマネジメント協会編（2008） 出版社：日本看護協会出版会 （ISBN-13 978-4818013339）
クロニック イルネス 人と病いの新たなかかわり　著者名：Ilene Morof Lubkin , Pamala D. Larsen／黒江ゆり子監訳（2007） 出版社：医学書院 （ISBN -13 978-4-260-00058-1）

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000160 [GB5-215]

科目名	慢性看護ケアシステム論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子、元木　絵美		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 慢性病の予防および慢性病者と家族のセルフケアを支援する場と、そこで活用できる資源についての全体像と特徴を説明できる。
2. 慢性病者の治療と生活の特徴に応じた治療・療養支援環境の調整方法について考えることが出来る。
3. 慢性病者が治療・療養環境において質の高い生活を送るための調整の方策と今後の課題を説明できる。

[授業概要]
病院の入院・外来、地域や職場、居宅など、慢性病の予防と慢性病を持つ人のための治療療養環境の現状について理解し、セルフケアを支援するための調整の方策と方術について学ぶ。また、慢性病者と家族が活用できるサポートネットワークや社会資源の特徴を理解し、慢性病を持ちながらその人らしい質の高い生活を維持・向上するためのネットワークの形成、資源の活用、調整に必要な能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書や参考書、関連資料を用いて予習を行なったうえで、授業に参加すること。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 慢性病者の療養環境概論：コミュニティ・オブ・プラクティスの視点（洪愛子）
2. 慢性病の予防・悪化の予防のための環境調整（元木絵美）
3. 慢性病者の治療・療養環境としての医療施設（元木絵美）
4. 慢性病者の治療・療養環境としての介護・福祉施設（洪愛子）
5. 慢性病者の治療・療養環境としての地域と在宅（元木絵美）
6. 慢性病者の治療・療養環境と就労・就労環境（奥井早月）
7. 慢性病者の治療・療養環境の調整1）：多職種チームによる支援（奥井早月）
8. 慢性病者の治療・療養環境の調整2）：看護外来（元木絵美）
9. 慢性病者の治療・療養環境の調整3）：入退院調整と入退院支援（元木絵美）
10. 慢性病者の治療・療養環境の調整4）：訪問看護（洪愛子）
11. 慢性病者の治療・療養環境の調整5）：自助グループと支援団体、インフォーマルグループ（奥井早月）
12. 治療・療養環境の調整方策1）：医療施設（元木絵美）
13. 治療・療養環境の調整方策2）：入退院調整と入退院支援（元木絵美）
14. 治療・療養環境の調整方策3）：地域と就労環境（奥井早月）
15. コミュニティ・オブ・プラクティスの視点からみた予防・治療・療養環境における看護師の役割と将来ビジョン（洪愛子・元木絵美・奥井早月）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程：5.治療や療養を支える治療環境整備に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度（40%）とレポート（60%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新しい慢性疾患ケアモデル　著者名：森山美和子（2007）　出版社：中央法規出版　(978-4805829356)

[参考書（ISBN）]
The外来看護　著者名：数間恵子編著（2017）　出版社：日本看護協会出版会　(978-4818020528)
地域包括ケア時代の地域に根ざした医療の創り方　著者名：櫃本真聿（2017）　出版社：日総研出版　(978-4776018308)
高度実践看護—統合的アプローチ　著者名：Ann B. Hamric, Charlene M. Hanson, Mary Fran Tracy, Eileen T. O' Grady（著）, 中村 美鈴, 江川 幸二（翻訳）（2017）　出版社：へるす出版　(978-4892699283)
コミュニティ・オブ・プラクティス　著者名：エティエンヌ・ウェンガー , リチャード・マクダーモット, ウィリアム・M・スナイダー 著,? 櫻井 祐子, 野中 郁次郎, 野村 恭彦訳（2002）　出版社：翔泳社　(978-4798103433)

N21000170 [GB6-200]

科目名	慢性看護実習Ⅰ	後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美、鷲田　幸一		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 受け持ち患者を通じて、授業と演習で得たフィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント、家族アセスメント、セルフケアの査定、症状モニタリング、ライフヒストリー法、面接技法、心理・社会面の尺度を用いた測定などの知識と技術を活用し、慢性病者の身体、心理、社会面の変化、生活の変化、機能障害を包括的にアセスメントできる。
2. 各自の専門領域（サブ・スペシャリティ）の受け持ち患者について、慢性病の病態、医学的評価・診断とそれに必要な検査、薬物療法などの治療とその調整方法について系統立てて説明できる。
3. ライフヒストリー法と面接技法を用いて、慢性病者の病いの体験と生活体験を理解し、的確に説明できる。

[授業概要]
専門領域（サブ・スペシャリティ）を決め、その領域の慢性病者の受け持ちを通じて、身体面・心理面・社会面および生活の変化を包括的にアセスメントする方法を学ぶ。また、専門医の診察場面に同席し、診断のための検査や処置、薬物療法などの治療調整などについて学ぶ。慢性疾患看護専門看護師や教員からのスーパービジョンを受け、フィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント、家族アセスメント、セルフケアの査定、症状モニタリング、ライフヒストリー法などの方法を用いて、慢性病者とその家族を包括的にアセスメントする技術を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学生は、各自で実習計画書を作成し、スーパーバイズを受ける慢性疾患看護専門看護師に実習計画書を用いて実習のスケジュールを調整すること。

[授業計画]
1. 実習方法
1) 実習計画書を作成し、スーパーバイズを受ける慢性疾患看護専門看護師と実習スケジュールを調整する。実習は、外来もしくは病棟で行う。
2) サブ・スペシャリティ（焦点を当てる領域）の慢性病患者を対象として、ヘルスアセスメント、セルフケア能力、家族アセスメント、症状モニタリングなどの方法を用いて慢性病者とその家族をアセスメントする。
3) 専門医の診察や検査場面に参加することを通して、病態を把握するためのフィジカルアセスメントの実施とその評価、それらに基づく処置、検査、薬物などの治療調整について学ぶ。さらにその過程にかかわる他職種との連携について学ぶ。
4) 慢性病者を受け持ち、慢性病者がどのように病いを体験しているのか、ライフヒストリー法を用いて理解する。
5) 慢性看護領域の専門的な看護実践を行っている慢性疾患看護専門看護師のもとで、慢性病者の検査、診断、治療方法を把握し、慢性病者の病気の捉え方に合わせた包括的なアセスメントを行う。
6) アセスメントに基づいて、病気の慢性性を考慮した援助計画を立案する。
7) 計画した援助計画について、慢性疾患看護専門看護師や教員のスーパービジョンをうけながら事例検討を行い、学生は自らのアセスメント技術を高める。
8) 慢性病者を受け持ち、指導教員と慢性疾患看護専門看護師のスーパーバイズを受けながら、看護過程を展開し、根拠を持って患者への看護実践を行う。

2. 実習の進め方
1) 今までの臨床経験の課題を踏まえて、実習計画を立て、実習施設と調整を行いながら実習を進める。
2) 実習内容に合わせて実習日や実習時間を調整する。
3) 実習終了後に実習全体を通しての学びを整理し、指導教員や慢性疾患看護専門看護師に発表し、助言を受ける。

3. 実習期間
1年後期に実習を行なう。

4. 実習施設
神戸市立医療センター中央市民病院
兵庫医科大学病院
神戸百年記念病院

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程：基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理に関する実習、高度な実践、教育、相談、連携に関する実習

[成績評価方法]
カンファレンスや事例検討でのプレゼンテーションと実習記録（50%）、実習レポート（50%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指導教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
Physical Examination and Health Assessment, 7th Edition　著者名：Carolyn Jarvis(著)（2015）出版社：Saunders　(978-1455728107)
その他、指導教員から適宜示する。

N21000180 [GB5-216]

科目名	慢性看護実習Ⅱ	前期	4 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美、鷲田　幸一		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 専門領域(サブ・スペシャリティ)において、特定の病期にある受け持ち患者に対して、包括的なアセスメントに基づく効果的な看護計画を立案できる。
2. 専門領域(サブ・スペシャリティ)における特徴的な支援の知識と技術を駆使し、受け持ち患者の生活の質向上につながる看護を実践し、評価できる。
3. 複雑な問題を抱える慢性病者と家族に対して、包括的なアセスメントに基づく効果的看護計画を立案できる。
4. 高度な技術を用いた支援を効果的に提供するために、実践の場における準備性や課題を見出すことができる。

[授業概要]
専門領域(サブ・スペシャリティ)の看護実践ができる施設で実習を行い、サブ・スペシャリティにおける専門的ケアの知識と技術を活用し、受け持ち患者の看護を実践する。受け持ち患者の包括的なアセスメントに基づく効果的な看護計画を立案し、その実践の場において高度な支援を提供する準備性や課題を踏まえたうえで、適切な方法と時機をとらえて実践し、評価するプロセスを学ぶ。また、複雑な問題を抱える慢性病者と家族に対して、包括的なアセスメントに基づく効果的看護計画の立案プロセスから、医療チームと共同しながら課題の解決を図る高度な看護実践を体得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
地域において施設が担っている役割、行われている医療や看護など、実習する施設の情報を事前に得たうえで実習に臨むこと。

[授業計画]
1. 実習方法
1) 学生の関心領域におけるサブ・スペシャリティを学習できる実習施設において4週間の実践演習を行う。
2) 学生のサブ・スペシャリティに該当する対象者の看護を実際に担当し、フットケア、呼吸ケア、スキンケアなどのサブ・スペシャリティに特有のケア技術を対象者に提供し、知識・技術の活用の仕方や、専門看護師としてのケア提供の姿勢について学ぶ。
3) 学生のサブ・スペシャリティに該当し、特定の病期にある対象者を受け持ち、フィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント、ライフヒストリーの聴取、身体への理解を促すアセスメントなどを実践し、包括的なアセスメントに基づいて、個別な課題に対応した看護計画を立案し、医療チームの一員として実施、評価を行なう。
4) 対象者への直接ケアを実施することで、患者への介入やスタッフへの介入といった実践につなげるためのプロセスを体験的に修得し、施設内において高度実践に必要な直接ケアを実現していくための準備性や課題について学ぶ。
5) 施設の医療チームの一員として、複雑な問題を抱える慢性病者と家族に対して、包括的なアセスメントに基づく効果的看護計画を立案し、チームと協働して課題の解決に取り組む。
6) 外来診療および看護専門外来における実践を通じて、通院治療を受ける患者への看護について学ぶ。

2. 実習の進め方
1) 今までの臨床経験の課題を踏まえて、実習計画を立て、実習施設と調整を行いながら実習を進める。
2) 実習内容に合わせて実習日や実習時間を調整する。
3) 実習終了後に実習全体を通しての学びを整理し、指導教員や慢性疾患看護専門看護師に発表し、助言を受ける。

3. 実習期間
2年次後期に実習を行なう。

4. 実習施設
神戸市立医療センター中央市民病院
兵庫医科大学病院

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程:基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理に関する実習、高度な実践、教育、相談、連携に関する実習

[成績評価方法]
カンファレンスや事例検討でのプレゼンテーションと実習記録(50%)、レポート(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000190 [GB6-201]

科目名	慢性看護実習Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 実習施設の慢性疾患看護専門看護師の活動ならびに自己の活動を通じて、慢性疾患看護専門看護師としての役割と機能を具体的に説明できる。
2. 慢性病患者に医療やケアを提供している人々へのコンサルテーション技術や、慢性病患者へのケアコーディネーション技術を活用し、実習施設の慢性疾患看護専門看護師の活動に参加する。
3. 参加あるいは一部実施した看護実践、教育活動、コンサルテーション、コーディネーションや倫理調整を考察し、今後、慢性疾患看護専門看護師として活動していく上での自らの課題を明らかにする。

[授業概要]
慢性疾患専門看護師の活動の実際に参加、あるいは活動の一部を実践することを通して、専門看護師の6つの機能（実践、コンサルテーション、コーディネーション、教育、倫理調整、研究）がどのように展開されているかを学ぶ。また、講義で学習する理論や概念を活用し、慢性病患者に医療やケアを提供している人々へのコンサルテーションやコーディネーションを行い、システムへの参入や組織内における役割開発の方略について学ぶ。本実習は、慢性看護領域において活動している慢性疾患看護専門看護師ならびに教員のスーパーバイズを受けながら展開し、学生は、本実習を通して、専門看護師として活動していく上での自らの課題を明らかにする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学生は、各自で実習計画書を作成し、スーパーバイズを受ける慢性疾患看護専門看護師に実習計画書を用いて実習のスケジュールを調整すること。

[授業計画]
1. 実習方法
1） 実習計画書を作成し、スーパーバイズを受ける慢性疾患看護専門看護師と実習スケジュールを調整する。
2） 多職種カンファレンスやスタッフ教育など、主にケア提供者を対象とした慢性疾患看護専門看護師の活動に参加し、一部を実施する。
3） 実習病棟の看護職からコンサルテーションを受ける。
4） 困難事例におけるコーディネーションや、そのために必要な倫理的問題、葛藤の解決をはかる。
5） 実習病棟の患者および看護職に対して教育案を考え、教育の一部を実施する。
6） 行った実践、コンサルテーション、コーディネーション、教育活動、倫理調整などについてカンファレンスや事例検討を行い、専門看護師の6つの機能とその評価に関して考察する。
7） カンファレンスや事例検討を踏まえ、専門看護師として活動していく上での自らの課題を考察し、実習レポートにまとめる。

2. 実習期間
2年次前期に実習を行なう。

3. 実習施設
神戸市立医療センター中央市民病院
兵庫医科大学病院

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程： 高度な実践、教育、相談に関する実習

[成績評価方法]
一部実施・参加した活動のパフォーマンス（50%）と実習レポート（50%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指導教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜指示する。

N21000200 [GB6-202]

科目名	慢性高度実践看護演習Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美、鷲田　幸一、加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. フィジカルアセスメントの技術を身につけ、主な慢性病よる形態・機能および病態生理学的な変化と、症状・徴候、検査結果を関連付けて説明できる。
2. 看護理論に基づくヘルスアセメントの技術、ならびに慢性病者と家族の病気と治療の体験、生活体験について理解するための面接法、ライフストーリー法の技術を修得できる。
3. 慢性病者の家族やサポートネットワーク、ならびに活用可能な社会的資源や制度について説明できる
4. 慢性病者と家族の反応・行動について、身体的、心理的、社会的な情報を統合し、既習の理論や概念を活用して多角的に分析・解釈・理解する高度なアセスメント能力を身につける。
5. 事例検討を通じて、複雑な問題を抱える慢性病者とその家族の包括的なアセスメントが実施できる。

[授業概要]
フィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント、面接法、ライフストーリー法などの知識と技術を活用し、慢性病者と家族を包括的にアセスメントする能力を養う。問診、視診、触診、打診、聴診の基本手技と検査結果の的確な解釈によって、対象者の安全・安楽に配慮した正確な身体情報の収集を行い、面接法やライフヒストリー法、心理測定尺度の使用によって、心理・社会的側面と生活体験、病の体験を深く理解する技術を磨く。事例検討を通じて、家族を含めた慢性病者の包括的アセスメントの基本技術を修得し、慢性病の時期に応じた包括的アセスメントの実施方法を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書、関連資料を十分に理解して授業参加すること。事例検討に関しては、担当範囲について十分に準備したうえで臨むこと。

[授業計画]
1. 慢性病者のフィジカルアセスメントに必要な技術：問診、視診、触診、打診、聴診技術と解剖学的指標部位（加治秀介）
2. 慢性病者の呼吸機能、循環機能のフィジカルアセスメント：（加治秀介）
3. 慢性病者の脳神経機能、運動機能代謝・感覚機能のフィジカルアセスメント（藤原由子）
4. 慢性病者の代謝・内分泌、免疫機能、消化吸収排泄機能のフィジカルアセスメント（加治秀介）
5. 面接法による慢性病者の心理・社会面のアセスメント（藤原由子）
6. ライフストーリー法による慢性病者の生活体験、アセスメント（藤原由子）
7. 心理・社会的尺度を用いた慢性病者のヘルスアセメント（横内光子）
8. 慢性病者の家族に対するアセスメント（元木絵美）
9. 事例検討　1）：慢性病の予防における包括的アセスメント（横内光子）
10. 事例検討 2）：診断・治療期にある慢性病者と家族の包括的アセスメント（元木絵美）
11. 事例検討 3）：リハビリテーション期にある慢性病者と家族の包括的アセスメント（鷲田幸一）
12. 事例検討 4）：急性増悪した慢性病者と家族の包括的アセスメント（横内光子）
13. 事例検討 5）：維持期にある慢性病者と家族の包括的アセスメント（藤原由子）
14. 事例検討 6）：ターミナル期にある慢性病者と家族の包括的アセスメント（鷲田幸一）
15. 慢性病者と家族の包括アセスメントの特徴と課題（横内光子・元木絵美）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程：2.慢性病者の査定に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度（60 %）と課題レポート(40%) で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
家族エンパワーメントをもたらす看護実践　著者名：野嶋佐由美 監修（2005）　出版社：へるす出版（978-4892695407）

[参考書（ISBN）]
Physical Examination and Health Assessment,7th Edition　著者名：Carolyn Jarvis著（2015）　出版社：Sanders（改定版発刊予定）
担当教員から適宜指示する。

N21000490 [GB5-236]

科目名	慢性高度実践看護演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美、鷲田　幸一、加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 主な慢性病の治療について、症状・徴候、検査結果、形態・機能および病態生理学的な変化と関連付けて体系的に説明できる。
2. 事例検討を通じて、慢性病の予防、診断・治療、自己管理、リハビリテーション、急性増悪、ターミナルの各看護が必要となる時期の特徴に応じて、科学的根拠に基づく効果的な看護計画を立案できる。
3. 事例検討を通じて、慢性病者と家族の抱える問題の多面性や複雑性を考慮し、慢性病者とその家族を適切に支援するための理論・概念と技術を活用し、包括的アセスメントに基づいた看護計画を立案できる。
4. 主要な理論・概念を用いた支援技術を身につけ、ロールプレイを通じて自己の支援技術の課題を明確化できる。

[授業概要]
慢性病者の症状緩和や、合併症・再燃・急性憎悪を予防するための、症状マネジメント、アドボカシーや意思決定、患者教育などの概念やモデルに基づく支援技術と支援方法を学ぶ。慢性看護分野のなかで専門領域（サブ・スペシャリティ）を決め、その領域の慢性病者のウェルネスやQOLを高める支援に関するこれまでのエビデンスと今後の課題を明らかにする。また事例検討とロールプレイを通じて、効果的な支援技術の要素を考察し、自己の技術を評価する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
該当する教科書、資料を十分に理解して授業に参加すること。ロールプレイに関しては、担当範囲について十分に準備したうえで臨むこと。

[授業計画]
1. 慢性病患者のWellness とQOL（Quality of Life）維持・向上を目指した支援（横内光子）
2. 事例検討1）：慢性病者の薬物療法の管理（加治秀介・横内光子）
3. 事例検討2）：慢性病者の医療処置の管理（加治秀介・横内光子）
4. 事例検討3）：慢性病者の治療中の副作用、副反応、合併症とその管理（加治秀介・横内光子）
5. 慢性病者の医学的管理とWellness ・QOLの関連性（横内光子）
6. アドボカシーの概念を用いた支援の実際（ロールプレイ）（元木絵美）
7. サブ・スペシャリティにおけるアドボカシーの概念を用いた支援（文献検討を含む事例検討）（元木絵美）
8. 意思決定の概念を用いた支援の実際（ロールプレイ）（鷲田幸一）
9. サブ・スペシャリティにおける意思決定の概念を用いた支援（文献検討を含む事例検討）（鷲田幸一）
10. 患者教育の理論を用いた支援の実際（ロールプレイ）（横内光子）
11. サブ・スペシャリティにおける患者教育の理論を用いた支援（文献検討を含む事例検討）（横内光子）
12. 症状マネジメントモデルを用いた支援の実際（ロールプレイ）（元木絵美）
13. サブ・スペシャリティにおける症状マネジメントのモデルを用いた支援（文献検討を含む事例検討）（元木絵美）
14. 支援技術の評価方法と評価の実際（元木絵美）
15. CureとCareを統合した支援（藤原由子）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程：3.慢性病者への支援技術に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度（60%）と課題レポート(40%)で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
クロニックイルネス―人と病いの新たなかかわり　著者名：アイリーン・モロフ　ラブキン，パマラ・D. ラーセン著，黒江ゆり子訳（2007）　出版社：医学書院　(4-260-00058-6)
慢性疾患を生きる―ケアとクオリティ・ライフの接点　著者名：Anselm L. Strauss, J. Corbin S. Fagerhaugh 他著，南裕子，木下康仁，野嶋佐由美 翻訳（1987）　出版社：医学書院　(4-260-34861-2)

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000500 [GB5-237]

科目名	慢性高度実践看護課題研究	前期～後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 関心領域における実践に根ざした研究課題を見出すことができる。
2. 研究計画書を作成することができる。
3. 研究計画書に基づいて、データ収集、分析ができる。
4. 研究のプロセスに沿って論文をまとめることができる。
5. 専門看護師として研究への態度を身につける。

[授業概要]
専門看護師コースの学生が、専門とする分野での実践や実習の中で見いだした特定のテーマに関して、研究的の取り組み、その成果を社会に還元する意義とプロセスを学ぶ。テーマを研究課題として明確化し、実践を通じて得た情報を整理・分析・考察してその成果をまとめる。課題探究を通して、慢性疾患看護専門看護師として看護実践上の課題解決能力を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを修得していること。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. コースオリエンテーション
2. 課題の明確化に向けての検討　自己の臨床経験からの課題
3. 演習や実習を通しての課題の明確化
4. 課題に関する文献検討1):国内の先行研究のクリティーク
5. 課題に関する文献検討2):国外の先行研究のクリティーク
6. 課題に関する文献検討3):文献検討のまとめ
7. 文献検討から得た課題に関する知見
8. 研究計画書の作成1):構成の検討
9. 研究計画書の作成2):課題に対する研究デザインの検討
10. 研究計画書の作成3):フィールドワーク方法の検討
11. 研究計画書の作成4):データ収集方法と分析の検討
12. 研究計画書の作成5):研究における倫理的配慮についての検討
13. 研究倫理審査への申請
14. データ収集1):フィールドへの入り方　対象者へのインフォームドコンセント
15. データ収集2):対象、フィールドとの関係作りとデータ収集
16. データ収集3):データ収集、フィールドノートの作成
17. データ収集4):データ収集、フィールドノートの作成
18. データ収集5):データ収集、フィールドノートの作成、データの確認
19. データ収集と分析1):データの整理と分析
20. データ収集と分析2):データ分析
21. データ収集と分析3):データ分析と確認
22. 研究結果のまとめ1):分析結果の整理と図式化
23. 研究結果のまとめ2):分析結果の解釈
24. 考察の検討1):分析結果の解釈と考察
25. 考察の検討2):分析結果の解釈と考察
26. 考察の検討3):総合的な考察
27. 論文の作成1):論文の構成、アウトラインと整合性の確認
28. 論文の作成2):表現の適切性、文章構成の確認
29. 論文の作成3):発表準備
30. 論文発表

＊フィールドでの介入やデータ収集、論文作成についての指導は、進捗状況にあわせて適宜行う。

[成績評価方法]
研究への取り組み(課題の焦点化、研究計画書の作成、データ収集・分析)(50%)と成果物(60%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000550 [GB6-213]

科目名	臨床薬理学	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊、洪　愛子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 高度な看護実践に必要な薬物療法の基本的考え方と、薬理学について理解を深める。
2. 緊急応急処置、症状マネジメント、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上をはかるための知識と技術を学ぶ。

[授業概要]
多様な臨床場面で必要な治療を理解し、薬剤学、薬理学について学び、緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、専門看護師として必要な薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上をはかるための最新の知識と技術を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
事前に教科書、参考書を熟読し、不明点について調べおくこと。

[授業計画]
1. 臨床薬理学概説:医薬品の分類と 法律、薬物動態と薬力学、副作用・有害作用と薬物相互作用 (吉川豊)
2. 薬物動態の理論 :薬物の吸収・分布・代謝・排泄、主な薬物動態パラメータ、病態における薬物動態と処方の考え方 (吉川豊)
3. 生活習慣病に対する薬物療法:主要薬物の薬理作用 ・副作用 ・安全管理、処方の考え方 (吉川豊)
4. 感染症に対する薬物療法:主要薬物の薬理作用・副作用、安全管理、処方の考え方(吉川豊・洪愛子)
5. アレルギー疾患・自己免疫疾患に対する薬物療法:主要薬物の薬理作用・副作用、安全管理、処方の考え方(吉川豊)
6. 向精神薬を用いた薬物療法:主要薬物の薬理作用・副作用、安全管理、処方の考え方 (吉川豊)
7. 鎮痛剤・ 鎮静剤を用いた薬物療法:主要薬物の薬理作用・副作用、安全管理、処方の考え方(吉川豊)
8. 抗腫瘍薬を用いた薬物療法:主要薬物の薬理作用・副作用、安全管理、処方の考え方(吉川豊)
9. 事例検討 1):生活習慣病の薬剤使用の判断と患者モニタリング、生活調整、服薬管理能力の向上 (洪愛子・吉川豊)
10. 事例検討2):感染症の薬剤使用の判断と患者モニタリング、回復の促進 (洪愛子)
11. 主要薬物の相互作用1):小児・高齢者に対する薬物療法 (吉川豊)
12. 主要薬物の相互作用2):慢性疾患患者に対する薬物療法 (吉川豊)
13. アナフィラキシーショックの早期発見と緊急応急処置(吉川豊 ・洪愛子)
14. 服薬アドヒランスと看護 (洪愛子・吉川豊)
15. まとめ:薬物療法におけるアセスメントと看護 (洪愛子・吉川豊)

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目B:臨床薬理学

[成績評価方法]
課題への取り組み (30%) と最終 レポート(70%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
病態生理に基づく臨床薬理学 ー ハーバード大学テキスト　著者名:デービッド・E. ゴーラン編集(2006)　出版社:メディカルサイエンスインターナショナル (978-4895924610)

[参考書(ISBN)]
臨床薬理学第4版　著者名:日本臨床薬理学会(2017)　出版社:医学書院 (978-4260028738)
重篤副作用疾患別対応マニュアル　アナフィラキシー, http://www.pmda.go.jp/files/000144285.pdf　著者名:厚生労働省 (2008)
漢方薬の考え方使い方　著者名:加島雅之(2014)　出版社:中外医学社 (978-4498017986)
日本語版 サンフォード感染症治療ガイド(第 47 版) 著者名:菊池賢 , 橋本正良 監修 , M.D. David N. Gilbert ,Henry F.Chambers他編集 (2017)　出版社:ライフサエンス出版 (978-4897753607)
抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンスhttp://www.kansensho.or.jp/guidelines/index.html　著者名:8学会合同抗微生物薬適正使用推進検討委員会(2017)

N21000120 [GB5-211]

看護学専攻（博士後期課程）

科目名	遠隔看護特論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
遠隔看護の実践に必要な歴史的背景や関連法規、実践研究の動向を理解するとともに、在宅療養者に遠隔看護を提供する際のアセスメントや健康情報の収集、遠隔モニタリング方法を修得し、遠隔看護が実践できるようになることを目標とする。

[授業概要]
看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。
ケアの場が、病院医療から在宅医療へとシフトしている中で、情報通信技術(ICT)を活用した看護実践である「遠隔看護」による看護援助技術の確立は、在宅医療の推進を支えていく鍵となるものである。日本では、遠隔看護分野は研究的な取り組みの段階であるため、国外における遠隔看護の歴史的発展や看護職への教育、看護実践について理解を深め、特に、在宅ケアの現場でよく見られる慢性疾患患者に対するケア提供や法律問題、プライバシーなどの現状と課題を学ぶことで、日本における遠隔看護の可能性や方策について探究する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
遠隔看護に関する研究論文を読む。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]
1. 遠隔看護とは
2. 遠隔看護の過去・現在・未来
3. 国外における遠隔看護の現状:アメリカ、ヨーロッパ
4. 国外における遠隔看護の現状:韓国、スウェーデン
5. 日本における遠隔看護の研究の動向
6. 遠隔看護の実践活動に求められる能力
7. 看護職に対する遠隔の役割・意味
8. 遠隔看護と慢性疾患
9. 在宅療養者に対する遠隔看護実践
10. 免許制度の問題
11. 法的問題
12. プライバシーと機密性の問題
13. 遠隔看護の評価
14. 看護領域におけるICTを活用した研究
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への参加度(30 %)と 課題レポート(70 %)で評価する。
グループ面接時に助言する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
Telenursing　著者名:Sajeesh Kumar, Helen Snooks(2011)　出版社:Springer　(978-1447127079)

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000360 [GB5-227]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

● 東 ますみ
看護情報学や遠隔看護に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート(50 %)で評価する。
個別面接時に助言する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440 [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●魚里 明子
地域看護学域における国内外の保健医療の動向と課題、課題解決するための政策や実践事例、研究の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440A [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●宇賀 昭二
国際保健学に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440B [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●内 正子
慢性疾患や障害を有する小児の看護ケア家族支援に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440C [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●加治 秀介
治療期にある慢性病患者の医療・看護に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440D [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●洪 愛子
看護サービスの開発や感染管理システム、および看護政策を含むヘルスケアマネジメントに関する研究の文献レビューおよびクリテーィクを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440E [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。
各授業の前後に資料を熟読し疑問点等の整理を1時間程度行う。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●下敷領 須美子
国内外のウィメンズヘルスケアやマタニティヘルスケアに関する研究の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440F [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●玉木 敦子
精神健康問題の予防的介入および精神障がいをもつ人やその家族への看護ケアに関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440G [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法
●中岡 亜希子
看護教育に関する基礎知識論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440H [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中村　隆		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法
●中村 隆
医療と看護の効果、成果の測定とその分析方法に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440I [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 ：主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1）
4. 系統的文献検索と整理の実際2）
5. 文献クリティーク1）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1）：レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2）：レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3）：レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ：文献レビューを活かす方法

●野並 葉子
看護ケア・教育に関する論文の文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション （50 %）とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000440J [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実戦経験を元に以下の内容を講義する。
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 :主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1)
4. 系統的文献検索と整理の実際2)
5. 文献クリティーク1):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7):論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3):レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ:文献レビューを活かす方法

●藤田 冬子
高齢者に関する文献と研究の動向を概観し、特にコミュニティで暮らす高齢者のフレイル対策や認知症高齢者のケア、介護家族のケア能力向上に関わる支援について探求する課題など、高齢者への理解を深め現代社会が抱える現状と照らし合わせて課題を明確化する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション (50 %)とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000440K [GB5-235]

科目名	演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 系統的な文献検索と文献収集・整理に必要な基礎的知識と技術を修得する。
2. 研究テーマに関連する文献を、的確かつ批判的に吟味するために必要な知識と技術を修得する。
3. 研究テーマに関連する文献を比較検討し、研究課題を明確にするために必要な論理的思考法を身につける。
4. 系統的な文献検索と文献レビューを実施し、研究課題を明確化するプロセスを学ぶ。

[授業概要]
ゼミナール形式で、自分が関心を持つ研究テーマについて、系統的な文献検索と文献の収集・整理に必要な基礎的知識と技術を学び、各文献を的確に読み取って批判的に吟味する能力を養う。文献レビューを通じて関連文献を比較検討し、当該研究テーマの全体像を踏まえて探求すべき課題を明確化するプロセスを学ぶ。このプロセスを通じて、看護における任意のテーマについて、関連文献を系統的に収集・整理し、文献の情報を的確に読み取って比較検討し、課題を明らかにするための知識と技術、ならびに論理的思考力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰを履修済みであること。

[授業計画]
各主指導教員の指導の下に、文献検索とクリティークを実施する。
1. 各分野で活用するデータベースと効果的・効率的な文献・資料の収集とその整理
2. 文献検索におけるキーワードの設定 ：主要なキーワードと関連キーワードの選定
3. 系統的文献検索と整理の実際1）
4. 系統的文献検索と整理の実際2）
5. 文献クリティーク1）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
6. 文献クリティーク2）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
7. 文献クリティーク3）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
8. 文献クリティーク4）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
9. 文献クリティーク5）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
10. 文献クリティーク6）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
11. 文献クリティーク7）：論文の概要とクリティークの発表、ディスカッション
12. 研究テーマについての文献レビュー1）：レビューのプレゼンテーションとディスカッション
13. 研究テーマについての文献レビュー2）：レビューのプレゼンテーションとディスカッション
14. 研究テーマについての文献レビュー3）：レビューのプレゼンテーションとディスカッション
15. まとめ：文献レビューを活かす方法

●横内 光子
看護・医療のサービスとして側面に焦点をあて、これまで行なわれてきた業務分析やタイムスタディ、シミュレーションなどの分析手法を用いた看護管理、病院管理の研究に関して、幅広く文献レビューおよびクリティークを行い、探究すべき課題を明確にする。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）とレポート50 %で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000440L [GB5-235]

科目名	演習Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子、髙橋　秋絵		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 心の健康問題をもつ個人・家族に対して適用される様々な心理学的精神科治療技法について理解できる。
2. 心の健康問題をもつ集団に対して適用される様々な心理学的精神科治療技法について理解できる。

[授業概要]
心の健康問題をもつ個人・家族、集団に対して適用される看護面接、認知行動療法、リラクゼーションの理論とその技法について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
心理学的精神科治療技法について事前学習して受講すること。プレゼンテーションに関しては、担当範囲を十分に準備したうえで臨むこと。

[授業計画]
1. 治療的コミュニケーション技法の概要（玉木敦子・高橋秋絵）
2. 治療的コミュニケーション技法の実際（玉木敦子・高橋秋絵）
3. 患者・家族を対象とした看護面接の概要（玉木敦子・高橋秋絵）
4. 患者・家族を対象とした看護面接の実際（玉木敦子・高橋秋絵）
5. 患者を対象とした看護面接のロールプレイ（玉木敦子・高橋秋絵）
6. 家族を対象とした看護面接のロールプレイ（玉木敦子・高橋秋絵）
7. 認知行動療法の歴史と基本理論について（岡田佳詠学外特別講師・玉木敦子）
8. 個人認知行動療法の実際（岡田佳詠学外特別講師・玉木敦子）
9. 集団認知行動療法の基礎（岡田佳詠学外特別講師・玉木敦子）
10. 集団認知行動療法の実践（岡田佳詠認知行動療法非常勤学外特別講師・玉木敦子）
11. 集団認知行動療法の実践と課題（岡田佳詠認知行動療法非常勤学外特別講師・玉木敦子）
12. ストレス・コーピングの基本的知識（玉木敦子）
13. ストレス・コーピングに関する技法（玉木敦子）
14. リラクゼーション療法（呼吸法）の実際（市川久美子）
15. まとめ（玉木敦子）

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50%）とレポート（50%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000450 [GB6-208]

科目名	演習Ⅱb	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子、髙橋　秋絵		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 精神的諸問題をもつ人のアセスメントと看護援助について理解できる。
2. 精神障がいをもつ人のアセスメントと看護援助について理解できる。
3. 精神看護における倫理的課題について考察する。

[授業概要]
精神的諸問題をもつ人や精神障がいをもつ人のアセスメントと看護援助について学ぶ。また精神看護における倫理的課題についても学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
臨床経験を通して関心をもった精神健康問題について事前学習をして受講すること。また倫理的課題について振り返り、各自考察しておくこと。プレゼンテーションに関しては、担当範囲を十分に準備したうえで臨むこと。

[授業計画]
1. 怒りや攻撃性の強い人のアセスメントとケア（玉木敦子）
2. せん妄状態にある人のアセスメントとケア（市川久美子）
3. 適応障害のある人のアセスメントとケア（市川久美子）
4. パーソナリティ障害をもつ人のアセスメントとケア（玉木敦子）
5. 発達障害をもつ人のアセスメントとケア（高橋秋絵）
6. 周産期メンタルヘルスにおけるアセスメントとケア（玉木敦子）
7. 気分障害のある人のアセスメントとケア（高橋秋絵）
8. 精神病性障害のある人のアセスメントとケア（高橋秋絵）
9. 不安障害のある人のアセスメントとケア（玉木敦子）
10. 摂食障害のある人のアセスメントとケア（玉木敦子）
11. 物質関連障害のある人のアセスメントとケア（高橋秋絵）
12. 精神障がいをもつ人のアセスメントと看護援助（高橋秋絵）
13. 精神健康問題にまつわる倫理的課題（玉木敦子）
14. 精神看護における倫理的課題についての討論　（玉木敦子）
15. まとめ（玉木敦子・高橋秋絵）

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50%）とレポート（50%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000460 [GB6-209]

科目名	演習Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル	急性期の高齢者ケア		
担当者	藤田　冬子、花房　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 急性期の高齢者に見られる特徴的な病態及び症状悪化を予防するためのケアの考え方について説明することができる
2. 高齢者が急性期の治療を受ける中で、その人らしくいることが尊重されるケアの考え方について説明することができる

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実践経験を元に以下の内容を講義する。
健康障害を持つ高齢者が入院する急性期の病院でおこなわれている高齢者への看護ケア、高齢者医療チームのケア、在宅復帰への取り組み、地域に住む高齢者への支援について研究成果や社会制度を概観し、その中で老人看護専門看護師に求められる役割と機能について学ぶ。さらにその中で、高齢者に生じやすい身体的･心理社会的状態をアセスメントし、既存の諸理論や研究成果から生活機能を維持しつつその人らしく生きられるような支援を元にCureとCareを統合した介入ができる専門的な能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
急性期における高齢者ケアで生じやすい状況について事前学習をして受講する。また、慢性期の治療を受ける高齢者が陥りがちな健康障害とその症状、影響要因について学習しておく。

[授業計画]
1. 急性期の治療を受ける高齢者に生じやすい病態とは（藤田冬子）
2. 急性期の治療を受ける高齢者における老年症候群の予防と早期発見（藤田冬子）
3. 急性期の治療を受ける高齢者の身体的・心理社会的影響（藤田冬子）
4. 急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症と治療1）低栄養と摂食嚥下障害のアセスメント（藤田冬子）
5. 急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症とケア1）低栄養と摂食嚥下障害の治療とケア（藤田冬子）
6. 急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症と治療2）せん妄のアセスメントと治療（藤田冬子）
7. 急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症のケア2）せん妄のアセスメントとケア（藤田冬子）
8. 急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症の治療3）転倒ケアと身体拘束（花房由美子・藤田冬子）
9. 急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症のアセスメントとケア3）転倒ケアと身体拘束（花房由美子・藤田冬子）
10. 急性期病院入院時からの退院調整とサポートシステム（花房由美子・藤田冬子）
11. 急性期病院入院時からの地域連携とサポートシステム（花房由美子・藤田冬子）
12. 急性期にある高齢者の意思を尊重したケアの研究の動向（藤田冬子）
13. 急性期にある高齢者の意思を尊重した専門看護師の活動（藤田冬子）
14. 急性期にある高齢者のその人らしさを尊重したCureとCareを統合した介入の方向性（事例による検討）（藤田冬子）
15. 急性期にある高齢者のその人らしさを尊重したCureとCareを統合した介入の展開と結果（事例による検討）（藤田冬子）

[成績評価方法]
授業への参加度（60%）と課題レポート（40%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000470 [GB6-210]

科目名	演習Ⅲb	前期	2 単位
サブタイトル	慢性期の高齢者ケア		
担当者	藤田　冬子、笹谷　真由美、正田　美紀		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 慢性期の高齢者に見られる特徴的な病態及び症状悪化を予防あるいは早期発見するためのケアについて説明することができる
2. 高齢者が慢性期の療養の中でその人らしさを保つことのケアについて説明することができる

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実践経験を元に以下の内容を講義する。
健康障害を持つ高齢者が入院･入所する慢性期の病院、老人保健施設･特別養護老人ホームでおこなわれている高齢者への看護ケア、高齢者医療チームのケア、在宅復帰への取り組み、地域に住む高齢者への支援について研究成果や社会制度を概観し、その中で老人看護専門看護師に求められる役割と機能について学ぶ。さらにその中で、高齢者に生じやすい身体的･心理社会的状態をアセスメントし、既存の諸理論や研究成果から生活機能を維持しつつその人らしく生きられるような支援を元にCureとCareを統合した介入ができる専門的な能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
慢性期における高齢者ケアで生じやすい状況について事前学習をして受講する。また、慢性期の治療を受ける高齢者が陥りがちな健康障害とその症状、影響要因について学習しておく。

[授業計画]
1. 慢性期の治療を受ける高齢者に生じやすい病態と予防・早期発見（藤田冬子・笹谷真由美）
2. 慢性期にある高齢者がうける身体的影響（藤田冬子・笹谷真由美）
3. 慢性期にある高齢者がうける心理社会的影響（藤田冬子・笹谷真由美）
4. 慢性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症と治療①低栄養と摂食嚥下障害のアセスメントとケア（藤田冬子・笹谷真由美）
5. 慢性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症とケア①低栄養と摂食嚥下障害のアセスメントとケア（藤田冬子・笹谷真由美）
6. 慢性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症と治療②認知機能の低下と抑うつ（藤田冬子・笹谷真由美）
7. 慢性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症のアセスメントとケア②認知機能の低下と抑うつ（藤田冬子・笹谷真由美）
8. 高齢や及び家族に対する慢性疾患の中での急性憎悪時の対応（藤田冬子・笹谷真由美）
9. 高齢や及び家族に対する慢性疾患の中での急性憎悪時の対応（藤田冬子・笹谷真由美）
10. エンド・オブ・ライフケア　高齢者と家族への支援（正田美紀・笹谷真由美）
11. エンド・オブ・ライフケア　医療チームの支援活動（正田美紀・笹谷真由美）
12. 廃用症候群と老年症候群の予防と回復へのケア（正田美紀・笹谷真由美）
13. 廃用症候群と老年症候群の予防と回復へのケア（正田美紀・笹谷真由美）
14. 慢性期にある高齢者のその人らしさを尊重したCureとCareを統合した介入の方向性（事例による検討）（藤田冬子・笹谷真由美）
15. 慢性期にある高齢者のその人らしさを尊重したCureとCareを統合した介入の展開と結果（事例による検討）（藤田冬子・笹谷真由美）

[成績評価方法]
授業への参加度（60%）と課題レポート（40%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000480 [GB6-211]

科目名	看護教育論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中岡　亜希子、野並　葉子、東　ますみ、横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 看護専門職の基礎教育、継続教育ならびに保健医療福祉の専門家に対する教育の歴史的背景と理念、現状について理解を深める。
2. 教育と学習に関する主要概念と理論及び多様な教育方法を学び、今後の教育計画を立てることができる。
3. 看護教育評価の設計・枠組み・モデルの選択及び学習成果の評価を学び、具体的に考えることができる。

[授業概要]
看護基礎教育や継続教育の実践者、専門看護師ならびに看護職としてクライアントや保健医療福祉関係者を対象とした教育活動を展開するための基盤となる知識の獲得を目指す。教育の歴史と哲学的な背景ならびに主要な教育理論を概観し、看護教育および看護実践において活用される主な教育・学習理論と概念について理解を深める。看護実践ならびに看護教育における教育的要素の特徴について考察するとともに、具体的な事例検討を通じて、看護における教育と学習支援の技術を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
紹介する文献や参考書の該当部分を熟読し、授業に臨むこと。

[授業計画]
1. 看護基礎、卒後、継続教育の現状と課題(中岡亜希子)4/5　Ⅵ限
2. 看護教育の変遷と教育法規(中岡亜希子)4/19　Ⅵ限
3. 学習理論と行動・認知科学の発達(中岡亜希子)4/19　Ⅶ限
4. 継続教育及び基礎教育の枠組みと前提となる哲学(中岡亜希子)5/10　Ⅵ限
5.　多様な学習者のニーズと発達の促進(中岡亜希子)5/10　Ⅶ限
6. 看護師育成のための思考を促進するクリティカルシンキング(中岡亜希子)5/24　Ⅵ限
7. カリキュラム開発と教育計画(中岡亜希子)5/24　Ⅶ限
8. 看護師個々に対応する教育手法としてのe-ラーニング(東ますみ)6/7　Ⅵ限
9.　個々の看護師に対応するデジタルメディアを用いたインタラクティブ教育(東ますみ)6/7　Ⅶ限
10. アクティブ・ラーニングと看護師の主体性を育むグループ学習の効果(野並葉子)6/21　Ⅵ限
11. 継続教育とオンライン学習による教育と学習(中岡亜希子)6/21　Ⅶ限
12. 卒後の臨床判断能力向上のためのシミュレーション教育(横内光子)7/5　Ⅵ限
13. 学習成果の評価(中岡亜希子)7/5　Ⅶ限
14. 看護教育評価の設計・枠組み・モデルの選択(中岡亜希子)7/19　Ⅵ限
15. 看護における教育の展望と課題(中岡亜希子)7/19　Ⅶ限

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目A:看護教育論

[成績評価方法]
授業への取り組み(プレゼン準備・発表・討議など)(70%)と課題レポート(30%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
看護教育学(改訂第2版):看護を学ぶ自分と向き合う　著者名:グレッグ美鈴, 池西悦子編著(2018)　出版社:南江堂　(978-4524254934)
看護教育学第6版　著者名:杉森みど里, 舟島なをみ著(2016)　出版社:医学書院　(978-4260027823)

[参考書(ISBN)]
看護を教授すること(原著第4版)　著者名:Diane M.Billngs et al. 奥宮暁子他監訳(2014)　出版社:医歯薬出版株式会社　(978-4263235904)
ナースを育てる　著者名:パトリシア・ベナー他著, 早野真佐子訳(2011)　出版社:医学書院　(978-4260014298)

N21000010 [GB5-200]

科目名	看護研究方法論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 看護研究の特徴やプロセスを理解する。
2. 研究課題に対するさまざな方法を知る。

[授業概要]
看護研究の特徴やプロセスを理解し、多様な研究方法を知る。帰納的推論と演繹的推論、質的研究と量的研究、文献検討と文献クリティーク、データ収集、データ分析、研究倫理等を学び、臨床看護師、看護教育者、看護学研究者、あるいは高度実践看護師として看護研究を実施するうえで必要となる研究方法論全般について、理解を深める。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
自分自身の研究課題に関連すると思われる研究論文を読む。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 看護における研究の役割 (東ますみ)4/21　Ⅵ限
2. 看護研究における倫理的配慮 (東ますみ)4/21　Ⅶ限
3. 研究過程の概観 (東ますみ)5/19　Ⅵ限
4. 概念枠組みと仮説 (東ますみ)5/19　Ⅶ限
5. 主要データベースと系統的な文献検索方法の概要 :
　医学中央雑誌、 CiNii、CINAHL, MEDLINE, PubMed, Cochrane Library, Web of Scienceなどの主要データベースとその特徴、キーワードとシソーラス、効果的な検索方法、文献リストの作成など(横内光子)6/2　Ⅵ限
6. 文献クリティークとレビューの概要 :
　文献クリティーの定義と研究における位置づけ、文献を抄読する方法、批判的吟味の方法、関連する複数の文献を比較検討するなど(横内光子) 6/2　Ⅶ限
7. 質的研究の定義と特徴 、主な方法の概要 :
　現象学的研究、グラウンデッド・セオリー研究、記述民俗学的研究、歴史的研究など (横内光子)6/18　Ⅵ限
8. 質的研究のデータ収集と分析方法の概要 :
観察法、面接法、グループインタビュー、フィールドノート、観察ノート、録音・ 録画データと質的帰納的分析(横内光子)6/18　Ⅶ限
9. 量的研究の定義と特徴 、主な方法の概要 :
実験、 準実験、 非実験研究、相関研究、前向きデザイン、因果係の検証、RCT(Randomized Controlled Trial)など (横内光子)6/30　Ⅵ限
10. 量的研究のデータ収集と分析方法の概要:
 観察研究と介入研究、測定法と測定尺度、質問紙調査法 とデルファイ法、記述統計と推測統計の基本(横内光子)6/30　Ⅶ限
11. 事例研究の意義と方法の概要 :
事例研究に必要な情報、考察の視点、事例の蓄積など (横内光子)7/14　Ⅵ限
12. EBP(Evidenced Based Practice)の意義と方法の概要 :
臨床実践上の疑問を定式化する(PICOの活用など)、情報収集・文献検索と質の高い論文の選択、論文の抄読・吟味、患者への適用の判断(横内光子)7/14　Ⅶ限
13. 学会発表や研究論文の投稿 (東ますみ)7/28　Ⅵ限
14. 研究計画書の作成(東ますみ)　7/28　Ⅶ限
15. まとめ :看護研究の今後の課題 (東ますみ)8/4　Ⅵ限

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目A:看護研究

[成績評価方法]
授業への参加度(30 %)と 課題レポート(70 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
看護研究入門　原著第 7版 評価・統合・エビデンスの生成　著者名: バーンズ＆グローブ , 黒田裕子他監訳(2015)　出版社:エルゼビア・ジャパン (978-4860343002)

[参考書(ISBN)]
担当教員から 適宜指示する。

N21000040 [GB5-203]

科目名	看護研究方法論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ、横内　光子、中村　隆		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 看護研究を計画し、実施する際に必要となる量的研究デザイン、質的研究デザイン、ならびにミックス・メソッドについての理解を深める。
2. 量的デザイン、質的デザインの基本的なデータ収集法と分析方法を身につける。

[授業概要]
授業計画の1～4、10～15は、看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。
看護研究の方法として、量的研究デザイン、質的研究デザイン、ならびにミックス・メソッドについての理解を深める。量的研究デザインと質的研究デザインの背景にある現象のとらえ方に関するパラダイムの相違を踏まえて、主要な測定法と記述・推測統計、質的研究デザインのデータ収集と分析方法、およびミックス・メソッドの要点を学ぶ。自己の研究課題に関連する先行研究について、方法論の妥当性を適切に評価し、文献検討に活用するとともに、研究課題に応じた方法論を検討する能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰを修得していること。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]
1. 量的研究デザインの科学的基盤（東ますみ） 10/4 Ⅵ限
2. 生体の構造・機能の測定法とその特徴 （東ますみ） 10/4 Ⅶ限
3. 心理面 ・社会面の測定法とその特徴 （東ますみ） 10/11 Ⅵ限
4. 測定尺度の信頼性と妥当性（東ますみ） 10/11 Ⅶ限
5. 量的データの収集方法 （中村隆） 10/18 Ⅵ限
6.データの整理と解釈：データの可視化（中村隆） 10/18 Ⅶ限
7. データの分析：記述統計（中村隆） 10/25 Ⅵ限
8. データの分析：推測統計（中村隆） 10/25 Ⅶ限
9. データの分析 ：多変量解析（中村隆） 11/1 Ⅵ限
10. 質的研究デザインの科学的基盤とデータ収集・分析の特徴（横内光子）11/8 Ⅵ限
11. 質的研究デザインのデータ収集 （横内光子）11/8 Ⅶ限
12. 質的研究デザインのデータ分析方法 （横内光子）11/15 Ⅵ限
13. 事例研究の特徴と方法（横内光子）11/15 Ⅶ限
14. ミックス・メソッドの基本的な考え方 （東ますみ） 11/22 Ⅵ限
15. まとめ （東ますみ・横内光子）12/6　Ⅵ限

[成績評価方法]
授業への参加度（30 %）と 課題レポート（70 %）で評価する。
グループ面接時に助言する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
看護研究原理 第2版　著者名：D.F.ポーリット＆C.T.ベック著，近藤潤子監訳（ 2010 ）　出版社：医学書院 （978-4260005265）

[参考書（ISBN）]
担当教員から 適宜指示する 。

N21000050 [GB5-204]

科目名	看護実践デザイン特論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、洪　愛子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 実践コミュニティの形成に関する諸理論について学ぶ。
2. 複数の実践コミュニティの事例分析に基づき、実践コミュニティの形成過程とそれに影響する要因について考察する能力を養う。
3. 実践コミュニティの形成と発展に必要な、コーディネーションの知識と技術を修得する。

[授業概要]
病棟、病院、施設、地域、医療圏など多様な場で展開される保健・医療・看護サービスを、そのサービス利用者とサービス提供者の実践コミュニティによる健康価値の創生プロセスととらえるコミュニティ・オブ・プラクティスの基本的な考え方を学ぶ。また、効果的な保健・医療・看護活動を展開するための、実践コミュニティの開発・育成に必要なマネジメントとコーディネートの基礎的知識を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書と関連書籍、文献を熟読して授業に臨むこと。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. コミュニティ・オブ・プラクティスの理論的背景1)（横内光子）
2. コミュニティ・オブ・プラクティスの理論的背景2)（横内光子）
3. 実践コミュニティとその構成要素（横内光子）
4. 実践コミュニティ育成の原則 （横内光子）
5. 実践コミュニティの計画と立ち上げ （洪愛子）
6. 実践コミュニティの発展と維持 （洪愛子）
7. 価値創造の評価とマネジメント（横内光子）
8. 実践コミュニティの開発1)（洪愛子）
9. 実践コミュニティの開発2)（洪愛子）
10. 保健・医療・看護における実践コミュニティ開発 と育成1)（横内光子）
11. 保健・医療・看護における実践コミュニティ開発と育成 2)（洪愛子）
12. コーディネションの基本理論 （横内光子）
13. コーディネションと関連する諸概念（横内光子）
14. コーディネションの方法 （洪愛子）
15. まとめ :コミュニティ・オブ・プラクティスの推進と看護実践デザイン（洪愛子）

[成績評価方法]
授業への参加度（30 %）と課題レポート（70 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
コミュニティ・オブ・プラクティス ーナレッジ社会の新たな知識形態の実践ー　著者名：エティエンヌ・ウェンガー , リチャード・マクダーモット, ウィリアム・ M・スナイダー 著, 櫻井 祐子 , 野中 郁次郎, 野村 恭彦 訳（2002） 出版社：翔泳社 （978-4798103433）

[参考書（ISBN）]
状況に埋め込まれた学習　著者名：ジーン・レイヴ、エティンヌ・ウェンガー著、佐伯胖訳（1993） 出版社：産業図書 （978-4782800843）
実践知 – エキスパートの知性　著者名：金井 壽宏 , 楠見 孝 編集 （2012） 出版社：有斐閣 （978-4641163867）
経験からの学習 –プロフェッショナルへの成長プロセス　著者名：松尾 睦 （2006） 出版社：同文舘出版 （978-4495375812）

N21000370 [GB5-228]

科目名	看護実践デザイン特論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子、横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 看護の質を高め、効果的なサービスとして効率的に提供するための方略と方法を学ぶ。
2. 看護・医療の品質管理に関する歴史的背景と経緯、ならびに主要な評価方法とその変遷に関する基礎的知識を修得する。
3. 看護・医療サービスの価値と価格に影響する要因と決定過程について、社会背景や国の政策を含む広い視点から理解するための基礎的知識と考え方を学ぶ。
4. 看護実践とその成果を論理的に記述し、整理・分析、わかりやすく表現するために必要な、観察力と論理的思考力、ならびに表現力を身につける。

[授業概要]
保健医療福祉における看護サービスの価値を評価・可視化するための基礎的知識を修得する。看護・医療の品質管理に関する歴史的背景と経緯、ならびに主要な評価方法に関する基礎的知識、ならびに看護・医療サービスの価値と価格に影響する要因と決定過程について、社会背景や国の政策を含む広い視点から理解するための基礎的知識を学ぶ。これらをふまえて、看護サービスを効果的かつ適正に提供するためのマネジメントと政策への反映方略を学ぶ。学習のプロセスを通じて、看護実践とその成果を論理的に記述し、分析、表現する能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書と関連文献を用いて予習しておくこと。

[授業計画]
1. 保健医療福祉と看護のサービスとしての特徴（横内光子）
2. 看護サービスの生産・提供システムとマネジメント（横内光子）
3. 保健医療福祉と看護サービスのマーケットリサーチ（洪愛子）
4. 看護管理と医療経営（洪愛子）
5. 医療サービスと医療提供体制（洪愛子）
6. 保健医療福祉における品質管理の歴史（横内光子）
7. 保健・医療における主要な質の評価方法（横内光子）
8. 看護における質管理の歴史（洪愛子）
9. 看護の質評価方法 1）既存の質評価方法（洪愛子）
10. 看護の質評価方法 2）これからの質評価方法（横内光子）
11. 看護サービスの価値と価格（洪愛子）
12. 保健医療福祉政策・制度における看護サービス（洪愛子）
13. 看護サービスの可視化と普及（横内光子）
14. 看護政策におけるビジョンと方略（洪愛子）
15. 看護における新たな価値の創造（洪愛子・横内光子）

[成績評価方法]
授業への参加度（30 %）と課題レポート（70 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
医療の質の定義と評価方法　著者名：Avedis Donabedian著，東尚弘 訳（2007）　出版社：特定非営利活動法人 健康医療評価研究機構　(978-4903803005)

[参考書（ISBN）]
看護管理者のための医療経営学―地域で選ばれる医療機関を目指して（看護管理実践guide）　著者名：尾形 裕也(2015)　出版社：日本看護協会出版会　(978-4-8180-1921-8)
Advanced Practice Nursing Essentials of Role Development　著者名：Lucille A. Joel (2017)　出版社：F A Davis Co.　(978-0803660441)
Policy & Politics in Nursing and Health Care, 7th Edition　著者名：Diana J. Mason, Deborah B Gardner, Freida Hopkins Outlaw, Eileen T.O'Grady著（2015）　出版社：Saunders　(978-0323241441)

N21000380 [GB5-229]

科目名	看護情報学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
膨大な看護情報から、看護の質を評価する取り組みが始まっている。看護情報学の特性を理解し、看護における情報活用や情報システムの活用ができることを目標とする。

[授業概要]
看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。
健康・医療・介護分野におけるICT化を国が推進している現在、看護情報を取り扱う専門家である看護職が、医療・看護情報分野のリーダーとして、その役割を担っていくことは重要である。看護記録情報や生体情報、設備情報、経営情報など多岐にわたる看護情報の活用と管理の方法を学び、看護情報を扱う上で不可欠な情報倫理の概念や個人情報の特徴を理解する。また、看護の質改善に役立つ情報管理のあり方や、看護おける情報システムの活用について理解を深める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護の臨床現場で、情報がどのように活用されているか、常に感心を持つこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]
1. 情報の定義
2. 看護情報学の成立、看護情報学の専門性と役割
3. 看護情報の取り扱いに関する倫理的側面
4. 看護情報の分類とコード化
5. エビデンスに基づく看護情報
6. 看護管理プロセスと情報
7. 人材資源管理における情報活用
8. 看護管理のための情報提供システム
9. 情報管理とマネジメント
10. 医療事故を防ぐための情報技術
11. 看護実践のデータ化による看護の質向上
12. 看護における情報システムの活用例
13. 看護情報学から見た看護の将来
14. 看護情報分野における先駆的活動
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への参加度（30%）と課題レポート（70%）で評価する。
グループ面接時に助言する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000350 [GB5-226]

科目名	看護政策論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子、洪　愛子、教員未登録		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 国内外の保健医療政策および医療制度の変遷を理解し、看護の質向上のために制度等の改善を含む政策的な働きかけに必要知識学び、現在と将来の課題を考察、探求することができる。
2. 看護政策策定、ヘルスケアシテム構築に関する理論やモデル、 実践における活用について学び、高度実践看護師らが看護の変革者として政策過程参画に必要な知識を理解することができる。

[授業概要]
国内外の看護を取り巻く保健医療政策の変遷を学び、保健医療政策に関する理論やモデル、看護政策策定やヘルスケアシテム構築のプロセスについて修得し、現在の保健医療施策について分析、考察できる能力を養う。また看護政策策定、ヘルスケアシステム構築に関する理論やモデル、実践を国内外の文献より探究し、専門看護師らが看護の変革者として、看護の質向上のために制度等の改善を含む政策的な働きかけに関与することができる能力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
事前に提示した文献を読んでまとめる。

[授業計画]
1. 国外の保健医療政策および・医療・看護制度の変遷、今後の方向性と課題(洪愛子)
2. 政策過程と法令、政策課題と看護(洪愛子)
3. 国内の保健医療政策・看護政策の変遷、今後の方向性と課題(洪愛子)
4. 国内の医療制度・看護制度の変遷、今後の方向性と課題(洪愛子)
5. 看護の質向上のために制度等の改善を含む政策過程に参画する看護師が担う役割と意義、政策決定における職能団体の機能(洪愛子)
6. 政策策定、ヘルスケアシテム構築における国内外の最新情報と方向性に基づく 実践事例の紹介、オランダ在宅ケア組織、日本の地域包括ケア(魚里明子)
7. 政策策定、ヘルスケアシテム構築における国内外の実践事例に基づいた政策策定プロセス(魚里明子)
8. 政策策定、ヘルスケアシテム構築における国内外の実践事例に基づいた保健医療施策の課題と方向性(魚里明子)
9. 社会保障の概念と歴史、社会保障と資源 (魚里明子)
10. 保健医療福祉制度の構造、医療保健・介護保険とその財源、保健医療福祉制度を支える職種(魚里明子)
11. ヘルスケアシテム構築、ヘルスケアシテム提供体制(魚里明子)
12. ヘルスケアシテム構築に関する理論とモデル(魚里明子)
13. 看護政策策定、ヘルスケアシテム構築に関する理論やモデルに基づいた実践分析(魚里明子)
14. 国内外の文献からみた看護政策策定に関する理論やモデルに基づいた実践(魚里明子・洪愛子)
15. 国内外の文献からみたヘルスケアシテム構築に関する理論やモデルに基づいた実践(魚里明子・洪愛子)

[成績評価方法]
授業への参加度 (50 %)と 課題レポート(50 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
コミュニティ・オブ・プラクティスーナレッジ社会の新たな知識形態の実践ー　著者名:エティエンヌ・ウェンガー, リチャード・マクダーモット , ウィリアム・M・スナイ ダー 著, 櫻井祐子 , 野中郁次郎 , 野村恭彦　著(2002) 出版社:翔泳社 (978-4798103433)
その他、担当教員より適宜指示、資料の配布を行なう。

[参考書(ISBN)]
日本看護協会の政策提言活動　著者名:日本看護協会　編(2010) 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-1526-5)
看護職者のため政策過程入門 第2版　著者名:見藤隆子他(2017) 出版社:日本看護協会出版会 (978-4-8180-2051-1)
看護法令要覧 令和元年版　著者名:勝又浜子 他 編(2020) 出版社:日本看護協会出版会 (978-4818021723)
看護関係統計資料集　著者名:日本看護協会出版会 編(2020) 出版社:日本看護協会出版会 (978-4818021907)
その他、担当教員より適宜指示する。

N21000080 [GB5-207]

科目名	看護マネジメント論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子、横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. ヘルスケアサービスの特性を理解し、 看護マネジメントについて考えるための基本的知識を身につける。
2. 広い視野から看護専門職ならびに高度実践看護師に求められる役割と将来的なビジョンを見据え、看護マネジメントの実践に必要な知識と思考法 、技術を学ぶ。

[授業概要]
保健医療福祉が提供される多様な場と、それに携わる専門職ならびに管理職の持つ役割や価値観について理解を深め、保健医療福祉に携わる人々の間の調整や看護管理に携わる看護職との協働など、高度実践看護師らの活動に必要な知識と技術を学ぶ。ヘルスケアサービスのマネジメントに関する主要概念について理解し、保健医療福祉に関する国のビジョンと政策の全体像を俯瞰して、看護職ならびに高度実践看護師として、効果的・効率的に人々の健康に貢献するためのサービス・マネジメントの方略と方策を考える基礎的な能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書の関連部分を熟読し、必要に応じて関連文献を調べて疑問点を明らかにしておくこと。

[授業計画]
1. ヘルスケアに関する法律と主要制度の概要 （洪愛子 ）
2. ヘルスケアサービスの特徴と社会における位置づけ（洪愛子・横内光子）
3. ヘルスケア政策と看護のビジョン （洪愛子 ）
4. ヘルスケアサービスにおける看護サービスの特徴とその変化（横内光子）
5. マネジメント必要な組織行動論 の概要 ：
　動機づけ、 意思決定、リーダシップ、組織文化、創造と変革（横内光子）
6.看護サービス ・マネジメントの定義と 要素 、および 、プロセスの概要 ：
　物的資源・人的資源・予算計画・情報マネジメントと、アセスメント・プランニング・組織化・行動化・統制（横内光子）
7.看護サービス・マネジメント・システムの特徴：
　サービス・コンセプト、マーケット・セグメンテーション、サービス・デリバリー・システム、組織の理念（横内光子）
8. 看護サービスのリスク管理と品質管理 （横内光子）
9. 看護キャリア開発と人的資源の活用 （洪愛子）
10. ヘルスケア専門職の特性と職務範囲、 ヘルスケアチームにおける看護専門職の機能と役割（洪愛子）
11. ヘルスケアチームとチームマネジメント、チームビルディング ：
　医療における組織とリーダシップ（横内光子）
12.保健医療福祉に携わる人々の間の調整（洪愛子）
13. ヘルスケアサービスと診療報酬（洪愛子 ）
14. ヘルスケアにおける看護サービスの質向上と制度化 ：
　看護サービスの可視化、評価指標、評価に基づく制度化のプロセス（洪愛子 ）
15. 看護管理に携わる看護職との協働（洪愛子 ）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目A：看護管理論

[成績評価方法]
授業への参加度(40%) と課題レポート(60%) で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
看護サービス管理第4版　著者名：中西睦子（2013）　出版社：医学書院 （978-4260017367）

[参考書（ISBN）]
Nursing: Scope and Standards of Practice(Ana,Nursing Administration: Scope and Standards of Practice) 著者名：ANA (2010) 出版社：American Nurses Association (978 -1558102828)
サービス・ マネジメント入門　第3版　著者名：近藤隆雄（2007）　出版社：生産性出版 （978-4820118770）
サービス・イノベーションの理論と方法　著者名：近藤隆雄（2012）　出版社：生産性出版 （978-4820120032）
Multi-professional Edition 2011 World Health Organization 2011,
http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44641/1/9789241501958_eng.pdf 著者名：WHO Patient Safety Curriculum Guide

N21000020 [GB5-201]

科目名	看護理論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子、中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 看護理論の発達の歴史と現在の看護学発展の状況を学び、看護実践への有用な理論及び概念について理解を深める。
2. 看護理論の活用ために、概念分析の手法を用いて関心のある看護現象の特徴の特定化または中心概念の抽出について理解を深める。
3. 看護の発展及び理論活用のために、学生間での実践コミュニティの育成方法の選択・方略、成果の方向性について明らかにする。

[授業概要]
実践科学としての看護学について、看護理論の発達の歴史と現在の看護学発展の状況を知り、看護実践への有用な理論及び概念について理解を深め、実践及び研究への活用を促進する。まず、今後の看護学の発展と看護理論の活用のために、概念分析の手法を用いて中心概念または看護現象の特徴の特定化について理解を深める。さらに、学生間の実践コミュニティの育成方法の選択・方略、成果の方向性について学ぶ。具体的には、実践コミュニティを育成しながら、学習の発展と知の創成ができるよう進める。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 看護ケアの構造と実践コミュニティに関連する書籍・論文を検討し、まとめる。
2. 自身の関心のある看護現象と関連する既知の概念について調査し、整理する。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 看護学と看護理論の発展（野並葉子） 4/14　Ⅵ
2. 看護学の理論的思考 ・現象・概念モデル・理論（野並葉子）4/28　Ⅵ
3. 看護理論の評価 （中岡亜希子）4/28　Ⅶ
4. オレムのセルフケア不足看護理論の理解Ⅰ（野並葉子、中岡亜希子）5/12　Ⅵ
5. オレムのセルフケア不足看護理論の理解Ⅱ（野並葉子、中岡亜希子） 5/12 Ⅶ
6. オレムのセルフケア不足看護理論の分析と評価（野並葉子、中岡亜希子）5/26 Ⅵ
7. 看護理論の教育・研究への活用Ⅰ（野並葉子、中岡亜希子）5/26 Ⅶ
8. 看護理論の教育・研究への活用Ⅱ（中岡亜希子）6/9 Ⅵ
9. 概念開発における概念分析の重要性と手法の実際（中岡亜希子、野並葉子）6/9Ⅶ
10.概念分析の手法の実際（中岡亜希子）6/23 Ⅵ
11. 概念の明確化：文脈の定義・下位概念の吟味・境界などの分析1（中岡亜希子、野並葉子）6/23 Ⅶ
12.概念の明確化：文脈の定義・下位概念の吟味・境界などの分析2 （中岡亜希子、野並葉子）7/7 Ⅵ
13.概念の明確化：文脈の定義・下位概念の吟味・境界などの分析3（中岡亜希子、野並葉子）7/7　Ⅶ
14. 理論開発のための実践コミュニティの意義（野並葉子、中岡亜希子）7/21 Ⅵ
15. 実践コミュニティと学習の発展と知の創成（野並葉子、中岡亜希子）7/21Ⅶ

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目A：看護理論

[成績評価方法]
看護理論の活用についてのレポート（40 %）、概念分析の結果のレポート（30 %）、な らびに看護ケア開発のための実践コミュニティ育成プランのレポート（30 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
看護理論家の業績と理論評価，第2版　著者名：筒井真優美編集（2020）　出版社：医学書院 （978-4-260-03961-1）
コミュニティ・オブ・プラクティスーナレッジ社会の新たな知識形態の実践ー　著者名：エティエンヌ・ウェンガー，リチャード・マクダーモット，ウィリアム・M・スナイダー 著，櫻井祐子，野中郁次郎，野村恭彦 著（2002）　出版社：SHOEISHA （978-4798103433 ）

[参考書（ISBN）]
看護理論の分析と評価　著者名：Jacqueline Fawcett 著（太田喜久子・筒井真優美監訳）（2008）　出版社：医学書院 （978-4260006880）

N21000030 [GB5-202]

科目名	看護倫理展開論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子、藤田　冬子、玉木　敦子、内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 看護倫理の基盤となる諸理論と関連する重要な概念について理解する。
2. 看護実践の中で生じる倫理的課題や倫理的ジレンマについて分析し説明することができる。
3. 保健医療福祉の現場や看護のあらゆる面において倫理的判断を行い、葛藤の軽減や解決にむけた専門看護師の役割を理解する 。

[授業概要]
看護倫理の基盤となる諸理論と関連する重要な概念や現代社会における倫理的課題、生死に関わる倫理的課題について概観し、その中で生じている葛藤や倫理的ジレンマについて学ぶ。さらに、また、専門看護師が持つ葛藤や倫理的ジレンマに対して、組織的に対応すべき課題や対処についても学ぶ。その上で、倫理調整や倫理コンサルテーションで必要となる技術について学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
倫理に関わる事例や事件について具体的に想定しながら、事前の授業で学んだ諸概念や提示した事前学習を準備しておくこと。

[授業計画]
1. 看護の倫理的実践における患者と看護師の関係(野並葉子)9/23
2. 倫理的意思決定と価値の対立(野並葉子) 9/30
3. 看護倫理の基盤となる諸理論と関連する重要な概念(野並葉子)10/7
4. 倫理的ジレンマと倫理調整(藤田冬子) 10/14
5. 生死に関わる倫理的課題についての概観(藤田冬子)10/21
6. 医療における倫理的ジレンマに関する事例検討(藤田冬子)10/28
7. 治療方針の決定プロセスにおける小児と家族がもつ倫理的課題についての概観 (内 正子)11/4
8. 小児看護における治療方針の決定プロセスについての分析と倫理調整に関する事例検討 (内 正子)11/11
9. 精神症状をもつ人の人権擁護についての概観(玉木敦子) 11/18
10. 精神症状をもつ人の人権擁護に関する事例検討 (玉木敦子)11/25
11. 高齢者看護における治療選択・療養支援における倫理的課題の概観(藤田冬子)12/2
12. 高齢者および家族の治療選択・療養支援における倫理調整の事例検討(藤田冬子)12/9
13. 組織における倫理課題と対処(藤田冬子) 12/16
14. 臨床倫理委員会をはじめとした体制整備(藤田冬子)1/6
15. 今後に向けた看護倫理の教育・実践・研究課題と方略(野並葉子・藤田冬子)1/13
)

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目A:看護倫理

[成績評価方法]
授業への参加度 (40 %)とレポート(60 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
看護実践の倫理　著者名:サラ T. フライ著, 片田範子訳(2010)　出版社:日本看護協会出版会 (978-4818015128)

[参考書(ISBN)]
臨床倫理学—臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ　著者名:Albert R.Jonsen Mark Siegler , William J.Winslade著, 赤林朗 他 監訳(2006)　出版社:新興医学出版社 (978-4880024851)
命と向き合う看護と倫理　著者名:エルシー・ L・バンドマン他著, 木村利他訳(2010)　出版社:人間と歴史社 (978-4890071777)
看護倫理 1　著者名:ドローレス・ドゥーリー他著, 坂川雅子訳(2016)　出版社:みすず書房 (978-4622062462)
看護倫理 2　著者名:ドローレス・ドゥーリー他著, 坂川雅子訳(2016)　出版社:みすず書房 (978-4622062479)
看護倫理3　著者名:ドローレス・ドゥーリー他著, 坂川雅子訳(2016)　出版社:みすず書房 (978-4622062486)

N21000070 [GB5-206]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]

看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●　東 ますみ
慢性疾患患者に対する遠隔看護による効果的な介入プログラムやシステムの開発、看護における情報システムの活用等の看護情報や遠隔看護に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。
個別面接時に助言する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530 [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●魚里 明子
地域看護学領域におけるさまざまな年齢層、健康レベルの人々を対象としたコミュニティでの健康づくり活動、生活習慣病予防等、学生の関心のある研究課題に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530A [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1)
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2)
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1)
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2)
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3)
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1)
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2)
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1)
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2)
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3)
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1)
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2)
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3)
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1)
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2)
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3)
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4)
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1)
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2)
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3)
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4)
24. 研究計画書の作成 1)
25. 研究計画書の作成 2)
26. 研究計画書の作成 3)
27. 研究計画書の作成 4)
28. 研究計画書の作成 5)
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●宇賀 昭二
国際保健学に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション(50 %) と成果物 (50 %) で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜示する。

N21000530B [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●内 正子
慢性疾患や障害を有する小児の看護ケアや家族支援に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530C [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●加治 秀介
代謝性疾患患者の医療・看護に関する基礎知識と精査をもとに、心血管病予防に向けた研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。成果物はコメントして返却

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530D [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1)
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2)
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1)
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2)
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3)
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1)
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2)
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1)
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2)
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3)
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1)
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2)
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3)
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1)
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2)
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3)
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4)
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1)
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2)
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3)
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4)
24. 研究計画書の作成 1)
25. 研究計画書の作成 2)
26. 研究計画書の作成 3)
27. 研究計画書の作成 4)
28. 研究計画書の作成 5)
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●洪 愛子
看護サービスの開発や感染管理システム、および看護政策を含むヘルスケアマネジメントに関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション(50 %) と成果物 (50 %) で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜示する。

N21000530E [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。授業前後に各2時間程度。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1)
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2)
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1)
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2)
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3)
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1)
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2)
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1)
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2)
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3)
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1)
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2)
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3)
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1)
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2)
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3)
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4)
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1)
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2)
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3)
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4)
24. 研究計画書の作成 1)
25. 研究計画書の作成 2)
26. 研究計画書の作成 3)
27. 研究計画書の作成 4)
28. 研究計画書の作成 5)
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●下敷領 須美子
ウィメンズヘルスケアやマタニティヘルスケアに関する文献検討を基に自らの研究課題を明確にし、研究計画を完成させる。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション(50 %) と成果物 (50 %) で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜示する。

N21000530F [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●玉木 敦子
精神健康問題の予防的介入および精神障がいをもつ人やその家族への看護ケアに関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530G [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●中岡 亜希子
看護教育に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530H [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	中村　隆		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1)
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2)
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1)
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2)
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3)
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1)
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2)
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1)
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2)
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3)
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1)
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2)
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3)
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1)
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2)
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3)
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4)
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1)
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2)
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3)
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4)
24. 研究計画書の作成 1)
25. 研究計画書の作成 2)
26. 研究計画書の作成 3)
27. 研究計画書の作成 4)
28. 研究計画書の作成 5)
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●中村 隆
疫学的手法の開発、医療と看護の効果、成果の測定とその分析方法に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション(50 %) と成果物 (50 %) で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000530I [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●野並 葉子
看護ケア・教育に関する基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530J [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実戦経験を元に以下の内容を講義する。
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
【前期は遠隔授業】
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●藤田 冬子
高齢者に関する基礎知識と精査をもとに、コミュニティで暮らす高齢者のフレイル対策や認知症高齢者のケア、介護家族のケア能力向上に関わる支援について、概観し探求する課題など研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530K [GB5-240]

科目名	研究セミナー	前期～後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究テーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解する。
2. 研究活動の基盤となる関連知識の精査・探求方法と、論理的な思考に基づく課題の明確化の基本的なプロセスを学び、それを適切に表現する技術を習得する。
3. 研究疑問について精査を重ね、研究目的として明確に表現し、研究目的に応じた研究方法を選択して、具体的な研究計画を立案する能力を身につける。

[授業概要]
研究コースの学生が、専門分野における研究疑問を暫定的な研究テーマとして、そのテーマに関する研究や実践の歴史的な背景、関連する理論やモデル、その分野における位置づけなどについて精査を重ね、テーマに関する基礎的な知識を幅広くかつ多角的に理解することを目指し、主指導教員を中心としたゼミナール形式の指導を行なう。演習Ⅰの文献レビューと関連付けながら、暫定的な研究テーマを研究目的として明文化し、それに応じた研究計画を立案するプロセスを学ぶ。学生の主体的な学習とそれに基づくプレゼンテーションとディスカッションを繰り返し、教育・研究者として基盤となる学習方法と表現方法の基本を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護研究方法論Ⅰ・Ⅱの授業を参考にしながら、指導教員の指示に応じて事前にプレゼンテーションやディスカッションの準備をして授業に臨む。

[授業計画]
1. オリエンテーション、研究疑問の省察
2. 研究疑問の省察と整理
3. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 1）
4. 研究テーマに関する看護実践や関係する制度の歴史的背景 2）
5. 研究テーマに関連する理論やモデル 1）
6. 研究テーマに関連する理論やモデル 2）
7. 研究テーマに関連する理論やモデル 3）
8. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 1）
9. 研究テーマに関連する他学問分野の研究と実践の現状 2）
10. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 1）
11. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 2）
12. 専門分野、関連学問分野における研究テーマの位置づけ 3）
13. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 1）
14. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 2）
15. 研究テーマに関する基礎的知識の整理 3）
16. 研究疑問から研究課題の明確化へ 1）
17. 研究疑問から研究課題の明確化へ 2）
18. 研究疑問から研究課題の明確化へ 3）
19. 研究疑問から研究課題の明確化へ 4）
20. 研究デザイン、研究方法の検討 1）
21. 研究デザイン、研究方法の検討 2）
22. 研究デザイン、研究方法の検討 3）
23. 研究デザイン、研究方法の検討 4）
24. 研究計画書の作成 1）
25. 研究計画書の作成 2）
26. 研究計画書の作成 3）
27. 研究計画書の作成 4）
28. 研究計画書の作成 5）
29. 研究計画の発表と討議
30. 研究計画の発表と討議

●横内 光子
タイムスタディやシステムシミュレーションの手法を用いたサービス評価方法、効率的なサービス提供システムの構築、ならびに効果的な看護サービスの開発を含むヘルスケアマネジメントについて、基礎知識と精査をもとに、研究課題を明確化し、研究計画を立案する。

[成績評価方法]
プレゼンテーション・ディスカッション（50 %）と成果物（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜示する。

N21000530L [GB5-240]

科目名	高齢者看護学対象論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子、笹谷　真由美、西山　みどり		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1.高齢者の身体的･精神的･社会的側面について包括的にアセスメントできる。
2.高齢者の健康生活をアセスメントするツールを用いて、高齢者を捉えることができる。

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実践経験を元に以下の内容を講義する。
高齢者の身体的･精神的･社会的側面について包括的にアセスメントする視点を養うために、生理的な老化と病的な老化についてそれぞれの特徴と促進する要因及びケアを進めるためのアセスメントを学ぶ。高齢者が持つ力について身体的･精神的･社会的側面から査定するためのアセスメントツールとその活用ができる力を養う。さらに、高齢者のこれまでとこれからの人生に焦点をあて、アセスメントと看護ケアをつなげていく力を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
高齢者ケアの身体的・精神的・社会的特徴について既習の理論を復習し発言できるようにしておく 。

[授業計画]
1.加齢による高齢者の反応と健康障害（藤田冬子、笹谷真由美）
2.高齢者の健康生活の評価方法とアセスメント①（高齢者の健康生活評価の方法）（藤田冬子、笹谷真由美）
3.高齢者の健康生活の評価方法とアセスメント②（アセスメントとケア展開）（藤田冬子、笹谷真由美）
4.高齢者の心理社会的な評価とアセスメント①（心理社会的な評価とアセスメント）（笹谷真由美、藤田冬子）
5.高齢者の心理社会的な評価とアセスメント②（アセスメントとケア展開）（笹谷真由美、藤田冬子）
6.老年症候群の評価とアセスメント①（老年症候群が生じやすい状況と評価）（笹谷真由美、藤田冬子）
7.老年症候群の評価とアセスメント②（老年症候群の事例）（笹谷真由美、藤田冬子）
8.エンドオブライフで受ける影響とアセスメント①（高齢者のエンドオブライフの特徴）（非常勤講師：西山みどり、笹谷真由美）
9.エンドオブライフで受ける影響とアセスメント②（医療保健福祉職や学際的チームの活動）（非常勤講師：西山みどり、笹谷真由美）
10.高齢者の身体機能・心理社会的な評価、エコーを用いたアセスメント①（事例に基づく検討：高齢者の身体的機能のアセスメント）（笹谷真由美、藤田冬子）
11.高齢者の身体機能・心理社会的な評価、エコーを用いたアセスメント②（事例に基づく検討：高齢者の心理社会的機能のアセスメント）（笹谷真由美、藤田冬子）
12.高齢者をケアする多職種による身体的・精神的・社会的アセスメントと専門看護師が行う包括的アセスメント①（高齢者をケアする多職種のアセスメント）（藤田冬子、笹谷真由美）
13.高齢者をケアする多職種による身体的・精神的・社会的アセスメントと専門看護師が行う包括的アセスメント②（包括的アセスメント）（藤田冬子、笹谷真由美）
14.対応困難で複雑なケアニーズを持つ高齢者の健康生活評価と介入の視点（事例に基づく検討）①（複数の評価指標による健康生活評価）（笹谷真由美、藤田冬子）
15.対応困難で複雑なケアニーズを持つ高齢者の健康生活評価と介入の視点（事例に基づく検討）②（健康生活評価とケア展開）（笹谷真由美、藤田冬子）

[成績評価方法]
授業への参加度（30 %）と 課題レポート（70 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
老年看護学技術（改訂第3)最後までその人らしく生きることを支援する　著者名：正木治恵，真田弘美（2016）　出版社：南江堂　(978-4524227112)
老年看護学概論（改訂第 3版)「老いを生きる」を支えることとは　著者名：正木治恵，真田弘美（2016）　出版社：南江堂　(978-4524227099)
高度実践看護―統合的アプローチ　著者名：Ann B. Hamric ,Charlene M. Hanson ,Mary Fran Tracy ,Eileen T. O’Grady著，中村美鈴，江川幸二訳（2017）　出版社：へるす出版　(978-4892699962)

[参考書（ISBN）]
本人の意思を尊重する意思決定支援：事例で学ぶアドバンス・ケア・プランニング　著者名：西川満則，長江弘子，横江由理子編（2016）　出版社：南江堂　(978-4525500214)

N21000310 [GB5-223]

科目名	高齢者看護学特論	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者ケアにかかわる理論と実践への活用		
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1.老年学を踏まえたうえで、老人看護学の諸理論や概念について説明できる。
2.高齢者ケアを実践するうえで重要となる構成要素について実践例をもちいて具体的に説明できる。
3.老人看護専門看護師の役割及び機能について、高度看護実践の具体例を説明できる。

[授業概要]
老年学を理解し老年看護学を構築してきた諸理論や概念、倫理を学び、高齢者についての理解及び高齢者ケアの成り立ちについて学際的に学ぶ。さらに、これらをもとに高齢者ケアを発展させるために必要となる実践の構成要素と統合し洞察する。
また、老人看護専門看護師の役割や機能がどのように実践されているか理解することを通じて、高度看護実践とその活用について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
老年学及び老人看護学の諸理論を検索し熟読するとともに、老人看護専門看護師の実践内容の論文をよみイメージを持っておくこと。

[授業計画]
1. 老年学から老人看護学への発展及び関係する諸理論・概念
2. 高齢者の心理社会的発達及び加齢変化の諸理論①（発達課題の基本理論）
3. 高齢者の心理社会的発達及び加齢変化の諸理論②（発達課題と事例）
4. 高齢者の健康生活を評価する理論や評価尺度①（評価尺度を用いた研究）
5. 高齢者の健康生活を評価する理論や評価尺度②（認知機能と評価尺度）
6. 高齢者の健康を阻害する要因と研究の動向①（健康障害の要因と影響）
7. 高齢者の健康を阻害する要因と研究の動向②（認知機能の低下と健康障害）
8. 高齢者ケアの動向と学際的チーム①（医療・福祉施設における活動）
9. 高齢者ケアの動向と学際的チーム②（地域における活動）
10.高齢者及び家族を取り巻く倫理的課題と研究の動向①（高齢者ケアの倫理的課題）
11.高齢者及び家族を取り巻く倫理的課題と研究の動向②（高齢者家族ケアでの倫理的課題）
12.高齢者ケアを展開する基盤となる理論と研究の動向①（オレム理論等）
13.高齢者ケアを展開する基盤となる理論と研究の動向②（コンフォート理論等）
14.老人看護専門看護師の役割と効果・成果の動向①（活動報告の概観）
15.老人看護専門看護師の役割と効果・成果の動向②（活動成果の概観）

[成績評価方法]
授業への参加度（40 %）と 課題レポート（60 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
老年期－生き生きしたかかわりあい　著者名：E. H. Erikson,J.M. エリクソン,H.Q.キヴニック著 , 朝長正徳,朝長梨枝子 訳（1997）　出版社：みすず書房 （978-4622049029）
老年看護学概論（改訂第 3版）「老いを生きる」を支えることとは　著者名：正木治恵 , 真田弘美（2016）　出版社：南江堂 （978-4-524-22709）
高度実践看護―統合的アプローチ　著者名：Ann B.Hamric ,Charlene M. Hanson , Mary Fran Tracy, Eileen T. O’Grady著, 中村美鈴, 江川幸二 監訳（2017）　出版社：へるす出版 （978-4-89269-996-2）

[参考書（ISBN）]
オレムのセルフケア・モデル(看護モデルを使う(1))　著者名：スティーブンJ. カバナ著 , 数間恵子, 雄西智恵美 翻訳(1993)　出版社：医学書院 （978-4260341080）
コンフォート理論―理論―の開発過程と実践への適用　著者名：キャサリン・コルカバ著, 太田喜久子訳（2008）
出版社：医学書院 （978-4260005654）

N21000300 [GB5-222]

科目名	高齢者看護学方法論	前期	2 単位
サブタイトル	高齢者と家族への看護実践		
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 高齢者と家族を諸理論に基づいて理解しアセスメントすることができる。
2. 健康障害や介護による高齢者家族への影響を分析し介入方法を説明することができる。

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実践経験を元に以下の内容を講義する。
家族の理解を基盤として、加齢にともない変化する家族の役割や機能を家族の諸理論や家族病理をもとに理解するとともに、家族アセスメントの方法を学びそれに基づく家族像の形成および家族との援助関係の構築について学ぶ。さらに、様々な状況にある家族事例をもとに、家族アセスメントを行い、家族の個別性に応じた家族看護介入について検討する。高齢者と家族が抱える課題について家族として成長できるための援助関係の構築についても学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
高齢者から見た家族への手記、家族の介護体験の手記を複数よみ理解を深めておく。複数の家族理論について学習しておく。

[授業計画]
1. 家族社会学を概観し家族看護学への発展について理解を深める。
2. 家族についての諸理論を概観し、高齢者と家族への理解を深める。
3. 高齢者と家族についての研究の動向について概観し理解を深める。
4. 高齢者と家族の情報収集とアセスメントについて概観し理解を深める。
　渡辺式家族アセスメントモデルを用いた高齢者と家族のアセスメント事例に基づき、高齢者家族の特徴を明らかにする。
5. 高齢者と家族の情報収集とアセスメントについて概観し理解を深める。
　家族エンパワーメントモデルを用いた高齢者と家族のアセスメント事例に基づき、高齢者家族の特徴を明らかにする。
6. 老いに直面する高齢者が家族に対して行う様々な意思決定、倫理的課題について理解を深める 。
7. 老いに直面する高齢者と家族がともに行う様々な意思決定、倫理的課題、エンド・オブ・ライフ、治療選択における高齢者と家族内の意向調整について、高齢者および家族の手記、研究、諸理論について理解を深める。
8. 高齢者の介護に関連した家族への影響について、研究の動向を概観し理解を深める。
9. 高齢者の介護に影響する家族の歴史、高齢者と家族の相互作用、家族間の愛着形成、介護のやりがいと介護負担、介護で生じやすい倫理的課題、高齢者虐待について理解を深める 。
10. 高齢者家族介入プログラム の相互作用に関する研究の動向を概観する 。
　高齢者と家族の相互作用による介入プログラムについて理解を深める。
11. 高齢者家族介入プログラム の介護能力向上に関する研究の動向を概観する 。
　介護者家族を対象とした能力向上プログラムについて理解を深める。
12. 高齢者と家族の援助関係形成と介入スキルについての研究の動向を概観する。
　高齢者と家族の援助関係を支えるケアシステムとその効果について概観する。
13. 高齢者と家族の援助関係形成と介入方法、介入後の評価について理解を深める。
14. 事例検討 1)家族システム:専門看護師による家族介入
　高齢者家族形態に応じて展開する介入事例について理解を深める。
15. 事例検討 2)倫理的葛藤: 専門看護師による家族介入
　高齢者と家族が抱える倫理的葛藤への介入事例を中心に理解を深める。

[成績評価方法]
授業への参加度(30%)と 課題レポート (70 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
家族看護学 理論と実践 第5版　著者名:鈴木 和子, 渡辺 裕子 著　出版社:日本看護協会出版会 (978-4818022089)
最新 老年看護学 第3版　著者名:水谷 信子 監修　出版社:日本看護協会出版会 (978-4818023048)
家族エンパワーメントをもたらす看護実践　著者名:野嶋 佐由美監修　出版社:へるす出版 (978-4892695407)

[参考書(ISBN)]
新しい家族社会学 第四版　著者名:森岡 清美, 望月 嵩 著　出版社:培風館 (978-4563050344)

N21000320 [GB6-207]

科目名	国際保健・疫学論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二、田村　康子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 地球規模の健康問題(グローバルヘルス)に関する概念や歴史を理解する。
2. 途上国の保健･医療や生活支援などの国際的な公衆衛生看護活動を推進する上で必要な基礎概念と方法論について理解する。
3. 文献講読等の演習を通じてグローバルヘルスの実践に必要な疫学の基礎を理解する。

[授業概要]
本科目では、グローバルヘルスにおける主な課題と論点の理解、あるいは理論的背景の概説に加えて、国際保健看護活動の分析と解釈のために必要な、疫学の実践的演習を行う。言い換えれば、グローバルな視点で南北間の健康格差を認識すると共に、それらの原因となる背景要因を学ぶことを目標とする。講義では、国際保健やそれと関係する疫学のいくつかの主要課題についてそのフレームワークを示し、個々の課題についての原因分析を行うため、学生は感染症論、国際保健医療協力論、あるいはプライマリーケア論や疫学の実践方法論などを学ぶことになる。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
授業科目に関する課題等を、文献あるいは参考図書などを読んで考えておくこと。

[授業計画]
1. 総論 :「国際保健からグローバルヘルス」を学ぶ(宇賀昭二)
2. 国際社会における貧困の問題:貧困はいかにして生まれるか？(宇賀昭二)
3. 国際社会における貧困の問題:貧困と健康(宇賀昭二)
4. SDGsに関して(宇賀昭二)
5. 開発途上国と感染症の疫学(宇賀昭二)
6. 国際的な人権宣言, 権利としての健康, ヒューマニゼーション(宇賀昭二)
7. 人間の安全保障、世界における女性と子どもの健康(宇賀昭二)
8. 国際開発援助の歴史的変遷(宇賀昭二)
9. 保健医療分野における国際機関および協力活動(宇賀昭二)
10. 海外における看護活動の枠組み(洪　愛子)
11. 世界における健康問題:文化的マイノリティである人々の健康、都市化と生活習慣病(宇賀昭二)
12. 異なる文化における保健活動の展開と評価(宇賀昭二)
13. 国際保健医療協力活動の実際: 二国間援助における活動の実際(宇賀昭二)
14. 国際保健医療協力活動の実際:二国間援助における活動の実際(宇賀昭二)
15. 総合討論とまとめ(宇賀昭二・洪　愛子)

[成績評価方法]
講義中に行う質問への回答内容(40 %)と 課題レポート(60 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
担当教員より資料を配布する。

[参考書(ISBN)]
担当教員より 適宜提示する。

N21000090 [GB5-208]

科目名	コンサルテーション論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子、藤原　由子、元木　絵美		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. コンサルテーションの基本概念と理論および技術について理解する。
2. 看護の臨床場面で発生する問題へのコンサルテーションの適用、専門看護師によるコンサルテーションの実際と課題について理解する。
3. 看護コンサルタントとしての具体的な実践方法（姿勢や態度、アセスメント技術 、対人関係技術 、介入技術 、評価方法等）を習得する。

[授業概要]
コンサルテーションの基本概念と理論および技術について学ぶ。また、看護の臨床場面で発生する問題へのコンサルテーションの適用、専門看護師によるコンサルテーションの実際と課題について理解する。さらに、コンサルテーション事例を用いたグループディスカッションを通して、看護コンサルタントとしての具体的な実践方法（姿勢や態度，アセスメント技術，対人関係技術，介入技術，評価方法等）を習得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
提示された文献について十分に理解して、準備したうえで受講する。

[授業計画]
1. 看護におけるコンサルテーションの動向と実践（玉木 敦子 ）
2. コンサルテーションの概念・理論、コンサルテーションとコラボレーション、スーパービジョン（玉木 敦子 ）
3. コンサルテーションのプロセスとコンサルタントの役割（玉木 敦子 ）
4. コンサルテーションにおける人間関係（玉木 敦子 ）
5. メンタルヘルス・コンサルテーション（ 市川 久美子 ）
6. コンサルテーションの課題（元木 絵美 ）
7. 変化促進者としてのコンサルタント（元木 絵美 ）
8. コンサルテーションの実際1）（ケース中心のコンサルテーション（元木 絵美 ）
9. コンサルテーションの実際 2）（コンサルティ中心のケース・コンサルテーショ ン）（ 元木 絵美 ）
10. コンサルテーションの実際 3）（管理者中心のケース・コンサルテーション）（ 藤原 由子 ）
11. コンサルテーションの実際 4）（プログラムに関する管理者中心のコンサルテーション）（藤原 由子 ）
12. コンサルテーションの実際 5）（事例検討によるグループコンサルテーション）（藤原 由子 ）
13. 事例を用いた模擬コンサルテーション1）（藤原 由子・元木 絵美 ）
14. 事例を用いた模擬コンサルテーション2）（藤原 由子・元木 絵美 ）
15. 事例を用いた模擬コンサルテーション3）（藤原 由子・元木 絵美 ）

高度実践看護師基準に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容 別表1-1
共通科目Ａ :コンサルテーション論

[成績評価方法]
授業への参加度（50%）と課題レポート（50%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
Consulting Process in Action. LA Jolla　著者名：Lippitt, G. & Lippitt, R. (1986)　出版社：CA University Association, California　(978-0883901410)
Mental Health Consultation and Collaboratio　著者名：Caplan, G & Caplan,　R.B. (1993)　出版社：Waveland Press. IL. (Reissued 1999)　(978-1577660736)
プロセス・コンサルテーション―援助関係を築くこと　著者名：Schein, E.H.(2012)：稲葉元吉，尾川丈一訳　出版社：白桃書房　(978-4561131403)

N21000060 [GB5-205]

科目名	小児看護学特論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 小児の成長発達 、セルフケアについての理論を説明することができる。
2. 小児を取り巻く外的環境についての理論を説明することができる。
3. 小児の健康生活維持のため諸理論と看護実践への活用について考察できる。
4. 小児を取り巻く将来的課題について明らかにすることができる。
5. 関心 のある 看護現象についての研究の動向を考察することができる 。

[授業概要]
小児の成長発達、セルフケア、家族に関する主要な理論を学び、看護実践における理論および概念の活用を考察する。また、小児を取り巻く社会や医療の現状から、小児看護における倫理的課題を明らかにする。さらに、研究動向から最近の知見を分析し、小児看護の課題を探求する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
提示された文献を抄読しておく。
臨床経験において自己の課題を明らかにしておく。

[授業計画]
1. コースオリエンテーション
小児看護における倫理1)
・児童憲章・子どもの権利条約 ・療養環境における小児の権利擁護
・インフォームドコンセント ・アセント
2. 小児看護における倫理2)
・療養に関わる意思決定 ・臨床場面での倫理的課題 ・事例分析
3. 発達理論 1)・認知:ピアジェ
4. 発達理論 2)・自我心理社会性:エリクソン
5. 発達理論 3)・関係性:ボウルビィ、マーラー
6. 発達理論の看護実践への活用 1)
・各発達段階(乳児期・幼児期・学童期・思春期)および様々な健康レベルにおける看護実践への活用を検討
7. 発達理論の看護実践への活用2)
・事例分析
8. セルフケア理論1)
・理論を構築する概念の理解、小児セルフケア能力の発達、影響因子
9. セルフケア理論2)
・様々な状況にある小児のセルフケアの理解、小児のセルフケアと家族
10 . セルフケア理論の看護実践へ活用
・事例分析
11 . 家族理論1)
・家族システム ・家族発達 ・家族機能 ・家族ストレス対処
12 . 家族理論 2)
・家族アセスメント ・家族介入モデル
13 . 家族理論の看護実践への活用
・様々な状況にある小児の家族における看護実践への活用 ・事例分析
14 . 小児看護における今日的課題ついて文献検討
・小児を取り巻く現状と課題の検討
15 . 自己の関心ある看護現象についての理論を活用した分析
・高度看護実践としての対象理解について理論を用いて分析する
＊資料の配布、国内外の文献紹介を事前に行う。授業までに抄読しておくこと。

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある
科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児・家族の成長・発達／健康生活に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度 (50 %)と課題レポート(50 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
知能の誕生　著者名:J・ピアジェ,谷村覚訳(1978)　出版社:ミネルヴァ書房 (978-4623011513)
幼児期と社会1　著者名:E・ H・エリクソン ,仁科弥生訳(1977)　出版社:みすず書房 (978-4622022817)
幼児期と社会2　著者名:E・ H・エリクソン ,仁科弥生訳(1980)　出版社:みすず書房 (978-4622022824)
Ⅰ愛着行動(母子関係の理論) 著者名:J・ボウルビィ,黒田実郎訳 (1991)　出版社:岩崎学術出版社 (978-4753391028)
Ⅱ分離不安(母子関係の理論) 著者名:J・ボウルビィ,黒田実郎訳 (1995)　出版社:岩崎学術出版社 (978-4753391035)

N21000210 [GB5-217]

科目名	小児看護学特論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	二宮　啓子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 小児のストレスに関する諸理論について説明できる。
2. 小児のストレスについて発達的特徴と看護との関連を説明できる。

[授業概要]
小児の健康生活にかかわる諸要因のうち、健康障害に関連するストレスに焦点をおき、医療を受けるときのストレスを中心に、痛みへの対処、説明に対する理解など、小児特有の反応と家族特有の反応を学び、個々の発達段階と状況を考慮した小児と家族への看護を考察する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
提示された文献の抄読をしておくこと。
臨床経験での小児ストレスの現象を明らかにしておくこと。

[授業計画]
1. 臨床場面における子どものストレスとプレパレーション
　ストレスの予防および緩和方法を学び、小児看護への適用を検討する。
2. ストレスとは何かーストレスが身体に及ぼす影響ー
3. 生活ストレスとは何かーその理論と方法ー
4. ストレス・コーピング理論ーその理論と方法ー
5. ストレス心理学ー個人差のプロセスとコーピングー
6. ストレスと対人関係
7. 対人関係と適応ーストレス対処の理論と実践ー
8. 発達段階におけるストレス:乳児期のストレス
9. 発達段階におけるストレス:児童期のストレス
10. 子どものストレス・コーピングについて
11. 激動社会の自己効力ーSelf-Efficacy理論ー
12. 適応と援助について
13. 認知的不協和理論について
14. Penderのヘルスプロモーションモデルについて
15. 小児看護場面におけるヘルスプロモーションモデルの活用について

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児・家族の成長・発達/健康生活に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度 (60 %)、課題レポート(40 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
The stress of life, revised edition／現代社会のストレス(原書改訂版)　著者名:Hans Selye著, 杉靖三郎他訳(1988)　出版社:法政大学出版 (978-4588002434)
Stress, Appraisal, and coping :ストレスの心理学　著者名:Lazarus, R. S.＆Folkman, S著, 本明寛他監訳(1991)　出版社:実務教育出版 (978-4788960701)
激動社会の自己効力　著者名:アルバート・バンデューラ著, 本明寛・野口京子監訳(1997)　出版社:金子書房 (978-4760822836)
Health Promotion in Nursing Practice　著者名:Pender,N., Murdaugh,C. & Parsons,M.A (2014)　出版社:PEASON (978-0133108767)

N21000220 [GB5-218]

科目名	小児看護学方法論Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、菅野　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 小児期に特有な疾患の病態生理を説明することができる。
2. 小児期に特有な疾患の診断に必要な検査について説明することができる。
3. 小児期に特有な疾患の治療プロセスについて説明することができる。
4. 症状マネジメントの方略を考察することができる。

[授業概要]
小児期に特有な疾患の病態生理、診断、検査とその解釈法、治療法について理解を深め、CureとCareを融合させた症状マネジメントの実践方法について学ぶ。さらに、高度看護実践への方略の開発に向けて考察する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
毎回提示される疾患の文献を抄読しておくこと。

[授業計画]
小児看護実習Ⅰと並行して行う。
場所は神戸市立医療センター中央市民病院、にこにこハウス医療福祉センターにて行う。
1.呼吸器疾患の小児の診断と治療 1)(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院 、内正子)
・細気管支炎 ・肺炎
2. 呼吸器疾患の小児の診断と治療2)(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院 、内正子)
・気管支喘息
3. 消化器疾患の小児の診断と治療 (学外特別講師　神戸市立医療センター中央市民病院 、菅野由美子)
・急性胃腸炎 ・急性虫垂炎 ・潰瘍性大腸炎
4. 循環器疾患の小児の診断と治療 (学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院、菅野由美子)
・先天性心疾患 ・川崎病
5. 代謝・内分泌疾患の小児の診断と治療(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院 、内正子)
・1型糖尿病 ・下垂体疾患 ・副腎疾患
6. 免疫疾患の小児の診断と治療 (学外特別講師　神戸市立医療センター中央市民病院、内正子)
・若年性特発性関節炎
7.アレルギー疾患の小児の診断と治療(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院、内正子)
・食物アレルギー ・アレルギー性紫斑病
8. 血液疾患の小児診断と治療(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院、菅野由美子)
・白血病 ・悪性リンパ腫
9. 腫瘍性疾患の小児の診断と治療(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院 、菅野由美子)
・神経芽腫 ・脳腫瘍
10. 腎・泌尿器疾患の小児の診断と治療 (学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院、内正子)
・ネフローゼ症候群 ・IgA腎炎
11. 小児救急における診断と治療(学外特別講師 神戸市立医療センター中央市民病院 、内正子)
12. 発達障害の小児の診断と治療(学外特別講師 にこにこハウス医療福祉センター、内正子)
13. 在宅医療を受ける小児の診断と治療(学外特別講師 にこにこハウス医療福祉センター、内正子)
・神経・筋疾患
14. 急性期の状況にある小児の症状マネジメント(菅野由美子)
15. 慢性期の状況にある小児の症状マネジメント (内正子)

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児の病態・治療に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度(60 %)と課題レポート (40 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000230 [GB5-219]

科目名	小児看護学方法論Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 小児看護専門看護師の役割と機能について説明することができる。
2. 専門看護師としての役割機能を遂行するための技法について説明することができる。
3. 複雑で対応困難な課題に対する方策を考察することができる。
4. 小児看護における変革者としてのあり方を考察することができる。

[授業概要]
複雑な状況にある小児と家族の看護問題に対して、専門看護師としての倫理的判断および臨床判断に基づき、状況に応じた実践能力を向上させるための基盤となる諸理論を理解する。また、専門看護師としての役割や機能について学び、問題解決に用いる方法論の選定について考察する。さらに、小児看護の課題を明確にし、現状を変革する方策を検討し、専門看護師としてのあり方を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
提示された文献の抄読をしておくこと。

[授業計画]
【遠隔授業】

1.　小児看護専門看護師の役割と機能1)(内正子)
　・小児医療における高度実践看護の現状
　・小児看護における専門看護師としての位置づけ
2.　小児看護専門看護師の役割と機能2)(内正子)
　・文献検討から専門看護師の機能の検討
3.　実践能力を向上させるための方法1)(内正子)
　・臨床判断モデル　・リフレクション
4.　実践能力を向上させるための方法2)(内正子)
　・事例検討
5.　専門看護師の実際の活動1)高度実践)(吉田陽子、内正子)
6.　小児と家族に対するケア提供者へのコンサルテーション(内正子)
　・ケア提供者との援助関係　・コンサルテーション技術
7.　専門看護師の実際の活動2)コンサルテーション(山本千晴、内正子)
8.　小児と家族を取り巻くチームやメンバーへの調整(内正子)
　・小児と家族を取り巻く職種　・他職種理解
9.　多職種チームアプローチ(内正子)
10.　専門看護師の実際の活動3)調整(吉田陽子、内正子)
11.　小児看護における倫理(内正子)
　・臨床における倫理的ジレンマ　・倫理的課題への対応　・倫理調整の方法
12.　専門看護師の実際の活動4)倫理調整(山本千晴、内正子)
13.　小児看護実践と研究(内正子)
　・実践における研究活動　　・小児を対象とする研究倫理
　・研究成果を実践に活用する方法
14.　小児を取り巻くケア提供者へのケア向上のための教育的関わり(内正子)
　・教育的アプローチ　・動機付け　・ロールモデル
15.　小児看護領域における援助技術や援助方法についてエビデンスに基づいた方法の検討(内正子)
　・専門看護師に求められる今後の課題

＊資料の配布、国内外の文献の紹介を事前に行う。授業までに抄読しておくこと。

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児看護援助の方法に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度(60%)と課題レポート(40%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
専門看護師の思考と実践　著者名:井部俊子(2015)　出版社:医学書院　(978-4260024006)

[参考書(ISBN)]
高度実践看護—統合的アプローチ　著者名:Ann B. Hamric, Charlene M. Hanson, Mary Fran Tracy, Eileen T. O'Grady 著, 中村 美鈴, 江川 幸二 (翻訳)(2017)　出版社:へるす出版　(978-4892699283)
謙虚なコンサルティング——クライアントにとって「本当の支援」とは何か　著者名:Edgar H.S著, 野津智子訳(2017)　出版社:英治出版　(978-4862762252)

N21000240 [GB6-203]

科目名	小児看護実習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、菅野　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 外来受診する小児の疾患の診断と治療プロセスを理解することができる。
2. 入院している小児の疾患の診断と治療プロセスを理解することができる。
3. 小児看護専門看護師として診断治療プロセスに必要な能力を考察することができる。

[授業概要]
小児看護専門看護師として、小児期に特有な疾患の診断、治療に至る実際のプロセスを学び、看護の視点からそれらを統合し、専門的ケアが実践できる能力を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
共通科目(フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学)及び小児看護学方法論Ⅰを復習しておくこと 。

[授業計画]
1.実習場所
神戸市立医療センター中央市民病院
2.実習体制
実習指導は、実習担当教員と臨床の実習指導者(小児科医師および小児看護専門看護師)が連携して行う。
3.実習内容(実習要項参照)
1)実習指導者が担当する外来において、受診された小児と家族に関わる。
・実習指導者の診察に同席し、検査、診断基準、治療プロセスを見学する。
・小児のフィジカルアセスメントについて一部実施する。
・小児期に特有な疾患について様々なケースに関わる。
・実習後、実習指導者とカンファレスを行い、自己の判断について確認する。
・実施した臨床判断について 、実習指導者より助言を受けて考察する。
2)実習指導者が主治医である入院中の小児と家族に関わる。
・実習指導者の診察に同席し、検査・診断基準、治療のプロセスを見学する。
・小児のフィジカルアセスメントについて一部実施する。
・事例に対するヘルスアセスメントを医師に確認する。
・実習後、実習指導者とカンファレンスを行い、自己の判断について確認する。
・実施した臨床判断について、実習指導者より助言を受けて考察する。
・実習指導者らの行うケースカンファレンスに参加し、診断治療の理解を深める。
・事例に対して治療を支える看護介入について臨床実習者と検討を行い、看護計画を立案し、実施・評価する。
3)小児の診断と治療について理解し、看護ケアへの統合を分析する。
・適宜、臨床実習指導者と実習担当教員とカンファレンスを行い、自己の臨床能力を確認する。
・小児の診断・治療プロセスについて10例以上のレポートを作成する。

＊実習期間は2週間以上とし、実習到達目標が成されるまで行う。
健康回復に向けた実践のため、連続した日程で実習を展開する。
ゼミナール は週1回以上行い、援助方法や実践評価の妥当性についてスーパーバイズ は週1回以上行い、援助方法や実践評価の妥当性についてスーパーバイズをうける。

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児の診断・治療に関わる実習科目

[成績評価方法]
実習への取り組み(30 %)、事例についてのレポート(病態、診断、治療の理解) (50 %)、ならびに課題レポート(20%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指示しない。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000260 [GB5-220]

科目名	小児看護実習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、菅野　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 複雑な健康問題をもつ小児と家族に対して、包括的なアセスメントが行える。
2. 複雑な健康問題をもつ小児と家族に対して、倫理的視点をもった看護計画を立案し、実施できる。
3. 複雑な健康問題をもつ小児と家族に対して、適切に評価できる。
4. 自己の実践について分析し、課題を明らかにすることができる。

[授業概要]
複雑な健康問題をもつ小児とその家族に関わり、包括的なアセスメントをし、効果的な看護介入を行うことにより、専門看護師としての基礎的態度と判断能力、実践能力を学ぶ。小児とその家族に対する直接的ケアを実践する能力の向上に焦点をあてる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
小児看護学特論Ⅰ・Ⅱ、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱを復習しておくこと。

[授業計画]
1. 実習場所
　兵庫県立こども病院

2. 実習体制
　実習指導は、実習担当教員と臨床の実習指導者（小児看護専門看護師）が連携して行う。

3. 実習内容（実習要項参照）
1）複雑な健康問題をもつ小児と家族に関わる。
　・急性期の健康レベルにある小児を受け持つ。
　・小児のストレス状況、症状マネジメントを主眼とし、包括的なアセスメントを行う。
　・実習指導者のスーパーバイズのもと、看護実践を行う。
　・家族や健康の回復に向けた小児のセルフケア機能を高める援助方法を実践する。
2）小児看護専門看護師として、倫理的判断を含め、看護の援助方法を分析する。
　・適宜、臨床実習指導者と実習担当教員とカンファレンスを行い、自己の臨床能力を確認する。
　・小児に対する直接ケアについて2例以上のレポートを作成する。

　＊実習期間は2週間以上とし、実習到達目標が達成されるまで行う。
　　健康回復に向けた実践のため、連続した日にちで実習を展開する。
　　ゼミナールは週1回以上行い、援助方法や実践評価の妥当性についてスーパーバイズをうける。

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程：高度実践者としての役割に関する実習科目

[成績評価方法]
実習への取り組み（実習達成度）（30%）と事例レポート（50%）、課題レポート（20%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000270 [GB5-221]

科目名	小児看護実習Ⅲ	前期	4 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、菅野　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 複雑な健康問題をもつ小児と家族に対して、包括的な高度看護実践を行い評価することができる。
2. 小児が地域で生活者として過ごすことができるよう他職種との連携・調整・協働を実践し評価できる。
3. 困難な課題解決に向けて専門看護師としての役割(倫理調整、相談、調整、教育)について、専門看護師のスーパーバイズのもと、考察することができる。
4. 自己の実践について分析し、課題を明らかにすることができる。

[授業概要]
複雑な健康問題をもった小児とその家族に関わり、倫理的判断を含め、看護の機能・方法・方向性を検討し、状況に応じた小児看護専門看護師としての判断及び援助方法を学ぶ。小児の成長発達を焦点にあてた長期的な視野での看護介入を実践する。小児が地域における生活者であることを主眼におき、医療施設だけではなく、小児を取り巻く様々なリソースでの実習を通して、小児を包括的に援助することを学ぶ。実習を通して、専門看護師としての自己の課題を明らかにする。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
小児看護の専門科目を復習しておくこと。

[授業計画]
1.実習場所
　兵庫県立こども病院

2.実習体制
　実習指導は、実習担当教員と臨床の実習指導者(小児看護専門看護師)が連携して行う。

3.実習内容(実習要項参照)
1)医療施設において、複雑な健康問題をもつ小児と家族を受け持ち、包括的アセスメントを行い、看護実践を行う。
　・医療施設における療養から在宅療養へ移行する段階において課題をもつ小児を主に受け持つ。
　・援助方法については、今までに学習した内容をまとめ、エビデンスに基づいた看護実践を行う。
　・小児の成長発達、健康状態を包括的に分析し、小児の生活維持・セルフケア能力を判断して看護実践を行う。
　・地域で生活する小児と家族をとらえ、分析し、看護実践を行う。
　・状況に応じて、継続的に看護実践が小児に提供できるように、他のケア提供者に理解が得られるよう、知識や技術の提供方法を検討する。
　・状況に応じて、在宅療養のサポートシステムへの働きかけを立案し、他機関・他職種との調整・協働を実践する。
2)医療的ケアが必要な小児の地域での生活を支える援助
　・地域でのリソースである訪問看護ステーション(特別支援学校を含む)を活用している在宅療養児と家族のアセスメントを行い、在宅での看護実践を行う。
3)小児看護専門看護師として、倫理的判断を含め、看護の援助方法を分析する。
　・適宜、臨床実習指導者と実習担当教員とカンファレンスを行い、自己の臨床能力を確認する。
　・小児に対する直接ケアについて3例以上のレポートを作成する。
　・ケースを通して、専門看護師の役割機能である、調整、教育、相談、倫理調整を行った場合は、レポートを作成する。

＊実習期間は4週間以上とし、実習到達目標が達成されるまで行う。
　小児の成長発達の視点と地域での生活者であることを主眼とするため、長期間(約6か月間)の関わりとする。小児の看護ニーズによって実習日を設ける。
　ゼミナールは週1回以上行い、援助の方向性や方法、実践評価の妥当性についてスーパーバイズをう

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:高度実践者としての役割に関する実習科目

[成績評価方法]
実習への取り組み(実習達成度)(30%)と事例レポート(50%)、課題レポート(20%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000280 [GB6-205]

科目名	小児看護実習Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、菅野　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 複雑な健康問題をもつ小児と家族に対する実践を通して、小児看護専門看護師の役割機能である相談、調整、倫理、教育について分析することができる。
2. 専門看護師のスーパーバイズのもと、問題解決に向けて、倫理調整、コーディネーション、コンサルテーション、教育が実践できる。
3. 小児看護の将来的課題を見出すことができ、小児看護専門看護師の役割開発を考察することができる。
4. 小児看護専門看護師としての自己の課題を明らかにする。

[授業概要]
複雑な健康問題をもつ小児とその家族に関わり、専門看護師に必要な高度実践能力を深める。その実践を通して専門看護師としての役割機能である調整、相談、倫理、教育の能力を学ぶ。さらに、小児看護における将来的課題を見出し、専門看護師としての役割開発を考察する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
小児看護学方法論Ⅱを復習しておくこと。

[授業計画]
1. 実習場所
　兵庫県立こども病院

2. 実習体制
　実習指導は、実習担当教員と臨床の実習指導者（小児看護専門看護師）が連携して行う。

3. 実習内容（実習要項参照）
　専門看護師である臨床実習指導者及び実習担当教員のスーパーバイズのもとに、実習を行う。
 1）専門看護師のシャドーイングを行う。
　・高度実践、倫理調整、コンサルテーション、コーディネーション、教育の活動場面に参画し、その機能を考察する。
 2）複雑な看護問題をもつ小児と家族を担当し、倫理的問題の調整・解決、看護チームへの相談、教育、他職種との調整を専門看護師のスーパーバイズのもと、実践する。
　・複雑な看護問題をもった小児と家族を包括的にアセスメントし、解決に向けての実施計画を立案する。
　・小児と家族が最善のケアを受けることができるよう他職種と調整を行う。
　・小児の人権を保障し、最善の医療を受けることができるよう、倫理調整を行う。
　・対応困難なケースに対して、ケア提供者から解決に向けてのコンサルテーションを受け、解決に向けて実践する。
　・小児に提供されているチームにおいての教育ニーズを分析し、チームやチームメンバーに対して教育活動を実施し評価する。
 3）実習を通して、小児看護における専門看護師の役割について考察を深める。
　・適宜、臨床実習指導者と実習担当教員とカンファレンスを行い、課題について検討し、自己の専門看護師としての課題を見出す。
　・専門看護師としての機能（相談・調整・倫理調整・教育）について、各2例以上のレポートを作成する。

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程：高度実践者としての役割に関する実習科目

[成績評価方法]
実習における取り組み（30%）と事例レポート（50%）、課題レポート（20%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000290 [GB6-206]

科目名	小児高度実践看護演習Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、菅野　由美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 小児と家族から包括的な情報収集の方法について説明できる。
2. 小児の包括的アセスメントについて説明できる。
3. 小児の権利擁護に沿った技法を用いることができる。

[授業概要]
小児の成長発達や生活環境を理解し、各発達段階におけるヘルスアセスメントについて学ぶ。発達段階に応じた適切なアプローチの仕方と高度実践として必要なアセスメントの視点と評価、査定するための方略や技術・技法を学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
提示された文献を抄読しておくこと。
提示された DVDを視聴しておくこと。
使用する機器の取り扱いについて確認しておくこと。

[授業計画]
授業では、シミュレータの活用、ロールプレイなどを用いて行う。
1.コースオリエンテーション(内正子・菅野由美子)
・小児のヘルスアセスメントの意義と目的
2.成長発達に応じた小児への接近の技法 1)(内正子・菅野由美子)
・乳幼児期の小児と家族へのインタビュー技法
3.成長発達に応じた小児への接近の技法 2)(内正子・菅野由美子)
・学童期以降の小児へのインタビュー技法
4.フィジカルイグザミネーションの基本技術(内正子・菅野由美子)
5.発達アセスメントと心理・社会面のアセスメント
環境アセスメント(内正子・菅野由美)
6.家族アセスメント(内正子・菅野由美子)
7.包括的なヘルスヒトリー聴取の技法(内正子・菅野由美子)
8.系統別アセスメント 1)(内正子・菅野由美子)
・頭頚部・鼻・眼・耳のアセスメント・口腔のアセスメント
9.系統別アセスメント 2)(内正子・菅野由美子)
・胸部・呼吸器のアセスメント
10.系統別アセスメント 3)(内正子・菅野由美子)
・心臓・血液系のアセスメント
11.系統別アセスメント 4)(内正子・菅野由美子)
・腹部のアセスメント
12.系統別アセスメント 5)(内正子・菅野由美子)
・運動機能・神経系のアセスメント
13.系統別アセスメント 6)(内正子・菅野由美子)
・生殖器系・皮膚のアセスメント
14.栄養のアセスメント(内正子・菅野由美子)
15.サマリーの記述、事例を用いてのヘルスアセメント(内正子・菅野由美子)

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児看護対象の査定に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度 (討議・発表)(60 %)と 課題レポート (40 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
Pediatric Physical Examination
: An Illustrated Handbook, 3e　著者名:Karen Duderstadt(2018)　出版社:Mosby (978-0323476508)

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000510 [GB5-238]

科目名	小児高度実践看護演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、丸山　有希、菅野　由美子、小路　浩子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 乳幼児、学童の健康増進のための援助方法について説明できる。
2. 様々な健康レベルに沿った小児と家族の援助方法ついて説明できる。
3. 医療的ケアが必要な在宅療養児の援助方法について説明できる。
4. 専門看護師として成長発達・健康レベルに沿った援助方法の開発に向けて考察することができる。

[授業概要]
小児の成長発達、健康生活の維持促進に関する援助方法を学ぶ。様々な状況、健康課題をもつ小児のアセスメントおよび、小児を取り巻く外的環境への働きかけを含めた高度な援助方法を学ぶ。さらに、小児看護専門看護師として様々な健康レベルや状況に応じた効果的なケアについて考察する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
各発達段階・健康レベルに沿った援助方法の文献について抄読しておくこと。
臨床経験における自己の援助方法について課題を明らかにしておくこと 。

[授業計画]
文献やフィールド(子育てサークル、特別支援学校)を通して、援助方法をクリティークする。
1. 乳幼児期の小児における健康増進のための援助(内正子)
・生活環境の調整(栄養・睡眠・遊び) ・予防接種
2. 学童期の小児における健康増進のための援助(内正子)
・ヘルスプロモーション・生活改善プログラム
3. 健康課題をもつ小児の家族への援助 1)(内正子)
・家族中心ケア・子育て支援
4. 健康課題をもつ小児の家族への援助 2)(小路浩子)
・児童虐待
5. 急性期の健康レベルにある小児と家族への援助1)(菅野由美子)
・小児の痛みアセスメント・症状マネジメント
6. 急性期の健康レベルにある小児と家族への援助 2)(内正子)
・インフォームドコンセント　・アセント　・プレパレーション
7.周手術期・集中ケア時にある小児と家族への援助(内正子)
・小児救急
8. 慢性期の健康レベルにある小児と家族への援助 1)(内 正子)
・疾患認知 ・自己管理
9. 慢性期の健康レベルにある小児と家族への援助 2)(内正子)
・移行期やキャリーオーバーの小児
10.小児がんの小児と家族への援助(菅野由美子)
・症状アセスメントを中心としたセルフケア
11.小児におけるエンド ・オブ ・ライフケア(菅野由美子)
12.特別な配慮が必要な小児と家族への援助 1)(小路 浩子)
・在宅療養する小児の各発達段階における特徴と援助方法
13.特別な配慮が必要な小児と家族への援助 2)(小路浩子)
・発達障害児への支援 ・他職種との連携
14.医療的ケアを要する小児と家族への援助(丸山有希)
・特別支援学校での医療的ケア ・家族や他職種との連携
15. 関心のある成長発達段階や健康レベルの事例を通した援助方法の検討(内 正子)
・諸理論や研究成果から新たな援助方法を導く

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児看護援助の方法に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度(討議・発表) (60 %)と 課題レポート (40 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000520 [GB5-239]

科目名	小児高度実践看護課題研究	前期～後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 関心領域における実践に根ざした研究課題を見出すことができる。
2. 研究計画書を作成することができる。
3. 研究計画書に基づき、データ収集、分析ができる。
4. 研究のプロセスに沿って論文をまとめることができる。
5. 専門看護師として研究への態度を身につける。

[授業概要]
専門看護師コースの学生が、専門とする小児看護領域での実践や実習の中で見いだした特定のテーマに関して、研究的な取り組み、その成果を社会に還元する意義とプロセスを学ぶ。テーマを研究課題として明確化し、実践を通じて得た情報を整理・分析・考察してその成果を論文にまとめる。課題探究を通して、小児看護専門看護師として看護実践上の課題解決能力を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
小児看護学、研究方法に関する授業内容を復習しておくこと。

[授業計画]
1. コースオリエンテーション
2. 課題の明確化に向けての検討　自己の臨床経験からの課題
3. 演習や実習を通しての課題の明確化
4. 課題に関する文献検討1):国内の先行研究のクリティーク
5. 課題に関する文献検討2):国外の先行研究のクリティーク
6. 課題に関する文献検討3):文献検討のまとめ
7. 文献検討から得た課題に関する知見
8. 研究計画書の作成1):構成の検討
9. 研究計画書の作成2):課題に対する研究デザインの検討
10. 研究計画書の作成3):フィールドワーク方法の検討
11. 研究計画書の作成4):データ収集方法と分析の検討
12. 研究計画書の作成5):研究における倫理的配慮についての検討
13. 研究倫理審査への申請
14. データ収集1):フィールドへの入り方　対象者へのインフォームドコンセント
15. データ収集2):対象、フィールドとの関係作りとデータ収集
16. データ収集3):データ収集、フィールドノートの作成
17. データ収集4):データ収集、フィールドノートの作成
18. データ収集5):データ収集、フィールドノートの作成、データの確認
19. データ収集と分析1):データの整理と分析
20. データ収集と分析2):データ分析
21. データ収集と分析3):データ分析と確認
22. 研究結果のまとめ1):分析結果の整理と図式化
23. 研究結果のまとめ2):分析結果の解釈
24. 考察の検討1):分析結果の解釈と考察
25. 考察の検討2):分析結果の解釈と考察
26. 考察の検討3):総合的な考察
27. 論文の作成1):論文の構成、アウトラインと整合性の確認
28. 論文の作成2):表現の適切性、文章構成の確認
29. 論文の作成3):発表準備
30. 論文発表

＊ フィールドでの介入や論文作成についての指導は、進捗状況にあわせて適宜行う。

[成績評価方法]
探究への取り組み(課題の焦点化、研究計画書の作成、データ収集・分析)(40%)と成果物(60%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000560 [GB6-214]

科目名	小児保健医療福祉論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子、丸山　有希、小路　浩子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 小児を取り巻く社会における制度・政策について説明できる。
2. 様々な健康レベルにある小児のサポートシステムについて説明できる。
3. 将来的課題を明らかにし、政策提言につなげる方略を考察できる。

[授業概要]
様々な健康レベルにある小児を取り巻く社会のサポートシステムについて学ぶ。地域や在宅で生活する小児の状況を踏まえ、関連領域との連携における高度実践能力を学ぶ。関連する制度・政策について現状を理解し、今後の取り組みや政策提言につなげる方策を考察する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
提示された文献の抄読をしておくこと。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 小児の健康生活を支える社会のサポートシステム1)(内正子)
　・小児保健の現状と課題　・小児を取り巻く保健医療制度
　・国や関連団体による施策(健やか親子21、子ども・子育て支援制度等)
2. 小児の健康生活を支える社会のサポートシステム2)(内正子)
　・小児の各発達段階におけるシステムの概要　・事例分析
3. 小児の健康生活を支える社会のサポートシステム3)(小路浩子)
　・母子保健サービス　・子育て世代包括的ケアに関する現状と課題・少子化対策
4. 小児の健康生活を支える社会のサポートシステム4)(小路浩子)
　・教育に関する制度や政策　・学校保健
5. 小児の健康生活を支える社会のサポートシステム5)(小路浩子)
　・児童福祉　・児童虐待防止に関する制度や方策　・事例分析
6. 医療機関に入院している小児へのサポートシステム1)(内正子)
　・小児医療の現状と課題　・小児の入院環境
　・入院している小児の成長発達を支えるシステム(保育や教育等)
7. 医療機関に入院している小児へのサポートシステム2)(内正子)
　・入院している小児を取り巻く多職種　・事例分析
8. 移行期にある小児へのサポートシステム1)(小路浩子)
　・在宅移行期に起因する現状と課題　・他機関・他職種との連携
9. 移行期にある小児へのサポートシステム2)(小路浩子)
　・事例分析
10. 特別な配慮を要して地域で生活する小児へのサポートシステム1)(小路浩子)
　・医療的ケアが必要な小児を取り巻くシステム
　・小児の訪問看護の現状と課題　訪問看護における制度と施策
11. 特別な配慮を要して地域で生活する小児へのサポートシステム2)(小路浩子)
　・発達に課題をもつ小児を取り巻くシステム
　・地域で小児の生活を支えるシステムの実際と今後の課題
12. 特別な配慮を要して地域で生活する小児へのサポートシステム3)(丸山有希)
　・特別支援教育の歴史的背景　・特別支援教育の現状と課題
13. 特別な配慮を要して地域で生活する小児へのサポートシステム4)(丸山有希)
　・特別支援教育における小児看護の位置づけ　・事例分析
14. 関心のあるテーマについて文献検討と社会提言に向けての方策を検討(内正子)
15. システムを構築していく方法や提言の方法についての検討(内正子)

＊資料の配布、国内外の文献の紹介を事前に行う。授業までに抄読しておくこと。

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
小児看護専攻教育課程:小児の保健/医療環境/制度に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度(60%)と課題レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
担当教員から適宜指示する。

N21000250 [GB6-204]

科目名	女性看護学特論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子、牛越　幸子、田村　康子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 女性のライフステージにおける健康問題・課題とその背景について、ウィメンズ・ヘルスの視点から理解する。
2. リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、セクシュアリティの理解を深め健康支援を考える上で必要な知識を習得し、看護の課題を明らかにする。
3. 思春期、成熟期 、更・老年期にみられる女性の健康問題・課題の特徴と生活への影響、支援について理解し、看護の課題を明らかにする。
4. 女性のライフステージにおける健康支援における看護の役割を考察する。

[授業概要]
女性のライフステージ全般にわたる健康問題・課題について、ウィメンズヘルスの視点から理解を深める。また、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、セクシュアリティの構成概念を学び健康支援について検討する。女性のライフステージ各期の健康課題と支援について文献や研究成果を基に考察し、ウィメンズ・ヘルスにおける看護の役割を探究できる能力を養う。看護師・助産師としての実務経験のある教員が授業にあたる。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
・授業に関連して提示される事前課題について、文献・資料を基にレポート作成し授業に臨む。(2時間程度)
・授業後、資料の確認、授業内の整理（2時間程度）

[授業計画]
1. ウィメンズ・ヘルスの成立ち（下敷領須美子）
2. ウィメンズ・ヘルスにおける健康の捉え方（下敷領須美子）
3. リプロダクティブ・ヘルス・ライツの概念と看護の課題（下敷領須美子）
4. リプロダクティブ・ヘルス・ライツに関する世界の現状（　後任未定　）
5. リプロダクティブ・ヘルス・ライツに関する国際的アプローチ（　後任未定　）
6. セクシュアリティの構成概念（下敷領須美子）
7. セクシュアリティに関わる健康課題（下敷領須美子）
8. 思春期における健康問題・課題の特徴（牛越幸子）
9. 思春期における健康問題 ・課題と支援（牛越幸子）
10．成熟期における健康問題・課題の特徴（下敷領須美子）
11．成熟期における健康問題・課題と支援（下敷領須美子）
12．更・老年期における健康問題・課題の特徴（牛越幸子）
13．更・老年期における健康問題・課題と支援（牛越幸子）
14．ウィメンズ・ヘルスと災害看護（　後任未定　）
15．ウィメンズ・ヘルスと看護の役割（下敷領須美子）

[成績評価方法]
授業への参加度（50 %）と課題レポート（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜資料を指示する。教科書なし

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000420 [GB5-233]

科目名	女性看護学特論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	田村　康子、牛越　幸子、下敷領　須美子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 移行理論や親役割に関連する理論、愛着理論、ソーシャルサポートネットワーク理論について理解する。これらの理解を通して、親になる過程や子どもと養育者の関係性の構築、および母子と社会とのつながりをふまえた看護支援を考察できる。
2. 国内外における周産期にある母子とその家族の現状、課題、ニーズを理解し、現在ある母子保健制度や社会資源、周産期ケアシステムについて検討し、批判的に分析できる。
3. エビデンスに基づいた周産期ケアの実践について考察する。
4. 上記の学びを通して、周産期における母子と家族の課題に対する看護の視点に基づいた支援とは何かを検討する。

[授業概要]
本講義では、周産期にある母子とその家族への看護支援、助産支援、および子を産み育てることに関する社会制度や資源、母子とコミュニティとの関係について、研究的思考に基づいて理解することを目的としている。これらを通して、周産期における課題に実践的に取り組む能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
授業に関連して提示される課題について、文献を用いて資料を作成した上で授業に臨むこと。

[授業計画]
1. 周産期にある母子と家族に関連する概念理解：移行理論について（田村康子）
2. 周産期にある母子と家族に関連する概念理解：親役割に関連する理論について（田村康子）
3. 周産期にある母子と家族に関連する概念理解：愛着に関連する理論について（牛越 幸子）
4. 周産期にある母子と家族に関連する概念理解：愛着に関連する看護研究について（牛越幸子）
5. 周産期にある母子と家族に関連する概念理解：ソーシャルサポートネットワークについて（下敷領須美子）
6. 周産期にある母子と家族に関連する概念理解：母子と家族をとりまくソーシャルサポートネットワークの現状について（田村康子）
7. 日本における母子と家族の現状（下敷領須美子）
8. 日本における母子保健施策の動向（下敷領須美子）
9. 世界における母子と家族の現状（田村康子）
10．世界における母子保健施策の動向（田村康子）
11．コミュニティにおける母子保健の課題と包括的支援（下敷領須美子）
12．エビデンスに基づく周産期ケアの検証：疲労および睡眠へのケア（牛越幸子）
13．理論を活用した実践事例（牛越幸子）
14．エビデンスに基づく周産期ケアの検証：産痛緩和ケア（田村康子）
15．理論を活用した実践事例（田村康子）

[成績評価方法]
授業への参加度（50 %）と課題レポート（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000430 [GB5-234]

科目名	精神看護学特論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 精神障害者に対する処遇および精神保健医療福祉の歴史的変遷、国際動向について理解する。
2. わが国における精神保健医療福祉の現状について理解する。
3. 現行の精神保健医療福祉に関する施策や法制度について理解を深める。
4. 精神保健医療福祉に関する日本の制度、体制について批判的観点から考察できる。
5. 精神保健医療福祉の課題と今後の展望ならびに看護職に期待される役割について考察できる。

[授業概要]
精神障害者に対する処遇および精神保健医療福祉の歴史的変遷、国際的動向を学ぶ。またわが国における精神保健医療福祉の現状について学び、それらを踏まえて現行の精神保健医療福祉に関する施策や法制度について理解を深める。さらに精神保健医療福祉に関する日本の制度、体制について批判的観点から検討し、課題と今後の展望ならびに看護職に期待される役割について考察する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
精神障害者に対する処遇および精神保健医療福祉の歴史や現状について事前学習して受講すること。プレゼンテーションに関しては、担当範囲を十分に準備したうえで臨むこと。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 精神障害者に対する処遇および精神保健医療福祉の歴史的変遷について
2. 精神障害者に対する処遇および精神保健医療福祉の国際的動向について（障害概念、国際生活機能分類を含む）
3. わが国における精神保健医療福祉の現状について
4. わが国における精神保健医療福祉の課題について
5. 地域で生活する精神障害のある人への現状について
6. 地域で生活する精神障害のある人への支援と課題
7. 精神保健医療福祉に関する施策と法制度（精神保健福祉法など）
8. 精神保健医療福祉に関する施策と法制度（障害者総合支援法など）
9. 精神保健医療福祉に関する施策と法制度（精神障害者の就労に関する法制度）
10. 精神保健医療福祉に関する施策と法制度（心神喪失者等医療観察法、自殺対策基本法等）
11. 関心のある精神健康問題に関連する施策と法制度
12. 精神医療保健福祉の課題について
13. 精神医療保健福祉の今後の展望
14. 精神医療保健福祉における看護の役割
15. まとめ

[成績評価方法]
授業への参加度（50 %）と課題レポート（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000390 [GB5-230]

科目名	精神看護学特論Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子、髙橋　秋絵、田中　究、八木　修司		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 心の健康と病理に関する諸理論について理解できる。
2. 心の健康について心理学的 ・社会学的・生理学的視点から総合的に理解できる。
3. 心身の健康状態をアセスメントするための方法について理解できる 。

[授業概要]
精神力動論、発達心理学、ストレス理論、危機理論および脳生理学的視点など心の健康と病理に関する諸理論を学び、心の健康についての心理学的・社会学的・生理学的視点から総合的な理解を深める。また精神科における診断と治療、臨床心理検査、精神状態のアセスメントについて学び、精神・身体の健康状態を総合的に評価する方法を理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
精神看護における主要理論および関心のある精神健康問題のアセスメント、 診断、治療等について事前学習して受講すること。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 精神力動論の理解と看護（玉木敦子）
2. 発達心理学（玉木敦子）
3. 対人関係論（玉木敦子）
4. ストレス理論（玉木敦子）
5. 危機理論（玉木敦子）
6. 脳科学的視点から見た心の理解（玉木敦子）
7. 精神科における診断と治療（統合失調症について）（田中究 ）
8. 精神科における診断と治療（気分障害について）(田中究)
9. 精神科における診断と治療（不安障害について）(田中究)
10. 精神科における診断と治療（児童精神医学ついて）（田中究 ）
11. 臨床心理検査（知的能力、発達に関する検査）（八木修司 ）
12. 臨床心理検査（性格、精神病理に関する検査）（八木修司 ）
13. 精神状態のアセスメント（統合失調症をもつ人のアセスメント）（玉木敦子）
14. 精神状態のアセスメント（気分障害をもつ人のアセスメント）（高橋秋絵）
15. 精神状態のアセスメント（発達障害をもつ人のアセスメント）（高橋秋絵）

[成績評価方法]
授業への参加度（50 %）と課題レポート（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000400 [GB5-231]

科目名	精神看護学方法論	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	川田　美和、髙橋　秋絵		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 精神看護実践の基礎となる理論について理解できる。
2. 精神障がいをもつ当事者・家族の持つ力や強みを尊重したケアのあり方について考察できる。
3. 精神障がいをもつ当事者・家族を対象とした治療的援助技法について理解できる。
4. 自殺や暴力などの危機状態にある人へのアセスメントや介入方法について理解できる 。

[授業概要]
セルフケアモデル、リカバリー理論、ストレングスモデル等について学び、精神障がいをもつ当事者・家族の持つ力や強みを尊重したケアのあり方を考察する。さらにSSTや心理教育など治療的援助技法、および危機状態にある人へのアセスメントや介入方法について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
精神看護援助の基盤となる理論および援助技法について事前学習して受講すること。プレゼンテーションに関しては、担当範囲を十分に準備したうえで臨むこと。

[授業計画]
1. セルフケア理論の概要（川田美和 ）
2. セルフケア理論に基づいた精神看護実践 （川田美和 ）
3. リカバリー理論とストレングスモデルに基づいた様々なプログラムの概要（川田美和 ）
4. リカバリー理論とストレングスモデルに基づいた精神看護実践（川田美和 ）
5. 精神障がいをもつ当事者・家族の持つ力や強みを尊重したケアのあり方について（川田美和 ）
6. 精神障がいをもつ当事者・家族の持つ力や強みを尊重した看護実践（川田美和 ）
7. セルフヘルプ・ピアサポートグループ活動について（高橋秋絵）
8. 当事者研究について（玉木敦子）
9. ソーシャルスキルトレーニングの実際について（玉木敦子）
10. 心理教育の実際について（高橋秋絵）
11. 自殺予防と危機介入に関する援助の概要（高橋秋絵）
12. 自殺予防と危機介入の実際について（高橋秋絵）
13. 危機状態にある人への介入方法の概要（玉木敦子）
14. 危機状態にある人への介入方法の実際（玉木敦子）
15. まとめ（玉木敦子）

[成績評価方法]
授業への参加度（ 50 %）と課題レポート（50 %）で評価する。
課題レポートは授業内でフィードバックを行う。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
ストレングスモデル；リカバリー志向の精神保健福祉サービス，第3版　著者名：C.A.ラップ，　R.J. ゴスチャ著，田中英樹監訳（2014）　出版社：金剛出版 （978-4772413466）
精神科リハビリテーション 第2版　著者名： W. アンソニー他著，野中猛，大橋秀行監訳（2012）　出版社：三輪書店 （978-4895904223）

N21000410 [GB5-232]

科目名	地域看護学特論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子、小路　浩子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 地域看護学に重要な理論や概念を国内外の文献を用いて理解を深め、地域看護の現状と課題を分析 し、考察できる 。
2. 地域看護に関する歴史や政策について国内の文献や実践から学び、地域看護活動の現象を考察、探求できる。

[授業概要]
地域で暮らす人々の生活を支える看護を実践する地域看護学の基本理念に基づき、地域看護の基本的かつ重要な理論や概念であるヘルスプロモーション、健康、アドボカシー、生活・生活者、コミュニティの概念について、国内外の文献を用いて探求する。また、地域看護に関する歴史や政策について、国内の文献や実践から学ぶことによって、地域看護学に関する見識を深め、地域で展開される看護活動の現象を探求できる能力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
事前に提示した文献を熟読し、まとめておく。

[授業計画]
1. オリエンテーション(魚里明子)
2. 地域看護学に基本的かつ重要な理論と概念 (魚里明子・小路浩子)
3. 健康の概念(魚里明子・小路浩子)
4. ヘルスプロモーション(魚里明子・小路浩子)
5. 健康アドボカシーについて(魚里明子・小路浩子)
6. 地域看護学と関連のあるその他の重要な概念(魚里明子・小路浩子)
7. コミュニティの概念(魚里明子・小路浩子)
8. 生活の捉え方と健康の関連(魚里明子・小路浩子)
9. 生活者としての捉え方と健康支援(魚里明子・小路浩子)
10. 国外の政策の変遷(魚里明子・小路浩子)
11. 国外の地域看護の歴史(魚里明子・小路浩子)
12. 国内の政策の変遷(魚里明子・小路浩子)
13. 国内の地域看護の歴史(魚里明子・小路浩子)
14. 保健師の歴史と専門性(魚里明子・小路浩子)
15. 地域で展開される看護活動の現状と今後の方向性(魚里明子・小路浩子)

[成績評価方法]
授業への参加度(50 %)と課題レポート(50 %)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
社会を変える健康のサイエンス :健康総合科学への21の扉　著者名:東京大学医学部健康総合科学科 (2016)
出版社:東京大学出版会 (978-4130634069)
その他 , 担当教員から 適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
ヘルスリテラシー:健康教育の新しいキーワード。 著者名:福田洋他(2016) 出版社:大修館書店 (978-4469267952)
健康の謎を解く 著者名:アーロン・アントノフスキー(2001) 出版社:有信堂高文社 (978-4842065601)
実践ヘルスプロモーション- PRECEDE- PROCEEDモデルによる企画と評価　著者名:ローレンス ・グリーン 他 (2005) 出版社:医学書院 (978-4260001717)
その他、担当教員から適宜指示する

N21000330 [GB5-224]

科目名	地域看護学特論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子、小路　浩子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 地域看護学における主要なモデルであるコミュニティ・アズ・パートナーモデルについて、国内外の文献や研究を用いて探求し、修得する。
2. 地域看護活動、保健師で重要なPDCAサイクルおよび地域看護診断について、国内外の文献を用いて探求し、修得する。

[授業概要]
地域看護学における主要なモデルであるコミュニティ・アズ・パートナーモデルについて、国内外の文献や研究を用いて探求し、修得する。また、地域看護活動の展開方法であるPDCAサイクルおよび地域看護診断について、国内外の文献や実践報告を通して学び、効果的な地域看護活動の展開方法を考察し、地域看護活動における高度な実践および分析能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
事前に提示した文献を読んでまとめ、プレゼンテーションの準備をする。

[授業計画]
1. オリエンテーション（魚里明子）
2. コミュニティ・アズ・パートナーモデルと地域看護診断（魚里明子・小路浩子）
3. 国内外の文献に基づくコミュニティ・アズ・パートナーモデルの理解（魚里明子・小路浩子）
4. 事例に基づくコミュニティ・アズ・パートナーモデル の現状分析（魚里明子・小路浩子）
5. コミュニティ・アズ・パートナーモデルの実践への活用（魚里明子・小路浩子）
6. 国内外の文献に基づく地域看護診断の理解（魚里明子・小路浩子）
7. 事例に基づく地域看護診断の現状分析（魚里明子・小路浩子）
8. 地域看護診断の実践への活用（魚里明子・小路浩子）
9. 国内外の文献に基づく地域看護学活動・保健師活動におけるPDCAサイクル概観（魚里明子・小路浩子）
10. 国内外の文献に基づくPDCAサイクルの理解（魚里明子・小路浩子）
11. 事例に基づく地域看護学活動・保健師活動におけるPDCAサイクルの現状分析（魚里明子・小路浩子）
12. 地域看護学活動・保健師活動におけるPDCAサイクルの実践への活用（魚里明子・小路浩子）
13. 事例に基づく地域看護診断および地域看護活動の展開方法の現状分析 1)（魚里明子・小路浩子）
14. 事例に基づく地域看護診断および地域看護活動の展開方法の現状分析 2)（魚里明子・小路浩子）
15. 地域看護診断および地域看護活動の効果的な地域看護実践について考察、探求する。（魚里明子・小路浩子）

[成績評価方法]
授業への参加度（50 %）と課題レポート（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
コミュニティ・アズ・パートナーモデル　著者名：エリザベス T. アンダーソン, シュディス・マクファーレン著, 金川勝子、早川和生監訳（2007）　出版社：医学書院　(978-4260003261)
地域看護診断　著者名：金川克子, 田高悦子 編集（2011）　出版社：東京大学出版会　(978-4130624084)
その他、担当教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
その他、担当教員から適宜指示 する。

N21000340 [GB5-225]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]
1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●東　ますみ
糖尿病患者のソーシャルサポートシステムや遠隔看護システムに関する分野、看護における情報システムの活用等に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。
個別面接時に助言する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540 [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●魚里　明子
地域看護学領域におけるさまざまな年齢層、健康レベルの人々を対象としたコミュニティでの健康づくり活動、生活習慣病予防等、自らの研究課題について、研究計画に基づいて調査研究あるいは質的研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540A [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●宇賀　昭二
国際保健学に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540B [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●内　正子
慢性疾患や障害を有する小児の看護ケアや家族支援に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540C [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●加治　秀介
代謝性疾患患者の医療・看護に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540D [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
【遠隔授業】

指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●洪　愛子
感染管理のシステムや開発および看護マネジメントと看護政策に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540E [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。
授業の前後に各2時間程度、関連する資料等を読み疑問点等を整理する。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●下敷領　須美子
女性の各ライフステージにおける健康課題や周産期の母子・家族への援助に関する分野において、自らの研究課題について研究計画に基づいて、調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540F [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●玉木　敦子
周産期メンタルヘルス支援や精神看護の役割に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540G [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●中岡　亜希子
看護教育に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540H [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	中村　隆		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●中村　隆
疫学的研究手法の開発、医療と看護の効果、成果の測定とその分析方法に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスの指導を補助する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540I [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●野並　葉子
看護ケア・教育に関する分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540J [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実戦経験を元に以下の内容を講義する。
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●藤田　冬子
高齢者の看護に関する自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。特に、看護実践のケア方法の開発の新たな方向性を示す研究や、超高齢社会を迎え多様化する高齢者に焦点化し、コミュニティで暮らす高齢者のフレイル対策や認知症高齢者のケア、介護家族のケア能力向上に関わる支援について、概観し探求するといった臨床研究に取り組む研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540K [GB6-212]

科目名	特別研究	前期～後期	6 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 研究計画に沿って、研究課題を科学的に探求するための研究活動を遂行する能力を修得する。
2. 研究活動に必要な、科学的探究心、熟考と論理的思考、的確な表現力ならびにアカデミックな態度の基本を身につける。
3. 研究のプロセスにおける倫理的な課題について理解し、倫理観に基づく研究態度を身につける。
4. 研究成果の社会的還元と学問領域の発展を目指して、研究成果を論文としてまとめる能力を修得する。

[授業概要]
研究コースの各学生の専門分野における特定の研究課題について、立案した研究計画に沿って、データ収集、分析、結果のまとめと考察まで、一連の研究プロセスを展開することを学ぶ。また、研究を修士論文としてまとめ、発表することを通して、研究成果の還元の基本的知識と技術を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰ、看護研究方法論Ⅱを修得していること。

[授業計画]
指導教員の指導に従って研究を遂行する。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集1)
2. 研究計画書に基づいたデータ収集2)
3. 研究計画書に基づいたデータ収集3)
4. 研究計画書に基づいたデータ収集4)
5. 研究計画書に基づいたデータ収集5)
6. 研究計画書に基づいたデータ収集6)
7. 研究計画書に基づいたデータ収集7)
8. 研究計画書に基づいたデータ収集8)
9. 研究計画書に基づいたデータ収集9)
10. 研究計画書に基づいたデータ収集10)
11. データの整理と分析の準備1)
12. データの整理と分析の準備2)
13. データ分析1)
14. データ分析2)
15. データ分析3)
16. データ分析4)
17. データ分析5)
18. データ分析6)
19. データ分析7)
20. データ分析結果の整理と考察1)
21. データ分析結果の整理と考察2)
22. データ分析結果の整理と考察3)
23. 考察に必要な文献検索と文献レビュー1)
24. 考察に必要な文献検索と文献レビュー2)
25. 考察に必要な文献検索と文献レビュー3)
26. 考察に必要な文献検索と文献レビュー4)
27. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察1)
28. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察2)
29. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察3)
30. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察4)
31. データ分析結果の文献を用いた多角的な考察5)
32. 研究論文の作成1)
33. 研究論文の作成2)
34. 研究論文の作成3)
35. 研究論文の作成4)
36. 研究論文の作成5)
37. 研究論文の作成6)
38. 研究論文の作成7)
39. 研究論文の作成8)
40. 研究論文の推敲1)
41. 研究論文の推敲2)
42. 研究論文の推敲3)
43. 研究論文の推敲4)
44. 研究論文の推敲5)
45. 修士論文の完成

●横内　光子
タイムスタディやシステムシミュレーションの手法を用いたサービス評価方法、効率的なサービス提供システムの構築、ならびに効果的な看護サービスの開発を含むヘルスケアマネジメント分野において、自らの研究課題に対して、研究計画に基づいて調査や実験、臨床研究を遂行し、その結果を修士論文としてまとめるまでの研究プロセスを指導する。

[成績評価方法]
研究への取り組み(50%)と成果物(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000540L [GB6-212]

科目名	病態生理学	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介、横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 多様な臨床場面で人体に生じた病的変化を細胞・臓器・個体レベルで捉え、病因や病態形成 のメカニズムを理解する。
2. 病態生理学的な基礎知識と医学的診断の考え方を踏まえて、臨床症候や検査データを解釈し、適切な看護判断ができる。
3. 科学的根拠と対象の語りに基づき、最適な治療やケアの方法を選択できる。

[授業概要]
最初に疾病理解の基礎となる病態生理学を概説する。続いて各領域の代表的な模擬症例を提示し、症候、検査所見から病因・病態を含む臨床診断過程と治療・ケアの方法を討議することにより、専門看護師としての診断や、ケアに活用できる看護判断能力の習得を目指す。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
コモンディジーズに関する基礎的知識を持っていること。

[授業計画]
1. 構造と障害、再生と修復（加治）
2. 炎症（横内）
3. 腫瘍と細胞死、成長・発達と老化（加治）
4. 循環機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
5. 代謝機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
6. 呼吸機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
7. 消化吸収機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
8. 腎・泌尿器機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（奥井）
9. 免疫機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
10. 血液機能障害・感染症の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
11. 脳・神経機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（加治）
12. 運動・感覚機能障害の病態生理・診断・治療と看護判断（横内）
13. 生活習慣病の病態生理・診断・治療と看護判断（奥井）
14. エビデンスに基づく呼吸器疾患急性増悪の看護判断（横内）
15. まとめ：病態生理学の理解に基づく看護判断（横内・奥井）

[成績評価方法]
授業への参加 度（ 50 %）と課題 レポート（50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員より資料を配布する。

[参考書（ISBN）]
担当教員より適宜提示する。

N21000110 [GB5-210]

科目名	フィジカルアセスメント	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介、藤原　由子、鷲田　幸一		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 医療面接技術によって適切に診断を絞る看護判断ができる。
2. 身体診察技術を習得し、その所見を適切に解釈でき、診断に至る看護判断ができる。
3. 診断に必要な臨床検査の選択と結果の解釈ができ、最終診断に至る看護判断ができる。

[授業概要]
複雑な健康問題をもつ対象の医療面接から始まり、系統的な身体診察、臨床検査を経て診断に至る過程を理解し、専門看護師として包括的な健康アセスメントと症状マネジメントに必要な臨床判断技術を習得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
コモンディジーズに関する基礎的知識を持っていること。

[授業計画]
1.　医療面接について（加治）
2.　頭頚部（頭部、顔面、頸部、感覚器）の診察手技と所見 （加治）
3.　胸部（胸郭・肺・乳房）の診察手技と所見（藤原）
4.　胸部（心臓・血管系）の診察手技と所見（鷲田）
5.　腹部（消化器、肝胆膵）の診察手技と所見（加治）
6.　腎、泌尿器、生殖器の診察手技と所見（藤原）
7.　脳・神経系の診察手技と所見（加治）
8.　筋・骨格系の診察手技と所見（加治）
9.　臨床検査の意義と解釈（1） 尿・血液検査、遺伝子診断、病理診断（加治）
10. 臨床検査の意義と解釈（2）画像検査・生理機能検査（加治）
11. 心不全回復期患者のケーススタディと臨床看護判断（鷲田）
12. メタボリックシンドローム患者のケーススタディと臨床看護判断（加治）
13. 治療期にある患者のケーススタディと臨床看護判断（加治）
14. 成長・発達、老化の特徴を踏まえたケーススタディと臨床看護判断（加治）
15. 医学的診断技術の活用と臨床看護判断（加治・藤原・鷲田）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目B：フィジカルアセスメント

[成績評価方法]
授業への参加度（50 %）と 課題 レポート （50 %）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
担当教員より資料を配布する 。

[参考書（ISBN）]
Physical Examination and Health Assessment, 7th Edition　著者名：Carolyn Jarvis 著（2015） 出版社：Saunders （978-1455728107）
その他、担当教員より適宜提示する 。

N21000100 [GB5-209]

科目名	慢性看護学特論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子、野並　葉子、魚里　明子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 慢性病者とその家族が、歴史的に社会中でどのように位置づけられてきたかについて理解できる。
2. 慢性病者とその家族を支援する政策と制度について、歴史的、社会･文化的な背景を踏まえ、その変遷と現状を説明できる。
3. 今後の慢性病の動向や社会情勢の予測に基づいて、慢性病者の自己実現、QOLの向上に必要な支援や政策について考察できる。

[授業概要]
慢性病者を支援する政策と制度の発展の歴史と現状について、慢性病患者と家族、ならびに彼らを取り巻く地域、社会全体が慢性病者とその支援のあり方をどのようにとらえ、政策や制度として発展させてきたのかと関連付けて学ぶ。また、現行の政策や制度について、慢性病者およびその家族の社会における位置づけの歴史的、社会・文化的背景の変化と関連付けて評価し、現状の支援体制の問題点を分析する。さらに、今後の社会構造と保健・医療・福祉環境の変化に応じた慢性病者と家族支援のあり方の再考と、必要とされる政策・制度について議論できる素地を習得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
教科書を熟読し、日本の医療制度の概要を理解し、慢性病に関連する制度や体制についてさらに情報を得て予習しおくこと。

[授業計画]
1. 国内外における慢性病の歴史と文化・社会的位置づけ(野並葉子)
2. 本邦における慢性病者の支援制度・政策の歴史 (魚里明子)
3. 慢性病者を対象とした保健医療制度と福祉制度の概要 (洪愛子)
4. 慢性病者を対象とした医療保険と診療報酬制度(洪愛子)
5. 慢性病者を対象とした医療費助成制度(洪愛子)
6. 慢性病者を対象とした特定疾患治療研究事業、先進医療助成(洪愛子)
7. 慢性病者を対象とした身体障害者手帳と障害年金(洪愛子)
8. 慢性病者を対象とした学術団体による支援と ガイドランの活用 (洪愛子)
9. 慢性病者の支援団体:自助グループ 、支援グループ(魚里明子)
10. 慢性病者の支援体制の問題点 1):生活習慣病 (野並葉子 ・洪愛子)
11. 慢性病者の支援体制の問題点 2):神経難病、自己免疫疾患 (魚里明子 ・洪愛子)
12. 慢性病者支援の将来ビジョン1):CureとCareの統合(野並葉子 ・洪愛子)
13. 慢性病者支援の将来ビジョン2):慢性病の予防体制(魚里明子 ・洪愛子)
14. 慢性病者支援のビジョンを実現するための方略と方策 (洪愛子)
15. 慢性病者支援の革新的方策(洪愛子)

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程:4.制度や体制に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度(40 %)と レポート (60 %)で評価 する 。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
日本の医療 -制度と政策- 著者名:島崎 謙治 (2011) 出版社:東京大学出版会 (978-4130511339)

[参考書(ISBN)]
社会保障の手引 平成30年版 : 施策の概要と基礎資料 著者名:田中滋(2017) 出版社:中央法規出版 (978-4805855997)
保健・医療提供制度 著者名:田中滋 , 二木立編集(2006) 出版社:勁草書房 (978-4326748334)

N21000130 [GB5-212]

科目名	慢性看護学特論Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美、野並　葉子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 慢性病者と家族が抱えやすい複雑で解決困難な問題について、その背景と関連付けて具体的に述べることができる。
2. 慢性病者と家族の行動と反応の理解に役立つ主要な理論と概念について説明できる。
3. 慢性病者と家族の行動と反応について、理論を用いて解釈、予測することができる。

[授業概要]
慢性病者およびその家族の行動と反応を理解するための主要な理論、概念について学ぶ。理論、概念では、慢性病者と家族がとる行動の背景に潜む苦悩の理解、慢性病をもちながら生きることへの理解、慢性病を持つ人の時間性の理解のために、それぞれの中心となる理論・概念を学習する。また、理論や概念の定義、類型を踏まえ、慢性病者とその家族の行動理解に基づく介入とその課題について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書や参考書、関連資料を用いて予習を行ったうえで、授業に参加すること。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 慢性病者の行動と反応理解のためのケアリング理論（野並葉子 ・横内光子 ）
2. 慢性病者の行動と反応理解のための人、身体、体験（野並葉子 ・横内光子）
3. 病気・ストレスと対処行動（横内光子）
4. 慢性病をもつ人と家族が生きることを理解するための理論 :「セルフケア」（野並葉子）
5. 慢性病をもつ人が生きることを理解するための概念1）:「危機状態の予防と管理」（元木絵美 ）
6. 慢性病をもつ人が生きることを理解するための概念2）:「生活時間の再編成」（元木絵美）
7. 慢性病をもつ人が生きることを理解するための概念3）:「身体可動性の変化と消耗性疲労」（元木絵美）
8. 慢性病をもつ人の苦悩を理解するための理論:「不確かさ」（藤原由子）
9. 慢性病をもつ人の苦悩を理解するための概念1）:「スティグマ」、「社会的孤立」（藤原由子）
10. 慢性病をもつ人の苦悩を理解するための概念2）:「無力感」、「病者役割」（藤原由子）
11. 慢性病看護における家族の行動理解（元木絵美）
12. 理論を活用した慢性病者の家族支援（元木絵美）
13. 慢性病をもつ人の時間性を理解するための理論:「病みの軌跡」（藤原由子）
14. 慢性病をもつ人の時間性を理解するための概念:「病いの慢性性」（藤原由子）
15. 慢性病者と家族の行動理解における理論・概念の活用と課題（横内光子）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程:1.慢性病者の行動理解に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度（40 %）と レポート（60 %）で評価する 。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
現象学的人間論と看護　著者名:パトリシア ベナー , ジュディス ルーベル著, 難波卓志　訳（1999 ）　出版社:医学書院 （978-4260343633）
クロニックイルネス —人と病いの新たなかかわり　著者名:アイリーン・モロフ ラブキン , パマラ・ D. ラーセン著, 黒江ゆり子訳（2007）　出版社:医学書院 （978-4260000581）

[参考書（ISBN）]
慢性疾患を生きる -ケアとクオリティ・ライフの接点　著者名:Anselm L. Strauss, J. Corbin, S. Fagerhaugh 他著 , 南裕子 , 木下康仁 , 野嶋佐由美 翻訳（1987）　出版社:医学書院 （4-260-34861-2）
慢性疾患の病みの軌跡 —コービンとストラウスによる看護モデル　著者名:ピエール ・ウグ 編集 , 黒江ゆり子, 宝田穂, 市橋恵子　翻訳 （1995）　出版社:医学書院 （4-260-34172-3）

N21000140 [GB5-213]

科目名	慢性看護学方法論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	慢性病者の包括的アセスメント		
担当者	藤原　由子、鷲田　幸一、加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 慢性病の主要な医学的評価・診断 、治療方針の決定方法 、治療計画について説明でき 、慢性病者の身体的なアセスメント方法を、医学的根拠に基づき述べることができる 。
2. 慢性病者が受ける診断・治療とそれによる身体・心理・社会面および生活への影響を説明できる。
3. 慢性病者に対する主要な心理・社会面のアセスメント方法とその特徴を具体的に述べることができる。
4. 慢性病をもつ人、またはその予備軍にある人の生活体験を理解するために必要な理論と技術を説明できる 。

[授業概要]
慢性病に対する主要な医学的評価・診断、治療方針の決定、治療計画の考え方と、病気と診断・治療に伴う主要な身体機能の変化についてアセスメントするための技術を学ぶ。慢性病とその診断・治療を受けることにより、慢性病者の身体面、心理面、社会面、ならびに生活面にどのような影響が及ぶのかについて、多面的、包括的にアセスメントするための知識を学び、複雑な問題を抱える慢性病者とその家族の包括的なアセスメントを実施する能力を養う。また、ライフストーリー法を用いた生活理解の方法について学び、生活体験という視点から慢性病者の生活を理解する能力を養う。
慢性病に関する医師、専門看護師、認定看護師資格をもった教員がその経験を活かして包括的アセスメントの方法を教授する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書や参考書、関連資料を用いて予習を行なったうえで、授業に参加すること。
各回、予習復習合わせて4時間程度を要する。

[授業計画]
1.慢性病者の医学的評価と診断過程における支援と看護の役割（藤原由子）
2.フィジカルアセスメントとヘルスアセスメント（加治秀介）
3.慢性病者の医学的評価と診断過程：循環機能、代謝機能、脳神経機能、運動機能（加治秀介）
4.慢性病者の医学的評価と診断過程：呼吸機能、免疫機能、消化吸収排泄機能（加治秀介）
5.慢性病者の薬物療法とその管理（加治秀介）
6.慢性病者の医療処置とその管理（加治秀介）
7.慢性病者の急性増悪とリスクアセスメントの方法（加治秀介）
8.EBMと診療ガイドラインの概論（鷲田幸一）
9.慢性病者の心理・社会的アセスメントの方法（藤原由子）
10.診断と治療による生活への影響（藤原由子）
11.面接法による病の体験、生活体験の理解方法（藤原由子）
12.ライフストーリー法による病の体験、生活体験の理解方法（藤原由子）
13.慢性病者の包括的なアセスメント：生活習慣病（鷲田幸一）
14.慢性病者の包括的なアセスメント：アレルギー疾患、呼吸器疾患（藤原由子）
15.包括的なアセスメントと効果的なケア（藤原由子）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程： 2.慢性病者の査定に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度（ 40 %）、レポート（60 %）で評価を行う。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
なし
適宜、資料を配布する。

[参考書（ISBN）]
ライフヒストリーの社会学　著者名：中野卓（1995）　出版社：弘文堂
（978-4335550614）
Implementing the EvidenceBased Practice (EBP) Competencies in Healthcare, A Practical Guide for Improving Quality, Safety, and Outcomes　著者名：Bernadette Mazurek, Melnyk Lynn, Gallagher Ford, Ellen,. Fineout -overholt著（2016）　出版社：Sigma Theta Tau Intl. （978-1940446424 ）
Physical Examination and Health Assessment,8th Edition　著者名：Carolyn Jarvis著（2019）　出版社：Sanders （ 978-0323510806）

N21000150 [GB5-214]

科目名	慢性看護学方法論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美、鷲田　幸一		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 慢性病の予防、診断・治療、自己管理、リハビテーション、急性増悪、ターミナルの各看護が必要となる時期の特徴と支援技術について、関連する理論・概念に基づいて説明できる。
2. 慢性病者の病期に応じて、身体的・心理的・社会的対処能力を高めるセルフケア支援の特徴について体系的に説明できる。
3. 慢性病者の病期に応じて、身体的・心理的・社会的対処能力を高める専門的看護支援の特徴と支援に必要な技術ついて体系的に説明できる。

[授業概要]
慢性病者が病いを抱えながらその人らしく生きるため支援方法について、関連する理論や概念を踏まえて修得する。慢性病の予防、診断と治療、症状や病気の再燃、急性増悪、身体の機能や生活状態の回復、維持、悪化予防のためのセルフマネジメントの支援と各時期における専門的看護技術について理解を深め、慢性病者のリハビリテーション看護とエンド・オブ・ライフケアにおける支援方法について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書や参考書、関連資料を用いて予習行なったうえで授業に参加すること。

[授業計画]
1. 慢性病の経過と各時期の特徴に応じたセルフモニタリングとセルフマネジメント支援（藤原由子）
2. 慢性病者の健康に関する概念と評価法 :Wellnessと Quality of Life（横内光子）
3. 慢性病者とその家族を支援するための方法 1）:アドボカシー（元木絵美 ）
4. 慢性病者とその家族を支援するための方法 2）:意思決定（元木絵美）
5. 慢性病者とその家族を支援するための方法 3）:患者教育（藤原由子）
6. 慢性病者とその家族を支援するための方法 4）:症状マネジメント（元木絵美）
7. 慢性病予防のためのセルフマネジメント支援（鷲田幸一）
8. 診断・治療期にある慢性病者のセルフマネジメント支援（藤原由子）
9. 慢性病者の回復期におけるリハビリテーション看護（鷲田幸一）
10. 慢性病者の悪化予防にむけたリハビリテーション看護（鷲田幸一）
11. 安定期にある慢性病者のセルフマネジメント支援（藤原由子）
12. 慢性病者の急性増悪の看護（横内光子）
13. 慢性病者のエンド・オブ・ライフケア :循環器疾患（学外特別講師　仲村直子 ）（鷲田幸一）
14. 慢性病者のエンド・オブ・ライフケア :呼吸器疾患（学外特別講師　本城綾子 ）（藤原由子 ）
15. 慢性病者と家族に対する支援技術開発とその評価（横内光子）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程: 3.慢性病者への支援技術に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度（40 %）とレポート（60 %）で評価 する 。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
病気とともに生きる―慢性疾患のセルフマネジメント　著者名：日本慢性疾患セルフマネジメント協会編（2008） 出版社：日本看護協会出版会 （ISBN-13 978-4818013339）
クロニック イルネス 人と病いの新たなかかわり　著者名：Ilene Morof Lubkin , Pamala D. Larsen／黒江ゆり子監訳（2007） 出版社：医学書院 （ISBN -13 978-4-260-00058-1）

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000160 [GB5-215]

科目名	慢性看護ケアシステム論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子、元木　絵美		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 慢性病の予防および慢性病者と家族のセルフケアを支援する場と、そこで活用できる資源についての全体像と特徴を説明できる。
2. 慢性病者の治療と生活の特徴に応じた治療・療養支援環境の調整方法について考えることが出来る。
3. 慢性病者が治療・療養環境において質の高い生活を送るための調整の方策と今後の課題を説明できる。

[授業概要]
病院の入院・外来、地域や職場、居宅など、慢性病の予防と慢性病を持つ人のための治療療養環境の現状について理解し、セルフケアを支援するための調整の方策と方術について学ぶ。また、慢性病者と家族が活用できるサポートネットワークや社会資源の特徴を理解し、慢性病を持ちながらその人らしい質の高い生活を維持・向上するためのネットワークの形成、資源の活用、調整に必要な能力を養う。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書や参考書、関連資料を用いて予習を行なったうえで、授業に参加すること。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 慢性病者の療養環境概論：コミュニティ・オブ・プラクティスの視点（洪愛子）
2. 慢性病の予防・悪化の予防のための環境調整（元木絵美）
3. 慢性病者の治療・療養環境としての医療施設（元木絵美）
4. 慢性病者の治療・療養環境としての介護・福祉施設（洪愛子）
5. 慢性病者の治療・療養環境としての地域と在宅（元木絵美）
6. 慢性病者の治療・療養環境と就労・就労環境（奥井早月）
7. 慢性病者の治療・療養環境の調整1）：多職種チームによる支援（奥井早月）
8. 慢性病者の治療・療養環境の調整2）：看護外来（元木絵美）
9. 慢性病者の治療・療養環境の調整3）：入退院調整と入退院支援（元木絵美）
10. 慢性病者の治療・療養環境の調整4）：訪問看護（洪愛子）
11. 慢性病者の治療・療養環境の調整5）：自助グループと支援団体、インフォーマルグループ（奥井早月）
12. 治療・療養環境の調整方策1）：医療施設（元木絵美）
13. 治療・療養環境の調整方策2）：入退院調整と入退院支援（元木絵美）
14. 治療・療養環境の調整方策3）：地域と就労環境（奥井早月）
15. コミュニティ・オブ・プラクティスの視点からみた予防・治療・療養環境における看護師の役割と将来ビジョン（洪愛子・元木絵美・奥井早月）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程：5.治療や療養を支える治療環境整備に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度（40%）とレポート（60%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
新しい慢性疾患ケアモデル　著者名：森山美和子（2007）　出版社：中央法規出版　(978-4805829356)

[参考書（ISBN）]
The外来看護　著者名：数間恵子編著（2017）　出版社：日本看護協会出版会　(978-4818020528)
地域包括ケア時代の地域に根ざした医療の創り方　著者名：櫃本真聿（2017）　出版社：日総研出版　(978-4776018308)
高度実践看護—統合的アプローチ　著者名：Ann B. Hamric, Charlene M. Hanson, Mary Fran Tracy, Eileen T. O' Grady（著）, 中村 美鈴, 江川 幸二（翻訳）（2017）　出版社：へるす出版　(978-4892699283)
コミュニティ・オブ・プラクティス　著者名：エティエンヌ・ウェンガー , リチャード・マクダーモット, ウィリアム・M・スナイダー 著,? 櫻井 祐子, 野中 郁次郎, 野村 恭彦訳（2002）　出版社：翔泳社　(978-4798103433)

N21000170 [GB6-200]

科目名	慢性看護実習Ⅰ	後期	4 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美、鷲田　幸一		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 受け持ち患者を通じて、授業と演習で得たフィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント、家族アセスメント、セルフケアの査定、症状モニタリング、ライフヒストリー法、面接技法、心理・社会面の尺度を用いた測定などの知識と技術を活用し、慢性病者の身体、心理、社会面の変化、生活の変化、機能障害を包括的にアセスメントできる。
2. 各自の専門領域（サブ・スペシャリティ）の受け持ち患者について、慢性病の病態、医学的評価・診断とそれに必要な検査、薬物療法などの治療とその調整方法について系統立てて説明できる。
3. ライフヒストリー法と面接技法を用いて、慢性病者の病いの体験と生活体験を理解し、的確に説明できる。

[授業概要]
専門領域（サブ・スペシャリティ）を決め、その領域の慢性病者の受け持ちを通じて、身体面・心理面・社会面および生活の変化を包括的にアセスメントする方法を学ぶ。また、専門医の診察場面に同席し、診断のための検査や処置、薬物療法などの治療調整などについて学ぶ。慢性疾患看護専門看護師や教員からのスーパービジョンを受け、フィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント、家族アセスメント、セルフケアの査定、症状モニタリング、ライフヒストリー法などの方法を用いて、慢性病者とその家族を包括的にアセスメントする技術を修得する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学生は、各自で実習計画書を作成し、スーパーバイズを受ける慢性疾患看護専門看護師に実習計画書を用いて実習のスケジュールを調整すること。

[授業計画]
1. 実習方法
1) 実習計画書を作成し、スーパーバイズを受ける慢性疾患看護専門看護師と実習スケジュールを調整する。実習は、外来もしくは病棟で行う。
2) サブ・スペシャリティ（焦点を当てる領域）の慢性病患者を対象として、ヘルスアセスメント、セルフケア能力、家族アセスメント、症状モニタリングなどの方法を用いて慢性病者とその家族をアセスメントする。
3) 専門医の診察や検査場面に参加することを通して、病態を把握するためのフィジカルアセスメントの実施とその評価、それらに基づく処置、検査、薬物などの治療調整について学ぶ。さらにその過程にかかわる他職種との連携について学ぶ。
4) 慢性病者を受け持ち、慢性病者がどのように病いを体験しているのか、ライフヒストリー法を用いて理解する。
5) 慢性看護領域の専門的な看護実践を行っている慢性疾患看護専門看護師のもとで、慢性病者の検査、診断、治療方法を把握し、慢性病者の病気の捉え方に合わせた包括的なアセスメントを行う。
6) アセスメントに基づいて、病気の慢性性を考慮した援助計画を立案する。
7) 計画した援助計画について、慢性疾患看護専門看護師や教員のスーパービジョンをうけながら事例検討を行い、学生は自らのアセスメント技術を高める。
8) 慢性病者を受け持ち、指導教員と慢性疾患看護専門看護師のスーパーバイズを受けながら、看護過程を展開し、根拠を持って患者への看護実践を行う。

2. 実習の進め方
1) 今までの臨床経験の課題を踏まえて、実習計画を立て、実習施設と調整を行いながら実習を進める。
2) 実習内容に合わせて実習日や実習時間を調整する。
3) 実習終了後に実習全体を通しての学びを整理し、指導教員や慢性疾患看護専門看護師に発表し、助言を受ける。

3. 実習期間
1年後期に実習を行なう。

4. 実習施設
神戸市立医療センター中央市民病院
兵庫医科大学病院
神戸百年記念病院

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程：基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理に関する実習、高度な実践、教育、相談、連携に関する実習

[成績評価方法]
カンファレンスや事例検討でのプレゼンテーションと実習記録（50%）、実習レポート（50%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指導教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
Physical Examination and Health Assessment, 7th Edition　著者名：Carolyn Jarvis(著)（2015）出版社：Saunders　(978-1455728107)
その他、指導教員から適宜示する。

N21000180 [GB5-216]

科目名	慢性看護実習Ⅱ	前期	4 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美、鷲田　幸一		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 専門領域(サブ・スペシャリティ)において、特定の病期にある受け持ち患者に対して、包括的なアセスメントに基づく効果的な看護計画を立案できる。
2. 専門領域(サブ・スペシャリティ)における特徴的な支援の知識と技術を駆使し、受け持ち患者の生活の質向上につながる看護を実践し、評価できる。
3. 複雑な問題を抱える慢性病者と家族に対して、包括的なアセスメントに基づく効果的看護計画を立案できる。
4. 高度な技術を用いた支援を効果的に提供するために、実践の場における準備性や課題を見出すことができる。

[授業概要]
専門領域(サブ・スペシャリティ)の看護実践ができる施設で実習を行い、サブ・スペシャリティにおける専門的ケアの知識と技術を活用し、受け持ち患者の看護を実践する。受け持ち患者の包括的なアセスメントに基づく効果的な看護計画を立案し、その実践の場において高度な支援を提供する準備性や課題を踏まえたうえで、適切な方法と時機をとらえて実践し、評価するプロセスを学ぶ。また、複雑な問題を抱える慢性病者と家族に対して、包括的なアセスメントに基づく効果的看護計画の立案プロセスから、医療チームと共同しながら課題の解決を図る高度な看護実践を体得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
地域において施設が担っている役割、行われている医療や看護など、実習する施設の情報を事前に得たうえで実習に臨むこと。

[授業計画]
1. 実習方法
1) 学生の関心領域におけるサブ・スペシャリティを学習できる実習施設において4週間の実践演習を行う。
2) 学生のサブ・スペシャリティに該当する対象者の看護を実際に担当し、フットケア、呼吸ケア、スキンケアなどのサブ・スペシャリティに特有のケア技術を対象者に提供し、知識・技術の活用の仕方や、専門看護師としてのケア提供の姿勢について学ぶ。
3) 学生のサブ・スペシャリティに該当し、特定の病期にある対象者を受け持ち、フィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント、ライフヒストリーの聴取、身体への理解を促すアセスメントなどを実践し、包括的なアセスメントに基づいて、個別な課題に対応した看護計画を立案し、医療チームの一員として実施、評価を行なう。
4) 対象者への直接ケアを実施することで、患者への介入やスタッフへの介入といった実践につなげるためのプロセスを体験的に修得し、施設内において高度実践に必要な直接ケアを実現していくための準備性や課題について学ぶ。
5) 施設の医療チームの一員として、複雑な問題を抱える慢性病者と家族に対して、包括的なアセスメントに基づく効果的看護計画を立案し、チームと協働して課題の解決に取り組む。
6) 外来診療および看護専門外来における実践を通じて、通院治療を受ける患者への看護について学ぶ。

2. 実習の進め方
1) 今までの臨床経験の課題を踏まえて、実習計画を立て、実習施設と調整を行いながら実習を進める。
2) 実習内容に合わせて実習日や実習時間を調整する。
3) 実習終了後に実習全体を通しての学びを整理し、指導教員や慢性疾患看護専門看護師に発表し、助言を受ける。

3. 実習期間
2年次後期に実習を行なう。

4. 実習施設
神戸市立医療センター中央市民病院
兵庫医科大学病院

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程:基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理に関する実習、高度な実践、教育、相談、連携に関する実習

[成績評価方法]
カンファレンスや事例検討でのプレゼンテーションと実習記録(50%)、レポート(50%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000190 [GB6-201]

科目名	慢性看護実習Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 実習施設の慢性疾患看護専門看護師の活動ならびに自己の活動を通じて、慢性疾患看護専門看護師としての役割と機能を具体的に説明できる。
2. 慢性病患者に医療やケアを提供している人々へのコンサルテーション技術や、慢性病患者へのケアコーディネーション技術を活用し、実習施設の慢性疾患看護専門看護師の活動に参加する。
3. 参加あるいは一部実施した看護実践、教育活動、コンサルテーション、コーディネーションや倫理調整を考察し、今後、慢性疾患看護専門看護師として活動していく上での自らの課題を明らかにする。

[授業概要]
慢性疾患専門看護師の活動の実際に参加、あるいは活動の一部を実践することを通して、専門看護師の6つの機能（実践、コンサルテーション、コーディネーション、教育、倫理調整、研究）がどのように展開されているかを学ぶ。また、講義で学習する理論や概念を活用し、慢性病患者に医療やケアを提供している人々へのコンサルテーションやコーディネーションを行い、システムへの参入や組織内における役割開発の方略について学ぶ。本実習は、慢性看護領域において活動している慢性疾患看護専門看護師ならびに教員のスーパーバイズを受けながら展開し、学生は、本実習を通して、専門看護師として活動していく上での自らの課題を明らかにする。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
学生は、各自で実習計画書を作成し、スーパーバイズを受ける慢性疾患看護専門看護師に実習計画書を用いて実習のスケジュールを調整すること。

[授業計画]
1. 実習方法
1） 実習計画書を作成し、スーパーバイズを受ける慢性疾患看護専門看護師と実習スケジュールを調整する。
2） 多職種カンファレンスやスタッフ教育など、主にケア提供者を対象とした慢性疾患看護専門看護師の活動に参加し、一部を実施する。
3） 実習病棟の看護職からコンサルテーションを受ける。
4） 困難事例におけるコーディネーションや、そのために必要な倫理的問題、葛藤の解決をはかる。
5） 実習病棟の患者および看護職に対して教育案を考え、教育の一部を実施する。
6） 行った実践、コンサルテーション、コーディネーション、教育活動、倫理調整などについてカンファレンスや事例検討を行い、専門看護師の6つの機能とその評価に関して考察する。
7） カンファレンスや事例検討を踏まえ、専門看護師として活動していく上での自らの課題を考察し、実習レポートにまとめる。

2. 実習期間
2年次前期に実習を行なう。

3. 実習施設
神戸市立医療センター中央市民病院
兵庫医科大学病院

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程： 高度な実践、教育、相談に関する実習

[成績評価方法]
一部実施・参加した活動のパフォーマンス（50%）と実習レポート（50%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指導教員から適宜指示する。

[参考書（ISBN）]
指導教員から適宜指示する。

N21000200 [GB6-202]

科目名	慢性高度実践看護演習Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美、鷲田　幸一、加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. フィジカルアセスメントの技術を身につけ、主な慢性病よる形態・機能および病態生理学的な変化と、症状・徴候、検査結果を関連付けて説明できる。
2. 看護理論に基づくヘルスアセメントの技術、ならびに慢性病者と家族の病気と治療の体験、生活体験について理解するための面接法、ライフストーリー法の技術を修得できる。
3. 慢性病者の家族やサポートネットワーク、ならびに活用可能な社会的資源や制度について説明できる
4. 慢性病者と家族の反応・行動について、身体的、心理的、社会的な情報を統合し、既習の理論や概念を活用して多角的に分析・解釈・理解する高度なアセスメント能力を身につける。
5. 事例検討を通じて、複雑な問題を抱える慢性病者とその家族の包括的なアセスメントが実施できる。

[授業概要]
フィジカルアセスメント、ヘルスアセスメント、面接法、ライフストーリー法などの知識と技術を活用し、慢性病者と家族を包括的にアセスメントする能力を養う。問診、視診、触診、打診、聴診の基本手技と検査結果の的確な解釈によって、対象者の安全・安楽に配慮した正確な身体情報の収集を行い、面接法やライフヒストリー法、心理測定尺度の使用によって、心理・社会的側面と生活体験、病の体験を深く理解する技術を磨く。事例検討を通じて、家族を含めた慢性病者の包括的アセスメントの基本技術を修得し、慢性病の時期に応じた包括的アセスメントの実施方法を学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
教科書、関連資料を十分に理解して授業参加すること。事例検討に関しては、担当範囲について十分に準備したうえで臨むこと。

[授業計画]
1. 慢性病者のフィジカルアセスメントに必要な技術：問診、視診、触診、打診、聴診技術と解剖学的指標部位（加治秀介）
2. 慢性病者の呼吸機能、循環機能のフィジカルアセスメント：（加治秀介）
3. 慢性病者の脳神経機能、運動機能代謝・感覚機能のフィジカルアセスメント（藤原由子）
4. 慢性病者の代謝・内分泌、免疫機能、消化吸収排泄機能のフィジカルアセスメント（加治秀介）
5. 面接法による慢性病者の心理・社会面のアセスメント（藤原由子）
6. ライフストーリー法による慢性病者の生活体験、アセスメント（藤原由子）
7. 心理・社会的尺度を用いた慢性病者のヘルスアセメント（横内光子）
8. 慢性病者の家族に対するアセスメント（元木絵美）
9. 事例検討　1）：慢性病の予防における包括的アセスメント（横内光子）
10. 事例検討 2）：診断・治療期にある慢性病者と家族の包括的アセスメント（元木絵美）
11. 事例検討 3）：リハビリテーション期にある慢性病者と家族の包括的アセスメント（鷲田幸一）
12. 事例検討 4）：急性増悪した慢性病者と家族の包括的アセスメント（横内光子）
13. 事例検討 5）：維持期にある慢性病者と家族の包括的アセスメント（藤原由子）
14. 事例検討 6）：ターミナル期にある慢性病者と家族の包括的アセスメント（鷲田幸一）
15. 慢性病者と家族の包括アセスメントの特徴と課題（横内光子・元木絵美）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程：2.慢性病者の査定に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度（60 %）と課題レポート(40%) で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
家族エンパワーメントをもたらす看護実践　著者名：野嶋佐由美 監修（2005）　出版社：へるす出版（978-4892695407）

[参考書（ISBN）]
Physical Examination and Health Assessment,7th Edition　著者名：Carolyn Jarvis著（2015）　出版社：Sanders（改定版発刊予定）
担当教員から適宜指示する。

N21000490 [GB5-236]

科目名	慢性高度実践看護演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、藤原　由子、元木　絵美、鷲田　幸一、加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 主な慢性病の治療について、症状・徴候、検査結果、形態・機能および病態生理学的な変化と関連付けて体系的に説明できる。
2. 事例検討を通じて、慢性病の予防、診断・治療、自己管理、リハビリテーション、急性増悪、ターミナルの各看護が必要となる時期の特徴に応じて、科学的根拠に基づく効果的な看護計画を立案できる。
3. 事例検討を通じて、慢性病者と家族の抱える問題の多面性や複雑性を考慮し、慢性病者とその家族を適切に支援するための理論・概念と技術を活用し、包括的アセスメントに基づいた看護計画を立案できる。
4. 主要な理論・概念を用いた支援技術を身につけ、ロールプレイを通じて自己の支援技術の課題を明確化できる。

[授業概要]
慢性病者の症状緩和や、合併症・再燃・急性憎悪を予防するための、症状マネジメント、アドボカシーや意思決定、患者教育などの概念やモデルに基づく支援技術と支援方法を学ぶ。慢性看護分野のなかで専門領域（サブ・スペシャリティ）を決め、その領域の慢性病者のウェルネスやQOLを高める支援に関するこれまでのエビデンスと今後の課題を明らかにする。また事例検討とロールプレイを通じて、効果的な支援技術の要素を考察し、自己の技術を評価する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
該当する教科書、資料を十分に理解して授業に参加すること。ロールプレイに関しては、担当範囲について十分に準備したうえで臨むこと。

[授業計画]
1. 慢性病患者のWellness とQOL（Quality of Life）維持・向上を目指した支援（横内光子）
2. 事例検討1）：慢性病者の薬物療法の管理（加治秀介・横内光子）
3. 事例検討2）：慢性病者の医療処置の管理（加治秀介・横内光子）
4. 事例検討3）：慢性病者の治療中の副作用、副反応、合併症とその管理（加治秀介・横内光子）
5. 慢性病者の医学的管理とWellness ・QOLの関連性（横内光子）
6. アドボカシーの概念を用いた支援の実際（ロールプレイ）（元木絵美）
7. サブ・スペシャリティにおけるアドボカシーの概念を用いた支援（文献検討を含む事例検討）（元木絵美）
8. 意思決定の概念を用いた支援の実際（ロールプレイ）（鷲田幸一）
9. サブ・スペシャリティにおける意思決定の概念を用いた支援（文献検討を含む事例検討）（鷲田幸一）
10. 患者教育の理論を用いた支援の実際（ロールプレイ）（横内光子）
11. サブ・スペシャリティにおける患者教育の理論を用いた支援（文献検討を含む事例検討）（横内光子）
12. 症状マネジメントモデルを用いた支援の実際（ロールプレイ）（元木絵美）
13. サブ・スペシャリティにおける症状マネジメントのモデルを用いた支援（文献検討を含む事例検討）（元木絵美）
14. 支援技術の評価方法と評価の実際（元木絵美）
15. CureとCareを統合した支援（藤原由子）

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
慢性看護専攻教育課程：3.慢性病者への支援技術に関する科目

[成績評価方法]
授業への参加度（60%）と課題レポート(40%)で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
クロニックイルネス―人と病いの新たなかかわり　著者名：アイリーン・モロフ　ラブキン，パマラ・D. ラーセン著，黒江ゆり子訳（2007）　出版社：医学書院　(4-260-00058-6)
慢性疾患を生きる―ケアとクオリティ・ライフの接点　著者名：Anselm L. Strauss, J. Corbin S. Fagerhaugh 他著，南裕子，木下康仁，野嶋佐由美 翻訳（1987）　出版社：医学書院　(4-260-34861-2)

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21000500 [GB5-237]

科目名	慢性高度実践看護課題研究	前期～後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 関心領域における実践に根ざした研究課題を見出すことができる。
2. 研究計画書を作成することができる。
3. 研究計画書に基づいて、データ収集、分析ができる。
4. 研究のプロセスに沿って論文をまとめることができる。
5. 専門看護師として研究への態度を身につける。

[授業概要]
専門看護師コースの学生が、専門とする分野での実践や実習の中で見いだした特定のテーマに関して、研究的の取り組み、その成果を社会に還元する意義とプロセスを学ぶ。テーマを研究課題として明確化し、実践を通じて得た情報を整理・分析・考察してその成果をまとめる。課題探究を通して、慢性疾患看護専門看護師として看護実践上の課題解決能力を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
看護研究方法論Ⅰを修得していること。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. コースオリエンテーション
2. 課題の明確化に向けての検討　自己の臨床経験からの課題
3. 演習や実習を通しての課題の明確化
4. 課題に関する文献検討1):国内の先行研究のクリティーク
5. 課題に関する文献検討2):国外の先行研究のクリティーク
6. 課題に関する文献検討3):文献検討のまとめ
7. 文献検討から得た課題に関する知見
8. 研究計画書の作成1):構成の検討
9. 研究計画書の作成2):課題に対する研究デザインの検討
10. 研究計画書の作成3):フィールドワーク方法の検討
11. 研究計画書の作成4):データ収集方法と分析の検討
12. 研究計画書の作成5):研究における倫理的配慮についての検討
13. 研究倫理審査への申請
14. データ収集1):フィールドへの入り方　対象者へのインフォームドコンセント
15. データ収集2):対象、フィールドとの関係作りとデータ収集
16. データ収集3):データ収集、フィールドノートの作成
17. データ収集4):データ収集、フィールドノートの作成
18. データ収集5):データ収集、フィールドノートの作成、データの確認
19. データ収集と分析1):データの整理と分析
20. データ収集と分析2):データ分析
21. データ収集と分析3):データ分析と確認
22. 研究結果のまとめ1):分析結果の整理と図式化
23. 研究結果のまとめ2):分析結果の解釈
24. 考察の検討1):分析結果の解釈と考察
25. 考察の検討2):分析結果の解釈と考察
26. 考察の検討3):総合的な考察
27. 論文の作成1):論文の構成、アウトラインと整合性の確認
28. 論文の作成2):表現の適切性、文章構成の確認
29. 論文の作成3):発表準備
30. 論文発表

＊フィールドでの介入やデータ収集、論文作成についての指導は、進捗状況にあわせて適宜行う。

[成績評価方法]
研究への取り組み(課題の焦点化、研究計画書の作成、データ収集・分析)(50%)と成果物(60%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
特に指定しない。

[参考書(ISBN)]
指導教員から適宜指示する。

N21000550 [GB6-213]

科目名	臨床薬理学	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川　豊、洪　愛子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 高度な看護実践に必要な薬物療法の基本的考え方と、薬理学について理解を深める。
2. 緊急応急処置、症状マネジメント、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上をはかるための知識と技術を学ぶ。

[授業概要]
多様な臨床場面で必要な治療を理解し、薬剤学、薬理学について学び、緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、専門看護師として必要な薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上をはかるための最新の知識と技術を修得する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
事前に教科書、参考書を熟読し、不明点について調べおくこと。

[授業計画]
1. 臨床薬理学概説:医薬品の分類と 法律、薬物動態と薬力学、副作用・有害作用と薬物相互作用 (吉川豊)
2. 薬物動態の理論 :薬物の吸収・分布・代謝・排泄、主な薬物動態パラメータ、病態における薬物動態と処方の考え方 (吉川豊)
3. 生活習慣病に対する薬物療法:主要薬物の薬理作用 ・副作用 ・安全管理、処方の考え方 (吉川豊)
4. 感染症に対する薬物療法:主要薬物の薬理作用・副作用、安全管理、処方の考え方(吉川豊・洪愛子)
5. アレルギー疾患・自己免疫疾患に対する薬物療法:主要薬物の薬理作用・副作用、安全管理、処方の考え方(吉川豊)
6. 向精神薬を用いた薬物療法:主要薬物の薬理作用・副作用、安全管理、処方の考え方 (吉川豊)
7. 鎮痛剤・ 鎮静剤を用いた薬物療法:主要薬物の薬理作用・副作用、安全管理、処方の考え方(吉川豊)
8. 抗腫瘍薬を用いた薬物療法:主要薬物の薬理作用・副作用、安全管理、処方の考え方(吉川豊)
9. 事例検討 1):生活習慣病の薬剤使用の判断と患者モニタリング、生活調整、服薬管理能力の向上 (洪愛子・吉川豊)
10. 事例検討2):感染症の薬剤使用の判断と患者モニタリング、回復の促進 (洪愛子)
11. 主要薬物の相互作用1):小児・高齢者に対する薬物療法 (吉川豊)
12. 主要薬物の相互作用2):慢性疾患患者に対する薬物療法 (吉川豊)
13. アナフィラキシーショックの早期発見と緊急応急処置(吉川豊 ・洪愛子)
14. 服薬アドヒランスと看護 (洪愛子・吉川豊)
15. まとめ:薬物療法におけるアセスメントと看護 (洪愛子・吉川豊)

専門看護師教育課程については、専門看護分野別専攻教育課程の基準【別表】にある科目と内容のうち、当該科目で教授する科目
共通科目B:臨床薬理学

[成績評価方法]
課題への取り組み (30%) と最終 レポート(70%)で評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
病態生理に基づく臨床薬理学 ー ハーバード大学テキスト　著者名:デービッド・E. ゴーラン編集(2006)　出版社:メディカルサイエンスインターナショナル (978-4895924610)

[参考書(ISBN)]
臨床薬理学第4版　著者名:日本臨床薬理学会(2017)　出版社:医学書院 (978-4260028738)
重篤副作用疾患別対応マニュアル　アナフィラキシー, http://www.pmda.go.jp/files/000144285.pdf　著者名:厚生労働省 (2008)
漢方薬の考え方使い方　著者名:加島雅之(2014)　出版社:中外医学社 (978-4498017986)
日本語版 サンフォード感染症治療ガイド(第 47 版) 著者名:菊池賢 , 橋本正良 監修 , M.D. David N. Gilbert ,Henry F.Chambers他編集 (2017)　出版社:ライフサエンス出版 (978-4897753607)
抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンスhttp://www.kansensho.or.jp/guidelines/index.html　著者名:8学会合同抗微生物薬適正使用推進検討委員会(2017)

N21000120 [GB5-211]

科目名	英語論文演習	後期	1 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二、田村　康子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 英語の原著論文の書き方のルールを理解するとともに、論文で一般的に用いられる構文や、専門用語に慣れる。
2. 論文の主旨の理解が、最小限の辞書の使用でできるようになる。
3. 関心のある研究分野の動向に関する情報を、英語論文を用いて収集する習慣をつける。

[授業概要]
看護研究においても、英語の原著論文に慣れ親しみ，原著論文を読みこなす基礎能力を身につけることは極めて重要であると考えられる。そこで本科目では、研究に取り組む姿勢や論文の背景にある技術、さらには今後発展させるべき学問領域についての理解を深めることを目的として、各自の研究に関係する先行研究の英語論文や国際機関のレポートなどを検索･読解させる。さらに、その概要を発表することで英語論文の作成能力や英語でのプレゼンテーションスキルの向上を目指す。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
事前に関連論文を選択して目を通しておくことが必須条件となる。

[授業計画]
1. ガイダンス 英語論文講読の必要性（宇賀昭二）
2. 英語論文の読み方 （原著論文の特徴理解）（宇賀昭二）
3. 英語論文の読み方 （論文の各項目に書かれている事項の理解）（宇賀昭二）
4. 英語論文の書き方（科学論文の英語表記の特徴）（宇賀昭二）
5. 英語論文の書き方（科学論文の慣用的表現の理解）（宇賀昭二）
6. 論文内容の理解と，プレゼンテーション （宇賀昭二）
7. 各自の研究テーマに沿った論文の検索と講読・発表（宇賀昭二）
8. グループワーク（宇賀昭二）
9. 研究テーマに関連する国際機関英文資料の講読（田村康子）
10. 研究テーマに関連する質的研究看護英語論文の講読（田村康子）
11. 研究テーマに関連する量的研究看護英語論文の講読（田村康子）
12. 国際学会での発表の準備（田村康子）
13. 国際学会での発表の実際 （田村康子）
14. 関心のある研究テーマについて英文資料を作成する（ 田村康子）
15. 発表（ 田村康子）

[成績評価方法]
プレゼンテーショ内容（80 %）および授業中の積極的な参加（質問や発言内容など、20%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
特に指定しない

[参考書（ISBN）]
特に指定しない

N21100030 [GB6-217]

科目名	看護学演習	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子、中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察できる。
2. 自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について説明できる。
3. 関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深める。

[授業概要]
自らの関心に基づき、研究で取り扱う看護の問題現象についての知識を深めるとともに、自律して研究活動が行える高度な研究能力を養うことを目的としている。まず、関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察する。また自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について分析する。関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深め、さらに自らの研究課題に応じた研究方法論について検討する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各担当教員と相談し、選んだ分野に関して以下の内容について演習を行う。
1. 関心のある看護問題に関する国内外の研究論文を幅広く検索する。
2. 国内文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
3. 国外文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
4. 課題解決を必要とする自らの研究課題を洗練させる。
5. 研究課題の現象に関連する主要な概念について分析する。
6. 収集した研究論文の批判的検討を行う。
7. 問題現象に関する知識を深める。
8. 研究課題に関する研究デザインについて理解を深める。
9. 研究課題に関する分析方法について理解を深める。
10．研究課題に関する研究方法論について理解を深める。
11．課題解決に必要とされる理論について検討する。
12．課題解決に必要とされる方法論、技法について検討する。
13．自らの研究課題の究明に理論、方法論、技法を活用し、発展させる。
14．研究計画について討論する。
15．まとめ

【論文指導教員名と指導の概要】
【看護ケア・教育学】
・野並 葉子、中岡 亜希子（共同）
コミュニティ・オブ・プラクティスの看護実践及び看護教育への応用のため、戦略的フィールド開発について検討する。研究課題の設定、研究課題を推進していくために必要な研究方法の選択、データ収集、研究倫理、フィールド開発について、実際のフィールドに参加し、その開発プロセスについて理解を深める。その上で、自身の研究課題を焦点化し、その研究課題を推進するためのコミュニティの育成、データ収集の方略など研究法を修得する。

[成績評価方法]
・授業への参加およびディスカッション状況（30 %）
・研究計画書および課題レポート（70 %）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
各担当者より適宜紹介する

N21100110 [GB6-225]

科目名	看護学演習	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二、田村　康子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察できる。
2. 自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について説明できる。
3. 関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深める。

[授業概要]
自らの関心に基づき、研究で取り扱う看護の問題現象についての知識を深めるとともに、自律して研究活動が行える高度な研究能力を養うことを目的としている。まず、関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察する。また自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について分析する。関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深め、さらに自らの研究課題に応じた研究方法論について検討する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各担当教員と相談し、選んだ分野に関して以下の内容について演習を行う。
1. 関心のある看護問題に関する国内外の研究論文を幅広く検索する。
2. 国内文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
3. 国外文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
4. 課題解決を必要とする自らの研究課題を洗練させる。
5. 研究課題の現象に関連する主要な概念について分析する。
6. 収集した研究論文の批判的検討を行う。
7. 問題現象に関する知識を深める。
8. 研究課題に関する研究デザインについて理解を深める。
9. 研究課題に関する分析方法について理解を深める。
10 . 研究課題に関する研究方法論について理解を深める。
11 . 課題解決に必要とされる理論について検討する。
12 . 課題解決に必要とされる方法論、技法について検討する。
13 . 自らの研究課題の究明に理論、方法論、技法を活用し、発展させる。
14 . 研究計画について討論する。
15 . まとめ

【論文指導教員名と指導の概要】
【国際保健学】
・宇賀 昭二、田村 康子(オムニバス方式／全 15 回)
国際保健学の実践には, その学問的背景の十分な理解に加えて、実践力と語学力が要求されるため、本演習での学習は英語論文演習での学習と表裏一体の形で進行させる。学生は、海外のInternational Journal な学術専門雑誌に投稿された原著論文を検索･読解する力を涵養すると共に、その内容の紹介や内容の活発な議論を通じて、各自の理解をさらに深化させる。また、実際にJICAの協力隊員や専門家経験者らにも演習に参加いただき、活動の実際を学ぶと共に、可能であればその活動の一端にも参加する。

(宇賀 昭二／ 8回)授業計画　1、3、6、8、9、10 、14 、15 回担当
国際保健活動が英語で推進できるよう、実践的な情報伝達能力を涵養する。その為には、単に語学力だけでなく、フィールドでの研究遂行能力の開発･向上を目指した教育を行う。
(田村 康子／7回)授業計画 2、4、5、7、11 、12 、13 回担当
各自の研究課題に関連する論文の紹介や討論を通じて、各自の理解を深化させるとともに、JICAの協力隊員や専門家に参加いただき、活動の実際を紹介してもらう。

[成績評価方法]
・授業への参加およびディスカッション状況(30 %)
・研究計画書および課題レポート(70 %)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
指定しない

[参考書(ISBN)]
各担当者より適宜紹介する

N2110011A [GB6-225]

科目名	看護学演習	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察できる。
2. 自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について説明できる。
3. 関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深める。

[授業概要]
看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。
自らの関心に基づき、研究で取り扱う看護の問題現象についての知識を深めるとともに、自律して研究活動が行える高度な研究能力を養うことを目的としている。まず、関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察する。また自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について分析する。関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深め、さらに自らの研究課題に応じた研究方法論について検討する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。
各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]
1. 関心のある看護問題に関する国内外の研究論文を幅広く検索する。
2. 国内文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
3. 国外文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
4. 課題解決を必要とする自らの研究課題を洗練させる。
5. 研究課題の現象に関連する主要な概念について分析する。
6. 収集した研究論文の批判的検討を行う。
7. 問題現象に関する知識を深める。
8. 研究課題に関する研究デザインについて理解を深める。
9. 研究課題に関する分析方法について理解を深める。
10．研究課題に関する研究方法論について理解を深める。
11．課題解決に必要とされる理論について検討する。
12．課題解決に必要とされる方法論、技法について検討する。
13．自らの研究課題の究明に理論、方法論、技法を活用し、発展させる。
14．研究計画について討論する。
15．まとめ

【論文指導教員名と指導の概要】
【看護情報システム】
●　東 ますみ
入院患者ケアシステムの実際や遠隔看護の実際、テレコミュニケーションを使用した患者アセスメントなど具体的な方略や手法を学び、さらに発展的なシステムの開発を試みる。また、看護における情報管理の必要性、看護実践における情報の利用、情報管理上の問題などについて検討する。関心領域の研究課題を焦点化し、文献レビューやクリティークを通して、課題に対する研究方法論を議論し研究計画書を作成するための知識と技術を修得する。

[成績評価方法]
・授業への参加およびディスカッション状況（30 %）
・研究計画書および課題レポート（70 %）
個別面接時に助言する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
担当者より適宜紹介する

N2110011B [GB6-225]

科目名	看護学演習	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察できる。
2. 自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について説明できる。
3. 関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深める。

[授業概要]
自らの関心に基づき、研究で取り扱う看護の問題現象についての知識を深めるとともに、自律して研究活動が行える高度な研究能力を養うことを目的としている。まず、関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察する。また自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について分析する。関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深め、さらに自らの研究課題に応じた研究方法論について検討する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各担当教員と相談し、選んだ分野に関して以下の内容について演習を行う。
1. 関心のある看護問題に関する国内外の研究論文を幅広く検索する。
2. 国内文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
3. 国外文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
4. 課題解決を必要とする自らの研究課題を洗練させる。
5. 研究課題の現象に関連する主要な概念について分析する。
6. 収集した研究論文の批判的検討を行う。
7. 問題現象に関する知識を深める。
8. 研究課題に関する研究デザインについて理解を深める。
9. 研究課題に関する分析方法について理解を深める。
10．研究課題に関する研究方法論について理解を深める。
11．課題解決に必要とされる理論について検討する。
12．課題解決に必要とされる方法論、技法について検討する。
13．自らの研究課題の究明に理論、方法論、技法を活用し、発展させる。
14．研究計画について討論する。
15．まとめ

【論文指導教員名と指導の概要】
【精神健康看護学】
・玉木 敦子
自らの関心に基づき、研究で取り扱う精神健康の問題現象についての知識を深めるとともに、自律して研究活動が行える高度な研究能力を養うことを目的としている。まず、関心のある精神健康の問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察する。また自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について分析する。関心のある精神健康の問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深め、さらに自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画を作成する。

[成績評価方法]
・授業への参加およびディスカッション状況(30 %)
・研究計画書および課題レポート(70 %)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
指定しない

[参考書(ISBN)]
各担当者より適宜紹介する

N2110011C [GB6-225]

科目名	看護学演習	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子、洪　愛子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察できる。
2. 自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について説明できる。
3. 関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深める。

[授業概要]
自らの関心に基づき、研究で取り扱う看護の問題現象についての知識を深めるとともに、自律して研究活動が行える高度な研究能力を養うことを目的としている。まず、関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察する。また自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について分析する。関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深め、さらに自らの研究課題に応じた研究方法論について検討する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各担当教員と相談し、選んだ分野に関して以下の内容について演習を行う。
1. 関心のある看護問題に関する国内外の研究論文を幅広く検索する。
2. 国内文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
3. 国外文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
4. 課題解決を必要とする自らの研究課題を洗練させる。
5. 研究課題の現象に関連する主要な概念について分析する。
6. 収集した研究論文の批判的検討を行う。
7. 問題現象に関する知識を深める。
8. 研究課題に関する研究デザインについて理解を深める。
9. 研究課題に関する分析方法について理解を深める。
10 . 研究課題に関する研究方法論について理解を深める。
11 . 課題解決に必要とされる理論について検討する。
12 . 課題解決に必要とされる方法論、技法について検討する。
13 . 自らの研究課題の究明に理論、方法論、技法を活用し、発展させる。
14 . 研究計画について討論する。
15 . まとめ

【論文指導教員名と指導の概要】
【看護政策・マネジメント】
・横内 光子、洪 愛子(オムニバス方式／全 15 回)
学習者の関心のあるテーマについて、看護実践の有効性を、多様な保健医療福祉の専門職ならびに制度の設計者・実施者と共有できる形で可視化するための、概念の分析ならびに複数の測定・評価方法に関する理解を深め、評価・分析方法を修得する。そのうえで、テーマに関連する保健医療福祉制度や政策、その歴史と成立過程、現状と今後の予測・課題・展望を精査し、看護サービスとして効果的に提供するための方略と方術を検討する能力を養う。
(横内 光子／8回)授業計画 1、2、4、5、6、13 、14 、15 回担当
概念分析の方法ならびに、保健医療福祉領域で共有可能な概念の測定・評価方法について教授する。
(洪 愛子／7回)授業計画 3、7、8、9、10 、11 、12 回担当
実際の政策提言や制度化プロセスの精査・分析の観点について概説し、看護サービスの制度化に関する方略と方術を教授する。

[成績評価方法]
・授業への参加およびディスカッション状況(30 %)
・研究計画書および課題レポート(70 %)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
指定しない

[参考書(ISBN)]
各担当者より適宜紹介する

N2110011D [GB6-225]

科目名	看護学演習	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察できる。
2. 自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について説明できる。
3. 関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深める。

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実戦経験を元に以下の内容を講義する。
自らの関心に基づき、研究で取り扱う看護の問題現象についての知識を深めるとともに、自律して研究活動が行える高度な研究能力を養うことを目的としている。まず、関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察する。また自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について分析する。関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深め、さらに自らの研究課題に応じた研究方法論について検討する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各担当教員と相談し、選んだ分野に関して以下の内容について演習を行う。
1. 関心のある看護問題に関する国内外の研究論文を幅広く検索する。
2. 国内文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
3. 国外文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
4. 課題解決を必要とする自らの研究課題を洗練させる。
5. 研究課題の現象に関連する主要な概念について分析する。
6. 収集した研究論文の批判的検討を行う。
7. 問題現象に関する知識を深める。
8. 研究課題に関する研究デザインについて理解を深める。
9. 研究課題に関する分析方法について理解を深める。
10．研究課題に関する研究方法論について理解を深める。
11．課題解決に必要とされる理論について検討する。
12．課題解決に必要とされる方法論、技法について検討する。
13．自らの研究課題の究明に理論、方法論、技法を活用し、発展させる。
14．研究計画について討論する。
15．まとめ

【論文指導教員名と指導の概要】
【高齢者高度実践看護学】
・藤田 冬子
超高齢社会を迎え、高齢者と家族の多様化が進み、従来の高齢者看護実践で対応しきれていない時代を迎えつつある。既存の老年学および老年看護領域の理論および研究の動向を概観するとともに、超高齢社会における新たな高齢者看護実践を開発するための方略を探求する。また、自らの関心を老年学および老年看護学の知識体系の中で位置づけ、高齢者と家族が向老期から終生期までに直面する健康問題への看護実践を開発するための基礎的研究能力を修得する。本講では、コミュニティに暮らす高齢者と家族のQOL維持となるケアプログラムやケアモデルの中心となる概念および看護支援を自律的・計画的に探求する。

[成績評価方法]
・授業への参加およびディスカッション状況（30 %）
・研究計画書および課題レポート（70 %）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
各担当者より適宜紹介する

N2110011E [GB6-225]

科目名	看護学演習	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察できる。
2. 自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について説明できる。
3. 関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深める。

[授業概要]
自らの関心に基づき、研究で取り扱う看護の問題現象についての知識を深めるとともに、自律して研究活動が行える高度な研究能力を養うことを目的としている。まず、関心領域の看護問題に関して、国内外の研究論文を幅広く検索することを通し、研究の動向、今後の課題を考察する。また自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について分析する。関心領域の看護問題に関する研究論文の批判的検討を行い、問題現象に関する知識とともに、研究デザイン、分析方法等、研究方法論についての理解を深め、さらに自らの研究課題に応じた研究方法論について検討する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各担当教員と相談し、選んだ分野に関して以下の内容について演習を行う。
1. 関心のある看護問題に関する国内外の研究論文を幅広く検索する。
2. 国内文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
3. 国外文献から研究の動向や今後の課題を考察する。
4. 課題解決を必要とする自らの研究課題を洗練させる。
5. 研究課題の現象に関連する主要な概念について分析する。
6. 収集した研究論文の批判的検討を行う。
7. 問題現象に関する知識を深める。
8. 研究課題に関する研究デザインについて理解を深める。
9. 研究課題に関する分析方法について理解を深める。
10．研究課題に関する研究方法論について理解を深める。
11．課題解決に必要とされる理論について検討する。
12．課題解決に必要とされる方法論、技法について検討する。
13．自らの研究課題の究明に理論、方法論、技法を活用し、発展させる。
14．研究計画について討論する。
15．まとめ

【論文指導教員名と指導の概要】
【看護病態学】
・加治 秀介
病院では多数の医療職による診断、治療、ケアが可能である。一方、社会の高齢化が進む中、コミュニティや在宅での医療の重要性が増している。そのような状況では看護師が単独で病態を正しく理解し、病診連携に貢献することや、ケアを開発していくことも求められる。学生が焦点化した領域での文献を批判的に検討し、新たなケアについての研究課題案を決める。さらにリサーチクエスチョンを具体化するために、より的を絞った文献検討を行う。決定した課題を解決するための実現可能な方法論(研究デザイン、分析方法、研究倫理など)を選び、研究計画書を作成する。

[成績評価方法]
・授業への参加およびディスカッション状況(30 %)
・研究計画書および課題レポート(70%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
指定しない

[参考書(ISBN)]
各担当者より適宜紹介する

N2110011F [GB6-225]

科目名	看護学研究	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ、横内　光子、中村　隆		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 看護学で活用されている研究デザインや研究方法、システマティックレビュー・メタアナリシスについて理解する。
2. 量的研究や質的研究やデザインの特徴について理解を深める。
3. 量的研究法を学び、看護研究に必要な多変量解析の基礎から応用までの実践能力を身につける。

[授業概要]
授業計画の1～9は、看護師免許を持つ教員が以下の授業概要が理解できるように講義する。
研究の基本要素を理解した上で、看護課題を解決するための、研究デザインならびに方法を開発できる高度な研究能力を養う。量的研究法・質的研究法の理解を深め、特に量的研究法について、適切な研究手法の選択、リサーチプログラムの立案、統計学の理解、基本的推測統計手法の利用、多変量解析の基礎から応用まで実践的に応用可能なように理解を深める。また、看護研究におけるシステマティックレビュー・メタアナリシスについて理解する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
自らの関心領域の研究論文を系統的に検索し、レビューしておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]
1. 看護研究の概観（東ますみ） 4/19 Ⅵ限
2. 看護研究のパラダイムシフト、看護研究の目的、研究例（東ますみ） 5/10 Ⅵ限
3. 研究における倫理的配慮（東ますみ） 5/10 Ⅶ限
4. 量的研究法の特徴（横内光子） 5/24 Ⅵ限
5. 量的研究法の適切な研究手法の選択（横内光子） 5/24 Ⅶ限
6. システマティックレビュー・メタアナリシスの概観（横内光子） 6/7 Ⅵ限
7. システマティックレビュー・メタアナリシスの方法（横内光子） 6/7 Ⅶ限
8. 質的研究法の特徴（横内光子） 6/21 Ⅵ限
9. リサーチプログラムの立案（横内光子） 6/21 Ⅶ限
10．統計学の理解（中村隆） 7/5 Ⅵ限
11．基本的推測統計手法の利用（中村隆） 7/5 Ⅶ限
12．多変量解析1（回帰分析、重回帰分析）（中村隆） 7/19 Ⅵ限
13．多変量解析2（因子分析）（中村隆） 7/19 Ⅶ限
14．多変量解析3（共分散構造分析）（中村隆） 8/2 Ⅵ限
15．自らの研究課題の分析（中村隆） 8/2 Ⅶ限

[成績評価方法]
・学修姿勢（20%）
・レポート（80%）
グループ面接時に助言する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
看護研究　原理と方法 第2版　著者名：D.F.ポーリット、C.T.ベック（近藤潤子監訳）（2010）　出版社：医学書院
看護研究入門 原著第7版 評価・統合・エビデンスの生成　著者名：バーンズ&グローブ,黒田裕子他監訳　出版社：エルゼビア・ジャパン

N21100020 [GB6-216]

科目名	看護学特別研究	～2023年度	6 単位
サブタイトル			
担当者	横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画書を作成することができる。
2. 研究倫理に基づいて研究を実施することができる。
3. データ収集・分析を行い、結果および考察を多角的に検討することができる。
4. 研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を修得することができる。
5. 専門領域における新しいエビデンスが創造できる、革新的な研究能力や卓越した教育能力を修得することができる。

[授業概要]
1年次
学生自らの関心領域を、国内外の研究・教育・実践の既存の文献等を用いて多角的に分析し、学生個人の問題意識に沿って研究課題を設定する。その研究に必要な知識および技法を修得し、設定した研究課題に関する先行研究を探究し、クリティークを通して研究計画書が立案できるよう、さらに、研究倫理審査を受けるまでの過程についても、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
2年次
研究計画書に従って、プレテストなどを通して研究方法論を洗練化するなど、データ収集方法に必要な知識や技法を修得し、データ分析を行い、研究結果をまとめるまでの過程について、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
3年次
収集した研究データの分析、検証を行い、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して、最終的な博士論文の作成が行えるように指導・支援する。研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を身につけ、専門領域における新しいエビデンスが創造できる革新的な研究能力や卓越した教育能力を備えた看護研究者・看護教育者を育成する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
【遠隔授業】

各主指導教員および副指導教員の指導の元に、下記示す段階を目指し、研究活動を展開する。
1年次
1. 研究課題の明確化①
2. 研究課題の明確化②
3. 研究課題の明確化③
4. 研究デザインの検討①
5. 研究デザインの検討②
6. 研究デザインの検討③
7. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
8. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
9. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
10．研究計画書の作成①
11．研究計画書の作成②
12．研究計画発表会に向けての準備（プレゼンテーション）
13．研究計画書の精練①
14．研究計画書の精練②
15．研究実施準備

2年次
16．研究計画書に基づいたデータ収集①
17．研究計画書に基づいたデータ収集②
18．研究計画書に基づいたデータ収集③
19．データ分析・評価①
20．データ分析・評価②
21．データ分析・評価③
22．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
23．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
24．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
25．データ分析結果の妥当性の検証①
26．データ分析結果の妥当性の検証②
27．データ分析結果の妥当性の検証③
28．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察①
29．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察②
30．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察③

3年次
31．研究論文の作成①
32．研究論文の作成②
33．研究論文の作成③
34．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）①
35．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）②
36．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）③
37．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
38．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
39．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
40．博士論文の完成①
41．博士論文の完成②
42．博士論文の完成③
43．博士論文の完成④
44．博士論文の完成⑤
45．博士論文の完成⑥

・横内 光子
1年次
看護実践をサービスの観点からとらえ、主としてシミュレーションの手法を用いたサービスの評価と改善、効率的なサービス提供システムの構築、効果的なサービス開発に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。
2年次
看護実践をサービスの観点からとらえ、主としてシミュレーションの手法を用いたサービスの評価と改善、効率的なサービス提供システムの構築、効果的なサービス開発に関する研究課題に対して、研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。
3年次
看護実践をサービスの観点からとらえ、主としてシミュレーションの手法を用いたサービスの評価と改善、効率的なサービス提供システムの構築、効果的なサービス開発に関する研究課題に対して、2年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する課程の研究指導を行う。

[成績評価方法]
・研究計画書およびレポート（20 %）
・研究論文の完成度（70 %）
・プレゼンテーションおよび学修姿勢（10 %）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
各担当者より適宜紹介する

ND21100120 [GB6-226]

科目名	看護学特別研究	～2023年度	6 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画書を作成することができる。
2. 研究倫理に基づいて研究を実施することができる。
3. データ収集・分析を行い、結果および考察を多角的に検討することができる。
4. 研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を修得することができる。
5. 専門領域における新しいエビデンスが創造できる、革新的な研究能力や卓越した教育能力を修得することができる。

[授業概要]
1年次
学生自らの関心領域を、国内外の研究・教育・実践の既存の文献等を用いて多角的に分析し、学生個人の問題意識に沿って研究課題を設定する。その研究に必要な知識および技法を修得し、設定した研究課題に関する先行研究を探究し、クリティークを通して研究計画書が立案できるよう、さらに、研究倫理審査を受けるまでの過程についても、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
2年次
研究計画書に従って、プレテストなどを通して研究方法論を洗練化するなど、データ収集方法に必要な知識や技法を修得し、データ分析を行い、研究結果をまとめるまでの過程について、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
3年次
収集した研究データの分析、検証を行い、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して、最終的な博士論文の作成が行えるように指導・支援する。研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を身につけ、専門領域における新しいエビデンスが創造できる革新的な研究能力や卓越した教育能力を備えた看護研究者・看護教育者を育成する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各主指導教員および副指導教員の指導の元に、下記示す段階を目指し、研究活動を展開する。
1年次
1. 研究課題の明確化①
2. 研究課題の明確化②
3. 研究課題の明確化③
4. 研究デザインの検討①
5. 研究デザインの検討②
6. 研究デザインの検討③
7. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①(学外特別講師)
8. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②(学外特別講師)
9. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③(学外特別講師)
10．研究計画書の作成①
11．研究計画書の作成②
12．研究計画発表会に向けての準備(プレゼンテーション)
13．研究計画書の精練①
14．研究計画書の精練②
15．研究実施準備

2年次
16．研究計画書に基づいたデータ収集①
17．研究計画書に基づいたデータ収集②
18．研究計画書に基づいたデータ収集③
19．データ分析・評価①
20．データ分析・評価②
21．データ分析・評価③
22．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①(学外特別講師)
23．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②(学外特別講師)
24．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③(学外特別講師)
25．データ分析結果の妥当性の検証①
26．データ分析結果の妥当性の検証②
27．データ分析結果の妥当性の検証③
28．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察①
29．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察②
30．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察③

3年次
31．研究論文の作成①
32．研究論文の作成②
33．研究論文の作成③
34．研究論文の推敲(学会誌への論文投稿を含む)①
35．研究論文の推敲(学会誌への論文投稿を含む)②
36．研究論文の推敲(学会誌への論文投稿を含む)③
37．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①(学外特別講師)
38．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②(学外特別講師)
39．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③(学外特別講師)
40．博士論文の完成①
41．博士論文の完成②
42．博士論文の完成③
43．博士論文の完成④
44．博士論文の完成⑤
45．博士論文の完成⑥

・洪 愛子
1年次
感染予防、感染管理のシステムやヘルスケアマネジメント、教育支援および看護政策に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導補助を行う。
2年次
感染予防、感染管理のシステムやヘルスケアマネジメント、教育支援および看護政策に関する研究課題に対して、研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導補助を行う。
3年次
感染予防、感染管理のシステムやヘルスケアマネジメント、教育支援および看護政策に関する研究課題に対して、2年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導補助を行う。

[成績評価方法]
・研究計画書およびレポート(20 %)
・研究論文の完成度(70 %)
・プレゼンテーションおよび学修姿勢(10 %)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
指定しない

[参考書(ISBN)]
各担当者より適宜紹介する

ND2110012A [GB6-226]

科目名	看護学特別研究	～2023年度	6 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画書を作成することができる。
2. 研究倫理に基づいて研究を実施することができる。
3. データ収集・分析を行い、結果および考察を多角的に検討することができる。
4. 研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を修得することができる。
5. 専門領域における新しいエビデンスが創造できる、革新的な研究能力や卓越した教育能力を修得することができる。

[授業概要]
1年次
学生自らの関心領域を、国内外の研究・教育・実践の既存の文献等を用いて多角的に分析し、学生個人の問題意識に沿って研究課題を設定する。その研究に必要な知識および技法を修得し、設定した研究課題に関する先行研究を探究し、クリティークを通して研究計画書が立案できるよう、さらに、研究倫理審査を受けるまでの過程についても、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
2年次
研究計画書に従って、プレテストなどを通して研究方法論を洗練化するなど、データ収集方法に必要な知識や技法を修得し、データ分析を行い、研究結果をまとめるまでの過程について、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
3年次
収集した研究データの分析、検証を行い、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して、最終的な博士論文の作成が行えるように指導・支援する。研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を身につけ、専門領域における新しいエビデンスが創造できる革新的な研究能力や卓越した教育能力を備えた看護研究者・看護教育者を育成する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各主指導教員および副指導教員の指導の元に、下記示す段階を目指し、研究活動を展開する。
1年次
1. 研究課題の明確化①
2. 研究課題の明確化②
3. 研究課題の明確化③
4. 研究デザインの検討①
5. 研究デザインの検討②
6. 研究デザインの検討③
7. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
8. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
9. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
10．研究計画書の作成①
11．研究計画書の作成②
12．研究計画発表会に向けての準備（プレゼンテーション）
13．研究計画書の精練①
14．研究計画書の精練②
15．研究実施準備

2年次
16．研究計画書に基づいたデータ収集①
17．研究計画書に基づいたデータ収集②
18．研究計画書に基づいたデータ収集③
19．データ分析・評価①
20．データ分析・評価②
21．データ分析・評価③
22．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
23．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
24．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
25．データ分析結果の妥当性の検証①
26．データ分析結果の妥当性の検証②
27．データ分析結果の妥当性の検証③
28．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察①
29．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察②
30．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察③

3年次
31．研究論文の作成①
32．研究論文の作成②
33．研究論文の作成③
34．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）①
35．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）②
36．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）③
37．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
38．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
39．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
40．博士論文の完成①
41．博士論文の完成②
42．博士論文の完成③
43．博士論文の完成④
44．博士論文の完成⑤
45．博士論文の完成⑥

・加治 秀介
1年次
動脈硬化発症の背景疾患における生活習慣、ホルモン分泌動態、関連分子の遺伝子多型などを包括的に捉え、代謝性疾患を中心に個別的発症要因の解明から予防やケア開発の確立を目指す研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。
2年次
動脈硬化発症の背景疾患における生活習慣、ホルモン分泌動態、関連分子の遺伝子多型などを包括的に捉え、代謝性疾患を中心に個別的発症要因の解明から予防やケア開発の確立を目指す研究課題に対して、研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。
3年次
動脈硬化発症の背景疾患における生活習慣、ホルモン分泌動態、関連分子の遺伝子多型などを包括的に捉え、代謝性疾患を中心に個別的発症要因の解明から予防やケア開発の確立を目指す研究課題に対して、2年次までの研究過程を踏まえ、研究データ の分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。

[成績評価方法]
・研究計画書およびレポート（20 %）
・研究論文の完成度（70 %）
・プレゼンテーションおよび学修姿勢（10 %）提出物はコメントして返却

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
各担当者より適宜紹介する

ND2110012B [GB6-226]

科目名	看護学特別研究	～2023年度	6 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画書を作成することができる。
2. 研究倫理に基づいて研究を実施することができる。
3. データ収集・分析を行い、結果および考察を多角的に検討することができる。
4. 研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を修得することができる。
5. 専門領域における新しいエビデンスが創造できる、革新的な研究能力や卓越した教育能力を修得することができる。

[授業概要]
老人看護専門看護師の認定を受けた教員が、実戦経験を元に以下の内容を講義する。
1年次
学生自らの関心領域を、国内外の研究・教育・実践の既存の文献等を用いて多角的に分析し、学生個人の問題意識に沿って研究課題を設定する。その研究に必要な知識および技法を修得し、設定した研究課題に関する先行研究を探究し、クリティークを通して研究計画書が立案できるよう、さらに、研究倫理審査を受けるまでの過程についても、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
2年次
研究計画書に従って、プレテストなどを通して研究方法論を洗練化するなど、データ収集方法に必要な知識や技法を修得し、データ分析を行い、研究結果をまとめるまでの過程について、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
3年次
収集した研究データの分析、検証を行い、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して、最終的な博士論文の作成が行えるように指導・支援する。研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を身につけ、専門領域における新しいエビデンスが創造できる革新的な研究能力や卓越した教育能力を備えた看護研究者・看護教育者を育成する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各主指導教員および副指導教員の指導の元に、下記示す段階を目指し、研究活動を展開する。
1年次
1. 研究課題の明確化①
2. 研究課題の明確化②
3. 研究課題の明確化③
4. 研究デザインの検討①
5. 研究デザインの検討②
6. 研究デザインの検討③
7. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
8. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
9. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
10．研究計画書の作成①
11．研究計画書の作成②
12．研究計画発表会に向けての準備（プレゼンテーション）
13．研究計画書の精練①
14．研究計画書の精練②
15．研究実施準備

2年次
16．研究計画書に基づいたデータ収集①
17．研究計画書に基づいたデータ収集②
18．研究計画書に基づいたデータ収集③
19．データ分析・評価①
20．データ分析・評価②
21．データ分析・評価③
22．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
23．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
24．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
25．データ分析結果の妥当性の検証①
26．データ分析結果の妥当性の検証②
27．データ分析結果の妥当性の検証③
28．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察①
29．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察②
30．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察③

3年次
31．研究論文の作成①
32．研究論文の作成②
33．研究論文の作成③
34．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）①
35．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）②
36．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）③
37．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
38．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
39．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
40．博士論文の完成①
41．博士論文の完成②
42．博士論文の完成③
43．博士論文の完成④
44．博士論文の完成⑤
45．博士論文の完成⑥

・藤田 冬子
1年次
超高齢社会の中で健康問題に向き合う高齢者および家族への療養支援となるケアプログラムの開発や高度看護実践能力開発および育成に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導補助を行う。特に、超高齢社会で多様化する高齢者へのコミュニティにおけるフレイル対策、認知症をもちながらの治療・療養支援方法の可視、高齢者介護家族への能力向上プログラムなど、高齢者高度実践看護に関する研究課題に取り組む。
2年次
超高齢社会の中で健康問題に向き合う高齢者および家族への療養支援となるケアプログラムの開発や、高度看護実践能力開発および育成に関する研究課題、特に、超高齢社会で多様化する高齢者へのコミュニティにおけるフレイル対策、認知症をもちながらの治療・療養支援方法の可視、高齢者介護家族への能力向上プログラムなど、高齢者高度実践看護に関する研究課題に対して、研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導補助を行う。
3年次
超高齢社会の中で健康問題に向き合う高齢者および家族への療養支援となるケアプログラムの開発や、高度看護実践能力開発および育成に関する研究課題、特に、超高齢社会で多様化する高齢者へのコミュニティにおけるフレイル対策、認知症をもちながらの治療・療養支援方法の可視、高齢者介護家族への能力向上プログラムなど、高齢者高度実践看護に関する研究課題に対して、2年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導補助を行う。

[成績評価方法]
・研究計画書およびレポート（20 %）
・研究論文の完成度（70 %）
・プレゼンテーションおよび学修姿勢（10 %）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
各担当者より適宜紹介する

ND2110012C [GB6-226]

科目名	看護学特別研究	～2023年度	6 単位
サブタイトル			
担当者	下敷領　須美子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画書を作成することができる。
2. 研究倫理に基づいて研究を実施することができる。
3. データ収集・分析を行い、結果および考察を多角的に検討することができる。
4. 研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を修得することができる。
5. 専門領域における新しいエビデンスが創造できる、革新的な研究能力や卓越した教育能力を修得することができる。

[授業概要]
1年次
学生自らの関心領域を、国内外の研究・教育・実践の既存の文献等を用いて多角的に分析し、学生個人の問題意識に沿って研究課題を設定する。その研究に必要な知識および技法を修得し、設定した研究課題に関する先行研究を探究し、クリティークを通して研究計画書が立案できるよう、さらに、研究倫理審査を受けるまでの過程についても、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
2年次
研究計画書に従って、プレテストなどを通して研究方法論を洗練化するなど、データ収集方法に必要な知識や技法を修得し、データ分析を行い、研究結果をまとめるまでの過程について、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
3年次
収集した研究データの分析、検証を行い、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して、最終的な博士論文の作成が行えるように指導・支援する。研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を身につけ、専門領域における新しいエビデンスが創造できる革新的な研究能力や卓越した教育能力を備えた看護研究者・看護教育者を育成する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。
各授業の前後に2時間程度、準備学修をおこなう。

[授業計画]
各主指導教員および副指導教員の指導の元に、下記示す段階を目指し、研究活動を展開する。
1年次
1. 研究課題の明確化①
2. 研究課題の明確化②
3. 研究課題の明確化③
4. 研究デザインの検討①
5. 研究デザインの検討②
6. 研究デザインの検討③
7. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
8. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
9. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
10．研究計画書の作成①
11．研究計画書の作成②
12．研究計画発表会に向けての準備（プレゼンテーション）
13．研究計画書の精練①
14．研究計画書の精練②
15．研究実施準備

2年次
16．研究計画書に基づいたデータ収集①
17．研究計画書に基づいたデータ収集②
18．研究計画書に基づいたデータ収集③
19．データ分析・評価①
20．データ分析・評価②
21．データ分析・評価③
22．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
23．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
24．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
25．データ分析結果の妥当性の検証①
26．データ分析結果の妥当性の検証②
27．データ分析結果の妥当性の検証③
28．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察①
29．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察②
30．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察③

3年次
31．研究論文の作成①
32．研究論文の作成②
33．研究論文の作成③
34．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）①
35．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）②
36．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）③
37．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
38．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
39．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
40．博士論文の完成①
41．博士論文の完成②
42．博士論文の完成③
43．博士論文の完成④
44．博士論文の完成⑤
45．博士論文の完成⑥

・下敷領 須美子
1年次
母性看護・助産学領域における子育て支援、セクシュアリティ健康教育に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導補助を行う。
2年次
母性看護・助産学領域における子育て支援、セクシュアリティ健康教育に関する研究課題に対して、研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導補助を行う。
3年次
母性看護・助産学領域における子育て支援、セクシュアリティ健康教育に関する研究課題に対して、2年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導補助を行う。

[成績評価方法]
・研究計画書およびレポート（20 %）
・研究論文の完成度（70 %）
・プレゼンテーションおよび学修姿勢（10 %）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
各担当者より適宜紹介する

ND2110012D [GB6-226]

科目名	看護学特別研究	～2023年度	6 単位
サブタイトル			
担当者	魚里　明子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画書を作成することができる。
2. 研究倫理に基づいて研究を実施することができる。
3. データ収集・分析を行い、結果および考察を多角的に検討することができる。
4. 研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を修得することができる。
5. 専門領域における新しいエビデンスが創造できる、革新的な研究能力や卓越した教育能力を修得することができる。

[授業概要]
1年次
学生自らの関心領域を、国内外の研究・教育・実践の既存の文献等を用いて多角的に分析し、学生個人の問題意識に沿って研究課題を設定する。その研究に必要な知識および技法を修得し、設定した研究課題に関する先行研究を探究し、クリティークを通して研究計画書が立案できるよう、さらに、研究倫理審査を受けるまでの過程についても、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
2年次
研究計画書に従って、プレテストなどを通して研究方法論を洗練化するなど、データ収集方法に必要な知識や技法を修得し、データ分析を行い、研究結果をまとめるまでの過程について、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
3年次
収集した研究データの分析、検証を行い、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して、最終的な博士論文の作成が行えるように指導・支援する。研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を身につけ、専門領域における新しいエビデンスが創造できる革新的な研究能力や卓越した教育能力を備えた看護研究者・看護教育者を育成する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各主指導教員および副指導教員の指導の元に、下記示す段階を目指し、研究活動を展開する。
1年次
1. 研究課題の明確化①
2. 研究課題の明確化②
3. 研究課題の明確化③
4. 研究デザインの検討①
5. 研究デザインの検討②
6. 研究デザインの検討③
7. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
8. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
9. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
10．研究計画書の作成①
11．研究計画書の作成②
12．研究計画発表会に向けての準備（プレゼンテーション）
13．研究計画書の精練①
14．研究計画書の精練②
15．研究実施準備

2年次
16．研究計画書に基づいたデータ収集①
17．研究計画書に基づいたデータ収集②
18．研究計画書に基づいたデータ収集③
19．データ分析・評価①
20．データ分析・評価②
21．データ分析・評価③
22．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
23．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
24．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
25．データ分析結果の妥当性の検証①
26．データ分析結果の妥当性の検証②
27．データ分析結果の妥当性の検証③
28．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察①
29．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察②
30．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察③

3年次
31．研究論文の作成①
32．研究論文の作成②
33．研究論文の作成③
34．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）①
35．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）②
36．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）③
37．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
38．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
39．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
40．博士論文の完成①
41．博士論文の完成②
42．博士論文の完成③
43．博士論文の完成④
44．博士論文の完成⑤
45．博士論文の完成⑥

・魚里 明子
1年次
地域看護学領域における看護実践の可視化・評価、モデル化・理論化、特に生活習慣病予防・介護予防ならびにケアシステム構築に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。
2年次
地域看護学領域における看護実践の可視化・評価、モデル化・理論化、特に生活習慣病予防・介護予防ならびにケアシステム構築に関する研究課題に対して、研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。
3年次
地域看護学領域における看護実践の可視化・評価、モデル化・理論化、特に生活習慣病予防・介護予防ならびにケアシステム構築に関する研究課題に対して、2年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。

[成績評価方法]
・研究計画書およびレポート（20 %）
・研究論文の完成度（70 %）
・プレゼンテーションおよび学修姿勢（10 %）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
各担当者より適宜紹介する

ND2110012E [GB6-226]

科目名	看護学特別研究	～2023年度	6 単位
サブタイトル			
担当者	内　正子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画書を作成することができる。
2. 研究倫理に基づいて研究を実施することができる。
3. データ収集・分析を行い、結果および考察を多角的に検討することができる。
4. 研究の一連の過程を通して、問題発見、問題探究・調査、論理的思考などの能力を修得することができる。
5. 専門領域における新しいエビデンスが創造できる、革新的な研究能力や卓越した教育能力を修得することができる。

[授業概要]
1年次
学生自らの関心領域を、国内外の研究・教育・実践の既存の文献等を用いて多角的に分析し、学生個人の問題意識に沿って研究課題を設定する。その研究に必要な知識および技法を修得し、設定した研究課題に関する先行研究を探究し、クリティークを通して研究計画書が立案できるよう、さらに、研究倫理審査を受けるまでの過程についても、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
2年次
研究計画書に従って、プレテストなどを通して研究方法論を洗練化するなど、データ収集方法に必要な知識や技法を修得し、データ分析を行い、研究結果をまとめるまでの過程について、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
3年次
収集した研究データの分析、検証を行い、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して、最終的な博士論文の作成が行えるように指導・支援する。研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を身につけ、専門領域における新しいエビデンスが創造できる革新的な研究能力や卓越した教育能力を備えた看護研究者・看護教育者を育成する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各主指導教員および副指導教員の指導の元に、下記示す段階を目指し、研究活動を展開する。
1年次
1. 研究課題の明確化①
2. 研究課題の明確化②
3. 研究課題の明確化③
4. 研究デザインの検討①
5. 研究デザインの検討②
6. 研究デザインの検討③
7. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
8. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
9. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
10．研究計画書の作成①
11．研究計画書の作成②
12．研究計画発表会に向けての準備（プレゼンテーション）
13．研究計画書の精練①
14．研究計画書の精練②
15．研究実施準備

2年次
16．研究計画書に基づいたデータ収集①
17．研究計画書に基づいたデータ収集②
18．研究計画書に基づいたデータ収集③
19．データ分析・評価①
20．データ分析・評価②
21．データ分析・評価③
22．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
23．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
24．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
25．データ分析結果の妥当性の検証①
26．データ分析結果の妥当性の検証②
27．データ分析結果の妥当性の検証③
28．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察①
29．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察②
30．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察③

3年次
31．研究論文の作成①
32．研究論文の作成②
33．研究論文の作成③
34．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）①
35．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）②
36．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）③
37．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
38．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
39．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
40．博士論文の完成①
41．博士論文の完成②
42．博士論文の完成③
43．博士論文の完成④
44．博士論文の完成⑤
45．博士論文の完成⑥

・内 正子
1年次
慢性疾患児の看護ケアや家族支援など、慢性疾患のある小児の発達段階に応じた支援方法の開発、在宅療養児の家族支援や多職種との連携に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。
2年次
慢性疾患児の看護ケアや家族支援など、慢性疾患のある小児の発達段階に応じた支援方法の開発、在宅療養児の家族支援や多職種との連携に関する研究課題に対して、研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。
3年次
慢性疾患児の看護ケアや家族支援など、慢性疾患のある小児の発達段階に応じた支援方法の開発、在宅療養児の家族支援や多職種との連携に関する研究課題に対して、2年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。

[成績評価方法]
・研究計画書およびレポート（20 %）
・研究論文の完成度（70 %）
・プレゼンテーションおよび学修姿勢（10 %）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
各担当者より適宜紹介する

ND2110012F [GB6-226]

科目名	看護学特別研究	～2023年度	6 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画書を作成することができる。
2. 研究倫理に基づいて研究を実施することができる。
3. データ収集・分析を行い、結果および考察を多角的に検討することができる。
4. 研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を修得することができる。
5. 専門領域における新しいエビデンスが創造できる、革新的な研究能力や卓越した教育能力を修得することができる。

[授業概要]
1年次
学生自らの関心領域を、国内外の研究・教育・実践の既存の文献等を用いて多角的に分析し、学生個人の問題意識に沿って研究課題を設定する。その研究に必要な知識および技法を修得し、設定した研究課題に関する先行研究を探究し、クリティークを通して研究計画書が立案できるよう、さらに、研究倫理審査を受けるまでの過程についても、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
2年次
研究計画書に従って、プレテストなどを通して研究方法論を洗練化するなど、データ収集方法に必要な知識や技法を修得し、データ分析を行い、研究結果をまとめるまでの過程について、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
3年次
収集した研究データの分析、検証を行い、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して、最終的な博士論文の作成が行えるように指導・支援する。研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を身につけ、専門領域における新しいエビデンスが創造できる革新的な研究能力や卓越した教育能力を備えた看護研究者・看護教育者を育成する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各主指導教員および副指導教員の指導の元に、下記示す段階を目指し、研究活動を展開する。
1年次
1. 研究課題の明確化①
2. 研究課題の明確化②
3. 研究課題の明確化③
4. 研究デザインの検討①
5. 研究デザインの検討②
6. 研究デザインの検討③
7. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
8. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
9. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
10．研究計画書の作成①
11．研究計画書の作成②
12．研究計画発表会に向けての準備（プレゼンテーション）
13．研究計画書の精練①
14．研究計画書の精練②
15．研究実施準備

2年次
16．研究計画書に基づいたデータ収集①
17．研究計画書に基づいたデータ収集②
18．研究計画書に基づいたデータ収集③
19．データ分析・評価①
20．データ分析・評価②
21．データ分析・評価③
22．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
23．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
24．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
25．データ分析結果の妥当性の検証①
26．データ分析結果の妥当性の検証②
27．データ分析結果の妥当性の検証③
28．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察①
29．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察②
30．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察③

3年次
31．研究論文の作成①
32．研究論文の作成②
33．研究論文の作成③
34．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）①
35．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）②
36．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）③
37．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
38．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
39．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
40．博士論文の完成①
41．博士論文の完成②
42．博士論文の完成③
43．博士論文の完成④
44．博士論文の完成⑤
45．博士論文の完成⑥

・野並 葉子
1年次
コミュニティ・オブ・プラクティスの看護実践及び看護教育への応用を通して、看護実践に必要な概念開発及び実践理論構築に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。
2年次
コミュニティ・オブ・プラクティスの看護実践及び看護教育への応用を通して、看護実践に必要な概念開発及び実践理論構築に関する研究課題に対して、研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。
3年次
コミュニティ・オブ・プラクティスの看護実践及び看護教育への応用を通して、看護実践に必要な概念開発及び実践理論構築に関する研究課題に対して、2年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。

[成績評価方法]
・研究計画書およびレポート（20 %）
・研究論文の完成度（70 %）
・プレゼンテーションおよび学修姿勢（10 %）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
各担当者より適宜紹介する

ND2110012G [GB6-226]

科目名	看護学特別研究	～2023年度	6 単位
サブタイトル			
担当者	中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画書を作成することができる。
2. 研究倫理に基づいて研究を実施することができる。
3. データ収集・分析を行い、結果および考察を多角的に検討することができる。
4. 研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を修得することができる。
5. 専門領域における新しいエビデンスが創造できる、革新的な研究能力や卓越した教育能力を修得することができる。

[授業概要]
1年次
学生自らの関心領域を、国内外の研究・教育・実践の既存の文献等を用いて多角的に分析し、学生個人の問題意識に沿って研究課題を設定する。その研究に必要な知識および技法を修得し、設定した研究課題に関する先行研究を探究し、クリティークを通して研究計画書が立案できるよう、さらに、研究倫理審査を受けるまでの過程についても、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
2年次
研究計画書に従って、プレテストなどを通して研究方法論を洗練化するなど、データ収集方法に必要な知識や技法を修得し、データ分析を行い、研究結果をまとめるまでの過程について、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
3年次
収集した研究データの分析、検証を行い、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して、最終的な博士論文の作成が行えるように指導・支援する。研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を身につけ、専門領域における新しいエビデンスが創造できる革新的な研究能力や卓越した教育能力を備えた看護研究者・看護教育者を育成する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各主指導教員および副指導教員の指導の元に、下記示す段階を目指し、研究活動を展開する。
1年次
1. 研究課題の明確化①
2. 研究課題の明確化②
3. 研究課題の明確化③
4. 研究デザインの検討①
5. 研究デザインの検討②
6. 研究デザインの検討③
7. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
8. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
9. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
10．研究計画書の作成①
11．研究計画書の作成②
12．研究計画発表会に向けての準備（プレゼンテーション）
13．研究計画書の精練①
14．研究計画書の精練②
15．研究実施準備

2年次
16．研究計画書に基づいたデータ収集①
17．研究計画書に基づいたデータ収集②
18．研究計画書に基づいたデータ収集③
19．データ分析・評価①
20．データ分析・評価②
21．データ分析・評価③
22．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
23．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
24．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
25．データ分析結果の妥当性の検証①
26．データ分析結果の妥当性の検証②
27．データ分析結果の妥当性の検証③
28．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察①
29．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察②
30．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察③

3年次
31．研究論文の作成①
32．研究論文の作成②
33．研究論文の作成③
34．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）①
35．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）②
36．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）③
37．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
38．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
39．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
40．博士論文の完成①
41．博士論文の完成②
42．博士論文の完成③
43．博士論文の完成④
44．博士論文の完成⑤
45．博士論文の完成⑥

・中岡 亜希子
1年次
看護における教育指導者の育成プログラムや学習ニーズ、看護技術教育に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導補助を行う。
2年次
看護における教育指導者の育成プログラムや学習ニーズ、看護技術教育に関する研究課題に対して、研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導補助を行う。
3年次
看護における教育指導者の育成プログラムや学習ニーズ、看護技術教育に関する研究課題に対して、2年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導補助を行う。

[成績評価方法]
・研究計画書およびレポート（20 %）
・研究論文の完成度（70 %）
・プレゼンテーションおよび学修姿勢（10 %）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
各担当者より適宜紹介する

ND2110012H [GB6-226]

科目名	看護学特別研究	～2023年度	6 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画書を作成することができる。
2. 研究倫理に基づいて研究を実施することができる。
3. データ収集・分析を行い、結果および考察を多角的に検討することができる。
4. 研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を修得することができる。
5. 専門領域における新しいエビデンスが創造できる、革新的な研究能力や卓越した教育能力を修得することができる。

[授業概要]
1年次
学生自らの関心領域を、国内外の研究・教育・実践の既存の文献等を用いて多角的に分析し、学生個人の問題意識に沿って研究課題を設定する。その研究に必要な知識および技法を修得し、設定した研究課題に関する先行研究を探究し、クリティークを通して研究計画書が立案できるよう、さらに、研究倫理審査を受けるまでの過程についても、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
2年次
研究計画書に従って、プレテストなどを通して研究方法論を洗練化するなど、データ収集方法に必要な知識や技法を修得し、データ分析を行い、研究結果をまとめるまでの過程について、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
3年次
収集した研究データの分析、検証を行い、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して、最終的な博士論文の作成が行えるように指導・支援する。研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を身につけ、専門領域における新しいエビデンスが創造できる革新的な研究能力や卓越した教育能力を備えた看護研究者・看護教育者を育成する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
各主指導教員および副指導教員の指導の元に、下記示す段階を目指し、研究活動を展開する。
1年次
1. 研究課題の明確化①
2. 研究課題の明確化②
3. 研究課題の明確化③
4. 研究デザインの検討①
5. 研究デザインの検討②
6. 研究デザインの検討③
7. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①(学外特別講師)
8. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②(学外特別講師)
9. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③(学外特別講師)
10．研究計画書の作成①
11．研究計画書の作成②
12．研究計画発表会に向けての準備(プレゼンテーション)
13．研究計画書の精練①
14．研究計画書の精練②
15．研究実施準備

2年次
16．研究計画書に基づいたデータ収集①
17．研究計画書に基づいたデータ収集②
18．研究計画書に基づいたデータ収集③
19．データ分析・評価①
20．データ分析・評価②
21．データ分析・評価③
22．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①(学外特別講師)
23．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②(学外特別講師)
24．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③(学外特別講師)
25．データ分析結果の妥当性の検証①
26．データ分析結果の妥当性の検証②
27．データ分析結果の妥当性の検証③
28．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察①
29．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察②
30．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察③

3年次
31．研究論文の作成①
32．研究論文の作成②
33．研究論文の作成③
34．研究論文の推敲(学会誌への論文投稿を含む)①
35．研究論文の推敲(学会誌への論文投稿を含む)②
36．研究論文の推敲(学会誌への論文投稿を含む)③
37．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①(学外特別講師)
38．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②(学外特別講師)
39．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③(学外特別講師)
40．博士論文の完成①
41．博士論文の完成②
42．博士論文の完成③
43．博士論文の完成④
44．博士論文の完成⑤
45．博士論文の完成⑥

・宇賀 昭二
1年次
寄生虫あるいは細菌類などの感染症に関する基礎的検討、あるいは開発途上国における各種疫学調査に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。
2年次
寄生虫あるいは細菌類などの感染症に関する基礎的検討、あるいは開発途上国における各種疫学調査に関する研究課題に対して、研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。
3年次
寄生虫あるいは細菌類などの感染症に関する基礎的検討、あるいは開発途上国における各種疫学調査に関する研究課題に対して、2年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。

[成績評価方法]
・研究計画書およびレポート(20 %)
・研究論文の完成度(70 %)
・プレゼンテーションおよび学修姿勢(10 %)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
指定しない

[参考書(ISBN)]
各担当者より適宜紹介する

ND2110012J [GB6-226]

科目名	看護学特別研究	～2023年度	6 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画書を作成することができる。
2. 研究倫理に基づいて研究を実施することができる。
3. データ収集・分析を行い、結果および考察を多角的に検討することができる。
4. 研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を修得することができる。
5. 専門領域における新しいエビデンスが創造できる、革新的な研究能力や卓越した教育能力を修得することができる。

[授業概要]
看護師免許を持つ教員が、以下の概要について演習を行う。
1年次
学生自らの関心領域を、国内外の研究・教育・実践の既存の文献等を用いて多角的に分析し、学生個人の問題意識に沿って研究課題を設定する。その研究に必要な知識および技法を修得し、設定した研究課題に関する先行研究を探究し、クリティークを通して研究計画書が立案できるよう、さらに、研究倫理審査を受けるまでの過程についても、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
2年次
研究計画書に従って、プレテストなどを通して研究方法論を洗練化するなど、データ収集方法に必要な知識や技法を修得し、データ分析を行い、研究結果をまとめるまでの過程について、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
3年次
収集した研究データの分析、検証を行い、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して、最終的な博士論文の作成が行えるように指導・支援する。研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を身につけ、専門領域における新しいエビデンスが創造できる革新的な研究能力や卓越した教育能力を備えた看護研究者・看護教育者を育成する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。
各回、予習復習合わせて2時間程度。

[授業計画]
1年次
1. 研究課題の明確化①
2. 研究課題の明確化②
3. 研究課題の明確化③
4. 研究デザインの検討①
5. 研究デザインの検討②
6. 研究デザインの検討③
7. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
8. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
9. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
10．研究計画書の作成①
11．研究計画書の作成②
12．研究計画発表会に向けての準備（プレゼンテーション）
13．研究計画書の精練①
14．研究計画書の精練②
15．研究実施準備

2年次
16．研究計画書に基づいたデータ収集①
17．研究計画書に基づいたデータ収集②
18．研究計画書に基づいたデータ収集③
19．データ分析・評価①
20．データ分析・評価②
21．データ分析・評価③
22．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
23．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
24．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
25．データ分析結果の妥当性の検証①
26．データ分析結果の妥当性の検証②
27．データ分析結果の妥当性の検証③
28．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察①
29．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察②
30．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察③

3年次
31．研究論文の作成①
32．研究論文の作成②
33．研究論文の作成③
34．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）①
35．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）②
36．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）③
37．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
38．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
39．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
40．博士論文の完成①
41．博士論文の完成②
42．博士論文の完成③
43．博士論文の完成④
44．博士論文の完成⑤
45．博士論文の完成⑥

● 東 ますみ
1年次
多様化している看護実践の場において、対象者や家族、地域に対し、QOLの向上に貢献可能な情報技術を利用した支援方法、糖尿病患者など生活習慣病患者の自己管理支援や生活習慣病予防、在宅療養支援等に対する遠隔看護システム構築のエビデンスの検証に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。
2年次
多様化している看護実践の場において、対象者や家族、地域に対し、QOLの向上に貢献可能な情報技術を利用した支援方法、糖尿病患者など生活習慣病患者の自己管理支援や生活習慣病予防、在宅療養支援等に対する遠隔看護システム構築のエビデンスの検証に関する研究課題に対して、研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。
3年次
多様化している看護実践の場において、対象者や家族、地域に対し、QOLの向上に貢献可能な情報技術を利用した支援方法、糖尿病患者など生活習慣病患者の自己管理支援や生活習慣病予防、在宅療養支援等に対する遠隔看護システム構築のエビデンスの検証に関する研究課題に対して、2年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。

[成績評価方法]
・研究計画書およびレポート（20 %）
・研究論文の完成度（70 %）
・プレゼンテーションおよび学修姿勢（10 %）
個別面接時に助言する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
各担当者より適宜紹介する

ND2110012K [GB6-226]

科目名	看護学特別研究	～2023年度	6 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 自らの研究課題に応じた研究方法論について検討し、研究計画書を作成することができる。
2. 研究倫理に基づいて研究を実施することができる。
3. データ収集・分析を行い、結果および考察を多角的に検討することができる。
4. 研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を修得することができる。
5. 専門領域における新しいエビデンスが創造できる、革新的な研究能力や卓越した教育能力を修得することができる。

[授業概要]
1年次
学生自らの関心領域を、国内外の研究・教育・実践の既存の文献等を用いて多角的に分析し、学生個人の問題意識に沿って研究課題を設定する。その研究に必要な知識および技法を修得し、設定した研究課題に関する先行研究を探究し、クリティークを通して研究計画書が立案できるよう、さらに、研究倫理審査を受けるまでの過程についても、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
2年次
研究計画書に従って、プレテストなどを通して研究方法論を洗練化するなど、データ収集方法に必要な知識や技法を修得し、データ分析を行い、研究結果をまとめるまでの過程について、学生が主体的に取り組めるよう指導・支援する。
3年次
収集した研究データの分析、検証を行い、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して、最終的な博士論文の作成が行えるように指導・支援する。研究の一連の過程を通して、問題発見、問題分析、問題探究・調査、論理的思考などの能力を身につけ、専門領域における新しいエビデンスが創造できる革新的な研究能力や卓越した教育能力を備えた看護研究者・看護教育者を育成する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. プレゼンテーションを行うに際し、必要な資料等の準備を主体的に行う。

[授業計画]
【遠隔授業】

各主指導教員および副指導教員の指導の元に、下記示す段階を目指し、研究活動を展開する。
1年次
1. 研究課題の明確化①
2. 研究課題の明確化②
3. 研究課題の明確化③
4. 研究デザインの検討①
5. 研究デザインの検討②
6. 研究デザインの検討③
7. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
8. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
9. 社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
10．研究計画書の作成①
11．研究計画書の作成②
12．研究計画発表会に向けての準備（プレゼンテーション）
13．研究計画書の精練①
14．研究計画書の精練②
15．研究実施準備

2年次
16．研究計画書に基づいたデータ収集①
17．研究計画書に基づいたデータ収集②
18．研究計画書に基づいたデータ収集③
19．データ分析・評価①
20．データ分析・評価②
21．データ分析・評価③
22．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
23．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
24．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
25．データ分析結果の妥当性の検証①
26．データ分析結果の妥当性の検証②
27．データ分析結果の妥当性の検証③
28．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察①
29．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察②
30．データ分析結果の文献を用いた多角的な考察③

3年次
31．研究論文の作成①
32．研究論文の作成②
33．研究論文の作成③
34．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）①
35．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）②
36．研究論文の推敲（学会誌への論文投稿を含む）③
37．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究①（学外特別講師）
38．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究②（学外特別講師）
39．社会のトレンドやトピックスをテーマにした幅広い視野での看護の探究③（学外特別講師）
40．博士論文の完成①
41．博士論文の完成②
42．博士論文の完成③
43．博士論文の完成④
44．博士論文の完成⑤
45．博士論文の完成⑥

・玉木 敦子
1年次
周産期のメンタルヘス支援や看護介入に関する研究課題に対して、研究計画書を作成する過程の研究指導を行う。
2年次
周産期のメンタルヘス支援や看護介入に関する研究課題に対して、研究計画書に基づいた研究の実施や論文作成までの過程の研究指導を行う。
3年次
周産期のメンタルヘス支援や看護介入に関する研究課題に対して、2年次までの研究過程を踏まえ、研究データの分析、検証を重ね、学術専門誌への投稿論文の推敲を通して博士論文を作成する過程の研究指導を行う。

[成績評価方法]
・研究計画書およびレポート（20 %）
・研究論文の完成度（70 %）
・プレゼンテーションおよび学修姿勢（10 %）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
各担当者より適宜紹介する

ND2110012L [GB6-226]

科目名	看護ケア・教育学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子、中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 看護理論の歴史的変遷をたどりながら、実践科学としての看護学について深く思考することができる。
2. オレムのセルフケア看護モデルをとおして看護理論の分析と理論構築の過程を明らかにする。
3. ベナーのケアリングの概念と臨床知の創出と看護ケアを実践する人の育成のつながりがわかる。
4. コミュニティ・オブ・プラクティスの考え方を用いて看護専門家コミュニティの育成の方略を探求し、看護理論の開発との関連を明らかにすることができる。

[授業概要]
本講では実践科学としての看護学の特徴を踏まえて、看護学教育及び看護実践に関連する理論、概念、教育方法、その成果を検討し、実践モデルの開発や教育プログラムの開発につなげていく方略を探求する。オレムのセルフケア看護モデルやベナーのケアリングの概念と臨床知の創出と実践者の育成について学び、それらを持続していくための仕掛けとしての看護専門家コミュニティ育成の方略を検討し、考察する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1.実践科学としての看護学の特徴を踏まえて、看護学教育及び看護実践に関連する理論、概念、教育方法、その成果について批判的に検討する。
2.上記 3つの目標を達成するために、学生同士の対話を促進し、看護専門家コミュニティの育成に積極的に参加する。

[授業計画]
1. 実践科学としての看護学は社会から何を求められているか（野並葉子・中岡亜希子）
2. 時代の変化に伴う科学の変遷と看護理論の価値について（野並葉子・中岡亜希子）
3. 看護理論の分析と看護における理論構築（野並葉子・中岡亜希子）
4. セルフケアの概念分析とオレムのセルフケア看護モデルの分析（野並葉子・中岡亜希子）
5. オレムのセルフケア看護モデルの発展と理論開発（野並葉子・中岡亜希子）
6. オレムのセルフケア看護モデルの成果と広がり（野並葉子・中岡亜希子）
7. オレムのセルフケア看護モデルの実践活用（野並葉子・中岡亜希子）
8. 看護とベナーのケアリング理論の構造（野並葉子・中岡亜希子）
9. コミュニティ・オブ・プラクティスの考えを基に、開発を持続していくための仕掛けとしての看護専門家コミュニティの育成（野並葉子・中岡亜希子）
10．科学者共同体とベナーの看護ケアの臨床知の創出（野並葉子・中岡亜希子）
11．看護教育の理論・概念の発展（野並葉子・中岡亜希子）
12．看護者を育むコミュニティの育成とベナー「看護者はどのように育っていくか」（野並葉子・中岡亜希子）
13．ベナー看護理論の開発過程と実践の発展 ・実践しつつ育む（野並葉子・中岡亜希子）
14．看護実践に必要とされる小範囲理論の開発（野並葉子・中岡亜希子）
15．看護教育に必要とされる小範囲理論の開発（野並葉子・中岡亜希子）

[成績評価方法]
小範囲理論開発のための論述のまとめ（60 %）、実践コミュニティの開発（40 %）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
オレム看護論第4版　著者名：ドロセアE. オレム（2005）　出版社：医学書院　(978-4260000604)
現象学的人間論と看護　著者名：パトリシア・ベナー/ジュディス・ルーベル（1999）　出版社：医学書院　(978-4260343633)
ベナー看護ケアの実践知　著者名：パトリシア・ベナー（2012）　出版社：医学書院　(978-4260016346)

[参考書（ISBN）]
看護における理論構築の方法　著者名：Lorraine O.Walker（中木高夫他訳）（2010）　出版社：医学書院
看護理論の分析と評価　著者名：Jacqueline Fawcett（筒井真優美訳）（2008）　出版社：医学書院　(978-4-260-00634-7)
ベナーナースを育てる　著者名：パトリシア・ベナー(2013)　出版社：医学書院　(978-4-260-01429-8)

N21100050 [GB6-219]

科目名	看護情報システム特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	東　ますみ		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 看護情報学および遠隔看護に関連する概念や理論を学び、看護実践への応用を目指した研究とその方法に関する理解を深める。
2. 遠隔看護を発展させるための基礎的能力を修得し、対象者や家族、 地域に対して、QOLの向上に貢献可能なICTを利用した支援方法の開発を試みる。
3. 看護における情報管理の必要性、看護実践における情報の利用、情報管理上の問題などについて理解を深める。

[授業概要]
看護師免許を持つ教員が、以下の授業概要が理解できるように講義する。
国は、疾病を抱えても自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を続けるために、地域における医療・介護の関係機関が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を行うことが必要であると述べている。情報通信技術（ICT）を活用した看護実践である「遠隔看護」による看護援助技術の確立は、在宅医療の推進を支えていく鍵となるものである。本講では、遠隔看護を発展させるための基礎的能力を養うとともに、看護情報学に関連する概念や理論に関して理解を深めるとともに、多様化してきている看護実践の場において、対象者や家族、地域に対し、 QOL の向上に貢献可能なICTを利用した支援方法について探求する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]
1. 国内における看護情報学・遠隔看護の歴史と政策
2. 国内における看護情報学に関する研究の動向と課題
3. 国内における遠隔看護に関する研究の動向と課題
4. 諸外国における看護情報学・遠隔看護の歴史と政策
5. 諸外国における看護情報学に関する研究の動向と課題
6. 諸外国における遠隔看護に関する研究の動向と課題
7. 看護情報学に関連する概念や理論の理解と分析
8. 遠隔看護に関連する概念や理論の理解と分析
9. 看護情報の管理や利活用について
10. 看護情報の管理上の問題に関する考察
11. 看護情報教育システムの開発
12. 発展的な看護情報システムの開発
13. 高齢者に対するQOLの向上に貢献可能なICTを利用した支援方法の開発
14. 慢性疾患患者に対するQOL の向上に貢献可能なICTを利用した支援方法の開発
15 . QOLの向上に貢献可能なICTを利用した支援方法に関するまとめ

[成績評価方法]
・学修姿勢（20 %）
・レポート（80 %）
グループ面接時に助言する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
必要に応じて適宜紹介する

N21100060 [GB6-220]

科目名	看護政策・マネジメント特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	洪　愛子、横内　光子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. サービス・サイエンスの観点から、看護サービス、提供システム、およびそのマネジメントの基本的知識を学ぶ。
2. 病院や施設、地域や地方自治体、国といった様々なレベルで、看護の成果を可視化し、効果的なサービスとその提供体制を制度化・普及するために必要な、政策の立案と展開に関する基本理論を学ぶ。
3. 新たな看護サービスとその提供方法の開発に必要な分析力と課題設定力、コーディネーション能力を養う。

[授業概要]
保健、医療、看護を含むヘルスケアサービスを、サービス・サイエンスによる包括的なサービス理論の観点から理解し、利用者にとって価値の高い看護サービスの開発、提供システムの制度化、普及に向けた取り組みの方略と方術を学ぶ。サービス・オペレーション・マネジメントと政策・政治に関する基本的な理論を学び、今後の社会情勢の変化や保健医療福祉政策の全体像を踏まえて、看護サービスの需要とニーズの分析に基づく開発課題の設定と、課題解決の計画ならびに制度化の実践に必要となる基礎的能力を身につける。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
―

[授業計画]
【遠隔授業】

1. サービス・サイエンスの歴史（横内光子）
2. 統一サービス理論からみたヘルスケアと看護サービス（横内光子）
3. 看護管理からヘルスサービス・オペレーション・マネジメントへ（横内光子）
4. ヘルスサプライチェーンとしての地域包括ケアシステム（横内光子）
5. 政策・政治理論1（Agenda Setting）（洪 愛子）
6. 政策・政治理論2（Windows opportunity）（洪 愛子）
7. 政策・政治理論3（Issue-attention cycle）（洪 愛子）
8. 政策・政治理論4（Path dependence）（洪 愛子）
9. 政策・政治理論5（Median voter theorem）（洪 愛子）
10. 将来予測に基づく、看護サービス・ドミナント・ロジック（市場調査）（ 横内光子）
11. 看護におけるアジェンダ・セッティング（洪 愛子）
12. 制度化に必要なエビデンス（横内 光子 ）
13. 制度化のための提言方略と方術1（洪 愛子・横内 光子）
14. 制度化のための提言方略と方術2（洪 愛子・横内 光子）
15. 看護サービスと提供システムの開発（洪愛子・横内 光子）

[成績評価方法]
課題レポート（100%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
看護職者のための政策過程入門 第2版　著者名：見藤隆子他（2017）　出版社：日本看護協会出版会 （978-4818020511）

[参考書（ISBN）]
サービス・サイエンスハンドブック　著者名：Paul P. Maglio, Cheryl A. Keiliszewski, James C. Spohre編、日高一義監訳（2014）　出版社：東京電気大学出版局 （978-4501628604）
日本看護協会の政策提言活動　著者名：日本看護協会 編（2010）　出版社：日本看護協会出版会 （978-4-8180-1526-5）
教養としての社会保障　著者名：香取 照幸（2017）　出版社：東洋経済新報社 （978-4492701447）

N21100070 [GB6-221]

科目名	看護病態学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	加治　秀介		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 患者の抱える疾病の様態（病態)について深く理解することができる。
2. 病態に対する現在のCareやCureを批判的観点も交えて捉えることができる。
3. 病態についての新たな知見を得るための方法を獲得する。
4. 病態に対する新たなCareやCureを考えることができる。

[授業概要]
病態を正しく捉えることは適切なCareやCureに不可欠である。一方、病態を正しく捉えるための知識・技術は指数関数的に増加している。このような時代にあって、多くの知識を持つより、膨大な知識をいかに利用し、思考するかを学ぶことがより重要になっている。本講では、そのような観点から代謝性疾患を中心に新しい病態の知識・技術を得るための方法を学びながら、心血管病の背景リスクとなる代謝性疾患の進展予防への看護介入等について考察する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
授業内容に沿った文献の批判的検討

[授業計画]
1. データベースの活用など進歩する病態理解のための方法論
2. 心血管病リスクとしての代謝性疾患
3. 糖尿病の病態学
4. 脂質異常症の病態学
5. 肥満症の病態学
6. 高血圧症の病態学
7. 糖尿病の治療
8. 脂質異常症の治療
9. 肥満症の治療
10. 高血圧症の治療
11. 代謝性疾患のケアに関する課題についての検討
12. 今後の研究課題を絞るための検討
13. 研究課題に沿った文献検索
14. 選んだ文献の批判的抄読
15. 今後の研究計画についての検討

[成績評価方法]
参加姿勢（ 10 %）・レポート（90 %）レポートはコメントして返却

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
適宜指示

[参考書（ISBN）]
適宜指示

N21100090 [GB6-223]

科目名	高齢者高度実践看護学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 老年学および老年看護領域の理論および研究の動向を概観し、主要な概念についての理解を深めることができる。
2. 超高齢社会がもたらす課題に対して行われている高齢者看護実践について、基盤となる知見を明らかにするとともに、ケアの発展に必要となる要因を分析し、関連領域の学際的チームの意見も取り入れた支援方法の開発を試みる。
3. 高齢者と家族が向老期から終生期までに直面する課題、その支援となる高齢者看護実践方法について、論点・課題を論述できる。

[授業概要]
超高齢社会を迎え、高齢者と家族の多様化が進み、従来の高齢者看護実践でも対応が困難な時代を迎えつつある。既存の老年学および老年看護学領域の理論および研究の動向を概観するとともに、超高齢社会における新たな高度実践看護の方法を開発するための方略を探求する。また、自らの関心を老年学および老年看護学の知識体系の中で位置づけ、高齢者と家族が向老期から終生期までに直面する健康問題への看護実践を開発するための基礎的研究能力を修得する。本講では、超高齢社会を迎える中で、コミュニティに暮らす高齢者と家族のQOL維持となるケアプログラムやケアモデルの中心となる概念および看護支援、高度実践看護師がおこなう高齢者ケアとして、フレイル対策などコミュニティでの予防活動、認知症高齢者への療養支援、高齢者介護家族への支援プログラム等を自律的・計画的に探求する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
1. 超高齢社会における様々な学際的チームによる支援プログラムに参加し、高齢者と家族の反応についてまとめておくこと。
2. 高度実践看護の内容について熟知し、高齢者に変化をもたらす要因について分析し考えをまとめておくこと。

[授業計画]
1. 老年看護学における高齢者支援の主となる理論
2. 老年看護学における高齢者支援の主となる概念
3. 国内外における高齢者高度実践看護の歴史と発展
4. 国内外の高齢者高度実践看護における研究の動向と課題
5. 国内外における高齢者高度実践看護の役割開発と成果
6. 国内外における高度実践看護のコンピテンシー
7. 国内外における高齢者高度実践看護のコンピテンシー
8. 国内外の老年学における学際的チーム研究の動向と課題
9. 国内外の学際的チームによる施設での高齢者ケアおよびケアシステムの動向と課題
10.国内外の学際的チームによるコミュニティでの高齢者支援（フレイル対策）
11.コミュニティにおける高齢者と家族のQOL維持となる高度実践看護のケアプログラムの開発と評価
12.コミュニティにおける高齢者と家族のQOL維持となる高度実践看護のケアモデルの開発と評価
13.フレイル対策となる高度実践看護の開発と評価
14.認知症を有する高齢者への高度実践看護の開発と評価
15.高齢者を介護する家族への高度実践看護の開発と評価

[成績評価方法]
・授業への参加状況 （50 %）
・課題提出資料(50 %)

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
高度実践看護―統合的アプローチ　著者名：Ann B.Hamric, Charlene M.Hanson, Mary Fran Tracy, Eileen T.O’Grady（著）, 中村 美鈴, 江川 幸二 監訳（2017）　出版社：へるす出版 （978-4892699962）

[参考書（ISBN）]
必要に応じて適宜紹介する

N21100040 [GB6-218]

科目名	国際保健学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	宇賀　昭二、田村　康子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
グローバルな視点で南北間の健康格差を学ぶと共に、それらの原因となる背景要因を理解することを目標とする。すなわち、世界における著しい健康上の不平等と健康問題の質的転換を理解し、国際的な保健施策の開発や地域住民の健康向上のために必要な国際協力の課題と方法を学習する。具体的には、世界の健康問題の現状、住民参加型の健康啓発教育、国際保健に必要な支援技術、さらには開発途上国の健康課題に対する支援の実際等について説明出来るようになる。

[授業概要]
1. 授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。
2. 国際保健の抱える問題点とそれらに対する過去の取り組み、さらには将来を見据えた取り組みの展望 。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
国際保健活動に関する出版物や文献などに事前に目を通しておくとともに、これらの活動に関する自分なりの考えをまとめておくこと。

[授業計画]
授業は上述の2名のオムニバスで行う。
1. 国際保健学総論：国際保健の成り立ち（宇賀昭二）
2. 国際保健学総論：国際保健の取り組み（宇賀昭二）
3. 国際保健学総論：国際保健の展望 （宇賀昭二）
4. 世界的な健康・貧困問題の現状とその分析(アジア)（宇賀昭二）
5. 世界的な健康・貧困問題の現状とその分析(アフリカ)（宇賀昭二）
6. プライマリヘルスケア（PHC）や国際的保健政策の内容と動き（宇賀昭二）
7. PHCからミレニアム開発目標（MDGs）へ （宇賀昭二）
8. 国際保健からグローバルヘルスへ（宇賀昭二）
9. 持続可能な開発目標（SDGs）（田村康子）
10．国際保健と母子の健康（田村康子）
11．国際保健協力の活動と特徴（田村康子）
12．海外における看護活動の枠組み（田村康子）
13．看護分野における国際的活動の現状（田村康子）
14．国際保健医療協力活動の実際（田村康子）
15．上記課題に対する研究方法と小論文・報告書作成（宇賀昭二・田村康子）

[成績評価方法]
国際保健に関するレポート（50 %）、および授業中の積極的な発言（20 %）や質問に対する回答内容（30%）

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
資料を配布する

[参考書（ISBN）]
適宜紹介する

N21100100 [GB6-224]

科目名	精神健康看護学特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	玉木　敦子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
人々の精神の健康の維持、向上に貢献しうる看護の知、援助方法を創造的 ・科学的に開発していくための能力を養うことを目的とする。
1. 精神保健医療福祉に関する国内外の動向を概観し、関心ある現象を特定できる。
2. 精神の健康問題に関連するさまざまな現象を理解するための理論や概念について説明できる。
3. 精神健康問題をもつ個人や家族を対象とした支援モデルを批判的に考察し、モデルの特徴、適用など説明できる。
4. 精神健康の問題現象に対する現在の対策・支援・ケアおよび支援システム等の有効性や課題について考察し、改善策や新たな支援プログラム等について討論する。

[授業概要]
精神看護学の視点からテーマを探求するための基礎的能力を養う。
特に国内外における精神保健福祉の動向と課題について歴史的背景を含めて理解を深めるとともに、精神の健康問題に関連するさまざまな現象を理解するための理論や概念について、学習者の関心に応じていくつか分析的に理解する。また精神健康問題をもつ個人や家族を対象とした支援モデルを批判的に考察し、モデルの特徴、適用など理解する。
さらに、学習者が関心をもつ精神健康の問題現象に対する現在の対策・支援・ケアおよび支援システム等の有効性や課題について考察し、新たな援助方法等について討論する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
授業内容に沿って関連する書籍および国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 国内における精神保健医療福祉の動向
2. 国内における精神保健医療福祉の課題
3. 諸外国における精神保健医療福祉の動向
4. 諸外国における精神保健医療福祉の課題
5. 精神看護学で用いる理論・概念の理解と分析（ストレス、危機に関する理論）
6. 精神看護学で用いる理論・概念の理解と分析（不安に関する理論）
7. 精神看護学で用いる理論・概念の理解と分析（リカバリー概念、ストレングスモデルなど）
8. 精神看護学で用いる理論・概念の理解と分析（学習者が関心を持つ概念）
9. 地域で生活する精神障がい者を対象とした支援モデルの分析
10．入院生活を送る精神障がい者を対象とした支援モデルの分析
11．精神健康問題の予防的介入モデルの分析
12．精神健康問題をもつ人の家族を対象とした支援モデルの分析
13．精神健康の問題現象に対する現在の対策や支援システム等の概観
14．精神健康の問題現象に対する現在の対策や支援システム等の有効性と課題
15．精神健康の問題現象に対する現在の対策・支援・ケアおよび支援システム等に関する討論

[成績評価方法]
レポート50 %、授業への参加度50 %で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
指定しない

[参考書（ISBN）]
担当教員から適宜指示する。

N21100080 [GB6-222]

科目名	理論看護学	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	野並　葉子、中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 実践科学としての看護学は社会から何を求められているか、看護の研究者は何をすべきかを考えることができる。
2. 時代の変化に伴う科学の変遷と看護理論の価値について理解することができる。
3. 現代において必要な理論及び概念を明確にすることができる。
4. 看護実践に必要な小範囲理論の開発やその応用のために必要な概念開発、理論の構造化、現象の意味解釈などを見いだすことができる。
5. 看護実践に必要な小範囲理論の開発やその応用のため、コミュニティ・オブ・プラクティスの考え方を用いて研究者コミュニティを推進するための新たな方法論を考えることができる。

[授業概要]
現代の医療・保健・看護を取り巻く状況は、グローバル化の急激な進展と連動した膨大な情報の拡散と集積の流れの中にある。その環境の中、人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のための看護実践に必要な中範囲及び小範囲理論の開発やその応用のために必要な概念開発、理論の構築 、現象の意味解釈について学びを深める。その中で、理論開発の基礎、看護実践の知を創り出すコミュニティの育成と知の統合について学ぶ。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
看護に対する社会的なニーズに敏速に応えていけるように、常に看護理論の実践への活用と新たな理論開発のための自身の課題を記述し、参加すること。テキストをはじめ関連する資料について、精読・探査 しておくこと。

[授業計画]
【遠隔授業】

1. 看護理論の歴史的変遷と看護学の発展 （野並葉子・中岡亜希子） 4/19　Ⅵ限
2. グローバル化の急激な進展と連動した膨大な情報の拡散と集積の流れの中にある現代社会で、看護の研究者は何をすべきか （野並葉子・中岡亜希子）4/26 Ⅵ
3. 実践科学としての看護理論の開発と研究者の責任について（野並葉子・中岡亜希子）4/26Ⅶ
4. 実践科学としての看護学と諸科学（野並葉子・中岡亜希子）5/17Ⅵ
5. 看護理論の分析と看護における理論構築 （野並葉子・中岡亜希子）5/17Ⅶ
6. 看護が対象とする現象に焦点を当てた理論開発（野並葉子・中岡亜希子）5/31 Ⅵ
7. 現象の解釈と意味（野並葉子・中岡亜希子）5/31 Ⅶ
8. 概念分析と概念開発（野並葉子・中岡亜希子）6/14 Ⅵ
9. 概念モデルの分析（野並葉子・中岡亜希子）6/14 Ⅶ
10．概念モデルの実践・教育への活用（野並葉子・中岡亜希子）6/28 Ⅵ
11．中範囲理論の分析（野並葉子・中岡亜希子）6/28 Ⅶ
12．中範囲理論と実践の発展（野並葉子・中岡亜希子）7/12 Ⅵ
13．小範囲理論の開発と研究者コミュニティの育成（野並葉子・中岡亜希子）7/12 Ⅶ
14．小範囲理論の開発と看護実践の知の統合（野並葉子・中岡亜希子）7/26 Ⅵ
15．小範囲理論の開発と理論を検証する研究（野並葉子・中岡亜希子）7/26　Ⅶ

[成績評価方法]
レポート①看護理論の開発と看護の研究者の責任 ②自身が関心を寄せている看護の現象と現象の解釈の意味 ③中範囲理論の分析

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
Contemporary nursing knowledge: Analysis and evaluation of nursing models and theories (3rd ed.). 著者名：Fawcett,J. (2013) 出版社：Philadelphia, PA: F. A. Davis. (978-0803627659)
看護における理論構築の方法　著者名：Lorraine O.Walker（中木高夫他訳）(2010) 出版社：医学書院 (978-4-260-00688-)

[参考書（ISBN）]
Strategies for Theory Construction in Nursung
(6th ed) 著者名：Lorraine O.Walker/ Kay Coalson Avant (2019) 出版社：Pearson (978-0-13-475407-9)
knowledge development in nursing (10th ed.). 著者名：Chinn,P. L., & Kramer, M. (2018). 出版社：ELSEVIER (978-0-323-53061-3)

N21100010 [GB6-215]

科目名	看護ケア・教育学特論Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1.看護教育の観点から教育方法と教育評価の基礎となる理論を理解する。
2.効果的な授業形態と教育方法を選択した上で授業設計し、学習指導案を作成することができる。
3.看護学教育における教育者の役割を考察することができる。

[授業概要]
教育原理および学習理論を踏まえ、看護教育方法と評価についての理解を深める。また、近年新たに開発されている教育方法など文献を踏まえて探究し、実践的な看護教育能力を向上させるために、模擬授業案や評価規準と評価基準を作成することを通して、看護基礎教育や継続教育に応用していくことができる基礎的能力を養う。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
事前に教員から提示された課題や資料に基づいて、これまでの経験に基づいた理解を深め、疑問に思ったことをまとめる。またプレゼンが課された場合には、文献などを用いてそのテーマについてわかりやすくまとめ、考察をする。

[授業計画]
1. 学ぶことと教えること
2. 学習者に対する理解と動機づけ:レディネスと学習意欲
3. 学習理論と諸学説
4. 看護学教育における授業形態と教育方法
5. 授業形態と教育方法の工夫
6. 教育評価
7. 授業設計
8. 教材研究
9. 学習指導案作成の実際1:教育目標・教育内容の設定と具体化
10. 学習指導案作成の実際2:単元の位置づけ・指導過程の明確化
11. 模擬授業と授業評価
12. 授業の参加観察と分析
13. 看護学実習の展開と指導方法
14. 看護専門職としての教育者の役割
15. 看護教員が抱える困難とファカルティ・デベロップメント(FD)

[成績評価方法]
授業への参加度(50%)と課題レポート(50%)で評価する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
考える看護学生を育む授業づくり　著者名:新井英靖・荒川眞知子・池西靜江・石束佳子　出版社:メヂカルフレンド社　(978-4-8392-1570-5)
看護教育学第6版
※看護教育論の教科書と重複　著者名:杉森　みど里
舟島　なをみ
　出版社:医学書院　(978-4-260-02782-3)

[参考書(ISBN)]
看護教育における授業設計第4版　著者名:佐藤　みつこ
宇佐美千恵子
青木　康子

　出版社:医学書院　(978-4-260-00840-2)
関わることへの意志　著者名:藤岡完治　出版社:国土社　(4337456147)
「学び」の構造　著者名:佐伯 胖　出版社:東洋館出版社　(4491002770)
自己主導型学習ガイド　著者名:マルカム・S.ノールズ著
渡邊洋子　監訳　出版社:明石書店　(978-4750321639)

N21200080 [GB5-243]

科目名	看護ケア・教育学特論Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中岡　亜希子		

[実務経験のある教員による授業]
○

[到達目標]
1. 看護ケアの質を高めるために必要な学習環境の構造について理解する。
2. チーム医療の中での看護専門職のコンピテンシー育成に対する現状の課題を明らかにすることができる。
3. 看護専門職のコンピテンシーを育成するための学習環境について考察することができる。

[授業概要]
看護ケアの質を高めるために必要な教育的な働きかけと組織における教育環境の整備に関する基礎的知識を、新たな知見とそのエビデンスについてクリティークしながら学習する。その上で、チーム医療を円滑にする実践能力をデザインするための在り方や具体的な方略について探究する。

[準備学修（授業前後の主体的な学修）]
事前に教員から提示された課題や資料に基づいて、これまでの経験に基づいた理解を深め、疑問に思ったことをまとめる。またプレゼンが課された場合には、文献などを用いてそのテーマについてわかりやすくまとめ、考察をする。

[授業計画]
1.看護専門職としての学習者に対する理解
2.看護専門職のコンピテンシー
3. コンピテンシーを育成するための学習環境1
4. コンピテンシーを育成するための学習環境2
5. 学習環境のデザイン1
6. 学習環境のデザイン2
7. 臨地実習指導におけるメンタリング
8. 看護専門職におけるメンタリング
9. メンタリング能力の育成
10. チーム医療とチームワーク
11. 看護師と看護補助者との協働
12. IPWとIPE
13. 看護基礎教育におけるIPE
14. IPWを担う看護専門職としての役割
15. 看護専門職者のコンピテンシー育成のための課題

[成績評価方法]
授業への参加度（50%）と課題レポート（50%）で評価する。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書（ISBN）]
適宜提示する。

[参考書（ISBN）]
新しいチーム医療　著者名：田村由美　編著　出版社：看護の科学社 （978-4-87804-108-2）
医療プロフェッショナルの経験学習　著者名：松尾睦　出版社：同文館出版 （978-4-495-39018-1
）
インストラクショナルデザインの原理　著者名：ロバート・M. ガニェ, キャサリン・C. ゴラス他　鈴木 克明（翻訳）, 岩崎 信（翻訳） 出版社：北大路書房　（978-4762825736）
経験と教育　著者名：ジョン・デューイ（著）, 市村 尚久（翻訳） 出版社：講談社学術文庫 （ 978-4061596801）
専門家の知恵　著者名：ドナルド・ショーン 著　佐藤学・秋田喜代美　訳　出版社：ゆみる出版 （ 4-946509-26-7）

N21200090 [GB5-244]

科目名	高齢者看護学方法論Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル	老年期の疾患と評価･検査･薬剤･治療		
担当者	藤田　冬子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 加齢に伴い発症する様々な疾患及び老年症候群の病態、診断法、治療法について説明できる。
2. 高齢者の薬物治療について理解し、効果的な使用方法について説明できる。

[授業概要]
加齢にともない発症しやすくなる主要な疾患の兆候･症状と検査･薬物治療を診療治療学的見地から学ぶ。特に加齢にともない発症しやすくなる認知症をはじめとした神経変性疾患については、診断･検査･治療･薬物治療･ケアについて詳細に学ぶ。また、合併症として生じやすい老年症候群やフレイル･ロコモティブシンドローム･サルコペニアについても、予防的介入を含め高齢者の生活支援を目指したケアにつながるよう理解を深める。さらに、診断、治療、ケア、予防の一連について、保健医療福祉チームの連携や、学際的アプローチについても学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
高齢者に多い疾患についての基礎知識を復習しておく。

[授業計画]
1.高齢者に多い疾患と生活への影響(藤田冬子)
2.高齢者に多い脳疾患･神経変性疾患、精神疾患の身体診査と治療、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ①(身体診査と治療)(学外特別講師1:医師 阪井一雄、藤田冬子)
3.高齢者に多い脳疾患･神経変性疾患、精神疾患の身体診査と治療、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ②(評価と治療、チーム連携)(学外特別講師1:医師 阪井一雄、藤田冬子)
4.認知症及びせん妄の診断及び治療、薬物療法、評価、ケア、予防、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ①(認知症の治療とケア)(学外特別講師2:老人看護専門看護師 得居みのり、藤田冬子)
5.認知症及びせん妄の診断及び治療、薬物療法、評価、ケア、予防、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ②(せん妄の治療とケア)(学外特別講師2:老人看護専門看護師 得居みのり、藤田冬子)
6.認知症及びせん妄の診断及び治療、薬物療法、評価、ケア、予防、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ③(予防とチーム連携、学際的アプローチ)(学外特別講師2:老人看護専門看護師 得居みのり、藤田冬子)
7.高齢者の心疾患･肺疾患の身体診査、診断及び治療、薬物療法、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ①(心疾患の治療)(学外特別講師3:医師 石川雄一、藤田冬子)
8.高齢者の心疾患･肺疾患の身体診査、診断及び治療、薬物療法、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ②(肺疾患の治療)(学外特別講師3:医師 石川雄一、藤田冬子)
9.高齢者のスキントラブル及び排泄にかかわる診断及び治療、薬物療法、エコーの活用、ケア、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ①(スキントラブル)(藤田冬子)
10.高齢者のスキントラブル及び排泄にかかわる診断及び治療、薬物療法、エコーの活用、ケア、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ②(排泄のトラブル)(藤田冬子)
11.高齢者のスキントラブル及び排泄にかかわる診断及び治療、薬物療法、エコーの活用、ケア、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ③(エコーの活用、チーム連携)(藤田冬子)
12.がんの治療を受ける高齢者の診断、治療(薬物療法･放射線治療も含む)、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ①(高齢者に多いがんと治療によるケアの課題)(学外特別講師4:がん看護専門看護師　藤本美生、藤田冬子)
13.がんの治療を受ける高齢者の診断、治療(薬物療法･放射線治療も含む)、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ②(がん治療を受ける高齢者)(学外特別講師4:がん看護専門看護師　藤本美生、藤田冬子)
14.がんの治療を受ける高齢者の診断、治療(薬物療法･放射線治療も含む)、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ③(保健医療福祉チームの連携)(学外特別講師4:がん看護専門看護師　藤本美生、藤田冬子)
15.高齢者の低栄養、老年症候群とフレイル･ロコモティブシンドローム･サルコペニアの診断及び治療、薬物療法とその予防、保健医療福祉チームの連携、学際的アプローチ(藤田冬子)

[成績評価方法]
授業への取り組み(討議･発表)(60%)、課題レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
適宜指示する

[参考書(ISBN)]
ベイツ診察法第2版　著者名:Lynn S. Bickley　出版社:メディカル･サイエンス･インターナショナル　(978-4895927987)
病態生理に基づく臨床薬理学　著者名:David E. Golan他　出版社:メディカル･サイエンス･インターナショナル　(978-4895924610)
看護形態機能学 生活行動からみるからだ(改訂版)　著者名:菱沼典子　出版社:日本看護協会出版会　(978-4818011922)
ヘルスアセスメント　看護形態機能学の枠組みを用いて　著者名:大久保暢子　出版社:日本看護協会出版会　(978-4818019850)

N21200010 [GB5-241]

科目名	高齢者看護実習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	藤田　冬子、笹谷　真由美		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1. 急性期 または 慢性期 の病院 で活動する老人看護専門看護師の活動を総合的に理解する。
2. 老人看護専門看護師が果たす 6 つ(実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究)の役割を理解する 。
3. 老人看護専門看護師が、 高齢者の理解からケア方法の立案に 至 るまでのプロセスを学び説明できることができる。

[授業概要]
病院において活動する専門看護師のシャドーイングを行い、老人看護専門看護師の急性期または慢性期の療養の場における活動の特徴、高齢者に対する特徴的な6つの役割の果たし方について学ぶ。また、それらを記録するとともにカンファレンス等において、老人看護専門看護師の教員及び実習指導を行う臨床の専門看護師からスーパーバイズを受ける。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
専門看護師の6 つの役割と老人看護専門看護師が行う 6 つの役割の共通と独特な内容について理解し、高齢者の理解 及び ケアについての諸理論、疾病・治療・薬物について理解を深めておく。

[授業計画]
以下に示すいずれかの病院 1 か所において、 10 日間の実習を行う。
実習施設候補:
神戸 海星病院 、神戸市立医療センター中央市民病院 、有馬温泉病院
1～5 日目
●病院の概要と地域において果たす役割、高齢者の入院・入所状況、組織内における専門看護師の活動について学ぶ。
●専門看護師が 行う 高齢者の理解からケア方法の立案に至る までのプロセスについて学ぶ。
●老人看護専門看護師が 行う チーム活動(チームビルディング含む)について学ぶ。
6～10 日目
●1～ 5 日目 の実習内容に加えて、老人看護専門看護師が組織内外で果たす役割 について学ぶ 。
●病院 で療養する高齢者に対する特徴的な 6 つの役割の果たし方について学ぶ。

[成績評価方法]
実習への取り組み(実習達成度)(70%)、課題レポート(30%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
適宜指示する

[参考書(ISBN)]
適宜指示する。

N21200040 [GB5-242]

科目名	高齢者高度実践看護演習Ⅰ	後期	2 単位
サブタイトル	急性期の高齢者ケア		
担当者	藤田　冬子、花房　由美子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1.急性期の高齢者に見られる特徴的な病態及び症状悪化を予防するためのケアの　考え方について説明することができる。
2.高齢者が急性期の治療を受ける中で、その人らしくいることが保証されるケアの考え方について説明することができる。

[授業概要]
健康障害を持つ高齢者が入院する急性期の病院で行われている高齢者への看護ケア、高齢者医療チームのケア、在宅復帰への取り組み、地域に住む高齢者への支援について研究成果や社会制度を概観する。その中で老人看護専門看護師に求められる役割と機能について学ぶ。
また、高齢者に生じやすい身体的･心理社会的状態、認知機能の低下や、意思決定支援、地域包括ケアの推進を視野に入れアセスメントする。さらに、既存の諸理論や研究成果、評価から生活機能を維持し、その人らしく生きられるようなケアとは何か、CureとCareを統合した介入ができる専門的な能力を養う。直接ケアとともにコンサルテーション･コーディネーション･倫理コンサルテーション･教育･研究という専門看護師の6つの役割への展開についても学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
急性期における高齢者ケアで生じやすい状況について事前学習をして受講する。また、慢性期の治療を受ける高齢者が陥りがちな健康障害とその症状、影響要因について学習しておく。

[授業計画]
1.急性期の治療を受ける高齢者に生じやすい病態とケア方法の特徴(藤田冬子)
2.急性期の治療を受ける高齢者の身体的･心理社会的影響とケア方法の特徴(藤田冬子)
3.急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症の治療とケア
①低栄養と摂食嚥下障害のアセスメントと評価方法(藤田冬子)
4.急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症の治療とケア
②低栄養と摂食嚥下障害の治療とケア方法(藤田冬子)
5.急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症の治療とケア
③認知機能の低下･せん妄のアセスメントと評価方法(藤田冬子)
6.急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症の治療とケア
④認知機能の低下･せん妄の治療とケア方法(藤田冬子)
7.急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症のアセスメントとケア
①転倒予防のケアと高齢者への尊厳(非常勤講師:花房由美子)
8.急性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症のアセスメントとケア
②行動制限･身体拘束と高齢者への尊厳(非常勤講師:花房由美子)
9.急性期病院入院時からの退院調整･地域連携とサポートシステム(非常勤講師:花房由美子)
10.急性期病院入院時からの意思決定支援とサポート体制(非常勤講師:花房由美子)
11.急性期病院での高齢者ケアにおける倫理コンサルテーションとサポート体制(非常勤講師:花房由美子)
12.急性期にある高齢者の意思を尊重したケア方法の研究と動向(藤田冬子)
13.急性期にある高齢者の意思を尊重した専門看護師の活動(藤田冬子)
14.急性期にある高齢者のその人らしさを尊重したCureとCareを統合した介入の方向性(事例による検討)(藤田冬子)
15.急性期にある高齢者のその人らしさを尊重したCureとCareを統合した介入の展開と結果(事例による検討)(藤田冬子)

[成績評価方法]
授業への取り組み(討議･発表)(60%)、課題レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
高度実践看護　統合的アプローチ　著者名:Ann B. Hamric 他　出版社:へるす出版　(978-4892699962)
最新老年看護学第3版　著者名:水谷信子監修　出版社:日本看護協会出版会　(978-4818023048)

[参考書(ISBN)]
適宜指示する

N21200100 [GB5-245]

科目名	高齢者高度実践看護演習Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	慢性期の高齢者ケア		
担当者	藤田　冬子、笹谷　真由美、正田　美紀		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]
1.慢性期の高齢者に見られる特徴的な病態及び症状悪化を予防あるいは早期発見するためのケアについて説明することができる。
2.高齢者が慢性期の療養の中でその人らしさを保つことのケアについて説明することができる。

[授業概要]
健康障害を持つ高齢者が入院･入所する慢性期の病院、老人保健施設･特別養護老人ホーム等で行われている高齢者へのケア、在宅復帰への取り組み、地域に住む高齢者への支援について研究成果や社会制度を概観し、その中で老人看護専門看護師に求められる役割と機能について学ぶ。また、高齢者に生じやすい身体的･心理社会的状態、認知機能の低下や、意思決定支援、地域包括ケアの推進を視野に入れアセスメントする。さらに、既存の諸理論や研究成果、評価から生活機能を維持し、その人らしく生きられるようなケアとは何か、CureとCareを統合した介入ができる専門的な能力を養う。直接ケアとともにコンサルテーション･コーディネーション･倫理コンサルテーション･教育･研究という専門看護師の6つの役割への展開についても学ぶ。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]
慢性期における高齢者ケアで生じやすい状況について事前学習をして受講する。また、慢性期の治療を受ける高齢者が陥りがちな健康障害とその症状、影響要因について学習しておく。

[授業計画]
1.慢性期の治療を受ける高齢者に生じやすい病態と予防･早期発見(藤田冬子、笹谷真由美)
2.慢性期にある高齢者が受ける身体的･心理社会的影響(藤田冬子、笹谷真由美)
3.慢性期にある高齢者の受診行動支援及び疾病予防に向けた資源の活用、地域包括ケアシステムの活用(藤田冬子、笹谷真由美)
4.慢性疾患を持ち地域で暮らす高齢者への健康維持増進活動と支援(学外特別講師:松本京子、藤田冬子、笹谷真由美)
5.慢性疾患を持ち地域で暮らす高齢者への健康相談事業(学外特別講師:松本京子、藤田冬子、笹谷真由美)
6.慢性疾患を持ち地域で暮らす高齢者への健康維持増進活動の実際と運営(学外特別講師:松本京子、藤田冬子、笹谷真由美)
7.慢性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症とケア
①低栄養と摂食嚥下障害のアセスメントとケア(藤田冬子、笹谷真由美)
8.慢性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症とケア
②認知機能の低下(藤田冬子、笹谷真由美)
9.慢性期の治療を受ける高齢者が生じやすい合併症とケア
③抑うつ(藤田冬子、笹谷真由美)
10.エンドオブライフケア　高齢者と家族への支援(非常勤講師:正田美紀、笹谷真由美)
11.エンドオブライフケア　医療チームの支援活動(非常勤講師:正田美紀、笹谷真由美)
12.老年症候群の予防とケア(非常勤講師:正田美紀、笹谷真由美)
13.老年症候群の回復を導くケア(非常勤講師:正田美紀、笹谷真由美)
14.慢性期にある高齢者のその人らしさを尊重したCureとCareを統合した介入の方向性(事例による検討)(藤田冬子、笹谷真由美)
15.慢性期にある高齢者のその人らしさを尊重したCureとCareを統合した介入の展開と結果(事例による検討)(藤田冬子、笹谷真由美)

[成績評価方法]
授業への参加度(60%)、課題レポート(40%)

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]
高度実践看護　統合的アプローチ　著者名:Ann B. Hamric 他　出版社:へるす出版　(978-4892699962　)
最新老年看護学第3版　著者名:水谷信子監修　出版社:日本看護協会出版会
(978-4818023048　)

[参考書(ISBN)]
適宜指示する

N21200110 [GB5-246]